

507

199

2 257



例集 第二輯

陸軍士官學校校長 坂本政右衛門閣下題字
陸軍士官學校本科生徒隊長 大谷龜藏殿序

東京・軍事學指針社



607-199

小戰例集 第二輯 目次

第十行 軍

- 1 行軍ニ際シ指揮官ノ注意周到ナリシ爲良結果得タル例(日露戰).....一
- 2 情報測圖ノ一例(日露戰).....一
- 3 行軍演習ノ必要ナル例(西伯利亞戰).....二

第十一通 信

- 1 高粱繁茂セル中ニテ連絡ヲ失ヒタル例(日露戰).....五
- 2 手旗ヲ用ヒテ信號シ其目的ヲ達成シ得タル例(日露戰).....六
- 3 左右ノ連絡ヲ失シタルカ因ラナシ全線退却セシ例(日露戰).....七
- 4 命令ノ傳達ヲ忘レ一部隊ヲ失ハントシタル例(日露戰).....八
- 5 喇叭手ノ獨斷吹奏セシ突擊喇叭カ期セスシテ兩小隊ヲ連繫セシメ戰勝ヲ得タル例(西伯利).....

亞戰).....九

第十二 騎 兵

- 1 志氣ノ行軍ニ及ホシタル影響(間島事件).....二一
- 2 戦闘ノ開始ニ當リ精神ノ沈着ヲ計ル.....二二
- 3 退却戦闘ニ當リ指揮官ノ嚴然タル態度ハ克ク部下ノ混亂ヲ戒ム(村落搜索法ヲ含ム)(西伯利亞戰).....二二
- 4 就寢前ニハ必ス裝具ヲ整ヘヨ(間島事件).....二四
- 5 滿洲ノ如キ垣々タル平野ニ於ケル夜間傳令勤務ノ困難ナル一例(日露戰).....二四
- 6 部署狀況ニ適セルヲ以テ戦闘ヲ有利ナラシム(西伯利亞戰).....二七
- 7 銃聲ニ依リ手馬ヲ散亂セシム(日露戰).....二八
- 8 戦闘間友軍部隊ト連絡ノ必要(西伯利亞戰).....二九
- 9 攻撃動作ニ依リ警戒任務達成ス(日露戰).....三一
- 10 報告ハ成可ク筆記シテ傳達セシムルヲ可トス(日露戰).....三二

- 11 勇敢ナル騎兵小隊長並ニ歩兵機關銃ノ動作(西伯利亞戰).....三三
- 12 機先ヲ制シ勝利ヲ得(日露戰).....三五
- 13 敵ヲ輕侮セシ爲失敗セシ例.....三六
- 14 合言葉ヲ敵ニ察知セラレ夜襲ヲ受ク(日露戰).....三八
- 15 騎哨カ敵ヲ誤認シテ射撃シタル爲我カ軍ニ不利ヲ招キタル例(西伯利亞戰).....三九
- 16 鐵道破壊後ノ離脱(日露戰).....四〇

第十三 砲 兵

- 1 隨伴砲兵トシテ危險ヲ冒シ勇敢ニ動作シ成功シタル例(日露戰).....四一
- 2 砲手ノ沈着ナル行動ニヨリ有利ニ戦闘シ得タル例(日露戰).....四四
- 3 野砲兵退脚ニ當リ回道ヲ利用シテ失敗セル例(日露戰).....四五
- 4 歩砲ノ協同並ニ砲兵ノ警戒十分ナラサリシ爲メ失敗セル例(日露戰).....四六
- 5 遮廠ニ關シテ顧慮不十分ナリシ爲損害ヲ受ケタル例(日露戰).....四七
- 6 野砲兵中隊ノ敵線近ク進出シ斜射ノ効果ヲ收メシ例(日露戰).....四八

7	歩砲兵協同動作ノ例(日露戰).....	五二
8	友軍歩兵ヲ敵ト誤認シ射撃シタル例(日露戰).....	五三
9	砲兵ハ戰時特ニ彈藥ノ節約ニツキ深甚タル注意ヲ拂フヲ要スル戰例(日露戰).....	五四
10	砲兵カ陣地進入ニ當リ進入路ヲ暴露セシタメ敵ニ制壓セラレシ例(日露戰).....	五五
11	黑龍洲バフロファ附近ニ於ケル野砲十二聯隊第三中隊ノ勇敢ナル戰闘ノ例(西伯利亞戰).....	五八
12	夜間射撃砲兵陣地ニ火光掩蔽ノ所置ヲ講スルカ然サレハ晝間陣地ト異ニスルヲ要ス例(西伯利亞戰).....	六一
13	戰場ニ於ケル指揮官ノ毅然タル態度カ兵卒ノ志氣ヲ振起セシメタル例(日露戰).....	六三
14	平素ノ精神訓話ト上下ノ親和ト克ク實現セラレシ例(日露戰).....	六三
15	友軍ノ彈藥補充者ノ後退ヲ敵ト誤認シ放列ノ一部ヲ變換シタル例(日露戰).....	六四
16	彈藥缺乏セルニ拘ス一門ノ大砲一名ノ砲手尙毅然トシテ戰闘ヲ續行セル例(日露戰).....	六五
17	追撃戰ニ於ケル野砲兵大隊ノ獨斷協力機宜ニ適シタル例(日露戰).....	六六
18	敵歩砲火ノ下ニアリテ巧ニ隊形ヲ利用シ陣地變換ヲ決行シ友軍ノ攻撃ニ協力セシ例(日露戰).....	六七
19	野砲兵小隊及中隊ノ歩兵線近クニ前進シ直接歩兵ノ戰闘ニ協力シ偉功ヲ奏シタル例(日露戰).....	六九

20	夜間前方ト連絡ヲ失シ翌拂曉戰闘參加ヲ遅延セシ例(日露戰).....	七一
21	指揮官ノ勇敢ナル行動ニ感激シテ部下奮戰シタル例(日露戰).....	七一
22	攻撃砲兵防禦砲兵ノ豫メ射撃ヲ準備シアリシ陣地ニ進入シテ損害ヲ被リタル例(日露戰).....	七二
23	全ク遮蔽セル劣勢ナル砲兵ノ爲優勢ナル砲兵ノ殆ント壓勢セラレタル例(日露戰).....	七五
24	野戰重砲兵ヲ以テ敵艦艇ト交戦シタル例(日露戰).....	七八
25	射撃ハ陣地ヲ暴露スル例(日露戰).....	八〇
26	空中ニ對スル偽裝不充ナルタメ砲火ヲ蒙リタル例(日露戰).....	八二
27	優勢ナル騎兵ノ襲撃ヲ受ケタル砲兵自衛ノ爲小銃戰ヲ交ヘ勇戰之ヲ拒止シタル例(日露戰).....	八四
28	十五榴中隊敵艦ト砲戰シテ友軍ノ側背ヲ掩護セシ例(日露戰).....	八四
29	砲兵カ陣地選定當ヲ得射撃機宜ニ適シ有力ナル敵砲兵ヲ制壓セシ例(日露戰).....	八五

第十四 工 兵

1	遼陽戰及其前後ニ於ケル我獨立工兵小隊ニ就テ(日露戰).....	八九
2	夜間ノ攻撃築城ニ於テ之ニ慣熟セサル部隊ハ豫メ充分ナル豫習ト綿密ナル協定トヲ必要ト	

スル例(日獨戰)……………一〇三

3 夜暗ニ乘シ敵ニ近接シ沈着セル作業ニ依リ成功セル例(日露戰)……………一〇五

4 敵火殊ニ敵ノ出撃ヲ受ケツツ歩兵ノ掩護ノ下ニ作業セル例(日露戰)……………一〇七

5 幹部カ敵彈下ニ止リテ所在ノ遮蔽物ヲ求メ偵察及計畫ヲナセル例(日露戰)……………一一二

6 突撃隊ニ先ンシ障碍物ヲ破壊シ以テ敵陣地奪取ニ成功セシ例(日露戰)……………一一三

7 歩兵掩護ヲ缺キ攻撃築城不適當ナリシ例(日露戰)……………一二六

8 部下ヲ勇敢ニ動作セシメントセハ指揮官ハ自ラ危険ニ立ツヲ必要トスル例(日露戰)……………一二七

9 戰鬪ニ際シ指揮官沈着シテ處置ヲ講スレハ部下モ又沈着ヲ得ヘキ例(西伯利亞戰)……………一二八

10 激戰時ニ於ケル指揮官ノ態度カ部下ニ影響ヲ及ホセル例(日露戰)……………一二九

11 指揮官ハ距離目測ニ慣熟シ兵卒ノ射撃動作ヲ注意スルノ必要ナル例(西伯利亞戰)……………一三三

12 一齊射撃ノ効果アリシ例(西伯利亞戰)……………一三五

13 戰鬪ニ當リ指揮官ノ態度部下ニ影響ヲ及ホセル例(日露戰)……………一三六

14 豪膽克ク敵ノ虛ヲ衝キ以テ有利ナル偵察ヲナシ友軍ノ攻撃容易ナラシメタル例(日露戰)……………一三九

15 企圖心旺盛ニシテ且處置宜シカリシ爲敵哨ヲ逃走セシメ任務ヲ達シタル例(日露戰)……………一四〇

16 警戒緩ナリシ爲失敗シタル例(西伯利亞戰)……………一四一

17 斥候長自ラ部下ヲ收容セシ例(日獨戰)……………一三三

18 河川偵察ヲナスニハ増水時ヲモ願慮シ渡河ノ方法ヲ護シ置クヲ要スル例(西伯利亞戰)……………一三三

19 西伯利亞撤兵ニ於ケル電話隊ノ行動(西伯利亞戰)……………一三四

第十五 航空兵

1 夜行軍ニ於テ消滅スヘキ目標ヲ信賴シ行進方向ヲ失ヒタル例(日露戰)……………一三七

2 敵騎兵團襲來直後土民ノ道案内者ヲ得ルニ困難シタル例(日露戰)……………一三六

3 輜重縦列上陸直後ノ前進ニ困難シタル例(日露戰)……………一三五

4 師團大行李敵ヲ驅逐シツツ本隊ト併進シ給養ヲ全ウシタル例(西伯利亞戰)……………一四〇

5 奇智ニヨリ糧食ヲ運搬シタル例(西南役)……………一四一

6 攻撃陣地推進ニ當リ薄暮ノ時機ヲ逸シ不成巧ニ終リタル例並ニ之ヲ利用シ成功シタル例(日露戰)……………一四二

7 獨斷糧食ノ補給機宜ニ適シ第一戰ノ志氣ヲ快復セシ例(日露戰)……………一四四

8 携行彈藥過多ニシテ負擔重キ爲之ヲ放棄セシ例(日露戰)……………一四四

9 架橋縦列砲兵彈藥ヲ直接放列ニ交付シタル例(日露戰)……………一四六

10	糧食縦列ノ人員ヲ以テ直接第一線ニ彈藥ヲ補充シタル例(日露戰).....	一四八
11	歩兵彈藥縦列小部隊ノ躍進ヲ以テ砲彈下ヲ通過セル例(日露戰).....	一四九
12	土人ニヨル輜重敵ノ急襲ノ爲逃走シタル例(西伯利亞戰).....	一五三

第十六 雜

1	幹部ハ如何ナル苦境悲慘ノ情況ニ於テモ從容事ヲ處セサルヘカラサリシ例(西伯利亞戰).....	一五五
2	實戰ニ於テハ距離目測著シク近ク誤測スルコトアルノ例(日露戰).....	一五七
3	服色ノ相違ヨリ將ニ命ヲ取ラレントセシ例(日露戰).....	一五八
4	後ヘノ命令ニテ大失敗ヲ來セル例(日清役).....	一六〇
5	初陣(指揮官トシテ)ノ經驗(西伯利亞戰).....	一六一
6	實戰經驗雜感(日露、西伯利亞戰).....	一六四
7	戰場心理及戰鬪常識ニ就テ(西伯利亞戰).....	一六八
8	沈著シテ掩護物ヲ利用セハ優勢ナル敵ニ對シ戰獨兵ト雖モ之ヲ抗拒シ得ル例(西伯利亞戰).....	一七〇
9	敵ノ慣習ヲ知レル爲ニ損害ヲ未然ニ防キ得タル例(青島戰).....	一七一

10	列車戰ニ於テ運轉手(露人)ノ言語通セス連絡ニ困難ヲ來シ意ノ如ク戰鬪ヲ實行シ得サリシ例(西伯利亞戰).....	一七三
11	我ニ對シ敵愾心盛ナル地方ニ於テ慈愛心ニヨリ士民ノ好意ヲ得タル例(西伯利亞戰).....	一七四
12	宿營中ノ部隊急ニ敵襲ヲ受ケタルニ際シ指揮官トシテ沈着ナラサルヘカラサル例(日清戰、西伯利亞戰).....	一七五
13	近接砲兵ノ有利ナリシ例(日露戰).....	一七七
14	地形ヲ利用シテ掩撃シ優勢ナル敵騎ヲ滑走セシメタル例(日露戰).....	一七七
15	兵卒ノ敵情判斷良行ナリシタメ守備隊有利ニ行動セシ例(西伯利亞戰).....	一七九
16	敵火下ニ於テ石礮地ニ掩體ヲ設ケタル例(日露戰).....	一八一
17	彈藥盡キントシテ石礮ヲ投シ陣地ヲ保持シタル例(日露戰).....	一八三
18	一斥候ノ報告ハ審査ヲ必要トスル例(西伯利亞戰).....	一八三
19	豫備隊ヲ區分スルニ就テノ注意.....	一八六
20	戰場ニ於テ適當ナル地圖ナキタメ苦シミシ例(西伯利亞戰).....	一八七
21	微候ニヨル敵狀判斷ノ一例(日露戰).....	一八八
22	地物ニ牽ケラレサリシ爲損害ヲ避ケタル例(日露戰).....	一八九
23	戰場ニ於テ彼我ノ服裝類似セル爲大ナル過失ヲ招キタル例(日清、日露戰).....	一九一

24 戰爭酣トナリ重態ノ患者忽チ快癒シタル例(日露戰).....一九三

25 遠隔セル一地ニ孤立シテ守備ニ任スル小部隊狀況ノ偵知不充分且彈藥不足ニテ苦戰セシ例
(西伯利亞戰).....一九三

26 戰場ニ於テ睡眠不足カ戰鬪ニ及シタル例(青島戰).....一九五

27 逆襲ニ側面ヨリ兵ヲ移動シ成功シタル例(西伯利亞戰).....一九六

28 服裝及天候ノ行軍ニ惡影響ヲ及シタル例(日露戰).....一九七

29 敵ノ側背ヲ脅威シ其ノ退却ヲ速ナラシメタル例(日露戰).....一九八

30 少數ノ歩兵克ク優勢ナル敵騎ヲ擊退セシ例(西伯利亞戰).....二〇〇

31 小泉少將涙ヲ揮ツテ軍隊指揮ノ要諦ヲ告ク(日露戰).....二〇一

32 指揮官ノ機宜ニ適セル處置ノ克ク戰捷ヲ致セル例附平時ニ於ケル研究訓練犧牲カ戰時ニ貢
獻セル例(日露戰).....二〇三

33 北滿出動中ノ一挿話(拙速斷行カ返テ効ヲ奏セシ例)(西伯利亞戰).....二〇六

34 有利ナル地點ヲ占領セシニ拘ラス戰術上ノ着眼乏シキタメ重要ナル鹵獲品ヲ逸シタル例
(日露戰).....二一一

35 明瞭ナル地物ヲ利用シ却ツテ損害ヲ蒙リシ例(日露戰).....二二二

36 臨時應急ヲ要スル裝甲列車ハ其ノ設備ヲ完全ナラシムルヲ要スル例(西伯利亞戰).....二二二

37 將校トシテ新兵器ノ知識ヲ必要トスル例(日露戰).....二二三

38 青年士官功名心ニ驅ラレテ増援隊ヲ辭シ後悔セル例(日清役後臺灣征討).....二二五

39 功ヲ急クモノハ失敗ヲ招ク例(日清役).....二二七

40 地物ニ蟻集シ損害ヲ蒙リタル例(西伯利亞戰).....二二七

41 主力ト分離シ戰鬪シタル部隊ハ任務終了ト共ニ速ニ所屬部隊ニ復歸セシメサレハ爾後ノ戰
鬪ニ支障ヲ來スノ例(日清戰).....二二八

42 暗號ニヨリ彼我ノ識別ヲナシ敵ノ奇襲ヲ脱セシ例(西伯利亞戰).....二二九

43 下級將校戰術眼ノ足ラサル爲有利ナル時機ヲ脱シタル例(日露戰).....二三〇

44 近距離ニ於テ著明ナル地物附近ニ蟻集セシタメ夥多損害ヲ受ケシ例(日露戰).....二三二

45 小隊長ハ戰場ノ危險物ニ就テ部下ニ教示セヨ(日獨戰).....二三三

46 兵站ニ於ケル集城ノ小部隊ヲ以テ兵力ヲ過大ニ欺瞞セシ例(西伯利亞戰).....二三四

47 夜間炊爨壕ノ火ヲ目標トシテ射撃ヲ受ケ混亂ニ陥リタル例(西伯利亞戰).....二三六

48 退却部隊ニ追躡セル斥候ハ敵ノ停止ニ際シテハ敵陣地近ク迄決意前進スルヲ要スル例
(日露戰).....二三九

49	射撃軍紀嚴守ト斥候ノ地形地物利用ノ例(日露戰).....	二三二
50	戰場掃除中彼我戰死者ノ状態ニヨリテ戰勝ノ我ニアリシ蓋シ偶然ニアラサリシヲ覺ラシメタル例(日露戰).....	二三三
51	近接工事及鐵條網破壞ノ一例(日露戰).....	二三三
52	密林通過ノ一例(西伯利亞戰).....	二三六
53	河川偵察ニ於テ兵卒奇智アリシ例(日露戰).....	二三七
54	指揮官ノ態度ノ部下ニ影響スルコト大ナリシ例(日露戰).....	二三九
55	急造鏡考案ノ一例(日露戰).....	二四〇

第二輯

第十行

軍

小戰例集 第二輯

1 行軍ニ際シ指揮官ノ注意周到ナリシ爲

良結果ヲ得タル例 (日露戰)

某將校談 歩兵第二十五聯隊士官候補生 兒玉 利雄記

明治三十七年六月十四日第四師團カ普蘭店ヨリ北進ヲ開始セル當時ノ事ナリキ予ハ六月十三日旅團長ノ命ニヨリ部下小隊ヲ率ヒテ普蘭店ノ北方四、五里ノ「孫家屯」ノ高地及其西方約三里ニアル高地附近ノ敵情搜索ニ從事シ十二、三里ノ行程ヲ歩キ夜一時頃任ヲ了ヘテ歸隊スルヤ師團ハ直ニ出發セルヲ以テ小隊ハ足ヲ休ムル暇モ無ク直ニ行軍ニ移レリ而モ此ノ日炎暑燒クカ如シ

余ハ部下小隊ニ同情シ落伍者ヲ出ササルコトニ全幅ノ注意ヲ拂ヒ絶ヘス小隊ノ状態ニ注意シ聲ヲ勵マシテ士氣ヲ鼓舞シツツ行軍セリ其結果ニヤ一睡モセス二日連續而モ炎熱ノ下ナリシニ拘ラス他小隊ニハ落伍者アリタルモ余ノ小隊ニハ皆無ナリキ

微細ナル指揮官ノ注意モ良結果ヲ擧クヘシ

2 情報測圖ノ一例 (日露戰)

遼陽戦後其以北ハ地圖ナカリシヲ以テ騎兵ヨリ敵情ノ通報ヲ得ルモ其位置ヲ知ルニ由ナシ予ハ九月八日大隊長ヨリ一ケ小隊ノ掩護ノ下ニ儘庄子(遼陽ノ西北約六吉米)——前方千堡間ノ路上測圖ヲ命セラレタリ而シテ此附近ハ一面ノ高粱畑ニシテ路上ヲ行クモ高粱ハ全ク展望ヲ妨ケ假令終日路上測圖ヲナスモ前方ノ村落ニモ達セス僅ニ一道路ヲ一吉米位測圖シ得ルニ過キササルヲ以テ予ハ當時ノ一般ノ狀況上ヨリ大隊長ノ意圖ヲ察シ次ノ如ク行動セリ予ハ儘庄子ノ屋上ニ登リ部下ハ下ニ在リテ警戒セシメ土人ヲシテ此ノ村ノ最モ博識ナルモノ二三名ヲ呼ヒ來ラシメ而シテ屋根ノ上ヨリ諸所ニ見ユル村落ノ位置ヲ圖上ニ寫載シ土人ノ博識者ニ其名稱距離等ヲ聽キ此ヲ現圖シ二里四方ノ圖ヲ描キ夕刻歸隊シ取敢エス之ヲ大隊長ニ呈出シ命セラレタル路上測圖ハ明日ヨリ實施スヘキ旨報告セリ

大隊長ハ我意ヲ得タリト大ニ喜ハレタリ情報測圖ノ一例トシテ參考ニ資ス

3 行軍演習ノ必要ナル例 (西伯利亞戰)

堀(慶)歩兵大尉談

歩兵第二十二聯隊士官候補生

清 水 穆 夫 記

知多西北方ウエルフネチチンスコエ(知多北方約六里)附近ノ戰鬪(大正九年四月二十五日)ニ從事セ

ル際中隊ハ三十六時間ニ約二十四五里ヲ行軍戰鬪セリ然ルニ小生(當時歩兵中尉堀慶二郎)ハ師團司令
部ニ於テ電報ノ翻譯係ナリシ關係上殆ント演習ニ從事セス行軍ノ如キハ約一ケ月前ニ一二回數里ノ道
ヲ行軍セシニ止マリシヲ以テ此戰鬪ニ於テハ大希望ヲ以テ從軍セシニ拘ラス極度ニ疲勞シ最後ニハ數
百米毎ニ十數分ノ休憩ヲナスニ非ラサレハ歩行困難ナル状態ニ至リ又兵卒モ十數里ニ渉ル行軍ヲ實施
スルコトナカリシヲ以テ非常ニ疲勞シ戰鬪後之カ回復ニ四五日ヲ要セリ

第二輯

第十一通

信

1 高粱ノ繁茂セル中ニテ連絡ヲ失ヒタル例 (日露戰)

迎歩兵中佐談

歩兵第七十八聯隊士官候補生

橋

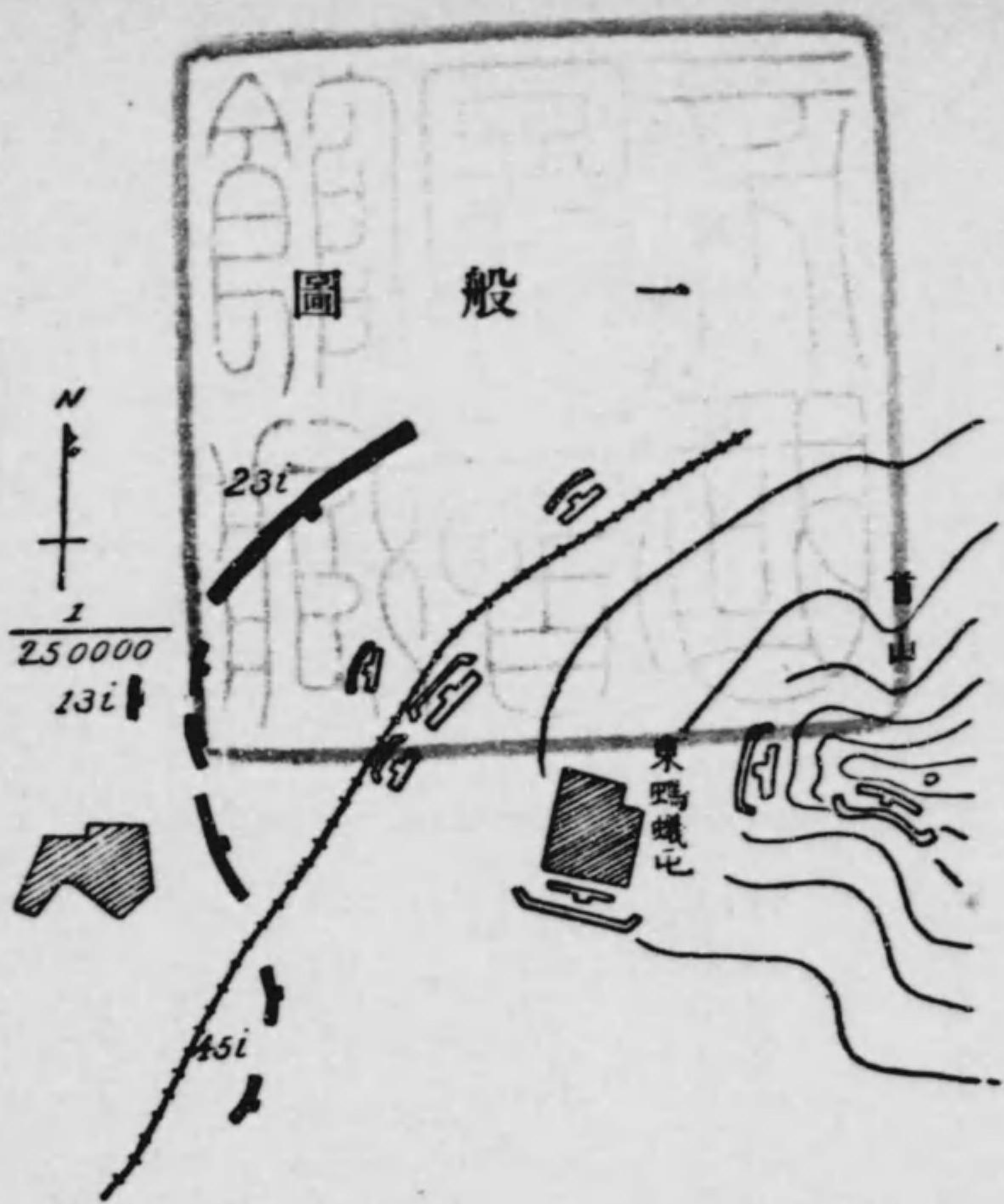
田

精

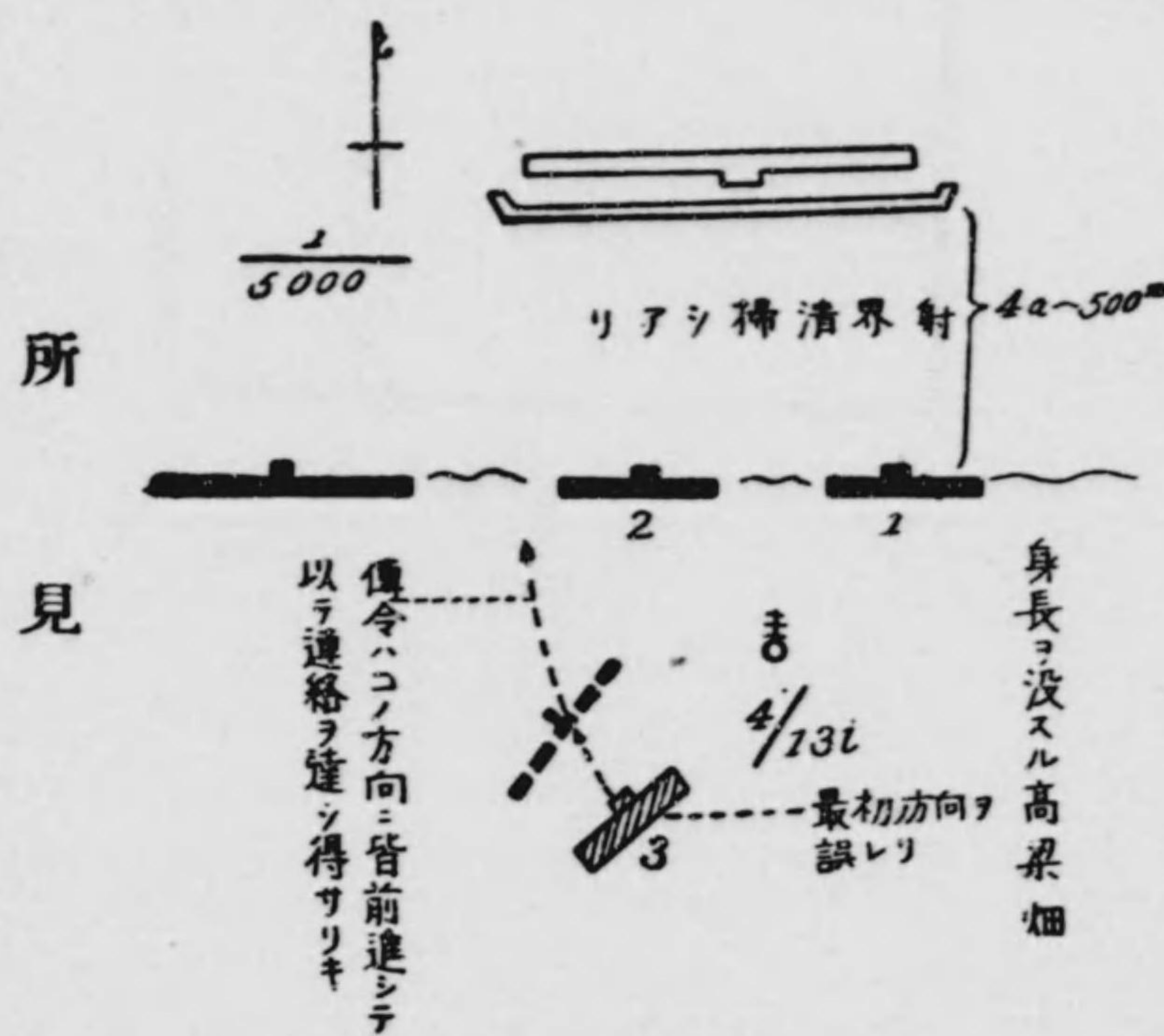
一記

明治三十七年八月二十八日迎中佐(現歩兵第七十八聯隊附)ハ當時歩聯第十三聯隊第四中隊第三小隊長トシテ遼陽ノ戰ニ參加セリ中隊ハ中間第一線トナリ西螞蟻屯附近ノ敵ヲ攻撃ス中隊長ハ二ヶ小隊ヲ第一線ニ一ヶ小隊ヲ援隊トシテ左翼後ニ位置セシム即チ中佐ハ援隊長トナリ速ニ命ノ如ク左翼後ニ至リ直チニ中隊長ニ連絡ヲ取ル爲メ小隊ノ位置スル斜右前方ニ傳令ヲ遣シタリ當時第一線ト敵トノ距離ハ四、五百米ニシテ援隊ト第一線トノ距離二、三百米ナリ而シテ其附近一帶ハ身體ヲ没スル高粱畑ニシテ敵前四五百米迄ハ射界ノ清掃ヲナシアリキ

暫ク待ツモ傳令ハ歸來セス更ニ古參分隊長東郷軍曹ヲ連絡ニ遣シタルモ目的ヲ達セス故ニ各分隊ヲ約二歩ノ間隔ニ散開セシメ前進シタルモ遂ニ中隊ヲ發見スルコト能ハ



歩兵第三十聯隊第四中隊戰鬥要圖



ス仍テ意ヲ決シテ後退シ中隊長ノ命令ヲ下シタル位置ニ至リ同所ヨリ更ニ斥候ヲ出シ始メテ中隊長ト連絡スルヲ得タリ此ニ於イテ最初ノ位置ハ所命ノ地點ナリシモ隊ノ正面ハ斜左向トナリ居リシ爲斜右前方ノ中隊長ノ許ニ出シタル傳令ハ孰レモ隊ノ正面ニ關シテ斜右前方即チ敵ニ正面シテ前進センコト並ニ隣部隊トノ間隔大ナリシタメ後ニ散開前進シタル時ハ其間隔中ヲ前進シテ第一線及中隊長ヲ發見スルヲ得サリシコトヲ知リタリ

高粱ハ滿洲一帶ニ夏秋ノ候繁茂シ戰鬥上各種ノ利害ヲ生ス之カ利用ハ吾人ノ研究ヲ要スル所ニシテ高粱中連絡ヲ失シタル實例ハ日露戰役間屢々起レル所ナリ深ク注意スルヲ要ス

2 手旗ヲ用ヒテ信號シ其目的ヲ達成シ得タル例 (日露戰)

栗原(勇)大佐談

歩兵第一聯隊士官候補生

栗原安秀記

明治三十七年六月二十六日双項山附近ノ戰鬥ニ於テ我聯隊ハ海岸路ヲトリ老榔山ヲ經テ既ニ双項山ノ線ヲ占領セシモ梁水河ヨリ猪圈子溝ヲ經テ前進セシ縱隊ノ狀況全ク不明ナリ予ハ聯隊ノ爲双項山東北無名高地ニ派遣セラレタリ然ルニ見渡ス限リ山々ニシテ到底目視ヲ以テ聯絡スルコト能ハス更ニ北方高地ニ達セシトキ大ナル谷地ヲ距テテ北方高地斜面ニハ友軍ノ一部駐止シアルヲ認メシモ我ト千餘米距テテソノ何隊ナルヲ知ルヲ得ス、而シテ該谷地ノ兩縁ハ甚タ急峻ニシテ殆ント絶壁ヲ形成シ彼我ノ近接ヲ許サス他ニ通路ヲ求メンカ甚タ大ナル迂路ニシテ多時ヲ要スヘシ、爰ニ策ツキテ試ミニ大聲ニ呼ヘハ當時恰モ四邊寂靜ナリシヲ以テ纔ニ通シタリト雖モ談話ノ意ヲ解別スルコト能ハス此ニ於テカ最後ノ手段ヲトリ手旗ヲ以テ信號ヲナサシメ遂ニ連絡シ得テ多大ノ時間ト努力トヲ節シ得タリ

所見

視號通信ノ妙味カ

3 左右ノ連絡ヲ失シタルカ因ヲナシ全線退却セシ例 (日露戰)

某大佐談

歩兵第四十三聯隊士官候補生

吉田耕一記

明治三十七年八月七日夕歩兵第四十三聯隊ハ小孤山攻撃ノ爲前進ヲ開始セリ、時宛モ大雨ニシテ咫

尺ヲ辨スルコト能ハサリシモ一意前進ヲ續行シ翌八月八日午前四時山麓近クニ達シタリ然ルニ數日前ヨリ偵察シアリシ山麓ヲ流ルル僅々二、三十米ナリシ小川氾濫シ幅約百米且水深大トナリ左翼第一大隊ノ正面ハ上流方面ノ一部ノ外徒渉スルコトヲ得ス、ヨツテ第一大隊ノ中央中隊タリシ第一中隊ハ上流ヨリ徒渉セントシテ若干後退シテ上流ニ移動セントシタルニソノ左翼ニ連ナリシ第四中隊ト右中隊トハ相互連繫ヲ缺キアリシ爲第四中隊第一線ノ兵卒ハ右中隊ノ後退セルヲ以テ退却ト誤リ全線退却ヲ開始セリ、大隊長曉諭立籠メル中遙ニ之ヲ見テ副官ヲ急派セシニ「全線退却ナリ」ト答フ、副官ハ叱咤大聲ソノ誤ナルヲ告ケ以テ制セントセシモ得ス、茲ニ於テ大隊長ハ已ムヲ得ス豫備隊タリシ第三中隊（一小隊缺）ヲ退却中ノ散兵線ニ向ヒ伍間増加ヲ行ヒ辛ウシテ此背進ヲ制止スルヲ得タリ

4 命令ノ傳達ヲ忘レ一部隊ヲ失ハントシタル例（日露戰）

樺山(百)特務曹長談 輜重兵第十四大隊士官候補生 樺山 正 照 記

明治三十七年七月九日蓋平攻撃ニ當リ工兵第六大隊某中隊ハ前衛タル歩兵第二十三聯隊ニ屬セリ、攻撃前夜所屬聯隊ト同村落ニ宿營シアリシカ夜半十二時ノ出發ニ關シ工兵中隊ニハ何等出發命令ヲ下達セサリキ、僥倖ニモ夜十一時三十分頃某特務曹長ハ用便ノ爲メ屋外ニ起キ出テシニ聯隊ノ宿營地ニ當リ異常ノ物音甚タシキヲ聞キ中隊長ニ其ノ旨報告シ直ニ聯隊本部ニ連絡セシニ當中隊ニ出發命令ノ下

達ヲ失念セリトノ事ニテ大イニ驚キ直ニ引返シ中隊ニ出發命令ヲ傳達シ急遽出發準備ヲ整ヘシメ駈歩ヲ以テ聯隊ニ追及スルヲ得事ナキヲ得タリ

所 見

命令ハ軍隊行動ノ基準ナリ下達スヘキ部隊數ヲ明ニシテ過誤ナカラシムルハ副官等ノ心得フヘキ事ナリ

5 喇叭手ノ獨斷吹奏セシ突擊喇叭ガ期セズシテ

兩小隊ヲ連繫セシメ戰勝ヲ得タル例（西伯利亞戰）

磯部(幸)大尉談 輜重兵第十大隊士官候補生 小泉 千萬 樹 記

大正八年四月十二日午前十時二十分政本磯部兩小隊グリボフカ西北方約八露里ノ高地ニ入ラントスルヤ前方ノ斥候ハ進路上ニ敵ノ徒歩斥候數名ヲ發見シ之ヲ追擊シテ退却方向ヲ究メントシ追躡ヲ始ム尙斥候長ハ進路ニ斜交セル左右約二百米ノ稜線上ニ一斥候ヲ急派スルヤ俄然稜線上ヨリ急激ナル猛射ヲ受ケタリ乃チ兩小隊ハ直ニ道路下側ニ散開シテ高地上ノ敵ニ對シテ攻撃ヲ開始ス敵ノ兵力ハ詳カナラサルモ約二百五十ヲ下ラサルモノノ如ク稜線上約四百米ノ正面ニ散開シ悉ク大ナル樹幹ニ據リ尙叢生

セル膝高ノ枯草ニ巧ニ隠蔽シ僅ニ帽子ヲ望見シ得ルノミニシテ發見極メテ困難ナリシモ兩小隊亦速ニ樹幹及小起伏ヲ利用シ最モ勇敢沈着ニ之ニ對戦スルコト約二十分ノ後磯部小隊長ハ約七十米ノ後方ヲ續行セル政木小隊ト連繫シテ躍進センカ爲其方向ヲ望見スルニ政木中尉及分隊長悉ク死傷シアルヲ以テ兩小隊ヲ併セ指揮シ前進セントスルヤ政木小隊ノ喇叭手ノ獨斷吹奏セル突擊喇叭ニ期セスシテ兩小隊ノ連繫成リ果敢ナル突擊ニ移ルヤ敵ハ陣地ヲ棄テテ北方ニ退却セシヲ以テ一舉ニ敵陣地ヲ奪取シ尙西北方ニ退却中ナリシ敵騎兵ニ對シ追擊ヲ行ヒ更ニ其高地ノ最高所ナル西北端ニ進出スルヲ得タリ時ニ午前十一時十分ナリ

所 見

本戦例ハ偶々喇叭手ノ吹奏セル突擊譜カ兩小隊ノ突擊ニ一動機ヲ與ヘ而モ其結果カ偶然良好トナリタルモノニシテ喇叭手ノ獨斷吹奏ハ時ニ慎重ナル考慮ヲ要スルモノアリ抑々新歩兵操典第五百五十五ニ示サレアル如ク突擊喇叭ノ吹奏ハ必スシモ有利ナラス又突擊喇叭ハ決シテ突擊動機ノ合圖ニアラサルノ主旨ヲ了解シ而モ情況ノ變化ニ應スル本戦闘ニ於ケル喇叭手ノ如クナルヲ要ス

第二輯

第十二

騎

兵

1 志氣ノ行軍ニ及シタル影響 (間島事件)

匿名氏談

騎兵第二十七聯隊士官候補生

光 田 太 郎 記

大正九年十月十九日間島事件討伐中騎兵第二十七聯隊ハ午前五時支那吉林省天寶山出發老嶺方向ニ賊ノ退路遮斷ノ目的ヲ以テ前進セリ老樹鬱蒼天日ヲ覆ヒ倒木朽チテ路ニ横リ濕地泥濘馬脚ヲ没シ行進頗ル困難ナリ聯隊ハ一伍縱隊率馬ヲ以テ小徑ヲ辿リ倒木ヲ跨キテ滑走顛倒シツツ辛フシテ午後九時前車廠溝ニ達セリ行程二十里此ノ間一頭ノ落鐵ナク一名ノ落伍ナク志氣極メテ旺盛ニ翌日更ニ五道揚忿ニ轉進セリ此ノ如キハ將卒對敵觀念ノ旺盛志氣振興ノ馬ニ感及シタル例ナリ

2 戦闘ノ開始ニ當リ精神ノ沈着ヲ計ル

匿名氏談

騎兵第二十七聯隊士官候補生

光 田 太 郎 記

大正九年間島事件ノ爲メ支那間島ニ出動シ十月二十一日賊既ニ近キヲ豫知シ漁朗村ニ宿營ス翌二十二日拂曉前方小哨方向ニ突如激烈ナル銃聲ヲ聞キ情勢管ナラサルヲ知ル全身血湧キ肉躍ルト共ニ精神状態ノ極度ニ緊張セルヲ覺ユ仍チ鮮人家屋ノ裏ニ至リ地ニ踞考シテ煙草ヲ喫スルト共ニ用ヲ達シ丹田ニカヲ込メ沈思默シテ數刻時ニ傳令歸來シ事ノ急ナルヲ報告セルヲ耳ニス然レトモ予ハ概ネ平靜ナル心

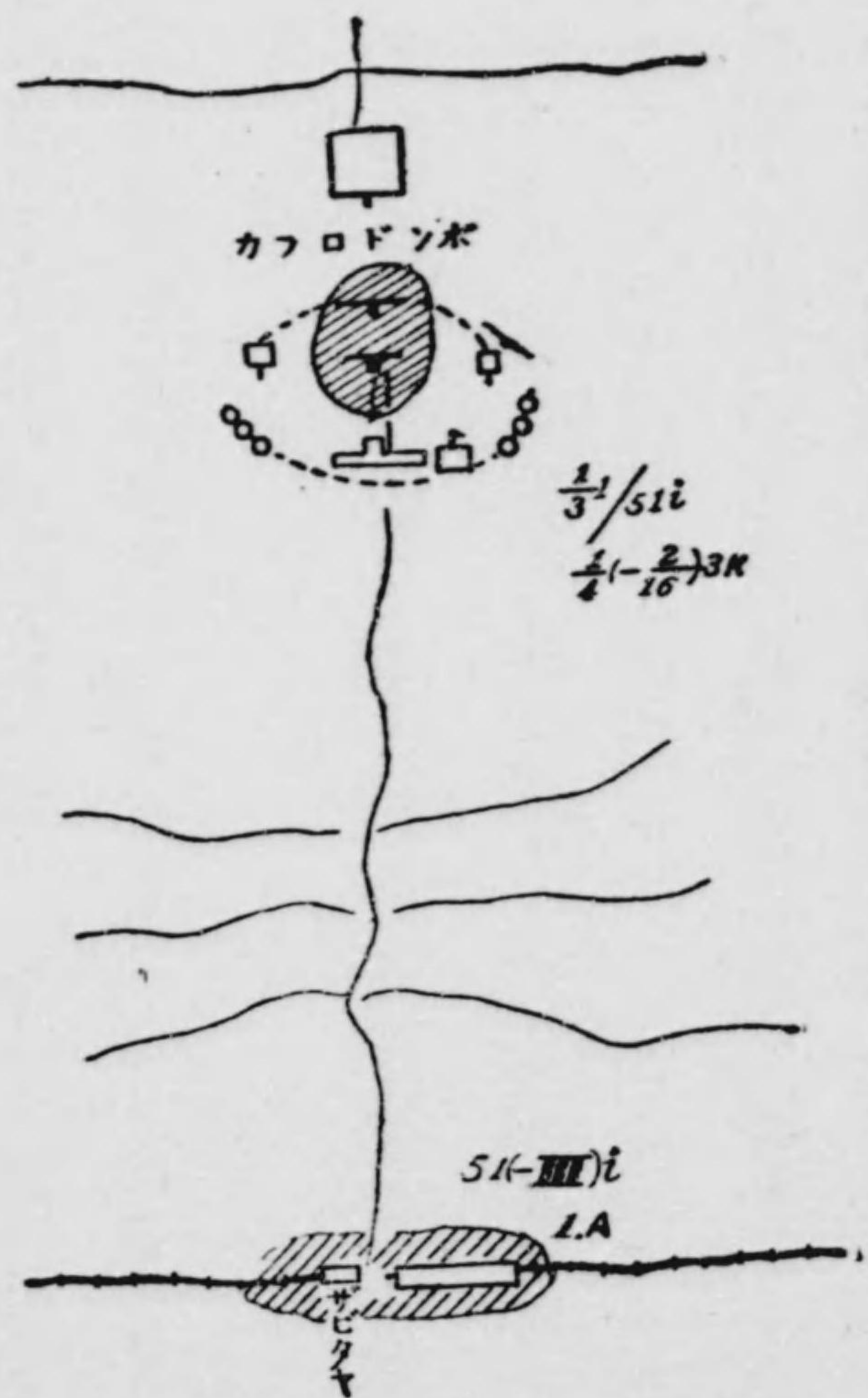
理状態ヲ以テ爾後動作シ得タリ咄嗟ノ事變ニ際シ凡人ノ丹田ニカヲ入ルル一例ナラン

3 退却戰鬪ニ當リ指揮官ノ嚴然タル態度ハ

克ク部下ノ混亂ヲ戒ム (村落搜索法ヲ含ム) (亞伯利亞戰)

重川(正敏)大尉談 步兵第二十四聯隊士官候補生 近藤隆人記

大正七年五月第三師團ニ屬スル歩兵第五十一聯隊(第三大隊缺)ハチタヲ出發シテ亞伯利亞鐵道ニヨリ沿海州方面ニ在リシ第十二師團長ノ指揮下ニ入り赤軍掃蕩ノ方策ヲ協定シ岡田支隊トシテ直チニ搜索行動ヲ開始セリ當時牒報ニヨリ赤軍ハザビタヤ驛北方約三里ボンドロフカ村附近ニ出沒スルノ報ニ接シ列車中ニ於テ待機ノ姿勢ニアリシ岡田支隊ハ先ツ敵情ヲ確メンカタメ歩兵一小隊騎兵一小隊ヲ搜索隊トシテ派遣セリ當時積雪膝ヲ沒シ寒氣凜烈タリ斯クテ騎兵小隊ヲ先頭トシ歩兵小隊ハ多數ノ糧ニ分乘シテ二軒ヲ隔テテ跟隨セリ騎兵小隊村落南端ニ達セシトキ赤軍ハ既ニ監視兵ニヨリ我軍ノ來攻ヲ知リ戰鬪ヲ準備セリ歩兵小隊到着ト共ニ歩兵小隊ハ正面ヨリ勇猛果敢ニ村落内ニ攻撃前進シ騎兵小隊ハ專ラ敵情ノ搜索ニ任ヌ村上軍曹(卒三)ヲ村落外ノ西側ヨリ中井伍長(卒三)ヲ村落ノ東側ヨリ各々斥候トシテ派遣シ赤軍ノ兵力ヲ偵察セシメタリ約二十分ニシテ兩下士斥候ヨリ相次テ報告アリ當時歩兵小



隊ハ既ニ敵ノ包圍ヲ受ケツツアリテ更ニ深く村落内ニ前進スルハ危険ニシテ既ニ目的ヲ達成シ得タルヲ以テ歩兵ヲ糧ニ分乘セシメ先ツ退却ノ途ニ着カシメ續イテ騎兵小隊退却ヲ實施セリ攻撃前進ノ際頗ル旺盛ナリシ志氣ハ一度退却ニ着カントスルヤ阻喪シ隊伍稍々モスレハ亂レントセシモ小隊長ノ沉着且嚴然タル態度ニヨリ無事順調ニ退却ヲ實施セリ指揮官

ノ態度ノ如何ニ緊要ナルカヲ痛感セスンハアラス村落内ノ搜索或ハ敵地ニアリテ村落ニ入ラントスルトキハ單ニ主道路ノミヲ搜索スルコトナク外圍ヲ搜索シ且ツ外側ヨリ内部ノ狀況ヲ偵察スルコト必要ナル所以モ亦本戰例ノ示スカ如シ

委員所見

一、退却ノ狀況明カナラサルモ將校ノ將校タル所以ハ蓋シ逆境ニ立チ困難ニ遭遇シテ茲ニ愈其ノ光輝ヲ發揮スヘシ大イニ修養ヲ要ス

二、村落内搜索ハ徵候其ノ他ニヨリ明察ナル眼力ニ負フモノ多シ而シテ此レカ爲ニハ内外表裏兩面

4 就寢前ニハ必ス裝具ヲ整ヘヨ (間島事件)

匿名氏談 歩兵第二十七聯隊士官候補生 光田太郎記

間島事件討伐中大正九年十二月二十二日拂曉賊徒約四百ハ騎兵第二十七聯隊ノ宿營地ニ攻撃シ來レリ聯隊ハ直ニ緊急集合ヲ行ヒテ之ヲ迎撃セリ予ハ當時本部ニ在リテ就寢前長靴ヲ乾スヘク温突焚口ニ置キタリシモ夜中當番ハ其ノ燒ケンコトヲ憂ヒテ窓傍ニ持チ來レリ然モ不意ノ集合ニ當番ハ馬繫場ニ走リテアラス之ヲ探スニ焦燥センコト甚シ裝具ハ必ス自ラ整備セヨ

5 滿洲ノ如キ垣々タル平野ニ於ケル夜間傳令勤務ノ

困難ナル一例 (日露戰)

建川(美)少將談 騎兵第十三聯隊士官候補生 鈴木重雄記

1、奇智ニヨリ敵ヲシテ味方ト誤認セシム

明治三十八年一月十日予ハ五騎ヲ率キ沙河ノ線ヲ出發シ遠ク露軍背後ノ搜索ノ任ニ就キ十七日鐵嶺附近ニ達セシ時不意ニ露軍ノ糧食縱列ニ遭遇セリ敵ハ縱列ノ監視兵ノミナレハ遁ルルハ容易ノコトナリシカ日本軍斥候ノ進入シアルヲ知ラシムルハ好マシカラスコトナリキ依ツテ直チニ一同下馬休憩セシニ(此時彼我ノ距離約五百米)敵ハ友軍ト誤リ何等ノ注意ヲモ拂ハス通過セリ此ノ方法ハ予ノ案出ニ非ス騎兵第十一聯隊ノ副官タリシ寺内大尉ノ經驗談ヲ利用シテ成功セル迄ノコトナリ

2、夜間敵歩哨線突破ノ一法

前項ノ斥候行動中一月十八日鐵嶺東南方ニ於テ敵ノ兵站守備兵ト衝突シ兵卒一名ヲ失ヒタル爲メ此方面ノ敵ハ警戒ヲ嚴ニシテ到ル所進路ヲ塞カレタル爲夜間行動スルノ外ナキニ至レリ此方面ヨリ撫順ヲ經テ城廠附近ニ歸來セシカ全クノ山地ニテ隘路多ク敵ノ警戒兵アリト知リツツ之ヲ突破前進スルノ已ムナキコト屢ミナリシカ歩哨ノ附近ハ常歩ニテ徐々ニ進ミ步哨誰何セハ適當ニ返答シツツ進ミ間近ニ至リ急ニ駆歩ニテ突進スレハ敵ハ度ヲ失シ餘程ノ距離ニ於テ始メテ射撃スルヲ常トセリ予ハ敵ノ後方ヨリ突破セシモノナレハ敵ニ油斷アリ突破容易ナリシナランモ正面ヨリトテモ左程困難ナラサルヘシ過早ニ敵ナリト察知セラレサルカ要點ナリ

3、斥候ハ作戰地住民ノ語學ニ通スルヲ要ス

予ノ前記斥候行動間敵情ニ關シ相當知識ヲ有スル支那人ニ會セシカ支那語ノ素養貧弱ナルカ爲メ意ヲ通シ得ス得ヘキ敵情モ遺憾ナカラ得ラレサルコト多カリキ豫想作戰地ノ語學ヲ平素ヨリ學ヒ置クハ切要ノコトナカラ之又容易ノコトニアラス故ニ少クモ開戦ノ豫期セラルル頃トナラハ專心作戰地及敵軍ノ語學ヲ學フヲ要ス單簡ノコトニテモ知ラサルトニ依リ大差アリ例ヘハ前項記載ノ步哨線突破ニ際シテモ誰何セラレタル際「斥候」トカ「傳令」トカ露語ニテ言ヒ得ルノミニテモ大ナル利益アリ此點ハ騎兵科青年將校ニ於テ特ニ重要ナリ銘記ヲ要ス

4、滿洲ノ野ニ於ケル夜間傳令勤務ノ困難

奉天會戰間予ノ小隊ハ十數日ニ互リ晝夜ノ別ナク第三軍司令部ノ傳令勤務ニ任シ二回ノ失策アリシモ以外ハ盡ク其ノ任ヲ完フセリ地圖ト云フ地圖ハナク晝間ハ村落ヨリ村落ヘト見當ヲ附ケ得ルモ夜間ハ全ク大海ノ如クニシテ方向ノ判別困難ナリ習志野原ニ於テモ行動困難ナリ況ンヤ全然生地ニテ而モ一步方向ヲ誤レハ敵軍ノ中ニ迷ヒ込ム虞レアリシモ一夜遠ク七里許リ離隔シ行動中ノ第一師團司令部ニ行キタルコトアリシカ屢々方向ヲ失シ一方ナラス困難ヲ嘗メタリ會戰終局ヲ告ケタル際兵卒ヲシテ各々其所感ヲ呈出セシメタルニ等シク夜間傳令勤務ノ困難ヲ述ヘ苦心ノ狀ヲ記述セリ之レニ依レハ兵卒ノ多クハ星ニ依リ方向ヲ定メツツ行進セル如ク又村落内ハ道足曲折シ最モ誤リ易ク村ト村トノ中間(此附近ハ近クシテ二軒遠キハ四軒位離隔シアリ)ニ於テ方向不明トナリタル際ハ更ニ

元ノ村迄歸リタリト述ヘタルアリ平時ニ於テモ適當ノ地形アラハ教育シ置クヲ要セン

6 部署狀況ニ適セルヲ以テ戰鬪ヲ有利ナラシム (西伯利亞戰)

小島中佐談

步兵第二十聯隊士官候補生

花田 勇 吉記

大正八年二月十七日步兵第十四聯隊大隊長堀步兵少佐ノ指揮スル(支隊步兵百五十機關銃一騎兵百七十、砲二門)ハ黑龍州アンドレフカ西方二千米ノ地點ニ於テ陣地ニ據レル數倍ノ敵ヲ攻撃シ支隊長戰死シ步兵ノ半數死傷シタルモ遂ニ敵ヲ西方ニ擊退セリ

此時小島騎兵隊(騎兵第十二聯隊(第三中隊(二三小隊缺)ブラゴエシチエンスク現役哥薩克五十騎ボヤルコワ哥薩克百騎ニシテ小島大尉之ヲ指揮ス)友軍步兵ノ展開ト共ニ敵ノ背後ヲ脅威スルニ決シボヤルコワ哥薩克百騎ヲ等分シテ步兵ノ兩翼ニ分置シ以テ警戒ニ任セシメ日本騎兵二十騎、現役哥薩克五十騎ヲ以テ敵陣地ノ背後ニ侵入セリ、是ボヤルコワ哥薩克ハ伐討開始ト共ニ臨時動員シテ出動セルモノナレハ老若相交リ裝備訓練共ニ甚不十分ナリシヲ以テ敵ノ背後ニ於ケル敏活ナル行動ヲ拘束若シクハ妨害セラレンコトヲ虞レタルト彼此步兵ノ兵力著シク懸隔シアルタメ友軍步兵ノ兩翼ニ危險ヲ感シタルトニヨリ廢物利用ノ意味ニ於テ斯クノ如キ配備ヲ取リシナリ

戰後當時ノ敵ノ指揮官ドロゴセフスキーヲ捕ヘタルニイワノフカヨリ増援三百ヲ得テ攻勢ニ轉セント

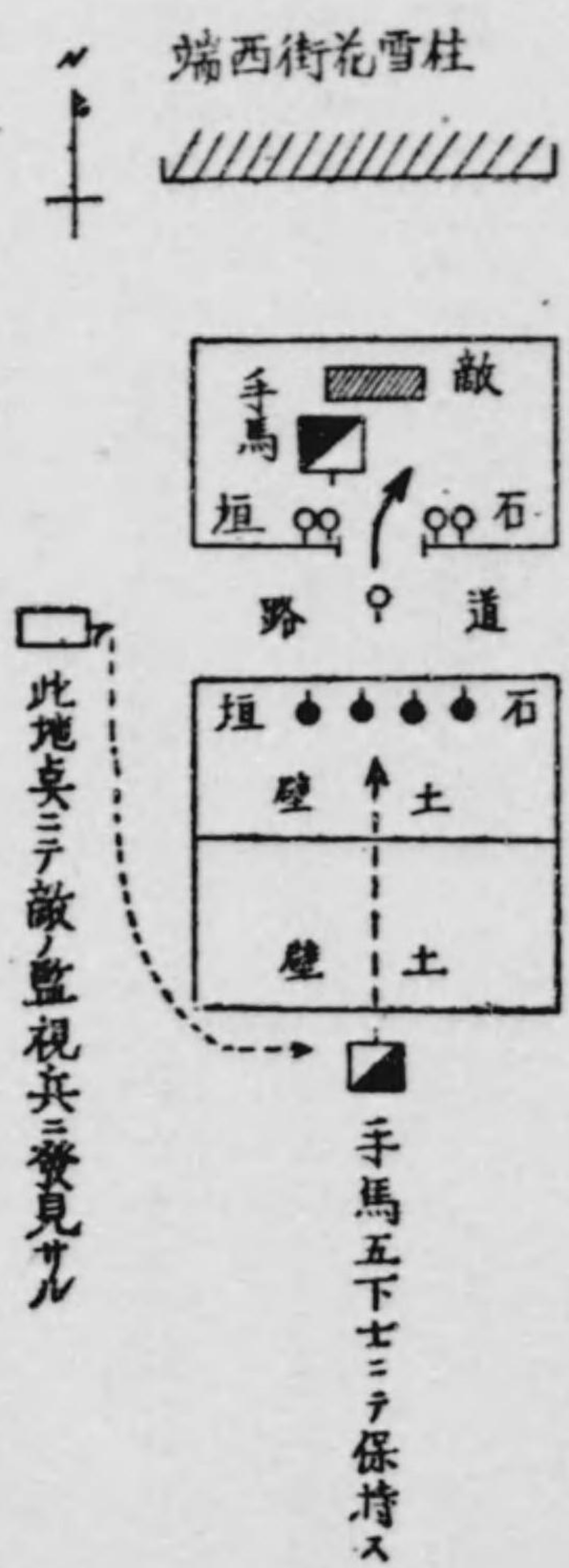
セシモ此増援隊ハ敵騎隊ノタメ陣地後方ニ於テ阻止セラレ又陣地ニ在リシ歩兵ヲ以テ出撃セントセシ
モ敵ノ騎兵兩翼ニ在リテ乘スルヲ得ス企圖空シク水泡ニ歸セリトテ歎セシト謂フ
由是觀之其異常ナル騎兵ノ部署カ如何ニ當時ノ狀況ニ適應セシカヲ知ルヲ得可シ
委員所見 所謂敵ヲ知り己ヲ知ルモノハ百戰皆勝ツナリ

7 銃聲ニ依リ手馬ヲ散亂セシム (日露戰)

某騎兵將校談 騎兵第十一聯隊士官候補生 山田正雄記

明治三十七年六月得利寺戰鬪ノ直前當時秋山騎兵旅團ニ屬セシ予ハ將校斥候(下士以下四)トシテ萬
福莊方面ノ敵情ヲ搜索スヘキ命ヲ受ケ出發セリ途中敵影ヲ認メス只敵騎ノ馬繫セル跡ヲ見ルノミ桂雪
花街ニ入ラントスルヤ一土民曰ク部落内ニ敵ノ騎兵部隊アリト既ニシテ敵ノ監視兵ニ發見セラル依テ
之ヲ左記要圖ノ如ク徒歩攻撃シ咫尺ノ距離(約五米ニシテ敵ノ口髭ノ赤キヲ認メ得タリ)ニ於テ射擊
ヲ交ヘタルモ互ヒニ死傷ナシ恰モ敵ノ手馬ヲ前方門内家屋ノ敵ニ認メタルヲ以テ之ヲ射擊セシメ其ノ
二ヲ殛セリ、然レトモ予ハ長ク敵ト交戦スルノ不利ヲ察シ退キテ手馬ノ位置ニ到リタルニ手馬散逸シ
僅カニ二頭手馬持ノ手ニ在ルノミ依テ予ハ敵ノ追躡ヲ監視シツツ斥候員ヲシテ手馬ヲ搜索セシム幸ニ
シテ敵ハ我ヲ追躡スルコトナク且ツ散亂セシ手馬ハ連日ノ疲勞ニ遠ク走ラス附近ノ高粱藁ヲ食シ居タ

ルヲ以テ之ヲ捕フルヲ得テ無事敵ト離脱スルヲ得タリ而シテ手馬保持ニ任セシ下士(當時下士ハ騎銃



ヲ保持セス拳銃ヲ保持シアリシヲ以テ手
馬持トセリ)ノ言ニ依レハ

「斥候敵ト對戰中敵射彈手馬ノ直上ヲ飛
來スルヤ手馬ハ此音ニ驚キ狂ヒテ遂ニ散
亂セシムルニ至リ之ヲ捕ヘントスルモ一

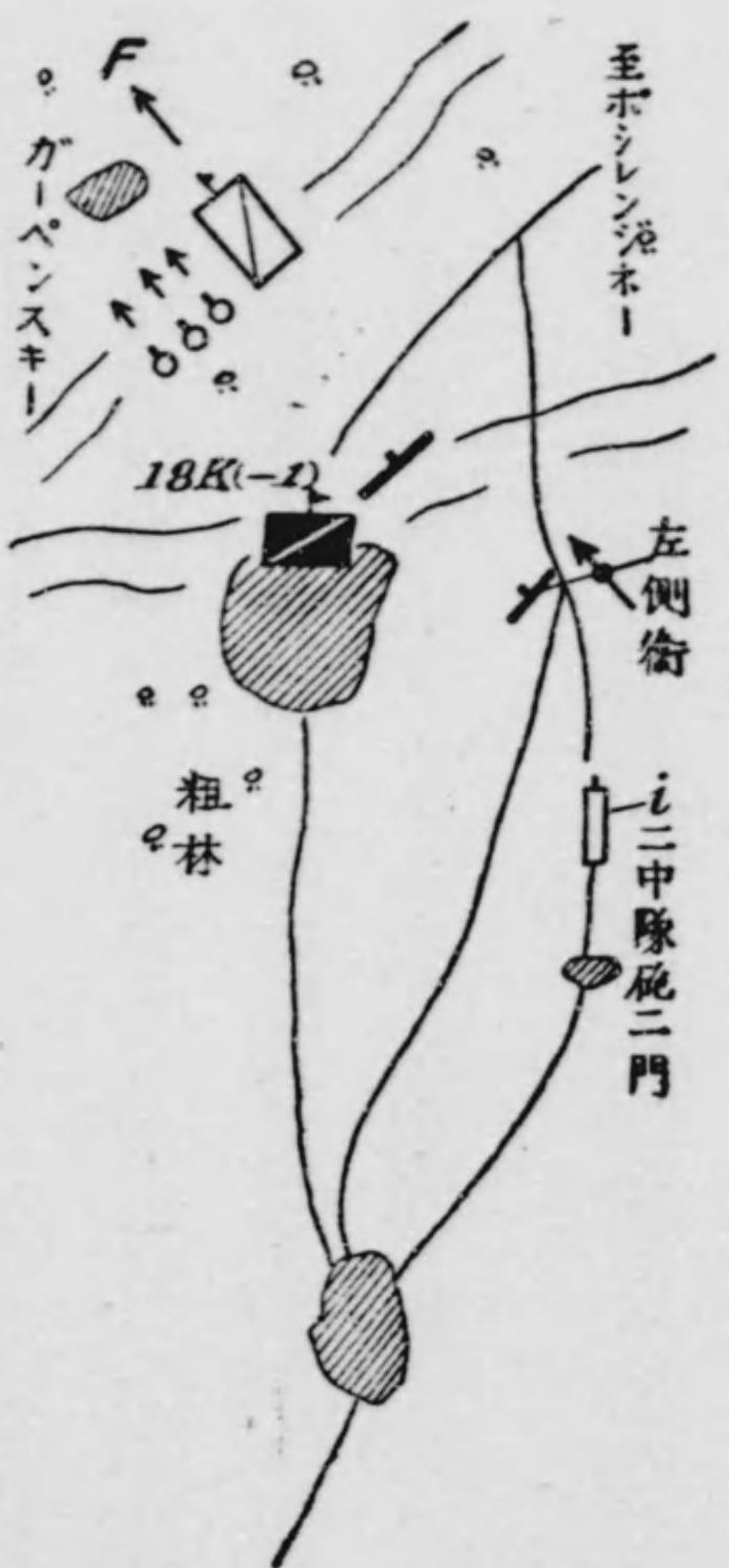
名ニテ如何トモ爲ス能ハス心配シ居タルナリ」ト此時若シ手馬逸走シテ捕フル能ハス且ツ敵追躡スル
ナランカ斥候ノ運命知ルヘキノミ予ハ當時ヲ追憶シ其ノ幸運ヲ喜フト共ニ手馬ノ位置ハ只單ニ敵射彈
ニ遮蔽シ得ルヲ以テ足レリトセス敵ノ射擊方向ヲ避ケテ位置セシムヘキモノナルヲ痛感セリ

8 戰鬪間友軍部隊ト連絡ノ必要 (西伯利亞戰)

匿名氏談 騎兵第十八聯隊士官候補生 近澤精一郎記

大正八年九月二十三日騎兵第十八聯隊ハ黑龍州討伐汽車輸送ノ途次同州ザビタヤニ下車シ同地守備隊
ト協同シ同地東北方地區ノ討伐ヲナス午前一時頃同地ヲ發シ二縱隊(右縱隊(歩兵二中队山砲二門)左
縱隊(騎兵四小队機關銃一))トナリ前進セシカ左縱隊ハ午前四時稍々過キアブラモフカニ於テ約二百

ノバルチザンノ同地ニ宿營シアルニ突然遭遇シ半ハ夜間戦闘ノ要領ニヨリ之ヲ東北方ニ擊退シ同地ヲ占領一部ヲ以テ其ノ北方斜面ニ向ヒ進出セシメ隊伍ノ整頓ヲナス敗殘ノ敵兵ハ尙ホ十數名同地北方森林中ヲ諸方向ニ向ケ退却中ナリ時既ニ夜ハ明ケ彼我ノ識別明瞭ナリ右縦隊（歩兵隊）ハ左縦隊方面ニ銃聲ヲ聞キツツ行進ヲ續行シ左縦隊ノアブラモフカヲ占領セシ刹那其ノ左側衛歩兵一小隊（機關銃一）



ヲ以テアブラモフカ東側ニ右縦隊主力ヲ以テ同地東南方約二千米ニ達セシカ兩縦隊殊ニ左縦隊ニ於テハ友軍部隊ノ行進位置ヲ目撃シナカラ之ト完全ナル戦闘間ノ連絡ヲ缺キシカ爲メ圖ラスモ右縦隊左側衛ヨリ機關銃及小銃ヲ以テ又右縦隊主力ヨリ山砲ヲ以

テ敵ト誤認セフレアブラモフカ及其ノ北側斜面ニ向ヒ猛烈ナル射撃ヲ受ケ部隊ノ整頓及追撃ニ多大ノ支障ヲ生セリ幸ニシテ死傷者ハ生セサリシモ戦闘間ニ於ケル相互間ノ連絡ノ重要ナル體驗ヲ得タリ所見 日出後彼我ノ識別明瞭ナルニ拘ラス斯如キ過誤ヲ生ス況ンヤ夜間若クハ村落森林地帯内ニ於テオヤ勇者ト雖モ戰場心裡ハ豫想外ノ發作ヲ呈スルコトアラン各部隊間ノ連絡ノ必要ナルハ言ヲ俟タサルモ上述ノ如キ過誤ヲ生スルコトアルハ戰場内ニ起ル一場面ナルヘシ單ニ自己カ承知シ

アリシトノ理由ヲ以テ他カ自己ヲ承知シアリトノ推論ハ當ラス念ニハ念ヲ入ルヘキカ

9 攻撃動作ニヨリ警戒ノ任務ヲ達成ス（日露戰）

齋藤大佐談

飛行第六聯隊士官候補生

清

田

泉記

明治三十七年沙河會戰ノ後騎兵第二旅團ハ本溪湖東北側商臺子ニアリテ冬營シ前面ニ一中隊ト一小隊トヲ出シテ警戒並ニ搜索ニ任セシム十二月十二日齋藤少尉ハ一小隊ヲ以テ興隆山ニ位置シ警戒スヘキ命ヲ受ケ同地ニ達シタルトキ前方高地ニ敵二三十名アリテ我陣地ヲ瞰制シ著シク我行動ヲ妨害ス茲ニ於テ小隊ハ敵陣地ヲ攻撃スルニ決シ敵高地ヲ距ル五百米ノ高地ニ小隊ノ大部ヲ右翼分隊長ニ指揮セシメテ掩護射撃ヲ命シ小隊長ハ自ラ五名ヲ指揮シ敵高地ニ向ヒ前進ス高地斜面ハ相當急ナルヲ以テ射撃スルヲ得ス銃ヲ負ヒテ前進ヲ繼續ス敵ハ我ノ銃火ヲ冒シ前進スルヲ見テ退却シ遂ニ難ナク同高地ヲ占領シテ完全ニ警戒ノ任務ヲ達成セリ

所見 我カ守地ヲ確實ニ維持シ任務ヲ完全ニ達成センカ爲ニ小隊長ノ採リタル攻撃ノ決心ハ適切ニシテ且ツ攻撃ノ部署モ適當ナリ就中小隊長カ小數ノ兵力ヲ以テ自ラ陣頭ニ立チテ攻撃前進ヲ斷行セシ意氣ハ大ニ崇敬ニ價ス

10 報告ハ成可筆記シテ傳達セシムルヲ可トス (日露戰)

匿名氏談

騎兵第十六聯隊士官候補生

牧野

威記



遼陽會戰ノ初期秋山騎兵團ニ屬スル某騎兵聯隊ハ牛莊沙河道ヲ前進シ騰鰲堡ニ達セントスル時尖兵長ハ騰鰲堡村落ニ敵徒歩兵若干ト砲兵既ニ陣地ヲ占領シアルヲ知り速ニ之ヲ報告センカ爲一兵卒ニ

口頭報告ヲ命スルニ容易ニ復唱スルヲ得ス即チ他ノ兵卒ヲ代ヘテ復唱セシムルモ亦不可能ナリ斯クスル中本隊ハ已ニ砲兵ニ對シ高地端ニ大ナル目標ヲ曝露セントス茲ニ於テ尖兵長止ムヲ得ス兵卒ニ監視ヲ命シ自ラ報告ニ趣カントスレハ兵卒又小隊長ニ續行セントス尖兵長處置ニ窮シタルトキ恰モ下土歸來セシヲ以テ僅カニ「本隊止レ」ト傳達セシメ辛フシテ本隊ヲ砲兵ニ曝露セシメサルヲ得タリ此ノ際砲兵發見ト同時ニ速ニ筆記報告ヲ出セハ一層迅速且ツ明瞭ナル理解ノ下ニ本隊ヲ適當ニ動作セシメ得タルヘク戰地ニ於テハ多ク周章機ヲ失シ報告文等容易ニ覺ユル餘裕ナク從ツテ復唱困難ニシテ且ツ誤リヲ報告シ易シ況ンヤ難シキ未知ノ地名就中滿州ニ於テオヤ故ニ忙シケレハ忙シキ程筆記報告ヲ必要トス

委員所見 筆記報告ノ必要ナルコトモトヨリ然リ而シテ情況ニ適合スル如キ要圖報告ヲ最モ必要トス

口頭報告ノ場合ニ於テハ緊要ナル地名時刻兵力等ハ紙片ニ記入シ與フルヲ妙トス

11 勇敢ナル騎兵小隊長並ニ歩兵機關銃ノ動作 (西伯利亞戰)

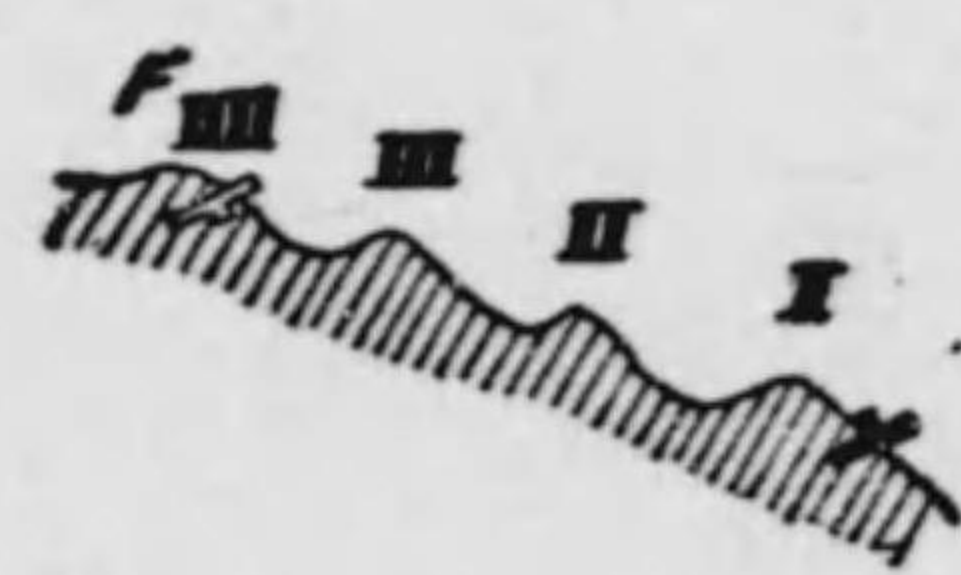
匿名氏談

歩兵第二十四聯隊士官候補生

竹中

英雄記

大正十年八月某日ニコリスク某高地ニ陣地ヲ占領セル過激派軍ヲ擊攘スヘク第十一師團某歩兵聯隊一ケ小隊ヲ派遣セラレタリ予モ亦此部隊ニ加リ同行セリ敵ハ我ヨリ兵力優勢ニシテ且ツ絶好ノ要害ニ據レリ士卒ハ勇躍シテソノ戰鬪開始ノ初期ニ於テハ恰モ日常ノ演習ニ於ケルカ如ク平氣ニ攻撃前進セリ敵ノ有效射擊圈内ニ入ルニ及ヒテ彈雨漸ク烈シク小隊内ニ死傷ヲ生スルニ至レリ敵ハ兩膝ヲツキテ折敷ノ姿勢ニアリキ突然額上ヲ強打セル一彈ハ徽章ニ命中シ帽内ヲ右ニソレタリ余ハタメニ額上ニ微傷ヲ負エリ此ノ時敵トノ距離五、六百左右ニ叫喚ヲ聞ク見レハ余カ隣ノ某軍曹ハ口中ヨリ後頭ニ貫通セラレ其一等卒モ亦胸部ヲ貫通セラレ紅血ニ塗レ居レリ此頃ニ到レハ或ハ地上ニヒレ伏シ居ルモノ或ハ顔面蒼白眼中充血シ口ヲ緘スルモノ或ハ壕内ニヨリ沈着シテ射擊スルモノ全ク演習氣分ヨリ脱シ生死ヲ前ニ懸命ナリ今ヤ小隊ハ圖ノ如キ(一)丘陵ノ位置ニ到レリ即チ地形波狀ニシテ敵眼ニ對シテ一ツノ稜線ヲナス小隊ハ此ノ稜線ニアリテ尙攻撃ヲ續行ス彈雨ハ益々激シク頭上ヲ掠ム恰モ眼前ノ諸稜線ハ



一ツノ死線ニシテ是ヲ望ムトキ言知レヌ氣ニ包マレタリ小隊長ハ分隊位置ノ後方敵ヨリ全ク遮蔽中ニ位置シ前進セントモセス(但シ前稜線(Ⅰ)ニハ敵アリヤ否ヤモ判然タラス)然レトモ余ハ徒ニ逡巡シテ攻撃ヲ頓挫セシムルノ不可ヲ思ヒ小隊長ニ斷然前方ノ稜線(Ⅰ)ニ前進スヘキヲ促セリ然レトモ小隊長思慮アリテカ頭トシテ應セサリキ何時前進スルトモ見エサリキ頓テMG一小隊増援ノタメ來タル步兵小隊ノ徒ニ稜線(Ⅰ)ニ固着スルヲ見テMG小隊長ハ敢然自己小隊ヲ率キMG小隊長自ラ先頭ニ立チ拳銃ヲ手ニシテ徐々前ノ稜線(Ⅰ)ニ進出ス稜線ニ近付クヤMG小隊長ハ稍々身體ヲ前方ニ傾ケ拳銃ヲ前方ニ突出シ敵ノ現出ヲ豫期シツツ稜線(Ⅱ)ニ進出ス幸ニ敵ヲ見スノ位置ニ停止スルカト思ヒノ外又自ラ先頭ニ立チ彈雨激シキ中ヲ次ノ稜線(Ⅲ)ニ進出セントス茲ニ於テ余ハ聲ヲ勵マシテ步兵小隊長ニMG掩護ノ必要ヲ説キ是非(Ⅰ)ノ稜線ヨリ(Ⅰ)ノ稜線ニ前出セントヲ力説ス步兵小隊長尙頑トシテ前進セス余ハ再ヒMGノ危険ヲ説キ前進ノ切ナルヲ促ス然モ猶應セス彈雨ノ中激論數次已ンスル哉余ハ斷然稜線ヲ勇進シMGノ後ヲ追ヘリ此時步兵小隊内ノ某分隊長ハ小隊長ノ命ヲ待タス獨斷自己分隊ヲ率キ(Ⅰ)ヲ進出MGヲ掩護スヘク(Ⅰ)ノ稜線ニ向ヒ進出セリ時ニ側方ヨリ砂ヲ卷イテ來ルアリ見レハ我カ騎兵ノ増援ナリ直チニ(Ⅲ)ノ稜線ニ小隊ト共ニ位置シ攻撃ヲ開始ス騎兵小隊長ハ彈雨ノ間悠然ト稜線上ニ跌坐シ兵卒ヲ大聲激勵シテ曰ク「カカル時豫行演習ヲ十分ニヤレハ射撃ハ上達スルソ」ト此位置ハ突撃準備

完了線タリ見レハ騎兵ハ携帶彈藥ヲ射盡シ各兵ハ空射撃ヲナシ居レリ騎兵小隊長ハ彈數ノ盡キタルヲ知ルヤ蹶然刀ヲ拔キ先頃ニ勇躍シ突撃ヲ敢行ス悼シキ哉勇士ハ遂ニ戰死セリカクシテ戰ハ終レリ我カ小隊ハ遂ニ敵ヲ擊攘スルヲ得タリ

12 機先ヲ制シ勝利ヲ得 (日露戰)

齋藤航空兵大佐談

飛行第六聯隊士官候補生

折笠 三善記

明治三十八年奉天會戰後日本軍ハ開原法庫門ノ線ニ在リテ敵ト對峙セシトキ四月二十四日横山騎兵中隊ハ通江口ヲ出發シ昌圖ニ在ル秋山支隊ト連絡ノ爲前進中某中尉ハ兵八騎ヲ率ヒ尖兵トナリ中隊ノ前方二百米ヲ前進セリ當時尖兵ハ友軍ノ後方ナルヲ以テ一名ノ上等兵ヲ道案内トシ他ハ二伍縱隊ニテ前進シ尖兵長ハ常ニ騎銃ヲ携行シアリタリ

午前十時稍々過キ三道講ト稱スル村落ヲ通過シ右方畑地ニテ左方高地ナル山腹道ヲ前進中屈曲點ニ於テ俄然二百米ノ長徑ヲ有スル敵ノ騎兵ト遭遇シ彼我共ニ停止ス距離百米尖兵長ハ携行シアリシ騎銃ヲ以テ直チニ馬上射撃ヲ行フ敵隊返輪退却ヲ開始ス尖兵長ハ一步モ後退スルコトナク直チニ乘馬散開ヲ命シ馬上射撃ヲ開始セシメ自ラ兵一名ヲ率キ高地上ニ疾驅急進ス

時ニ敵ノ五十騎ハ更ニ高地中腹ヲ頂上ニ前進中ナリ依ツテ尖兵長ハ兵ト共ニ五十騎ニ向キ馬上射撃ヲ

開始ス敵ハ直チニ後退ス依テ更ニ道路附近ノ七騎ニ命シ前進セシメ敵ヲシテ全ク爲スコトナク潰走セシメタリ

右ノ動作ハ常ニ確固タル精神ヲ以テ斷然攻勢ニ轉シ敵ノ機先ヲ制シタル結果ナリト信ス

13 敵ヲ輕侮セシ爲失敗セシ例

匿名氏談

騎兵第五聯隊士官候補生

山田 玉 哉記

オケヤンスカヤハ浦鹽ノ西北約二十露里ノ地點ニアリ大正九年四月第十三師團ノ歩兵第五十聯隊主力及ヒ野砲兵第十九聯隊ノ主力騎兵第十七聯隊ハ浦鹽二番河兵舎ニ駐留シアリ此ノ地半數ノ兵舎ニハ約四百ノ過軍滞在シ朝夕相見ユ

四月二日浦鹽派遣軍ハ過軍ニ對シ某要求ヲナシ四月四日彼レハ全部軍ノ要求ヲ容レ明五日調印ノ運ヒトナリ戰場ニ來リ一戰ヲ交ヘスシテ事止ヌルヲ將卒失望ノ色アリ四月四日夜半浦鹽二番河ニアリシ余ハ浦鹽方面ニ盛ナル銃聲ヲ聞キ次テ本部ヨリ電話アリ緊急集合ヲ命セラル午前一時三十分集合ヲ終ル騎兵第十七聯隊ハ豫メ企圖セラレタル處ニヨリ歩兵第五十聯隊ノ一中隊ヲ支援トシテオケヤンスカヤ兵營ノ過軍ノ武装解除ニ向フ

一、戰鬪前彼我形勢ノ概要

當時オケヤンスカヤニハ約二百ノ歩兵ト若干乘馬兵アリ

二、同兵舎ハ要圖ニ示ス如ク浦鹽——ラズドリノエ街道ニ沿フ以東ノ地區ニ在リ兵營ノ東側ハ濕地且可成リノ森林ニシテ此ノ森林ヲ通シシコトワ街道ニ通ス此地海岸一帶ハ避暑地トシテ知ラル

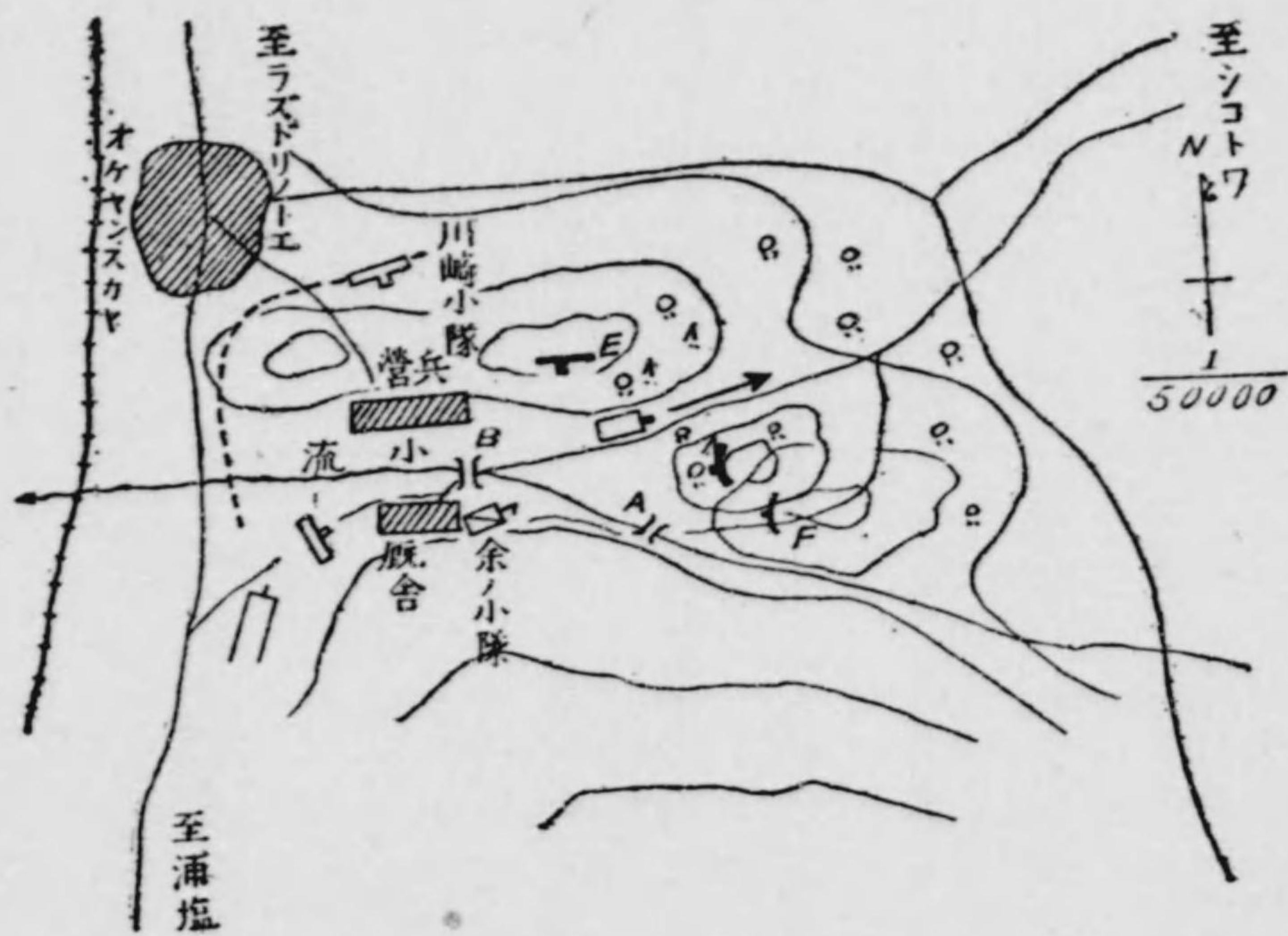
三、浦鹽二番河ヲ出發セントスル時二番河兵營ニアリシ過軍ハ我歩兵一中隊ノタメ苦モナク武装解除セラル

此ノ實見ハ余ノ腦裏ニアリテ敵ヲ輕侮スルノ觀念ヲ植附ケタリ

四、戰鬪ノ概要

午前五時稍々過キ〇中尉小隊ハ尖兵トシテ本道方面ヨリK少尉小隊ハ兵營ヨリ本道ニ通スル退路ヲ余ノ小隊ハ兵營ヨリシユトワニ通スル道路ヲ占領シ共ニ敵ノ退路ヲ中斷スヘク命セラル余ハ小隊ヲ率キ駈歩ヲ以テ厩舎前ヲ疾驅中敵兵約二百兵營ヨリ深林中ニ逃走中ヲ目撃シA橋ヲ渡リ敵ノ退路ヲ遮斷セントセシモ此ノ橋破壊セラレアリ止ムナクB橋ヲ渡リ敵ヲ追撃シ將ニ深林入口ニ到ラントセシトキE及Fノ敵後衛ノ齋射ヲ受ケ止ムナク厩舎附近ニ退却徒歩戰下馬厩舎前ノ馬繫杭ノ線ニ散開シ攻撃ス次テ聯隊ノMGモ厩舎西端ニ位置シ射撃ヲ開始セシヲ以テ敵ハ東方ニ退却小隊ハ直ニ乘馬追撃ニ移レリ此ノ戰鬪ニ於テ部下二ヲ失ヒ一ノ重傷者ヲ出セリ

五、所見



- 右ハ余ノ初陣ニ於ケル失敗ナリ則チ
- 1、全ク二番河ニテ我歩兵カ容易ニ敵ノ武装ヲ解除セシヲ目撃シ敵ヲ輕侮シ敵ヲ窮追セハ譯ナク武装解除シ得ルト信シタルタメノ失敗ナリ
 - 2、敵ノ退路ニ迫ル着意アリシモ橋梁ノ破壊サレアリシタメ之ヲ斷念セリ然レ共何等カノ方法ニヨリ渡河スルカ又ハ他ニ渡河ノ場所ヲ偵察スルカセハ必スシモ此ノ如キ細流ヲ渡ルハ不可能ニアラサルヘシ
 - 3、近ク敵ヲ發見シ輕侮セル敵ヲ捕捉ニ心トラレ全ク搜索手段ニ出テサリシタメ不覺ヲトレリ

14 合言葉ヲ敵ニ察知セラレ夜襲ヲ受ク (日露戰)

石田(眞)大佐談

騎兵第十四聯隊士官候補生

石川

秀江記

明治三十七年十二月晦日ノ日ト記憶ス騎兵第十三聯隊第三中隊ハ沈旦堡北側ニ於テ前哨ノ任ニ當レリ當時沈旦堡ノ前哨ハ晝間ハ沈旦堡北方ノ北臺子ニ出サレシモ夜間ハ村落ニ據ル前哨ハ歩哨ノ敵ニ捕獲セラレル危険アリシヲ以テ沈旦堡及北臺子ノ中間畑地内ニ後退セリ小哨下士哨ハ共ニ掩壕ヲ設ケ此ノ内ニアリテ炭火ヲ圍ミテ休憩シ掩壕ノ至近距離ニハ歩哨ヲ配置セリ而シテ歩哨ノ周圍ハ勿論小哨下士哨ノ周圍ニモ概ネ二十米ヲ間シテ高粱桿ヲ二重ニ敷キ敵ノ近接ヲ其足音ニ依リ察知スルノ手段ヲ講シタリ又彼我識別ノ爲ニハ合言葉ヲ使用シ將卒共ニ大イニ緊張シ警戒頗ル嚴ナリキ此ノ日子ノ小隊(第一小隊)ハ第二小哨トナリシヲ以テ下士哨二個ヲ前方ニ出セリ從ツテ小哨ノ位置ニ下士以六名ヲ數フルニ過サリキ午後九時頃ナリシナラン小哨ヨリ上等兵以下三名ノ斥候ヲ二臺子方面ニ出シタル後靜寂ナル寒天ニ於テ前方第一下士哨正面ニテ頻リニ口笛ヲ吹クモノアリシヲ以テ私ニ不審ヲ抱ケリ即チ口笛ハ前回ノ前哨時ニ使用セル合言葉ニシテ本夜ハ「千葉」「船橋」ナルニモ拘ラス一聲二聲口笛ヲ交換スルヲ耳ニセルヲ以テナリ銃前哨タリシ上等兵亦之ヲ訝リ小哨長ニ報告シ來ル茲ニ於テ予ハ掩壕ヲ出テ前方ヲ注視スルニ依然口笛ヲ聞ク此ノ如キコト瞬時一二發ノ銃聲ト共ニ俄然「ウラー」ノ叫聲起リ引續キ彼我何レトモ知ラス駈歩ヲ以テ小哨ニ近接スル足音ヲ聞ク「スワ敵襲ソ」ト小哨ハ直チニ掩堡ニ據レリ然レトモ斥候派遣後ナルヲ以テ銃數ハ上等兵及小隊長ノ從卒タル一等卒ノ有スル小銃二挺下士及小哨長ノ有スル拳銃二挺ニ過キス咫尺ヲ辨セサル暗夜足音ノ近接ヲ知ルモ固ヨリ敵味

方ヲ識別スル能ハス茲ニ於テ銃口ヲ空ニ向ケ發射セルニ「味方タ」ト呼ヒツツ散亂退却スル下士哨員タルコトヲ知り直ニ散兵壕ニ就カシム此ノ頃第二下士哨方面ニモ盛ナル銃聲起ル第一下士哨長最後ニ歸還シ其報告ニ依リテ五、六十ノ敵歩兵夜襲シ來リ其一部ハ直チニ下士哨ノ掩壕内ニ突入セルモ大部ハ哨所ノ前方ニ停止スルヲ知り小哨ノ位置ヨリ第一下士哨方面ニ向ヒ射撃ヲ行フ次テ第二下士哨トノ連絡ヲ回復シ辛シテ小隊ノ全員ヲ集結セリ此ノ時俄然北臺子部落ニ火災起ル茲ニ於テ予ハ小隊全員ヲ指揮シ再ヒ第一、第二下士哨ノ位置ニ前進セルニ敵ハ既ニ退却シ北臺子ノ火災益々盛ナリ即チ斥候ヲ放チタルモ敵情ヲ得ス

此ノ夜襲ニ依リ我ハ下士哨ノ軍刀二振ト握飯ヲ失ヒシモ其他ノ損害ナク敵亦暗夜ノ我遠距離射撃ニ對シテハ損害ヲ受ケサリシナラン

此ノ失敗ヲ演シタル原因ハ敵兵前回ニ於ケル我前哨ノ合言葉タリシ口笛ヲ使用シテ我步哨ヲ欺騙セシニヨルモノニシテ第一下士哨長ノ不審ヲ感シ步哨ノ位置ニ到リシ時ハ數名ノ敵兵既ニ第二線高粱桿ノ線ニ達シアリキ下士哨長ハ直ニ步哨ノ銃ヲ奪ヒテ射撃シ下士哨ノ控兵全員亦直チニ掩壕ヨリ跳ヒ出シタルモ敵ハ既ニ叫聲ヲ上ケテ突撃シ來レリ而シテ軍刀二振ヲ失ヒシハ控兵力握飯ヲ燒クヘク一時腰ヨリ脱シテ之ヲ壕内ニ置キシヲ以テナリ又小哨ノ實施セル射撃ハ威嚇ニ過キス當時騎銃ハ銃劍ヲ附セス從テ夜間ノ警戒ニハ甚タ不安ト不便トヲ感シタリ又此ノ夜襲ノ際我第二下士哨カ第一下士哨ノ前面ヲ

射撃セルモ其射彈ノ多數ハ隣第一小哨ノ正面ニ頻リニ落下セリト云フ是晝間ヨリ豫メ計畫的ニ陣地前ニ夜間射撃ノ諸準備ヲ十分爲ササリシヲ以テナリ之ヲ要スルニ據ルヘキ地隙ナキ廣濶タル地形ニ於ケル前哨勤務ニ於テハ工事ハ固ヨリ諸種ノ手段ヲ講シテ敵ノ近接ヲ察知シ又之ヲ拒止スル爲夜間射撃ノ設備緊要ニシテ合言葉ハ之ヲ統一シ且之ヲ部下ニ十分徹底セシムルヲ要シ又第一線ニ在ル下士哨等ノ警戒部隊ハ掩蔽下ニ入ルコト頗ル危険ナルヲ以テ之ヲ避クヘク其他武裝ヲ確實ニ嚴守シ且騎兵小哨ハ兵力ノ僅少ナルニ鑑ミ警戒兵力節約ノ必要アルコト等現要務令ニ指示セラレアル事項ノ甚タ緊要ナル所以ヲ證明スルモノナリ

15 騎哨カ敵ヲ誤認シテ射撃シタルタメ

我軍ニ不利ヲ招キタル例 (西伯利亞戰)

登坂少佐談

騎兵第十五聯隊士官候補生

岸和田英三記

大正九年四月四日浦鹽斯德北方約一里ニ宿營シアリシ騎兵第十七聯隊(第一第三ノ二中隊)ハ師團長(師團長ナリシヤ)守備隊司令官ナリシヤ目下充分ナル記憶ヲ存セス)ヨリ次ノ要旨ノ命令ヲ受領セ

命令要旨

三二

騎兵第十七聯隊（支援トシテ歩兵一中隊ヲ屬ス）ハ明拂曉オケアンスカイヤニ前進シ同地ニアル過激派ノ武装ヲ解除シタル後一部ヲシテ同地ヲ守備セシメ主力ハキバリツア墜道附近ニ前進シ敵情ヲ搜索スヘシ

騎兵第十七聯隊長ハ午後十一時三十分以上ノ命令ヲ受クルヤ直ニ非常呼集ニ依リ午前三時集合ヲ了ス此時支援歩兵モ亦集合場ニ到着セリ當時聯隊ハ兩中隊ヨリ人馬ヲ出シテ重機關銃四挺ヲ編成セリ聯隊ハ前進ヲ起スヤ一小隊ヲ以テ尖兵トシ其後方約三百米ニ聯隊本部第一第三中隊MG及支援歩兵ノ順序ニオケアンスカイヤニ向ヒ行進セリ時正ニ午前三時二十分ナリ同四時三十分セタンカ驛前到着小休止ヲ行フ此日前夜來ノ霽ノ爲道路泥濘トナリ且天日暗ク咫尺ヲ辨セス寒氣凜烈ナルモ志氣旺盛ナリ此時尖兵附近ニアタリ突然一發ノ銃聲ヲ聞ク聯隊長ハ第一中隊長ノ報告ニ依リ尖兵ノ前方約二十米ノ樹木ノ側ニ配置セシ騎哨ノ一名カ暗中人ノ動ケルカ如キヲ見テ射撃セシコトヲ知ル發射後尖兵長ハ下士ヲ派遣シテ此ヲ搜索スルモ何等得ル所ナシ聯隊ハ二十分ノ小休止ノ後前進シ途中セタンガ民警隊ノ武装ヲ解除シ武器ヲ押收スル等ニ時間ヲ費シオケアンスカイヤ兵營ノ西方丁字路ニ到着セシハ概ネ午前五時ニシテ東天稍紅ヲ呈セリ聯隊ハ茲ニ於テ支援歩兵ヲ右翼ニ第一中隊（一小隊欠）ヲ左翼トシ兵營ノ南側ヨリ騎兵第一中隊ノ一小隊ヲ以テ兵營ノ東側ニ第二中隊ノ一小隊ヲ以テ兵營ノ西側ヨリ支援歩兵ニ連

繫シテ前進シ戰鬪準備ヲ終リタルハ午前五時三十分ニシテ此時天漸ク明ケタリ兵營附近ハ一、二名ノ過激派兵ノ右往左往スル外肅トシテ聲ナシ此時右側ニ向ヒシ第一中隊ノ一小隊ハ小流ヲ渡リ兵營ノ東側ニ進出セントスルヤ俄然其東側高地ヨリ猛射ヲ受ク之カ動機トナリテ全線射撃ヲ開始シ戰鬪ヲ開始シ右側小隊ハ直ニ徒歩ヲナシ後方ニ反轉シテ高地ヲ射撃シ之ヲ撃チ徒歩兵ノ左側小隊ハ南側ニ現レタル敵ニ向ヒ射撃シ約四十分後兵營全部ヲ占領セリ此ノ戰鬪ニ於テ我戰死騎兵卒三（右側小隊）負傷三、ニシテ敵ハ死體約二十傷者約三十名アリ且ツ將校以下捕虜トナリシモノ約三十アリ捕虜將校中副官アリ之ヲ訊問シテ左ノ事ヲ知ル

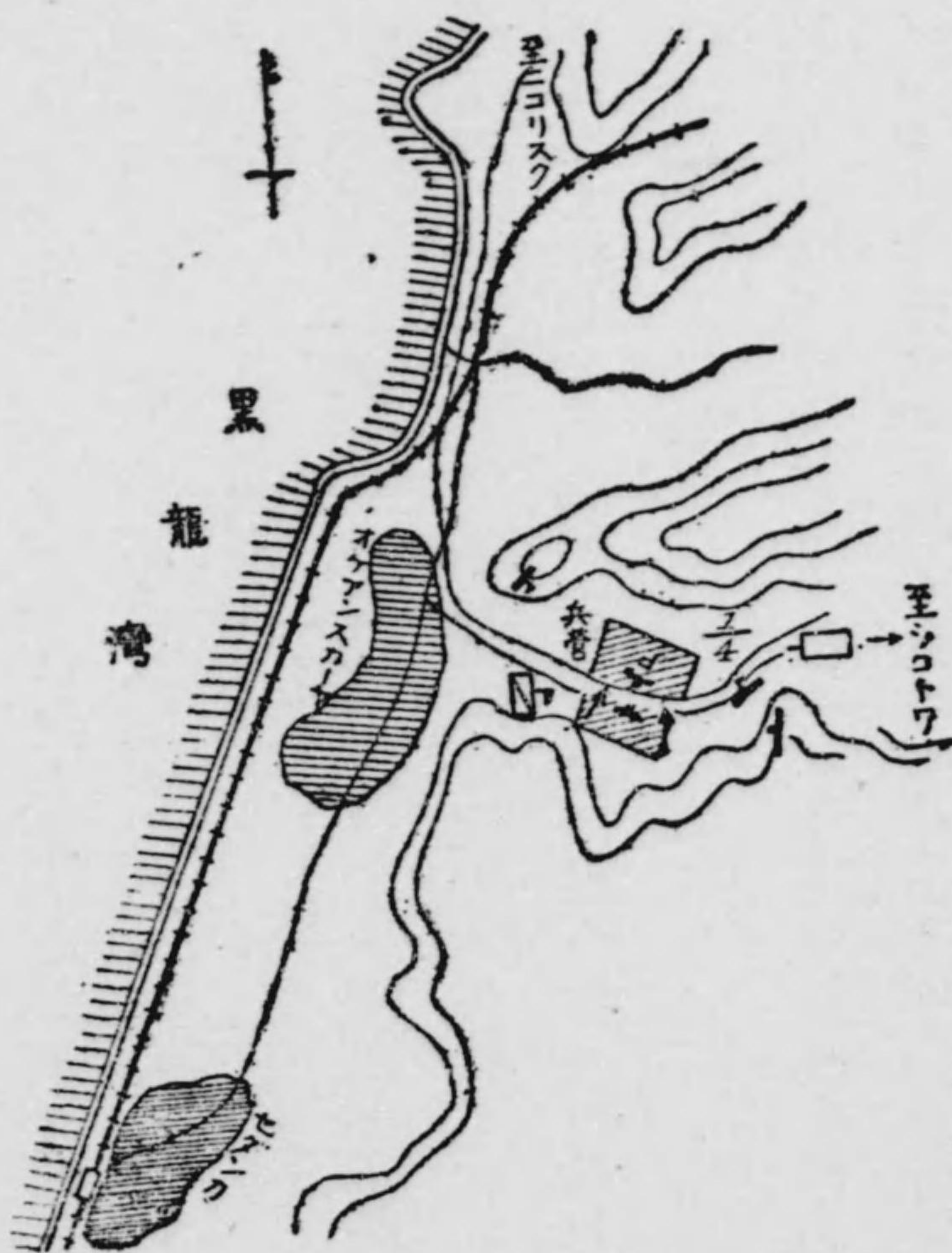
オケアンスカイヤ兵營ニ於テハ始メヨリ之ノ事アルヲ豫期シ兵營ヨリセダンカ停車場マテ電話線ヲ架設シテ同所ニ通信所ヲ設ケ兵卒ヲ派遣シ服裝ハ土人ノ如クシ通話ハ鐵道ニ關スル通信ノ如クシ以テ敵ヲシテ毫モ怪マルルコトナキヲ期セリ

此セダンカ驛ノ通信手ハ此ノ夜半熟睡シアリシモ驛前ノ銃聲ニ依リ驚キ目ヲ醒マシ戶外ニ出ツルニ日本ノ軍隊通過中ナルヲ知り急キ電話ヲ以テ報告ス兵營ニ於テハ之ノ無數ノ日本軍來ルトノ通信ニ大イニ驚キ直ニ兵營東側空地ニ集合シ一部ヲ以テ集合地ト兵營トノ中間高地ヲ占領シ日本軍ヲ拒止シツツシコトヲ方向ニ退却セルヲ知ル

即チ敵ハ電話通信報告ヲ受ケテヨリ概ネ一時十分以上ニシテ集合ヲ終リ退却ニツキシ後我軍兵營附近ニ至リシモノニシテ十分ナル餘裕ヲ與ヘタルタメ敵ノ主力（捕虜ノ言ニ依レハ約六百名）ヲ遠ク東北側

「オアスンカヤ」附近彼我態勢要圖

(於四月五日)



ルモノナリ

16 長谷川挺進隊行動ノ一部 (日露戰)

石田(眞)大佐談

騎兵第十四聯隊士官候補生

石川 秀江記

一、鐵道破壞後ノ離脱

二月十八日午前四時過挺進隊破壞班ノ電線ヲ切斷スル震動音ニ依リ寒夜ノ寂寞ハ破ラレタリ掩護隊ハ

直チニ停車場方向ニ對シ威嚇射撃(實ハ豫メ携行セル爆竹ヲ交ヘテ)ヲ開始シ間モナク轟然タル爆音ト共ニ軌條破片ハ高ク頭上ニ飛散シ鐵道破壞ハ見事成功セリ此ニ於テ挺進隊ハ殘雪ヲ踏ミ驀地ニ西北方ニ向ヒ離脱ヲ開始セリ約一時間餘ニシテ天漸ク明カナラントシ此ノ儘行進ヲ繼續センカ我兵力及企圖ノ秘匿ハ直チニ曝露セラルヘク此附近ニ潜伏センカ鐵道線路ヲ距ル未タ遠カラサルヲ以テ敵ニ追及セラルルノ憂アリ甲論乙駁多數ノ意見アリシモ隊長ハ遂ニ後者ニ決セリ即チ蹄痕(氷上鐵ヲ裝シアリテ鐵蹄痕ヲ殘ス)ヲ消ス爲路上ノ行進ヲ避ケ特ニ砂原ヲ經テ畑中ノ集團部落ニ入り脱鞍人馬ノ休養ヲ行ヘリ此ノ地ハ鐵道線路ヲ距ル二里餘ノ馬家城子ト稱スル部落ニテ戸數二、三戸ニ過キサシモ其一戸ハ大屋ニシテ挺進隊百四騎ヲ收容スルコトヲ得四圍ノ土壁高クシテ堅固且相當ノ展望ヲ許ス人馬ノ給養品モ總テ其民家ニ於テ徵發スルヲ得タリ糧ニ敵ニ依ル挺進隊ハ食ノ善惡ハ固ヨリ問フ處ニアラス量ニ於テ不足ナクンハ即チ可ナリ將卒ハ約一ヶ月此種ノ給養法ニ充分ナル經驗ヲ有シ給養ノ實施ハ極メテ迅速ニ終リ昨夜ノ功名談モ東ノ間ニテ何レモ睡眠シ全ク敵中ニアルノ不安ヲ感スルモノナシ蓋シ我將卒ハ常ニ休宿地ハ墳墓ノ地タルヲ覺悟シアレハナリ、休宿地ノ警戒モ亦極メテ單簡ナリ十數名ノ衛兵ヲ門内ニ設置シ四周ニ單哨又ハ複哨ヲ立テタルノミニテ其守則ニハ特ニ左ノ事ヲ加ヘタリ曰ク

「絶對ニ外方ニ對シ身體ヲ遮蔽スヘシ、敵ヲ發見スルモ決シテ射撃スルコトナク密カニ報告スヘシ小數ノ敵ハ門内ニ入ル迄放置シ之ヲ捕獲スヘシ土人ハ婦女子ト雖モ部落外ニ出スヘカラス、部落ニ

入り來ル土民ハ全部衛兵所ニ留置スヘシ
 午前九時頃ナリシト記憶ス監視哨ヨリ敵兵ヲシキモノヲ見ルノ報告ニ接シ雙眼鏡ニテ見ルニ正ニ敵ノ騎兵斥候數騎ニシテ吾人カ特ニ進路ヲ變換シタル砂原ニ達シアルモ素ヨリ我所在ヲ察知シ得サル如ク約千米ノ所ヲ北進シ去レリ又衛兵ノ抑留セル馬夫ニシテ張家灣方向ヨリ來レリト謂フ土人ニ就キ停車場ニ在ル敵ノ一部ハ我ヲ追躡シテ鐵道線路ニ沿ヒ北進セルコトヲ知り得タルヲ以テ午後二時頃挺進隊ハ馬家城子ヲ發シ更ニ西北進シ夕刻某部落ニテ人馬ノ給養ヲ行ヒタル後再ヒ夜行軍ニ移リ午後十一時頃豫定セル宿營地ニ至リ休宿セリ

斥候又ハ小ナル部隊ニテ敵ニ對シ其位置ヲ秘匿スルハ宿營警戒上最モ有利ナル手段ナリ情況ニ依リテハ人馬ノ給養地ト休宿地トヲ異ニシ尙危險ヲ感スル時ハ夜間更ニ休宿地ヲ變更スルヲ可トス
 夜間ノ移動ハ縦ヒ小距離ト雖モ休宿地ノ秘匿上極メテ有利ナリ但シ夜間宿營地ノ移轉ニ當リテハ敵ノ間諜タル土人カ我ヲ追躡スルモノナキヤ否ヤヲ嚴ニ警戒スルヲ要ス是等ノ斥候及部隊カ一地ニ滞在スル時ハ遂ニ敵ノ爲其位置ヲ察知セラルルニ至リ危險ナリ我挺進隊ハ本鐵道破壞ノ行動ヨリ約三週間ハ殆ント夜行軍ヲ行ヒタルモ未タ一度モ敵ノ爲宿營地ヲ察知セラルルコトナカリシニ最後ニ西シエルガ附近ニ於テ晝間遂ニ敵ノ包圍ヲ受クルニ至リタルハ其前二日間一地ニ滞在セルカ爲ナラン

二、松花江上ノ訓示

張家灣ニ於ケル鐵道破壞後北進ヲ續ケタル挺進隊ハ二月二十日夜拉木屯附近ニ於テ松花江ヲ渡リ北進ヲ企圖セリ

吾人ハ正確ナル地圖ヲ有セス只單簡ナル情報圖ヲ基礎トシ北極星ニ依リ方向ヲ定メ嚮導ニ從ヒテ行軍スルモノナルヲ以テ大體ノ方向ト距離ニ依リ現在地ヲ判斷スルニ過キス從テ河及道路ノ何レナルヤハ明瞭ナラス只默々トシテ行進ヲ繼續セリ嚮導ノ言ヨリ判斷セハ既ニ松花江ニ達シアル筈ナルニ河ヲシキモノヲ認メス一帶ノ砂地ナリ即チ嚮導ニ之ヲ詰レハ此地ハ既ニ松花江上ナリト謂フ試ミニ砂ヲ掘レハ二三寸、ニシテ厚キ氷アルヲ知レリ暫クシテ小ナル砂丘ヲ通過セリ果セルカナ星明リニテ見渡ス限リ鏡ノ如キ氷原ニ出テタリ茲ニ於テ吾人ハ始メテ松花江上ニ在ルヲ知り壯快ノ感ニ打タレタリ乃チ挺進隊長ハ小休止ヲ命シ將校ヲ先頭ニ集メ一場ノ訓示ヲ與ヘタリ其要旨ハ概ネ次ノ如キモノナリシト記憶ス

「諸子ヨ、今吾人ノ立テルハ北滿ニ於ケル大河松花江ナリ挺進隊ハ今ヨリ先ツ哈爾濱ニ向ヒ前進スル企圖ヲ有ス、若シ挺進隊カ不幸ニシテ敵ニ對シ大ナル物質的ノ損害ヲ與ヘ得ストスルモ極東ニ於ケル敵ノ策源地タル哈爾濱ノ土地ニ日本騎兵ノ蹄痕一蹄タリトモ印スルヲ得ハ必スヤ露帝ニコラスヲシテ其心膽ヲ寒カラシムルヲ得ヘシ然レトモ前途ハ尙遠シ任務ハ更ニ重大ヲ加フヘシ諸子此ノ江ヲ渡リ北スレハ再ヒ生還ヲ期スヘカラサルヲ覺悟セヨ」

一隊ノ將士肅トシテ聲ナク悽壯ノ氣四圍ニ漲レリ吾人ハ母隊ヲ去リテ挺進隊ニ加ハリタル時既に大ナル決心ト覺悟ヲ爲シタルモノナリ然レトモ此夜長谷川少佐ノ訓示ニ依リ全身ノ筋肉ニ思ハス緊縮ヲ覺エ我骨ヲ埋ムルハ將ニ松花江北ニ在リト感シタリ死地ニ入レハ情夫モ亦勇トナリ挺進行動間我將卒ノ腦裏ニハ常ニ生還ヲ期セサル決心ト覺悟ノ充實シアリシハ堅ク信スル所ナリ、又本行動間隊長ノ下ス命令ニハ嘗テ行進目標ヲ示シタルコトナシ、概ネ「北方ニ向ヒ」若ハ「西北方ニ向ヒ」ト方向ヲ示スニ止メタリ、且行動ヲ秘匿スル爲ニシテ此ノ夜始メテ隊長カ明カニ其目標ヲ示シタル部下ノ決意ヲ鞏固ナラシムル爲ナルヘシ斯クノ如クシテ百餘ノ鐵騎ハ今ヤ虎穴ニ入ルノ威ヲ以テ松花江右岸ニ進入セリ

三、社里站ノ掩擊、手馬ノ逃走

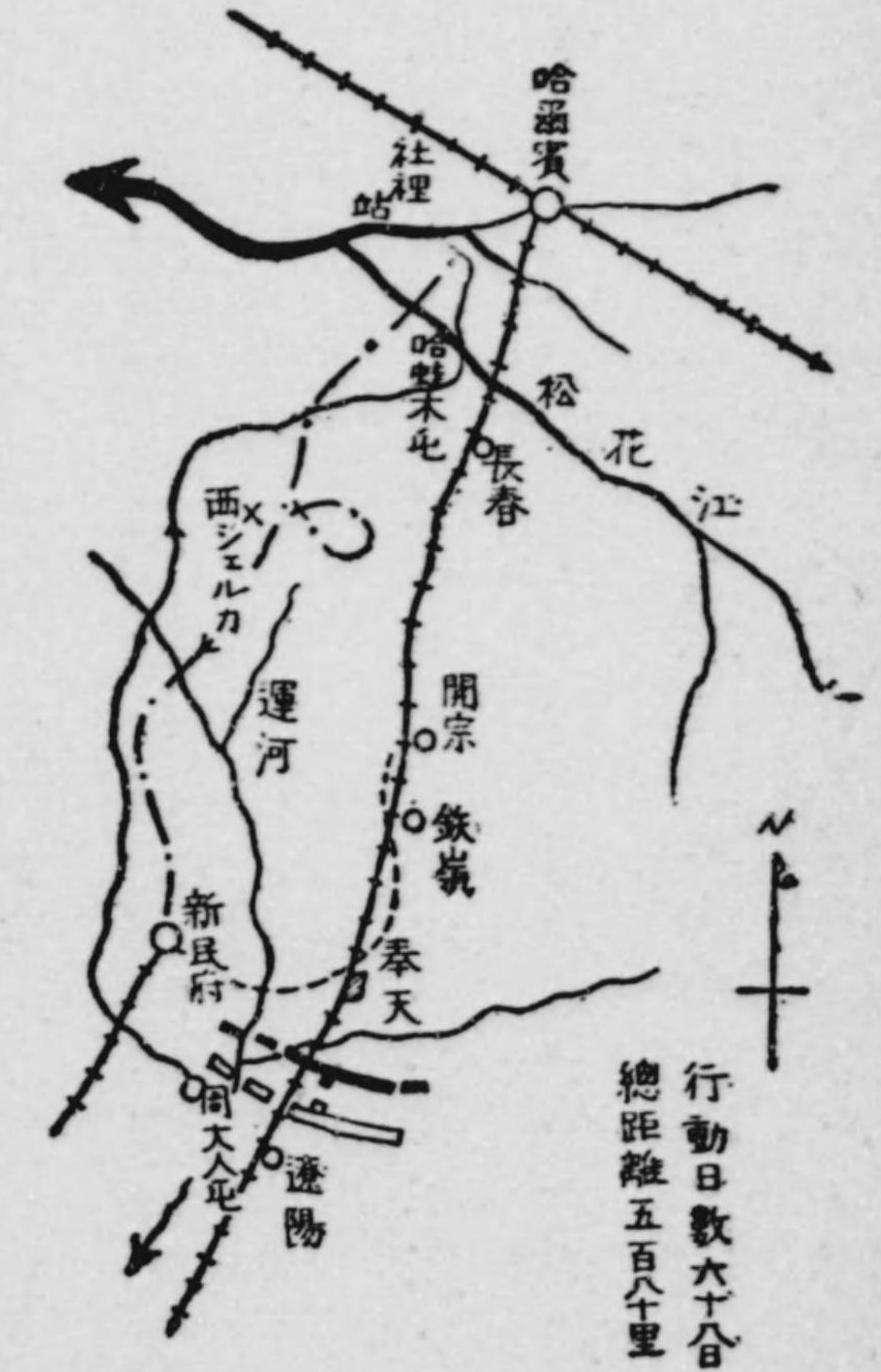
二月二十一日午前六時松花江北岸深井ニ到著宿營中ノ挺進隊ハ偶然ニモ土人ノ言ニ依リ深井ノ東北約四里ナル社里站ニハ敵ノ小ナル兵站部アリテ若干ノ歩騎兵之ヲ守備シアルヲ知リ隊長ハ北進ノ途上先ツ之ヲ掩擊スルニ決シ乃チ部下ヲ掩護隊糧秣燒棄隊、擲爆隊ニ區署スル等諸準備ヲ整ヘ午後八時宿營地ヲ出發夜半一時頃社里站西南方高地ニ達シ直チニ計畫ニ從ヒ攻撃ヲ開始ス即チ擲爆隊タル十名ハ各爆發罐ヲ携ヘ社里站ニ潛入シ露兵ノ宿舍ニ近接シテ其屋上ニ各爆發罐ヲ投擲ス、此爆音ヲ合圖トシテ掩護隊ハ前進ヲ開始シ先ツ高地端ニ於テ部落ニ對シ射撃ヲ開始セリ敵ハ機關銃(後ニ捕虜ノ言ニ依リ小隊長ノ自動拳銃ナルヲ知ル)聲ヲシキモノニテ僅カニ應射セルノミナルヲ以テ直ニ前進ヲ開始シ糧

秣燒棄隊モ亦將ニ村落ニ進入セントスル時突然手馬監視ノ將校ヨリ「手馬散亂シテ手馬卒モ亦其後ヲ追ヘリ」ト報告ニ接ス隊長ハ直ニ諸隊ノ前進ヲ中止セシメタリ、如何トナレハ當時ニ於ケル挺進隊ノ本目的ハ遠ク北進スルニ在リテ假令此ノ掩撃功ヲ奏ストモ今マ手馬ヲ集收スルニ相當ノ時間ヲ要シ難脫困難ニ陥ルヘシ況ンヤ成功充分ナラサリシ時ニ於テハ一部兵卒ヲ捨ツルノ己ムヲ得サルニ至ルヘシ茲ニ於テ隊長ハ攻撃ヲ中止シ諸隊ヲ第一集合地(挺進隊ハ離散ノ場合ヲ顧慮シ手馬ノ位置ヲ第一集合地前日ノ宿營地ヲ第二集合地ト定メ豫メ部下ニ命令シアリタリ)ニ集結セリ然ルニ我手馬ハ約三十頭逃走シ手馬卒五、六名ハ其馬ヲ追ヒ深井方向ニ前進セリ之カ爲隊長ハ全ク掩撃ヲ斷念シ更ニ第二集合地ニ於テ兵力ヲ集結スルニ決セリ噫虎穴ニ入りテ虎兒ヲ得ス手ヲ虛ウシテ撤退スル將卒ノ殘念察スルニ餘リアリ此時小官ノ馬モ亦逃走シアリタルヲ以テ徒步者ヲ指揮シテ深井ニ退却スヘキヲ命セラレタリ、忽チニシテ乘馬部隊ハ暗ニ没シ徒步部隊ハ遙カ後方ニ殘リテ愛馬ヲ失ヒタル騎兵ノ寂寞ヲ痛切ニ感スルヲ得タリ

本掩撃ヲ中止スルノ己ムヲ得サルニ至リシハ一ニ手馬ノ散亂ニ因ルモノニシテ挺進隊ノ哈爾濱ニ向フ北進ノ頓挫セルモ亦此ノ掩撃ノ失敗ニ起因ス、此夜手馬ノ逃走セルハ掩護隊カ高地端ニテ射撃セル火光ニ驚キタルニ因ルカ如ク手馬卒モ或ハ多少緊張ヲ缺キタルナラン騎兵第十三聯隊ノ曲家店ニ於ケル徒步戰ノ際砲彈ニ依ル手馬ノ散亂トヲ併セ考フルニ手馬ノ確保及掩護ニ就テハ平素徹底的ノ教育ヲ要

長谷川挺進隊行動要圖

(自二月十五日 至二月二十一日)



行動日數六十日
總距離五百八十里

策ナリト思考ス長谷川隊長モ後日ニ於テ此ノ失敗ニ關シ
シアリタリ

ス、實ニ馬ヲ失ヒタル騎兵ハ騎兵トシテ價
値ナキノミナラス累ヲ全般ノ行動ニ及ホス
モノナリ又挺進隊ノ掩撃ニ於テ掩護隊ヲシ
テ射撃ヲ開始セシメタルハ一考ヲ要スルモ
ノナルヘシ挺進隊ハ掩撃成否ヲ問ハス北進
ヲ企圖シアルモノナレハ寧ロ直ニ突撃ヲ試
ムルカ或ハ主力ハ乘馬突入ヲ斷行スルモ一
「二兎ヲ追ヒテ其ノ一ヲモ得サリシ」ト後悔

第二輯

第十三

砲

兵

1 隨伴砲兵トシテ危險ヲ冒シ勇敢ニ動作シ成功シタル例(日露戰)

某將校談

野砲兵第二十二聯隊士官候補生

佐藤慶雲記

沙河會戰中第三師團ハ十月十四日拂曉奇襲ニ依リ後臺高地及千家窪子ヲ占領ス敵ハ幾多ノ死傷者ト火砲トヲ棄テテ沙河堡方向ニ潰走セリ時正ニ午前六時之ヨリ先野砲兵第三聯隊ハ午前五時頃長興田ノ陣地ニ進入シ午前六時稍前天明ト共ニ射撃ヲ開始シ第一大隊ヲ以テ後臺高地第二大隊ヲ以テ千家窪子ノ攻撃ニ協力ス

我第一線ハ逐次前進シ砲兵亦射程ヲ延伸ス續イテ第一大隊及第六中隊ハ儘孤家子方向ヨリ熾烈ナル敵ノ銃砲火ヲ冒シ成臺附近ニ陣地ヲ變換ス時ニ午前十一時頃ナリ
砲兵聯隊長島谷川大佐ハ左翼隊長タル歩兵第五旅團長南部少將ノ要求ニ應シ長興田ノ陣地ニアリシ第二大隊(第六中隊缺)ヲ同少將ノ指揮ニ屬シ第一線歩兵ニ近ク隨伴セシム同大隊ハ桑爛子附近及沙河右岸ニ在リテ頑強ニ抵抗スル敵歩兵ヲ射撃スル爲メ千家窪子附近ニ前進セントセシモ敵ノ銃砲火熾烈ナル爲メ依然舊陣地ニ在リテ時機ヲ待テリ

正午頃大隊長ハ陣地變換ニ決シ大隊ハ前進スルヤ王孤家子西方敵砲兵二中隊ヨリ盛ナル斜射ヲ蒙リ人馬共多大ノ損害ヲ受ケ爲ニ運動發起後僅々二三百米ニシテ長興田北側畑地ニ放列ヲ布置スルノ止ム

ナキニ至リ敵砲兵及沙河右岸地區ニ退却スル敵歩兵ヲ射撃ス

此間諸偵察ヲ續行シ大隊ハ午後一時過キ更ニ後臺高地西側ニ向ヒ第四、第五中隊ノ順序ヲ以テ逐次陣地ヲ變換ス乃チ第四中隊長ハ小隊長ニ中隊ノ指揮ヲ委ネ後臺高地西側ニ來ルヘキヲ命シ偵察ノ爲メ先行セリ當時一小隊長ハ敵情偵察及連絡ノ爲メ沙河堡附近我第一線ニ派遣セラレ一小隊長ハ前日ノ戰鬥ニ負傷シテ中隊ニアラス

中隊ハ前回ノ陣地變換ニ於テ奉天街道ヲ前進シ多大ノ損害ヲ蒙リタルヲ顧慮シ小隊長ハ成臺西側ヲ經テ後臺西麓ニ目標ヲ採リ迅速ナル歩度ヲ以テ先ツ成臺ニ向ツテ發進ス此ノ日前日來ノ兩尙歇マス道路泥濘深サ馬腹ニ及ヒ運動極メテ困難ナリ時恰モ王孤家子ノ敵砲兵並ニ拉木屯ノ敵歩兵ヨリ熾烈ナル射撃ヲ蒙リ將ニ成臺ニ達セントスル時第二砲車ノ中馬馭者及前中馬ハ敵ノ榴霰彈ノ爲ニ斃レ砲車ハ再ヒ動クコト能ハス後方ノ車輛ハ辛フシテ成臺部落内ニ進入シ集結シタルモ敵砲彈ハ刻一刻ト盛ンニ落下シ人馬ノ損害續出ス馭者ハ號令ナクシテ下馬シ馬腹ノ下ニ砲手ハ車輛ノ下ニ隠ル小銃彈又左前方ヨリ盛ンニ飛來ス乃チ此處ニ停止スルモ損害益増加スルノミ前進センカ亦途中損害ヲ蒙ルナラン茲ニ於テ小隊長ハ斷然意ヲ決シ各車輛ニ百米以上ノ距離ヲ間シ最大歩度ヲ以テ前進シ途中假令如何ナル故障ヲ生スルモ停止スルコトナク必ス陣地迄到達スヘキヲ命シ且連絡ノ爲メ上等兵ヲ中隊長ノ許ニ先遣シ目標ヲ指示シテ直路前進ス蓋シ圖上片點線路アレトモ畑中ノ道路ニシテ何レカ道ナルカ何レカ畑ナルカ

附近ノ敵砲兵約十五六門ハ同時ニ疾風射ヲ猛フシ中隊進路ノ左前方ヨリ斜射ス加之鮑家窪子ノ敵砲兵少クモ三中隊二十四門亦之ニ加ハリ正面ヨリ猛烈ニ射彈ヲ送ル

小隊長ハ先頭砲車ヲ率ヒテ陣地ニ入ルヤ中隊長ハ恰モ高地麓斜面ニ在リテ敵情ヲ偵察中ナルカ如シ放列布置ヲ令シ將ニ前後車ヲ離脱セントスルヤ此ノ瞬時ニ敵ノ榴霰彈我頭上ニ破裂シ砲車長以下三名同時ニ負傷ス後續砲車ハ續イテ陣地ニ到着シタリシカ其距離後方ニ至ルニ從ヒ益々増大シ後尾ノ車輛ノ如キハ先行車輛ノ陣地到着ヲ確認シテ後發進シタリト云フ斯クシテ部隊ハ比較的損害ナク陣地占領ヲ了リ中隊長ノ手裡ニ入ルコトヲ得タリ

中隊陣地ノ直前七八百米奉天街道兩側畑中エハ今朝勇敢ナル我歩兵ニ奇襲突入セラレタル敵砲兵第九旅團ノ一大隊ノ火砲七門ト繫駕セラレタル儘ノ輓馬負傷シテ逃ケ後レタル幾多ノ人馬ハ萬斛ノ恨遺ル方ナク天ヲ仰イテ動哭セリ

歩兵第三十三聯隊ノ一部ハ奉天街道上沙河兩岸ヲ占領シ二百米ヲ隔テ川ノ北岸河北沙河堡ニ在ル敵歩兵約五中隊ト相對シ且沙河堡東方約四五百米ノ敵歩兵約六中隊ヨリ右側ヲ包圍セラルルノ狀況ニ在リ中隊ハ小隊毎ニ火力ヲ分割シ敵ノ歩兵及砲兵ヲ射撃シ極力我歩兵ニ協力ス

此ノ間第五中隊モ漸ク續イテ第四中隊ノ左方ニ陣地ヲ占領シ王孤家子ノ敵砲兵及河北ノ亂木屯附近ヲ

北方ニ鐵道線路東側地區ヲ退却スル敵歩兵ヲ猛射シ友軍歩兵ノ沙河堡死守ニ協力セリ
我第一線ハ敵ノ包圍數次ノ逆襲ヲ受ケ特ニ滿寶山方向ヨリ後三道崗子ニ向ヒ敵歩兵四、五大隊前進中
ナル通報ニ接ス同時歩兵第三十三聯隊ハ儘孤家子ヨリ千家窪子ニ亘ル線ニ後退スヘキニ依リ砲兵大隊
亦其時後退センコトヲ要求シ來リ歩兵ハ既ニ陣地ノ側方ヲ後退中ナルヲ見ル大隊ハ極力歩兵退却ヲ收
容シタル後日没ニ至リ陣地ヲ撤シテ西部成臺ニ集結シテ露營シ午後九時過聯隊ニ合セリ此ノ陣地撤去
ニ際シ下士卒五六名ノ重傷者ヲ出シ之ヲ乗車セシメ小仲間ヲ以テ縛著セリ篠ツク雨中ヲ一兵卒ハ鮮血
淋漓タル顔ヲ覆フニ泥土ノ附着セル手ヲ以テセリ

2 一砲手ノ沈着ナル行動ニヨリ有利ニ戦闘シ得タル例 (日露戰)

安達砲兵中佐談

野砲兵第二聯隊士官候補生

中

元

寛記

明治三十七年五月鴨綠江畔ノ戰鬥ノ時ナリ第二師團ハ沙河鎮ノ敵ヲ攻撃ス野砲兵第二聯隊ノ各中隊モ
各陣地ヲ占領シテ戰鬥セリ此日敵ノ砲擊盛ニシテ我砲兵ノ破壊セラルルモノアリ第五中隊モ亦猛烈ナ
ル射撃ヲ受ケ偶々左小隊左翼砲車ハ不良彈ヲ裝填シ發射抽出共ニ不能トナル、時恰モ主要ナル時機ナ
レハ一門ノ故障ハ大ナル損失ニテアリシナリ、小隊長ハ處置ヲ分隊長ニ命シ依然射撃ヲ續行セリ、戰
闘次第ニ激烈ヲ加フルモ回復ノ見込立たス、小隊長ハ止ムヲ得ス砲手ヲ分チテ他分隊ニ屬シ故障ノ回

復ヲ戰鬥ノ後ニセントス此ノ時同分隊四番砲手ニ串田豊作アリ此ノ故障ヲ自己ノ責任トシ執拗故障ノ
排除ニカメ分隊長以下砲側ヲ去ルモ獨リ去ラス彈雨ノ中ニアリテ致々故障ヲ除カントス串田ハ仔細ニ
點檢シ藥室後端ト藥筒負縁トノ間ニ僅ニ間隙ノ存スルヲ見指頭ヲ以テ之ヲ抽出セントス、瓜破レ血出
ルモ物トモセス致々トシテカム隱忍實ニ三十分人漸ク故障ノ事ヲ忘レントスル時遂ニ抽出スルヲ得タ
リ

彼萬歳ヲ連呼シテ小隊長ニ告ク安達少尉大ニ喜フ

爾後小隊ハ何等ノ故障ナク有利ニ戰鬥ヲスルヲ得タリ

此ノ日掩體ノ壕内ハ水膝ヲ沒シ寒冷肌ニ滲ミ數日來ノ困憊愈々甚シ

砲兵ハ如何ナル損害ヲ蒙ルモ毅然トシテ戰鬥シ以テ戰鬥骨幹ヲ形成スヘキモノナルコトヲ實證セリ

3 野砲兵退却ニ當リ凹道ヲ利用シテ失敗セル例 (日露戰)

野砲兵第十聯隊將校團研究記事

野砲兵第十聯隊士官候補生

坂

場

清

孝記

明治三十七年十月十六日野砲兵第十四聯隊第二大隊ハ萬寶山附近ニアリア戰鬥中午前六時四十分退却
命令ヲ受領ス同大隊長萬寶山方面ヲ危險ナリトシ退却路ヲ後備歩兵第二十聯隊方向ニトリ工兵ニ依リ
修理セラレタル凹道ヲ第四第五中隊ノ順序ヲ以テ後退セシメタリ第四中隊行進ヲ起スヤ右側ヨリ猛烈

ナル射撃ヲ受ケ馭者及馬匹ニ斃ルルモノ多ク爲メニ凹道ヲ閉塞セリ即チ行進ヲ止メ配屬セラレアル工兵隊及退却シ來ル歩兵ヲ止メテ抵抗ヲ試ミシモ衆寡敵セス遂ニ輓馬ヲ脱キ閉鎖機照準具ヲ脱シ砲車ヲ遺棄シテ前三道崗子ニ向ヒ潰走セリ、第五中隊亦第四中隊ニ續イテ前進セシカ第四中隊敵襲ヲ受クルト共ニ凹道閉塞シテ如何トモスヘカラス凹道ヲ出テ路外ヲ疾走シテ漸ク前三道崗子ニ退却スルヲ得タルノ外同大隊爾餘ノ砲車彈藥ヲ盡ク放棄シテ潰走セリ
故ニ砲兵ハ行進ニ當リテハ必ス道路偵察並ニ警戒ノ處置ヲ十分ナラシムルト共ニ退却等ニ於ケル凹道ノ利用ハ最モ慎重ナラサルヘカラス

4 歩砲ノ協同並ニ砲兵ノ警戒十分ナラサリシ爲メ

失敗セル例 (日露戰)

某氏談

野砲兵第十聯隊士官候補生

坂場

清孝記

明治三十七年十月十六日山砲兵第十聯隊第四中隊ハ晝間ヨリ萬寶山南側ニ放列ヲ布置シ友軍ニ協力中ナリシモ午後六時三十分大隊長ヨリ退却ノ命令ヲ受領セリ、此ノ時前面ニアリシ友軍歩兵ハ既ニ退却セル後ニシテ砲兵隊又之トノ連絡ヲ失ヒ時ニ薄暮ニシテ砲兵隊ハ食事中ナリキ、而モ警戒ノ處置不十

分ナリシ爲メ退却命令ヲ受領セル時ハ敵既ニ五、六十米ノ前方ニ近接シアリ是ニ於テ中隊長ハ退却中ノ我カ歩兵三四名ヲ止メ成シ得ル限り查載シテ退却セントセシカ時既ニ遅ク歩兵ノ大隊ハ退却セル後ニシテ殘ルハ僅カ負傷兵ノミ多ク而モ敵ハ陣地ノ右翼前及後方ヨリ迫リ遂ニ一砲身ノミ辛シテ撤去セルノ外盡ク敵手ニ委スルニ至レリ、故ニ歩砲兵ハ常ニ連絡ヲ密ニシアルト共ニ砲兵ハ假令歩兵ノ掩護下ニアル場合ト雖モ常ニ警戒ノ處置ヲ嚴ニシ機ヲ失セス處置シ得ルノ準備ニアラサルヘカラス

5 遮蔽ニ關シテノ顧慮不十分ナリシ爲メ

損害ヲ受ケタル例 (日露戰)

實 驗 生

野戰重砲兵第三聯隊士官候補生

前 島

隆 夫 記

遼陽附近ノ戰鬪ニ於テ第二師團ノ主力ハ太子河渡河ヲ準備スル爲メ八月三十日夜同河ノ線ニ進出スルニ際シ同師團砲兵ノ主力ハ姑蘇城附近ヨリ夜暗ヲ冒シテ困難ナル道路ヲ前進シ三十一日拂曉吊水樓(太子河左岸ノ一部落)附近ニ進出セシモ當時歩兵トノ連絡ヲ失ヒ彼我ノ狀況全ク不明ニシテ前方僅ニ七、八百米ヲ距ル太子河岸ノ諸高地ニハ點々ト敵歩兵ヲ認メ頗ル危険ノ状態ニアリキ
依テ砲兵ハ取り敢ヘス其ノ附近ニ放列ヲ布置セシカ幸ニ高粱一面ニ繁茂シ敵ノ發見スル所トナラサリキ次テ同河右岸ニアリシ敵砲兵我歩兵部隊ニ對シテ射撃ヲ開始スルヲ見ルヤ我カ砲兵モ逐次射撃ヲ開

始シ敵砲兵ヲ射撃セシモ我カ陣地ハ全ク高粱ノ爲メ遮蔽シ毫モ敵彈ヲ受クルコトナカリキ然ルニ最左翼ニアリシ某中隊カ目標變換ニ際シ陣地ノ直ク左方ニ在リシ小稜線（松ノ木二三本アリ支那人ノ墓地ナリシカ如シ）ニ對スル遮蔽ノ研究不十分ナリシ爲メ最初ノ一彈稜線上ニ破裂スルヤ爆煙ノ爲メ敵ノ注意ヲ喚起セルモノノ如ク忽然敵砲兵ノ集中火ヲ被リ多大ノ損害ヲ受ケ遂ニ陣地ヲ他ニ移動セサルヘカラサルニ至ル

當時拂曉而モ未地ノ地ニシテ特ニ高粱畑ノ中ニ於ケル偵察ニシテ困難ナリシコトハ諒トスヘキモ此ノ一例ヲ以テシテモ陣地偵察ニ於テ遮蔽ヲ顧慮スルコトノ忽カセニスヘカラサルノ教訓トナスニ足ラン

6 野砲兵中隊ノ敵線近ク進出シ斜射ノ効果ヲ收メシ例（日露戰）

馬淵少將談

野砲兵第六聯隊士官候補生

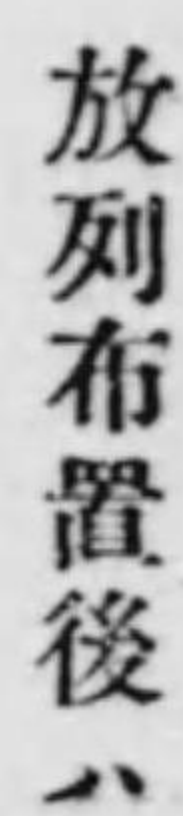
藤井三郎記

沙河會戰ニ於テ第六師團ハ我カ滿州軍ノ左翼軍タル第二軍ノ中央師團トシテ第三師團ノ左第四師團ノ右ニ連繫シテ戰鬪セリ

第六師團ハ十月十日早朝ヨリ前進運動ヲ開始シ途中敵ノ一部ヲ驅逐シツツ前進ヲ續行シ十一日午後二時乃至三時頃其歩兵第一線ヲ以テ二臺子北方約千米附近ヨリ揚家灣北端ニ亘ル線ヲ占領シ兩翼師團ト連繫シテ二十家子及小東臺東西地區ニアル敵ト相對シ爾後ノ攻撃ヲ準備中ナリ

揚家灣我カ歩兵ノ有ニ歸スルヤ大東山堡附近ニアリテ前衛砲兵大隊トシテ戰鬪中ナリシ6A第一大隊長松下少佐ハ第三中隊ヲシテ現陣地ニアリテ掩護射撃ヲ命シ自ラ大隊副官ヲ隨ヘテ揚家灣ニ到リ敵情及地形ヲ偵察シ且歩兵第四十五聯隊ト連絡シ砲兵一中隊ヲ該地ニ前進セシムヘキヲ通告シタルニ歩兵隊ノ歡喜甚大ナリシト謂フ

於是大隊長直ニ第三中隊ニ挺進ヲ命ス揚家灣ニ撰定セル陣地ハ二十家子及小東臺附近ニアル敵歩兵陣地ヲ距ル僅ニ二三百米ニ過キス該地附近敵ノ歩砲兵陣地ヲ縱斜射スルニ適セリ、第三中隊ハ命ヲ受クルヤ直ニ前進準備ヲ整ヘ敵ノ小銃火ヲ冒シテ揚家灣村落内ニ進入セリ陣地變換距離ハ約二千米ニシテ一部ハ尙殘ノ高粱ニ遮蔽サレシモ大部ハ暴露シアリシカ敵砲兵ノ射撃ヲ受クルコトナク又村落附近ニ於ケル敵ノ小銃火ハ概シテ圍壁ノ掩護ニテ殆ト損害ヲ蒙ルコトナク豫定ノ陣地ニ到達セリ



放列布置後ハノ如キ砲門ノ堀開シタルモ數發ニシテ崩壞シ且ツ塵烟ノ飛揚大ナルヲ以テ

陣地設備終ルヤ敵ノ歩兵ヲ斜射シ又浪子街道附近ノ敵砲兵ヲ縱射シテ之ヲ沈黙セシメタリ、我歩兵ハ

我砲火ノ掩護ニ依リ逐次前進ヲ行ヒ敵前六七百米ニ達シ塹壕ヲ堀開シテ爾後ノ攻撃ヲ準備シ各其陣地ニアリテ夜ヲ徹セリ

榴彈ト榴霰彈トノ混合射撃ノ效果アリシ例 (前狀況ノ續キ)

十二日^{3/6A}ハ拂曉ヨリ開始シ先ツ敵砲兵ヲ縦射シテ之ヲ沈黙セシメ次テ敵歩兵ニ曳火榴霰彈ヲ發射シ我歩兵ハ若干前進シタルモ敵ハ頑強ニ抵抗シテ午前十時ニ到ルモ我歩兵ノ前進意ノ如クナラス於是大隊長松下少佐ハ中隊長松尾大尉ニ命シテ榴彈ヲ交ヘ射撃セシメタルニ敵歩兵大ニ萎靡シ同時ニ歩兵第四十五聯隊ノ一部ハ揚家灣ヨリ東北方ニ通スル水流ニ沿フ地隙ヲ利用シテ二十家子ノ背後ニ出テタル爲メ敵兵逐次ニ北方ニ潰走ヲ始メ三々伍々退却スルヲ目撃シ第三中隊ハ猛烈ニ追撃射撃ヲ續行シ我歩兵ハ勇躍シテ突進シ恰モ大河ノ堰ヲ決スルカ如ク第三師團方面ニ瓦解ヲ波及シ我歩兵ハ立姿ヲ以テ側背ヨリ射撃シ所謂楔狀攻撃ノ效果偉大ニシテ敵ハ多數ノ死傷者ヲ遺棄シテ北方ニ潰走セリ、第三中隊ハ志氣益々振ヒ猛烈ニ追撃射撃ヲ行ヒタル後正午頃浪子街道方面ニ向ヒ追撃前進中第四師團方面ヨリ猛烈ナル敵砲兵ノ側射ヲ蒙リ一時輓馬ヲ解キ二十家子村落内ニ避クルノ止ムナキニ至リ大功ヲ一簣ニ缺クノ感アラシメタリ爾後第三中隊ハ浪子街西南ニ陣地ヲ占領シ北方ニ退却スル敵ニ對シ四千乃至四千八百米ニテ追撃射撃ヲ行ヒタルモ時機既ニ遅ク雲霞ノ如ク密集シテ退却スル敵ニ對スル猛射ノ時機ヲ逸シタリ

附記雜感

- 一、本戦闘ニ於テ第六師團ハ浪子街南側ニ於テ野砲十六門ヲ鹵獲セリ、該砲ハ閉鎖機數個ヲ除キアリシモ俘虜訊問ノ結果附近ノ池ニ放棄セルヲ知り之ヲ拾得セリ
- 二、該砲兵ニ屬セシ敗殘ノ俘虜ノ言ニ依レハ榴彈及榴霰彈ノ混合射撃ハ最モ悽慘ヲ極メ衆兵次第ニ潰走セリト我⁴⁵ⁱ一部突撃セシトキハ尙若干ノ殘留兵アリシモ輓馬ハ約二千米後方ノ村落ニアリシ爲招致ヲ命シタルモ間ニ合ハス終ニ砲ヲ遺棄スルノ止ムナキニ至レリト又敗殘負傷歩兵ノ言ニ依ルモ榴彈ト榴霰彈トノ混合射撃ノ有形無形ノ效果ヲ稱揚セリ
- 三、本戦闘ニ於テハ美事ナル中央突破ノ效果ヲ發揚セシモ追撃ニ於ケル歩兵ノ左右連繫殊ニ歩砲兵ノ連繫協同十分ナラス殊ニ砲兵ノ積極的追撃前進ニ對スル努力ヲ缺キシハ遺憾トスル所ナリ敵砲火ノ猛射ヲ受クルモ急速ナル歩度ヲ以テ村落ヨリ村落ニ躍進シ要スレハ一門宛分進スレハ不可能ニアラサルニ茲ニ著意セサリシハ遺憾ニシテ獨リ^{3/6A}ノミナラス他ノ^{6A} 13⁴共ニ然リシナリ即我歩兵カ浪子街ヨリ北方ニ追撃前進セル際ノ如キハ同村西方約五百米附近ヨリ東北方二、三千米ニ亘ル環狀水流ハ地隙深ク道路ヲ通スル點以外ハ通過不可能ナル爲メ敵兵ノ大群蟻集シテ渡過澁帶シ敵歩兵ハ屢我歩兵ニ逆襲ヲ企テ時間ノ餘裕ヲ求メ我歩兵ノ追撃ノ氣勢モ亦若干頓挫セルヲ聞クニ於テ一層遺憾ノ意ヲ深クスルモノナリ

野戰砲兵第六聯隊第三中隊

沙河ノ會戰中十月十一日揚家灣東北端ノ我歩兵ト同線ニ放列ヲ布キ東臺附近ヨリスル猛烈ナル敵ノ歩兵ヲ冒シテ先ツ敵砲兵ヲ縱射シ之ヲシテ沈黙セシメ又巧ニ敵ノ歩兵ヲ斜射シテ我第一線ノ前進ヲ容易ナラシメタル動作ハ勇敢機敏ナリト認ム仍テ感狀ヲ授與ス

明治三十七年十月二十日

第二軍司令官 男爵 奥 保 鞏

7 歩砲兵ノ協同動作ノ例 (日露戰)

某氏談 野砲兵第二十六聯隊士官候補生 野 崎 一 二記

明治三十七年十月十二日浪子街攻撃ニ於テ野砲兵第六聯隊大隊長松下少佐ハ歩砲兵協同ニ就テ左ノ意見ヲ歩兵第十三聯隊第二大隊長木澤少佐ニ開陳シタルニ少佐ハ大ニ之ニ同意セリ

「余ハ歩兵ノ決戰ニ際シテハ大隊長トシテ射撃指揮ヲ統一スルノ任務ハ殆ント完了シアルヲ以テ中隊長ニ之ヲ一任シ自ラ各中隊ノ馭卒ノ若干ヲ率キ歩兵第一線ニ入り余ノ部下大隊ノ爲肩墻ヲ構築シ其幕進ヲ促サントス故ニ歩兵ハ砲兵ノ爆煙敵陣ヲ掩フ間ニ於テ突入セラレンコトヲ望ム」ト

而シテ十二日ノ攻撃ニ於テハ歩兵第十三聯隊ハ浪子街ノ爆煙消ヘサル間ニ陣地ニ突入セシニ此ノ時砲兵ノ一中隊ハ揚家灣方面敵陣地千米ニ近接シアリタリ之カ爲メ友軍ノ志氣ハ大ニ作興シ敵ハ其側射ニ耐ヘカネ遂ニ退却スルニ至レリ

8 友軍歩兵ヲ敵ト誤認シ射撃シタル例 (日露戰)

某氏談 野砲兵第二十六聯隊士官候補生 野 崎 一 二記

明治三十七年七月九日蓋平東西双頂山ノ攻撃ニ於テ第六師團兩旅團ノ第一線ハ其攻撃豫期以上ニ進捗シ敵ノ一部ヲ驅逐シ既ニ双頂山ノ稜線ヲ占領セシニ拘ラス蓋平河後岸附近ニ陣地ヲ占領シアリタル野砲兵ハ毫モ其陣地ヲ進ムルコトナク四千米以上ノ距離ニ在リテ射撃シタル爲メ第一線ノ歩兵ノ旭旗及喇叭ノ號音ヲ以テ友軍タルコトヲ表示シタルニ拘ラス彼我ノ識別ヲ誤リ前進スル歩兵ヲ敵ノ退却ト誤認シ猛烈ナル射撃ヲ加ヘ第一線歩兵ハ敵砲火ノ損害ヨリモ友軍砲兵ヨリノ損害ヲヨリ多ク受ケルニ至レリ特ニ第一線ノ直後ニ在リシ工兵ハ中隊縱隊ヲ以テ前進中其ノ中央ニ友軍ノ砲彈命中シ約七、八名ノ戦死者ヲ見ルニ至ル以上ノ事實ハ友軍砲兵カ常ニ遠距離ヨリ射撃シ狀況ニ應シ陣地ヲ推進セサリシニ因ルモノト確信ス

9 砲兵ハ戰時特ニ彈藥ノ節約ニ就キ深甚ノ注意ヲ

拂フヲ要スル戰例 (日露戰)

須賀(常)大佐談 野戰重砲兵第六聯隊士官候補生 藤 田 可 記 記

明治三十七年五月二十六日午前南山ノ攻撃ニ方リ自分ハ野砲兵第四聯隊段列第三小隊長トシテ本戰役ニ參加セリ、當日ハ我師團ハ初陣ノ事トテ戰鬪初マルヤ各中隊競ヒテ砲撃ヲ開始シ南山ハ忽ニシテ砲煙ニ包マレタリ、當時第四師團輜重ノ大部ハ未タ鹽大塊ニ上陸シアラサルニ依リ戰場ニ到着スルノ理ナシ、午前十時頃ニ至リ後方ヨリハ彈藥ノ補充ヲ受クルニ由ナキニ係ラス戰線ハ各中隊ヨリハ續々彈藥補充ノ請求ヲ受ケ遂ニ補充シ盡シテ聯隊段列ニハ最早一發ノ彈丸モ無キニ至レリ、此ノ時聯隊長ヨリ少尉ハ連絡ノ爲周家屯附近ナル師團司令部ニ行ケトノ命令アリ愛馬ニ鞭打チ馬丁ヲ從ヘ小川師團長閣下ノ下ニ行キ「閣下砲兵隊ヨリ連絡ニ參リマシタ」ト云ヒシニ皆戰況觀察中ナリシカ「ウン砲兵ハ彈ハアルカ」トノ第一問ナリキ止ムナク「殘彈ハアリマセン」ト答ヘタリ「砲兵ハ彈カ無クテ何テ戰鬪スルカ」トノ言ニ「無ケレハ戰ハ出來マセン」ト答ヘタリ「何故早ク打盡シタ」ノ問ニ對シテハ最早答フヘキ辭モナク師團長モ彈藥使用ニ關シテ少尉ノ知ル所ニアラサルハ御承知ノコトトテ更ニ追及モセ

ラレス暫クシテ旅團長ニ「十分注意シテ置キタルニモ係ラス第一線ハ鐵條網ノ前ニ行クテハナイカ砲兵モ砲兵タカ歩兵モ歩兵タ」ト獨語セラレタリ當時南山ハ到ル處鐵條網アリテ避ケテ進ムヘキ道トテハ無キナリ、サレト重大ナル責任ヲ有セラルル師團長トシテ砲兵ハ彈ハナク歩兵ハ遅々トシテ進マサルヲ見其苦慮セラルルモ亦當然ナリ、暫クシテ師團長ハ參謀長ヲ呼ハレタリ參謀長野口中佐師團長ノ許ニ進ムヤ「師團ヲ退却サソウテハナイカ」參謀長モ氣ヲ奪ハレシ様子少尉モ大變ト思ヘトモ依然不動ノ姿勢、參謀長ハ徐ニ口ヲ開キ「閣下今退却サセテハ全滅テス」師團長曰ク「退却サスモ全滅ナラ前進サセテモ全滅タ」吾人ナレハ正ニ口ヲ開キ師團長ニ口答シテ師團長ノ不條理ヲ述ヘタクナルモ此處ハ又ノ參謀長ノ參謀長タル所以決シテ理屈ニ走ラス」師團長カクハ云フモノノ有名ナル戰略家萬カ一參謀長同意シタリトテ實行ハセサルコト勿論ナリ)

參謀長ハ暫ク無言如何ニシテ師團長ノ御心ヲ靜メンカトノ表情深キモノアリ尙モ一師團二萬ノ豺貅ヲ指揮スル師團長トシテハ重大ナル責任ヲ有スルニ依リ心配ノ餘リツヒカカル言ヲ出サレタルナレハ參謀長モ答フヘキ辭ニ困ラレシ様子此ノ時機ヲ逸セス副官飛ヒ來リ「閣下彈丸ニ就テハ軍ニ交渉シテ少シニテモ融通ヲ受ケマセウ電話ヲ掛ケマス」トノコトニ師團長モ「ウンヨシ」トテ稜線ノ反對斜面ニテ晝食ヲ取ラルルコトナレリ余ハ只不動ノ姿勢「閣下私ハ歸ツテモ宜シイテセウカ」ト云ヒシニ「ヨシ歸レ歸ツテ聯隊長ニ極力彈ハ節約スル様ニ云ヘ」トノコトニテ急キ歸リテ復命セリ

委員 猛將ニシテ此ノ言アリ南山ノ激戦想フヘシ

砲兵カ戦闘ノ骨幹タルコトハ今モ昔モ變リナシ即チ師團長ハ砲兵ノ彈藥ノ缺乏ヲ聞カレ斯ノ如クニ心配セラレタリ彈藥ナケレハ百萬ノ火砲アルモ一挺ノ小銃ニ及ハス戦時ニナレハ眼前ノ情況ニ眩惑セラレ往々ニシテ亂射亂擊スルモノナリ火砲ノ發射速度漸次増大セントスル現時ニ於テ我々國軍砲兵タルモノハ最モ彈藥ノ節約ニ注意シ現在ヨリハ後刻ニ於テ更ニ多クノ彈藥ヲ要スルコトアルヲ念ヒ必要ノ最少限ニ射撃ヲ止ムルコトハ深ク肝銘ヲ要スルコト信ス

即チ師團長カ砲兵ノ彈藥缺乏ヲ知リ一時退却セント迄口走ラレシコト師團長ニ心配ヲ掛ケシコトニ就テハ苟モ砲兵將校タルモノノ常ニ此ノ邊ノ消息ト戰場ノ心理トニ想到シ將來彈藥ノ節約ハ戰勝ヲ得ルノ一大要素タルコトヲ銘心セサルヘカラス

10 砲兵力陣地進入ニ當リ進入路ヲ暴露セシメ

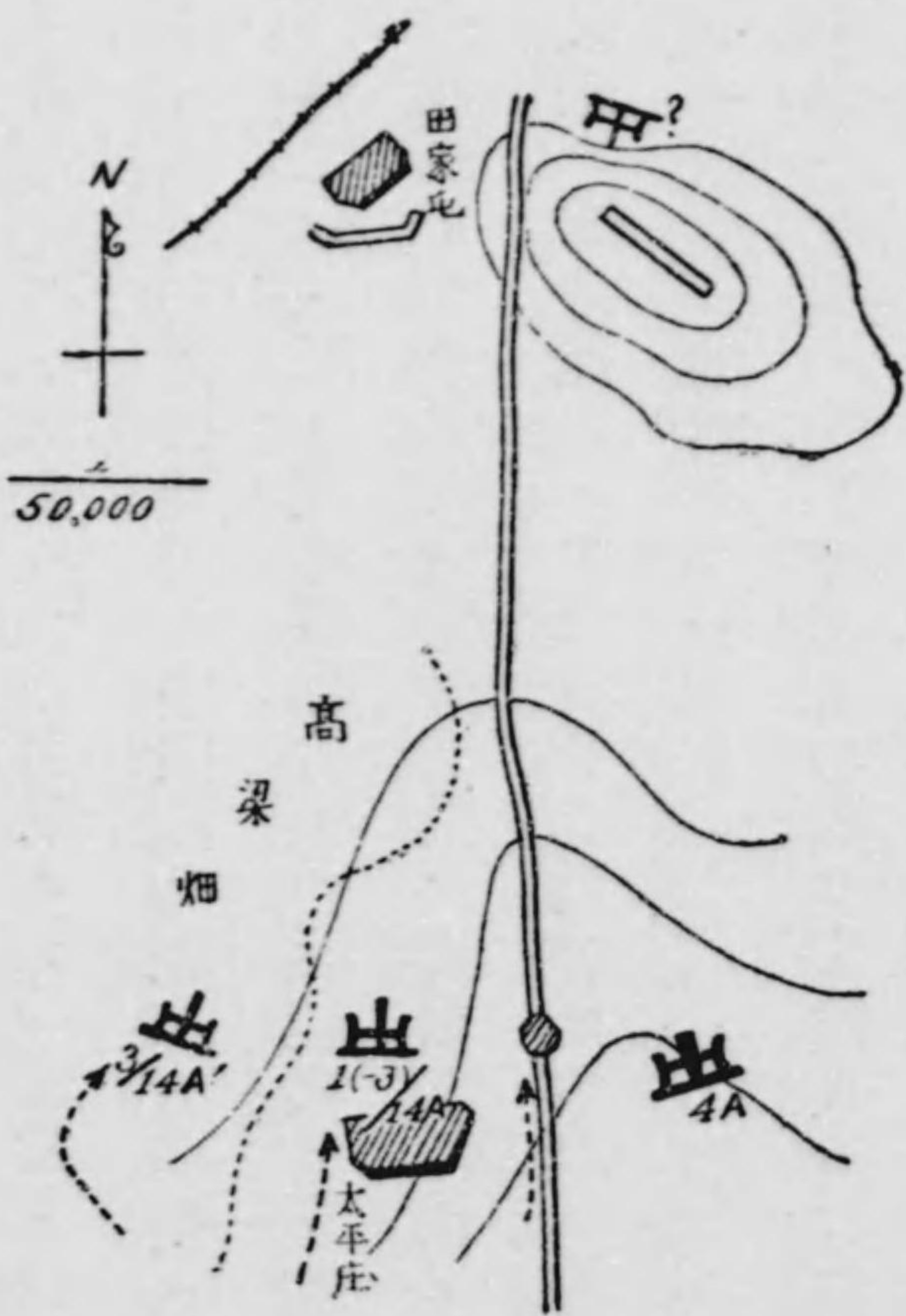
敵ニ制壓セラレシ例 (日露戰)

井本(清)大佐談 野戰重砲兵第一聯隊士官候補生 今 井 義 彦 記

明治三十七年七月二十四日第四師團ハ午前一時二十分前進命令ヲ受領シ諸隊ヲシテ午前四時迄ニ前日

ノ陣地ニ據ラシム乃チ右翼隊ハ四時西山崗子ヨリ五臺山北方高地ヲ經テ蓋平―大石橋道ニ互ル間ノ陣地ニ止リ師團豫備隊ハ五臺山西南麓ニ移リ步兵第三十七聯隊第五中隊ハ砲兵掩護ノタメ同時四十分出發シテ大平庄ニ到リ左翼隊ハ步兵第九聯隊第二大隊、機關砲四門ヲ以テ太平庄南方高地ヲ占領シテ野砲兵第四聯隊第一大隊ノ五臺山西北鞍部ニ於ケル陣地占領ヲ掩護シ第一大隊機關砲二門ヲ以テ朱家甸子東方高地ヲ守備シ步兵第三十八聯隊(第一大隊第五中隊欠)ヲ同時朱家甸子附近ノ陣地ニ配置ス當時朱家甸子、西窩鋪間ニ陣地ヲ占領セシ野砲兵第十四聯隊ハ午前十時二十分左翼隊ヨリ其前進ヲ援助セシコトノ要求ヲ受ケ太平庄三家子ノ線ニ前進セント欲シ第一大隊ヲシテ三家子ノ敵ヲ射撃セシメ以テ

圖要備配兵砲近附庄平太 (ルケ於=日四十二月七)



之ヲ驅逐シ同時三十五分速ニ敵砲兵ヲ射撃スヘキ師團命令ヲ受ケ第一大隊(第三中隊欠)ヲシテ朱家甸子ヨリ太平庄ニ第二大隊ヲシテ西窩鋪ヨリ三家子東南ニ向ヒ前進セシメ第一大隊ハ太平庄北方約六百米ニ第二大隊ハ三家子東南ニ到リ兩大隊トモ午前十一時三十分放列ヲ布置ス

「當時第一大隊ハ要圖ノ如キ陣地ニ對シ」

太平庄東西ヨリ中隊ノ横隊ニ於テ堂々陣地ニ進入シ（但シ第三中隊ハ中隊縦隊ヲ以テセリ）進入ヲ行フヤ「先ス一彈ナカルヘカラス」ノ意氣ニテ「適當ノ目標ナキニ關ラス」目標ヲ望馬臺上散兵壕ニ選ヒ射撃ヲ開始セリ而シテ我砲彈ノ臺上散兵壕上ニ破裂スルノ光景ヲ目撃シ躍如タリキ而ルニ午後〇時二分ニ至リ望馬臺北方ナル敵砲兵（所在不明ナルモ彈痕信管距離ニテ想像ス）ヨリノ其他太平山方向等ヨリ十字火的猛射ヲ受ケ死傷者續出ノ景況トナリ如何トモスル能ハス直チニ掩隊ノ構築ニ着手ス幸ニ陣地畑地ニアリシタメ比較的容易ニ掩體ノ構築ヲ終リ「砲手ヲ收容シ得シモ二十四日夜ニ至ルマテ完全ニ制壓セラレタリ」

而モ同時高梁畑ヲ利用シテ要圖ノ如キ陣中ニ進入セシ第三中隊ハ一彈ノ有效ナル彈丸ヲモ受ケスソノ任務ヲ達成ス

II 黑龍州パウロフカ附近ニ於ケル野砲兵第十二聯隊

第三中隊ノ勇敢ナル戰鬪ノ例（西伯利亞戰）

森 大尉 談 下關重砲兵聯隊士官候補生 角 張 清記

一、戰鬪前一般ノ狀況

大正八年三月二日上原砲兵中隊ハボチカレオ附近ノ敵ヲ追撃中ナル高橋「大佐」支隊ニ屬セラル當方面ノ敵ハ一千ヲ下ラス砲二門ヲ有シ彼ノ田中大隊全滅以來益々其ノ勢ニ乘シ機ヲ見テ我ヲ邀

撃セントスルノ狀況ニアリシヲ以テ支隊長高橋大佐ハ敵ニ決定的打撃ヲ與フヘク中隊長上原大尉ノ率キル野砲兵第十二聯隊第三中隊（第二小隊缺）ヲ前衛ニ屬シ途中微弱ナル敵ヲ擊攘シツツボチカレオ驛ヨリパウロフカニ向ツテ前進シ同夜パウロフカ西方無名部落ニ露營セリ翌三月三日早朝偵察ノ結果パウロフカニ敵ナキヲ知リ午前五時三十分更ニパウロフカニ向ヒ前進セントスル利那實ハ敵ハ既ニパウロフカ村端一帶ニ亘リ陣地ヲ構築シアルヲ偵察シ支隊長ハ直ニ該陣地ヲ攻撃スルニ決セリ時ニ積雪膝ヲ没シ滿目唯白雪皚々曠野ニシテ加フルニ零下四十度ノ酷寒タリ

二、戰鬪 實 施

敵ハ既ニ射撃ヲ開始シ今ヤ攻勢ニ轉セントスルノ氣勢ニアリ、前衛砲兵タル上原小隊ハ亂下スル敵銃砲火ヲ冒シ約千五百米ノ近距離ニ於テ壯烈ナル敵彈下ノ陣地進入ヲ決行セリ、既ニシテ本隊ハ前衛砲兵ノ掩護ニヨリ辛ウシテ展開ヲ完了スルヤ敵ハ既ニ兩翼ヲ延伸シ今ヤ攻勢ニ轉セントシツツアリ、五百ニ足ラサル支隊苦戰又察スルニ餘アリ、此ノ時恰モ本隊砲兵タル一小隊到着セシヲ以テ中隊長ハ先ツ速ニ敵砲兵ヲ撲滅セントセシモ遺憾ナカラ之ヲ發見スル能ハス、敵ハ刻々優勢トナリ我兩翼ハ之カ爲全ク包圍セラルルノ苦境ニ陥リ加フルニ有效ナル敵砲彈ハ我カ觀測所附近ニ集中セラレ死傷續出ス此ノ時ニ當リ上原中隊長ハ自若トシテ適切ニ友軍歩兵ニ協力セリ然ルニ敵ハ尙モ屈スル色ナク益々勇猛ニ前進シ來リ支隊ハ囊中ノ鼠トナラムトスル危機ニ逼迫シ敵小銃彈ハ今ヤ我カ陣

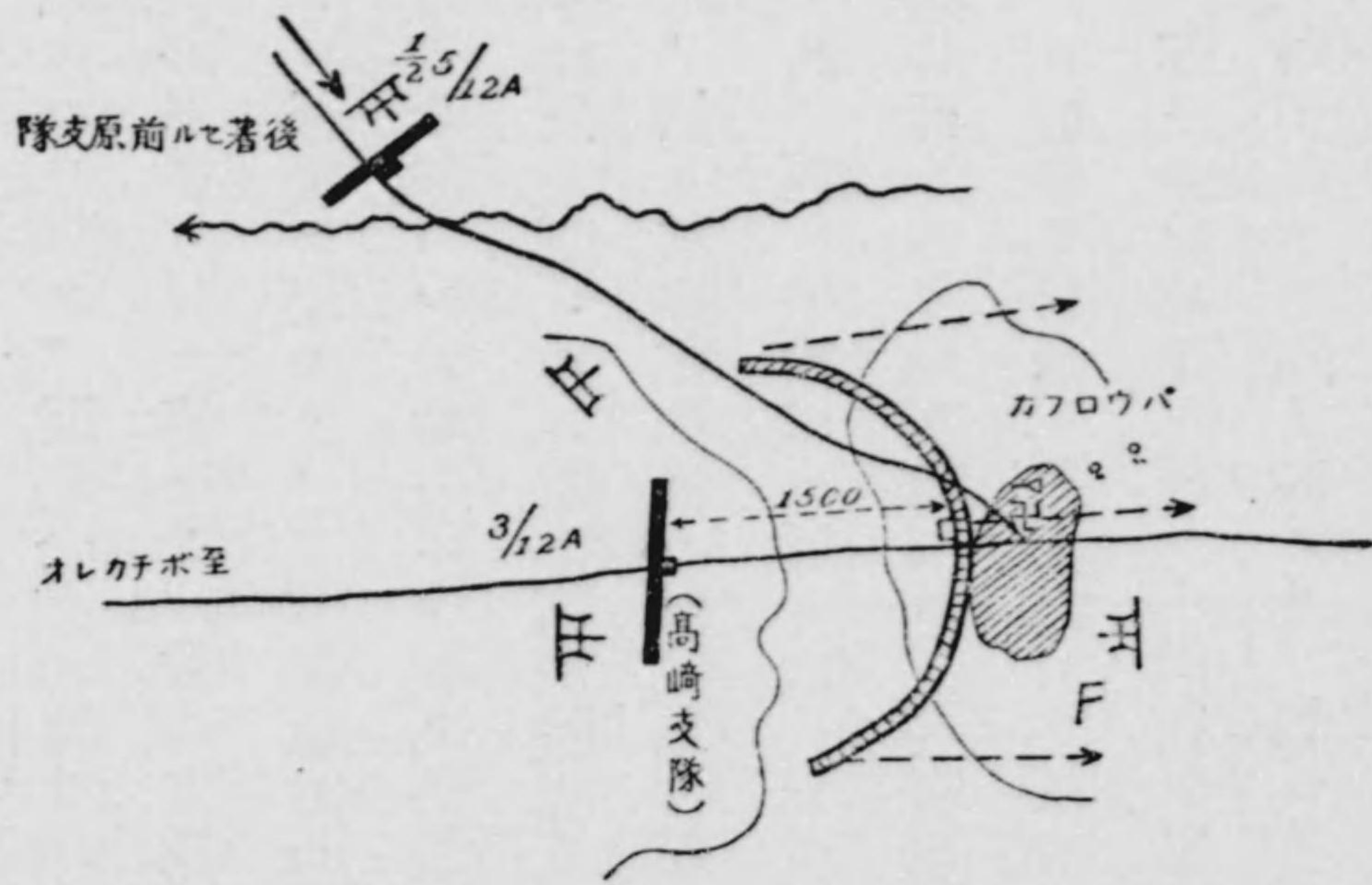
地ニ集中セラレ動モスレハ志氣漸ク萎靡セントシ實ニ慘憺タル情況トナレリ
 中隊長ハ此敵彈ノ猛射ヲ受ケツツモ尙沈勇以テ部下ヲ激勵シ第一小隊長ヲシテ砲一門ヲ以テ左翼ヲ
 包圍前進シツツアル敵歩兵ヲ撲滅セシムヘク陣地ヲ變換セシメ他ノ一門ハ特務曹長ノ指揮ヲ以テ敵
 砲兵ノ觀測所ヲ射擊セシメ中隊長自ラ二門ヲ以テ攻撃點ニ火力ヲ集中シ奮戰數時辛フシテ戰勢ヲ挽
 回スルヲ得タリ、而シテ今ヤ友軍歩兵ハ敵陣地ニ突入セントスル時俄然一砲彈ハ轟然タル爆音ト共
 ニ中隊長ニ致命傷ヲ負ハシメタリ、小隊長山下特務曹長ハ直ニ代リテ之ヲ指揮シ友軍敵陣地ヲ奪取
 スルヤ同地附近ニ陣地ヲ變換シ猛烈ナル追撃射擊ヲ施行ス敵ハ多大ノ損害ヲ受ケ潰走シ其ノ後再ヒ
 立ツ能ハサルニ至レリ

三、此ノ戰鬪ニ依リテ得タル教訓

1、積雪地ニ於ケル戰鬪ノ困難ト搜索ノ必要
 此ノ頃我カ軍ハ多ク糧ヲ利用シテ行軍ヲ實施セリ、然ルニ馭術不熟練ノタメ軍隊ノ運動迅速ヲ缺
 キ特ニ身ニ防寒衣ヲ纏ヘル軍隊ノ行動ハ平時教練ト異リ鈍重ニ陥ルヲ免カレス如斯狀況ニ於テハ
 特ニ騎兵ノ搜索ハ的確迅速ナルコト極メテ緊要ナリ
 凍結地ニ於テ野砲實射ノ際ニ於ケル景況ハ駐鋤ソノ用ヲナサス爲ニ一發射毎ニ砲車ハ一米餘後退
 シ射擊ノ困難ト速度ノ減退甚タ大ナルモノアリ、將來平素ヨリ研鑽以テ工夫スル所ナカルヘカラ

圖要鬪戰近附カフロウバ

日 三 月 三



ス

2、下級幹部教育ノ必要
 准士官下士ノ能力ノ向上進ンテ將校ニ代ルヘキ軍隊
 指揮能力ノ緊要ナルコト此ノ戰例ニヨリテ明カナリ
 特ニ小戰ニ參與スル場合ニ於テ然リ
 3、敵ヲ知り我ヲ知ルハ百戰百勝ノ基ニシテ原則ノ教
 フル所ナルモ現況ハ平時動モスレハ之ヲ缺クモノア
 リ、過激派軍ノ戰法ノ特色ハ包圍ニアリ、本戰鬪亦
 敵ノ長所ヲ發揮セシ感アリ、
 敵情不明ナリシト雖モ尙之カ對策アルヘカリシナ
 リ

12

夜間射擊ノ砲兵陣地ハ火光掩蔽ノ所置ヲ講スルカ

然ラサレハ晝間陣地ト異ニスルヲ要スル例 (西伯利亞戰)

大正九年四月二十六日以来敵ハチエルノフスキー附近ニ在ル緒方支隊ノ陣地ニ接近シ翌二十七日ヨリ砲撃ヲ開始ス。諸偵察ノ結果敵陣地ハ概略四ヶ所ニ分置セルコトヲ判断シ得タルモ其工事ハ稜線後ニ在リテ望見スルヲ得ス。五月一日ニ至リ早朝ヨリ敵ノ砲撃猛烈ヲ極メ日没ト共ニ更ニ其火力ヲチエルノフスキー停車場方面ニ轉セリ。當時支隊ノ主力ハ停車場ニ列車生活ヲナシ在リシヲ以テ該砲撃ハ宿營地ニ甚シキ騷擾ヲ起セリ。支隊長緒方少將ハ或ハ敵ニ夜襲ノ企圖アルニアラサルヤヲ察シ我砲兵ニ命シ其火力ヲ牽制セシム時方ニ午後九時暗黒咫尺ヲ辨セス。砲兵隊長タリシ余ハ(當時砲兵少佐)敵情偵察ノ爲觀測所ニ到レルニ敵方高地稜線上所々ニ微力ナル火光ヲ望見シ始メテ敵砲兵ノ位置ヲ確認スルヲ得タリ。然モ該標定位置ハ我陣地占領ト共ニ偵察セル豫想敵砲兵陣地ニシテ豫メ射撃諸元ヲ測定セルモノナリ。續テ果然二ヶ所ニ敵ノ大夜襲ヲ受ケ我軍奮戰健闘シテ之レヲ撃退ス、然ルニ翌二日早朝ヨリ敵砲兵再ヒ我陣地ヲ砲撃ス。其音響ニヨリ斷スルニ依然前夜ノ位置ナルコトヲ確メタルヲ以テ直ニ猛烈ナル射撃ヲ開始シ忽チ之レヲ沈黙セシムルヲ得タリ。爾後該砲兵ノ活動ヲ見ス。

超テ三日支隊ハ全線攻勢ニ轉シテ當面ノ敵ヲ撃退シ其砲兵陣地ヲ檢スルニ我彈着頗ル良好ニシテ多大ナル損害ヲ與ヘタルヲ知り得タリ。然シテ該陣地ハ我陣地ヨリ近キハ六千米遠キハ八千米附近ニ在リテ皆稜線下少クモ四十米ニ在リ晝間ハ全ク遮蔽セシニ拘ハラズ、夜間射撃ニ依リ遂ニ其位置ヲ曝露セルモノナリ。

13 戰場ニ於ケル指揮官ノ毅然タル態度カ兵卒ノ志氣

ヲ振起セシメタル例 (日露戰)

小畑(嚴)大佐談

飛行第五聯隊士官候補生

青

山

繁記

如何ナル苦境ニ遭遇スルモ泰然タル指揮官ノ態度ハ部下ヲシテ氣強ク任務ニ服シ得セシムルモノナリ然シテ射撃中或ハ突撃中ニ於テハ射撃突撃ニ熱中スルタメ恐怖心ヲ紛ラサルレトモ敵彈ノ下ニ停止シ沈黙能ク忍ヒ得ルハ一ニ指揮官ノ態度ノ如何ニ依ルモノナリ

得利寺附近ノ戰鬪ニ於テ野戦砲兵第十三聯隊第三中隊ハ遮蔽陣地ヲ占領セルモ地形頗ル我ニ不利ナリシタメ敵ノ發見スル所トナリ忽チ集中射ヲ蒙レリ而モ我彈藥ハ少數ノタメニ意ノ如ク射撃スルヲ得ス長時間沈黙シテ過ササルヘカラサリキ而モ敵砲彈ハ頻々トシテ我頭上ニ被裂セリ此際兵卒等ハ期セスシテ皆小隊長ノ顔色ノミヲ窺ヒ居タリ此ノ場合勇敢沈着ナル指揮官ノ態度ハ如何ニ兵卒ノ士氣ヲ振作シ默々トシテ克ク其ノ苦難ニ耐ヘ任務ヲ遂行シ得ルカヲ痛感セリ

14 平素ノ精神訓話ト上下ノ親和ト克ク戰場ニ於テ實

現セラレシ例 (日露戰)

小畑(殿)大佐談

飛行第五聯隊士官候補生

前島美佐男記

明治三十七八年戰役ニ於テ南山攻撃ニ參與セシ野戰砲兵第十三聯隊第三中隊ハ某部落ニ陣地ヲ占領シテ敵砲兵ト對戰セシカ敵砲彈ハ我頭上ニ炸裂シ人モ馬モ傷ツケラレタルモ射程短キ我砲火ハ敵ニ達セス遂ニ遮蔽物無キ砂地ニ陣地變換ノ已ムナキニ至レリ前日來ノ戰鬪ニ人馬共ニ疲勞困憊シ死傷者ハ頻出シ所定ノ陣地進入ハ頗ル困難トナルモ某小隊ハ勇敢ニ前進ヲ繼續シ遲滯ナク豫定ノ陣地ニ進入シ有效ナル射撃ヲ開始スルヲ得タリ而モ此ノ前進間敵ノ十二榴ハ中服馬ノ腹下ニ破裂シ中後馬馭者ハ死傷シ中馬ハ傷キ大腸露出セルニモ拘ハラス能ク前進ヲ續ケ陣地ニ進入ヲ終リ前車ハ後方ニ下ルヤ馬ハソノママ斃レヌ

此ノ如キ場合ニ在リテ上下能ク和親シ一致協力以テ難ニ當ルノ精神旺盛セル部隊ハ指揮官ノ適切ナル指揮ニ依リ更ニ最後ノ努力ヲ喚起シ得ルコトヲ實驗セリ

15 友軍ノ彈藥補充者ノ後退ヲ敵ト誤認シ放列ノ一部ヲ變換シタル例 (日露役)

中村(久)大尉談

野砲兵第七聯隊士官候補生

久保宮公記

明治三十八年三月三日奉天達子堡附近ノ戰鬪ニ於テ我カ砲兵聯隊ハ死傷續出シ苦戰ヲ極ムルニ至レリ

此ノ際後方段列ヨリ右側方ヨリ敵騎兵ノ襲撃ヲ傳ヘ爲メニ放列ニテハ若干門ヲ其方向ニ變換セルニ實ハ友軍步兵第一線ニ彈藥補充者ノ後退スルモノニシテ幸ニ損害ナカリシモ段列ハ一時混亂ヲ惹起セリ

16 彈藥缺乏セルニ拘ラス一門ノ大砲一名ノ砲手尙毅然トシテ戰鬪ヲ續行セシ例 (日露戰)

石川清大尉談

野砲兵第三聯隊士官候補生

山田雄一記

明治三十七年五月二十六日南山ノ戰鬪ニ於テ野戰砲兵第三聯隊ハ優勢ナル敵砲兵火ノ集中ヲ蒙リ緊張セル志氣ノ下ニ友軍ノ協力ニカメタリ就中第三中隊ハ最モ惡戰苦闘シソノ中央小隊ノ二砲車ハ敵榴霰彈ノ爲ニ一名ノ砲手ヲ除クノ外皆死傷シ小隊長仙波少尉モ亦頭部ニ彈子ヲ受ケ放列ノ狀況又悲慘ナリ此ノ時ニ方リ上等兵田畑勇吉ハ單身諸砲車ノ操作ヲナシ尙射撃ヲ續行シ豫備砲手ノ來リ補充スル迄長時間射撃ヲ中止セシメサリキ

暫時ニシテ中隊ノ彈藥モ殆ト缺乏シ聯隊段列ノ車輛モ中隊段列ヲ補充スルノ餘裕ヲ得スシテ直チニ放列線ニ至ルノ止ムヲ得サルニ至リソノ人馬モ亦負傷シ慘列ノ狀態ヲ呈ス夜ニ入ルヤ聯隊段列ノ彈藥モ缺乏セルヲ以テ聯隊副官カ旅團砲兵ニ彈藥ノ讓與ヲ請求セシモ其ノ意ヲ得ス緩射ヲ以テ戰鬪ヲ維持スルノ止ムヲ得サルニ至レリ

此ノ際第三中隊ハ彈藥殆ト缺乏シ砲手ニシテ死傷セルモノ放列ニ散在セルニ拘ラス克ク陣地ヲ固守シ志氣亦毫モ沮喪スルコトナク敢彈下ニアリテ晝食ヲ喫シ靜カニ彈藥ノ補充ヲナシタルカ如キハ實ニ賞讃ニ價スルモノナリ

17 追撃戰中ニ於ケル野砲兵大隊ノ獨斷協力カ機宜ニ

適シタル例 (日露戰)

戰史餘錄ヨリ 野砲兵第二十六聯隊士官候補生 森 田 大 平 記

明治三十八年三月十日拂曉第六師團右翼隊(主力)追撃隊タル步兵第四十五聯隊(第三大隊缺)ハ奉天東南方ニ於テ渾河ヲ渡河シ奉天東南地區ヲ經テ魚鱗堡附近ニ向ヒ追撃前進中同日午前十時頃文官屯東方一帶ノ高地ニ占據セル敵ヲ撃退シテ該高地ニ進出スルヤ有力ナル敵歩砲兵ハ魚鱗堡南方ヨリ其東南方ニ亘リ陣地ヲ占領シ殊ニ十數門ノ砲兵ハ魚鱗堡附近ニ陣地ヲ占領シテ猛烈ニ我第一線ヲ射撃シ追撃意氣頗ル停頓ス當時未タ我追撃砲兵來着セス同聯隊長太田中佐ハ遙ニ東北方ニ蒙塵ヲ揚ケテ潰走中ナル幾萬ノ敵ヲ確認シツツ何等施スヘキ手段ナク空シク長蛇ヲ逸スルヲ切齒シアリシ際突然我師團配屬ニ在ラサル野砲兵第十五聯隊大隊長町田少佐後方ヨリ來着ス太田中佐ハ歡喜シテ少佐ニ告クルニ敵狀ノ急ト神速ナル砲兵ノ協力ヲ以テス少佐固ヨリ快諾後方ヲ顧ミシ時已ニ同砲兵大隊ハ後方約八百米

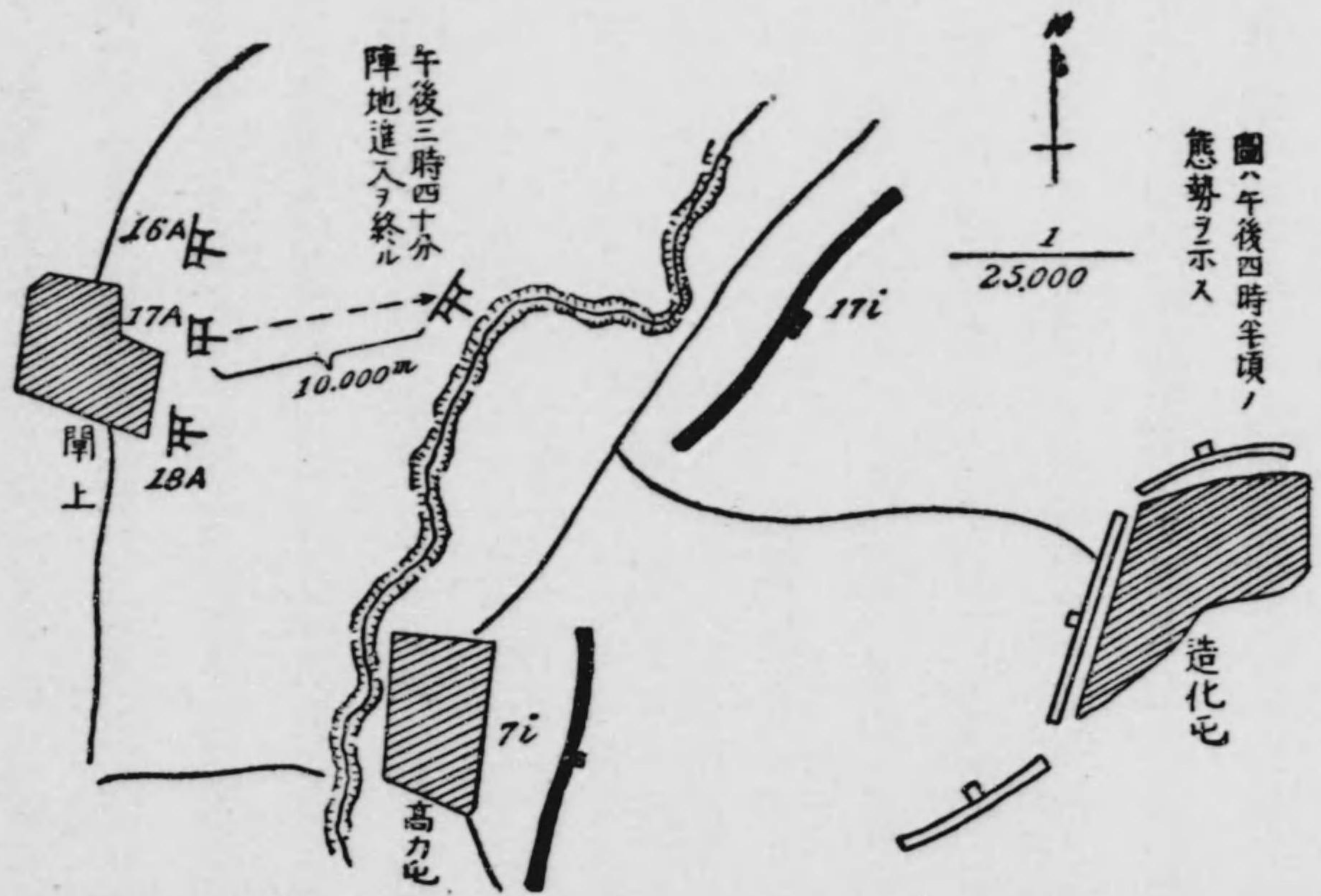
ノ平野上ヲ高ク土煙ヲ揚ケテ疾驅シ追及中ナリ間モナク該砲兵大隊來着敵歩砲兵ヲ猛射ス追撃隊ハ此協力ニ依リ全線勇奮前進シ加之快速ナル左旋回運動ニ依リ主力ヲ以テ魚鱗堡東北方ニ進出シテ鐵嶺街道ヲ潰走中ナル敵ノ退路ヲ遮斷シ爲ニ第六師團ハ多數ノ俘虜鹵獲品ヲ獲タリ此ノ結果タルヤソノ原因固ヨリ一ニシテ足ラスト雖モ町田砲兵大隊長カ能ク機宜獨斷ノ處置ヲ決行シ而モ當時ノ情況ニ適合シタル爲此偉績ヲ更ニ快速ニ奏功セシメタルナリ

18 敵歩砲火ノ下ニアリテ巧ニ隊形ヲ利用シ陣地變換

ヲ決行シ友軍ノ攻撃ニ協力セシ例 (日露戰)

伊藤(政喜)大佐談 近衛野砲兵聯隊士官候補生 中 村 一 郎 記

明治三十八年三月六日第三軍ノ繞回運動中大石橋方向ニ向ヘル露軍ノ攻勢ハ頗ル猛烈ニシテ第九師團ハ翌七日造化屯附近ニ於テ引續キ優勢ナル敵ト激戰ヲ交フ第九師團ノ攻撃ニ協力スヘキ任務ヲ有セシ野戰砲兵第二旅團(軍直轄ニシテ師團長ノ隸下ニアラス)ニ屬セシ野戰砲兵第十七聯隊第一大隊ハ六日夜半大石橋附近ノ陣地ヨリ開上ノ東側地區ニ陣地ヲ變換シ天明ト共ニ射撃ヲ開始セルモ地形平坦ニシテ良觀測所ヲ有セス且距離稍遠ク十分ナル威力ヲ發揮スルヲ得ス。然ルニ第九師團ノ戰鬪ハ時ト共ニ激烈ヲ加ヘ敵ハ兵力刻々増加シテ攻撃意ノ如ク進歩セス茲ニ於テ旅團ハ萬難ヲ排シ全力ヲ擧ケテ逐次



前方ニ陣地ヲ變換スルニ決ス然レトモ前地一帯平坦砥ノ如ク一度陣地變換ノ行動ヲ起セハ敵砲火ノ集中ヲ受クヘキハ勿論第一線ニ近ツクニ從ヒ敵小銃火ノ雨注スル所トナルヘキハ明ナリ依リテ大隊ハ中隊ノ縱隊ヲ併列シ中隊ハ段列ヲ開上ニ殘置シ戰砲隊ノ砲六門彈藥車三輛ヲ各車約百米ノ距離ヲ取り一齊ニ急速ナル速歩ニテ前進セリ前進發起後暫ラクシテ果シテ敵砲火ノ集中ヲ受ケ約二千米前進シテ豫定陣地附近ニ至ルヤ小銃火ヲモ雨注セラル各車ハ最初規定ノ距離ヲ保チシモ敵火ヲ受クルヤ馬匹沈靜ヲ缺キ動モスレハ狂奔セントシ戰場心理ニヤ下士卒モ亦後方車輛ノ者程歩度ヲ早ヤメ殆ント驅歩トナリ豫定陣地ニ到着セル時ハ全ク無距離トナリ放列ハ一齊ニ布置スルニ至レリ此ノ間特ニ銃砲火ヲ受クル事猛烈ナリ、依リテ全員協力シテ鞍馬ヲ解キ之レヲ放列直前ノ小溝（輕ウシテ鞍馬ヲ入レ得）ニ無理矢理ニ押シ込ミ放列布置ヲ終リ

直ニ射撃ヲ開始セリ

新陣地ハ肉眼ニテヨク彼我ヲ識別シ得ルヲ以テ（我歩兵線ヨリ六七百米後方ナリシト記憶ス）我砲兵火大ニ揚リ遂ニ第九師團ト協力シテ敵ヲ造化屯ヨリ撃退スルヲ得タリ
此ノ陣地變換ニ於ケル大隊ノ損害ハ敵火ノ猛烈ナリシニ比シ比較的僅少ニシテ第三中隊長林中尉重傷ヲ受ケシ外若干ノ人馬損傷セシノミニテ目的ヲ達セリ蓋シ疎散ノ隊形ニテ迅速ニ行動セシト放列布置ハ一齊迅速ナリシ故ナラント認ム（因ニ此ノ戰鬪ニ依リ砲兵旅團ハ軍司令官ヨリ威狀ヲ受ク）

19 野砲兵小隊及中隊ノ歩兵線近クニ前進シ直接歩兵ノ戰鬪ニ協力シ偉功ヲ奏シタル例（日露戰）

垂井（明）少將談 近衛歩兵第三聯隊士官候補生 中 橋 基 明記

明治三十八年一月下旬ニ於ケル黑溝臺附近ノ會戰ニ第五師團（師團長木越安綱）ハ右翼ヲ第三師團ニ接シ概ネ渾河ノ左岸ニ於テ陣地ヲ構成シ一ヶ月餘ノ日子ヲ費シテ攻撃準備ヲ整ヘタリ其陣地ハ敵陣地ヲ距ルコト歩兵ニ於テ最近約五百米野砲兵ニ於テ約千五百米ナリキ三月一日ヲ期シテ我カ滿州軍ハ攻撃ヲ開始ス

第五師團ハ敵陣地中最モ突出セル王家窩堡ヲ攻撃點トシテ三月一日未明ヨリ野砲兵及野戰重砲兵ヲ以

テ攻撃ヲ準備シ續イテ歩兵各隊ハ攻撃前進ニ移レリ
然ルニ敵陣地ハ最モ我ニ近接セル突出部ナルヲ以テ最モ堅固ニ防禦工事ヲ施シ要點ニハ機關銃ヲ備ヘ
テ頑強ニ抵抗シ我カ歩兵ノ攻撃効ヲ奏セス却テ敵前二、三百米ニ於テ敵小銃火ト機關銃火ノ爲多大ノ
損害ヲ蒙リ殆ント進退ノ自由ヲ失ヒ若シ敵ニシテ逆襲シ來ランカ其ノ危險言辭ニ絶スル狀況ヲ呈シタ
リ(歩兵第十一聯隊)茲ニ於テ野砲兵第五聯隊長(高瀬清二郎)ハ直接歩兵ヲ援助シ且敵ノ機關銃ヲ破
壞セシムル目的ヲ以テ第二大隊(大隊長垂井明平)ヨリ一部ヲ差遣スルコトヲ命セリ即チ第二大隊長ハ
先ツ一個小隊(小隊長大町岩雄)ヲ敵前約五百米ナル鴨子泡ノ線ニ差遣セリ
此ノ小隊ハ稍々遮蔽セル地區ヲ選ヒテ前進シ多少ノ銃砲彈ヲ受ケシモ殆ント損害ナク目的地ニ達シ敵
ヨリ猛烈ナル小銃火ヲ受クルニ拘ラス極力敵ノ機關銃ヲ破壊スルコトニ努メ略々其ノ目的ヲ達シ友軍
歩兵ノ志氣ヲ振起セシムル上ニ於テ多大ノ效果ヲ奏セリ茲ニ於テ砲兵ヲ一中隊ニ増加スルコトトシ第
五中隊(中隊長土屋隆博)ヲ差遣シ前ニ差遣セル小隊ヲ合シ完備中隊トナシ夜間ニ至ル迄射撃ヲ繼續シ
以テ友軍志氣ノ振興ニ資シ敵機關銃破壊ト其ノ歩兵線ニ對スル效果ハ顯著ニシテ敵ヲシテ遂ニ逆襲
轉スル能ハス夜暗ニ乘シテ退却スルノ止ムヲ得サルニ至ラシメタリ
翌二日朝戰跡ヲ見ルニ彼我ノ損害ハ極メテ大ニシテ殊ニ友軍歩兵ハ敵前二三百米ニ於テ幾百ノ死屍ヲ
殘シ此ノ日中隊ノミニテモ十一名ノ死傷者ヲ出シ又一名ノ大隊長(大城高明)ハ鴨子泡ニ於テ砲兵將

校(遠藤壽儼)ニ敵機關銃ノ位置ヲ指示スル際敵ノ小銃彈頭部ニ命中シ即死セリ
此ノ戰功ニヨリ砲兵小隊長大町岩雄ハ軍司令官ヨリ感狀ヲ拜受セリ此ノ場合ニ於ケル野砲兵用法ハ後
日野砲兵ノ用法ニ變更ヲ與フヘキ資料ヲ呈シ隨伴砲兵ノ名稱ヲ見ルニ至リ又歩兵砲建設ノ因ヲナセリ
ト謂フ

20 夜間前方トノ連絡ヲ失シ翌拂曉戰鬪參加ヲ遲延

セシ例 (日露戰)

古橋中佐談

野砲兵第三聯隊士官候補生

横井準次郎記

明治三十七年旅順攻圍戰ノ初期ニ於テ降雨甚シキ暗夜第九師團山砲兵中隊ノ陣地變換ノ途中後尾小隊
ノ馬カ川ニ落チタルタメソノ小隊ハ一時停止セシ際前方トノ連絡ヲ失シ遂ニ中隊主力ノ進路ヲ失ヒ之
レニ追及シ得サル間ニ天明トナリ敵前近ク前進ヲ許サス若干時間空シク地隙下ニ停止シ當日ノ戰鬪ニ
參加ヲ遲延セリ

21 指揮官ノ勇敢ナル行動ニ感激シテ部下奮戰シタル例 (日露戰)

某氏談

野砲兵第四聯隊士官候補生

佐

藤

勳記

砲兵伍長西山勝太郎ハ野戰砲兵第四聯隊第一中隊ノ一砲車長タリ明治三十七年七月二十三日蓋平北方

五臺山ニ於テ戰鬪中敵砲彈ノ爲膝部ニ深創ヲ蒙リ小隊長幾度カ彼ニ後退ヲ勸ムレトモ之ニ應セス假縋帶ノ儘挫臥シテ戰鬪ヲ續ケタルモ出血甚ダシキ爲一旦陣地ヨリ後退ス然ルニ後刻追撃前進ニ移ルヤ伍長ハ再ヒ己カ火砲ノ許ニ歸リ砲手ト共ニ砲車ニ乘リテ戰鬪ニ參加セリ部下兵卒ハ之ニ感激シテ何レモ能ク奮戰シ終始任務ヲ完フスルコトヲ得タリ

22 攻撃砲兵防禦砲兵ノ豫メ射撃ヲ準備シアリシ陣地

ニ進入シテ損害ヲ被リタル例

畑(俊)少將談

野砲兵第一聯隊士官候補生

畑

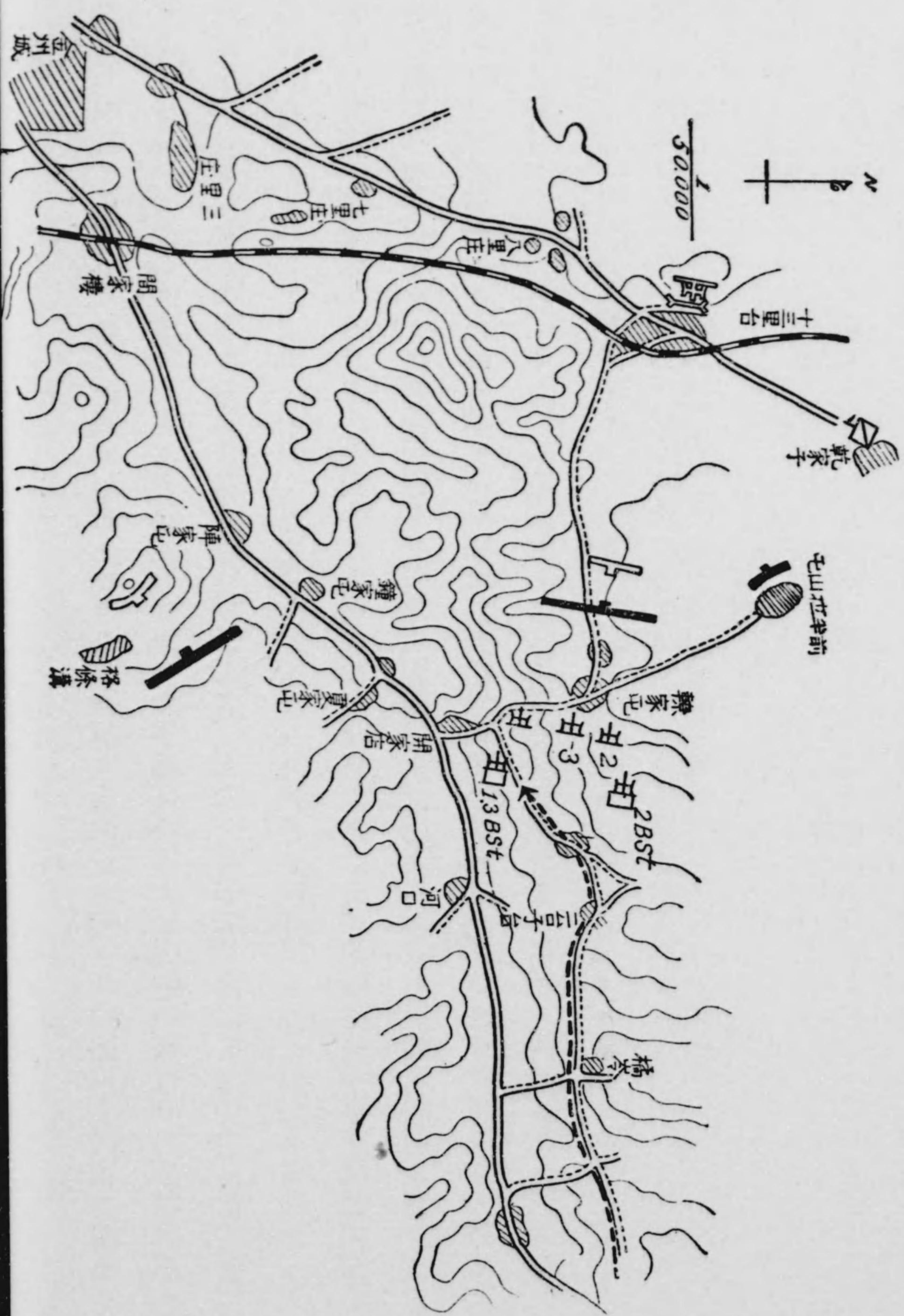
英

一記

明治三十七年五月十六日第一師團ハ金州東北高地附近ニ於ケル敵情ヲ偵察スル目的ヲ以テ關家屯附近ニ向ヒ前進中十三里臺東方附近ヲ占領セル露軍(南山支隊ノ前進部隊)ヲ攻撃シ師團本隊ニ在リテ行進セシ野戰砲兵第一聯隊ノ先頭大隊第一大隊ハ同日午前十一時二十分關家店北方標高一四四高地附近ニ陣地占領ノ命ヲ受ケ歩兵ノ援助ニ依リ畑地ヲ通過シテ大ナル困難ノ後漸ク稜線後ノ陣地ニ入ルヤ十三里臺西方附近ニ在リシ露軍速射砲兵一中隊(八門)ハ我第一大隊ニ對シ豫メ試射ヲ完了シアリシモノノ如ク直ニ射撃ヲ開始シ最初ヨリ有效ナル曳火彈ノ猛射ヲ行ヒ我大隊ハ漸ク午後零時四十分射撃ヲ開始シタレトモ頗ル苦戰ニ陥入り午後一時五分大隊長重傷ヲ負ヒ續テ將校以下多數ノ死傷者ヲ生シ

第二第三中隊ノ某砲車ノ如キハ砲手一名トナリタルモ最モ勇敢ニ力戰シテ敵砲兵ニ對戰シ砲手ノ缺乏ヲ來セシ爲馬卒ニ至ル迄彈藥ノ搬送ニ任スルニ至レリ午後一時二十分頃敵砲兵退却ス此日大隊ノ發射彈數榴霰彈七九六大隊ノ損害大隊長以下將校負傷五名下士以下死傷二十七名(大隊長ハ負傷後死亡)死傷馬匹十九頭ナリ

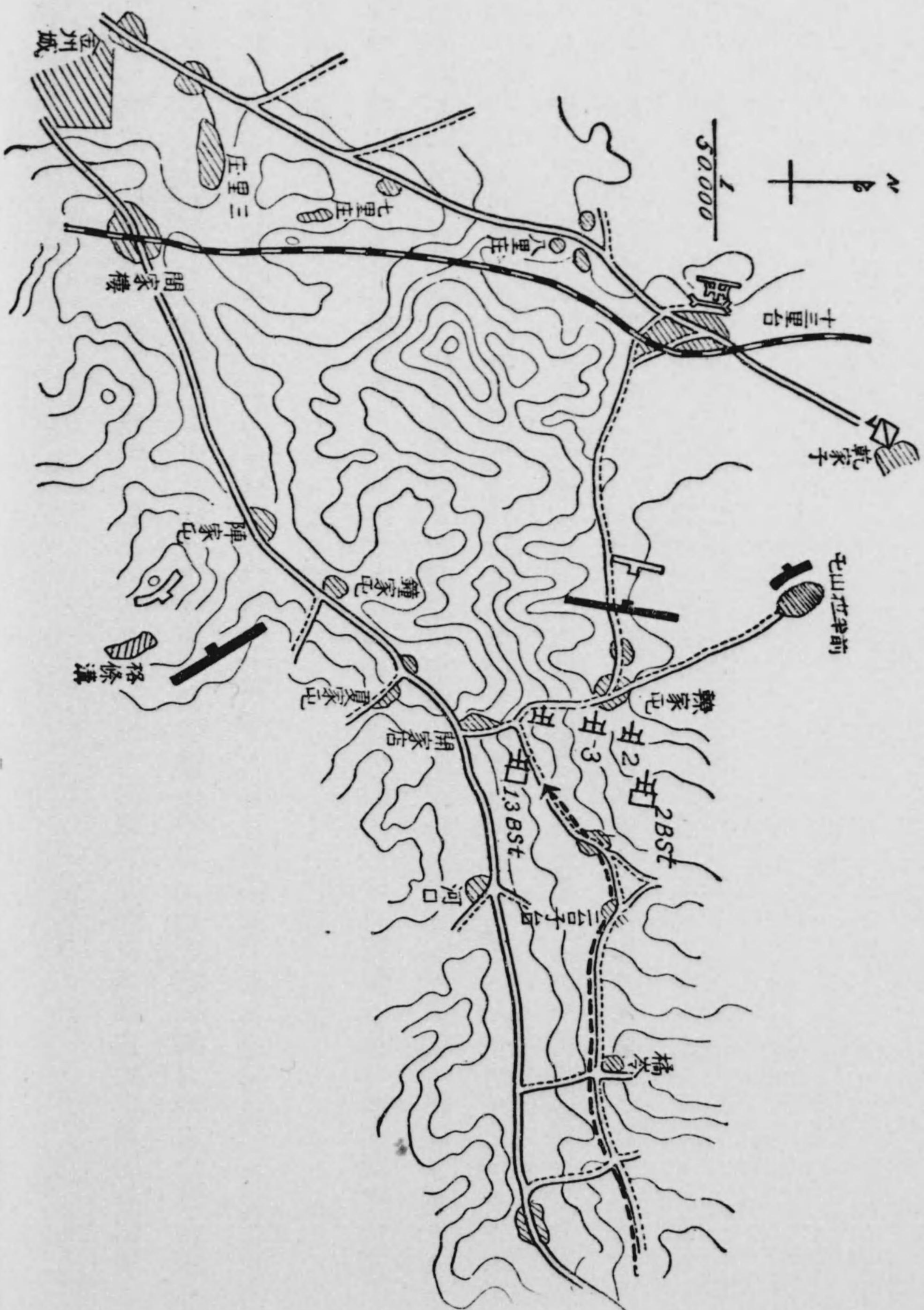
本戰鬪ハ漸ク一時間餘ニ過キサレ砲戰ナルモ此ノ如ク死傷大ナリシハ防禦砲兵カ豫メ試射ヲ完了シアリシ地點ニ陣地ヲ占領シタル爲最初ヨリ有效ナル曳火彈ノ制壓ヲ受ケ我ハ準備ノ時間ヲ有セス土地堅硬ナル爲掩體ヲ構築スルヲ得ス漸ク不完全土囊ヲ以テ掩體ニ代用シタルニ過キス加フルニ我士卒ハ勇敢ニシテ善戰セルモ上陸後第一回ノ戰鬪ニシテ未タ實戰ノ經驗ヲ有セス而モ陣地ハ殆ント暴露シ防禦砲兵ノ好餌トナリタルニ歸因スルモノニシテ苟モ豫メ防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對シ而モ白晝之ヲ攻撃セントスルモノハ十分ノ準備ト戒心ヲ加フルニアラサレハ不測ノ損害ヲ被ムルヘキコトヲ吾人ニ訓ユルモノナリ



23 全ク遮蔽セル劣勢ナル砲兵ノ爲優勢ナル砲兵ノ殆ン
ト制壓セラレタル戦例 (日露戦)

畑(俊)少將談 野砲兵第一聯隊士官候補生 畑 英 一 記

旅順ノ攻圍戰ニ於テ第三軍ハ明治三十七年七月二十六日第一師團ヲ以テ双臺溝方面第一師團ヲ以テ安子嶺方面第十一師團ヲ以テ大白山方面ノ敵ニ向ヒ攻撃ヲ開始シ第一師團砲兵隊(長大迫少將)野戰砲兵第二旅團(野戰砲兵第十七、第十八聯隊)野戰砲兵第一聯隊(第二大隊本部及二中隊缺)工兵第一大隊(一中隊缺)ハ師團中央隊(歩兵第一聯隊)右翼隊(歩兵一大隊)ノ攻撃ヲ支援シツツ逐次前進シ同日午後營城子南端河谷ニ陣地ヲ占領シ我歩兵ヲ支援中我歩兵第一線ハ石山溝對面溝ノ線ヲ占領シテ日没トナル七月二十七日午前一時砲兵隊ハ營城子南方畑地ニ陣地ヲ變換シ工兵ノ援助ヲ以テ掩體ヲ構築シ午前六時金龍寺溝南方附近ニ位置スト推定セシ敵砲兵ニ向ヒ射撃ヲ開始ス敵砲兵ハ我ニ應射シ巧ニ射彈ヲ各聯隊ニ集中シ而モ敵砲兵ノ火光ハ勿論爆煙サヘ見ル能ハス依テ午前七時敵砲兵發見ノ爲將校斥候ヲ派遣シタルモ遂ニ發見スルニ至ラス午前七時二十分ヨリ同八時半迄ノ間ニ漸ク敵砲兵ノ位置ヲ推定シ榴彈ヲ以テ之ヲ射撃セシモ敵ハ全ク遮蔽シタル陣地ニアリ加フルニ其前方ニ數多ノ稜線アルヲ以テ我射撃ハ困難ヲ極メ毫モ敵砲兵ヲ制壓スルヲ得ス敵砲兵ハ時々疾風射ヲ



23 全ク遮蔽セル劣勢ナル砲兵ノ爲優勢ナル砲兵ノ殆ン

ト制壓セラレタル戦例 (日露戦)

畑(俊)少將談

野砲兵第一聯隊士官候補生

畑

英 一 記

旅順ノ攻圍戰ニ於テ第三軍ハ明治三十七年七月二十六日第一師團ヲ以テ双臺溝方面第一師團ヲ以テ安子嶺方面第十一師團ヲ以テ大白山方面ノ敵ニ向ヒ攻撃ヲ開始シ第一師團砲兵隊(長大迫少將)野戰砲兵第二旅團(野戰砲兵第十七、第十八聯隊)野戰砲兵第一聯隊(第二大隊本部及二中隊缺)工兵第一大隊(一中隊缺)ハ師團中央隊(歩兵第一聯隊)右翼隊(歩兵一大隊)ノ攻撃ヲ支援シツツ逐次前進シ同日午後營城子南端河谷ニ陣地ヲ占領シ我歩兵ヲ支援中我歩兵第一線ハ石山溝對面溝ノ線ヲ占領シテ日没トナル七月二十七日午前一時砲兵隊ハ營城子南方畑地ニ陣地ヲ變換シ工兵ノ援助ヲ以テ掩體ヲ構築シ午前六時金龍寺溝南方附近ニ位置スト推定セシ敵砲兵ニ向ヒ射撃ヲ開始ス

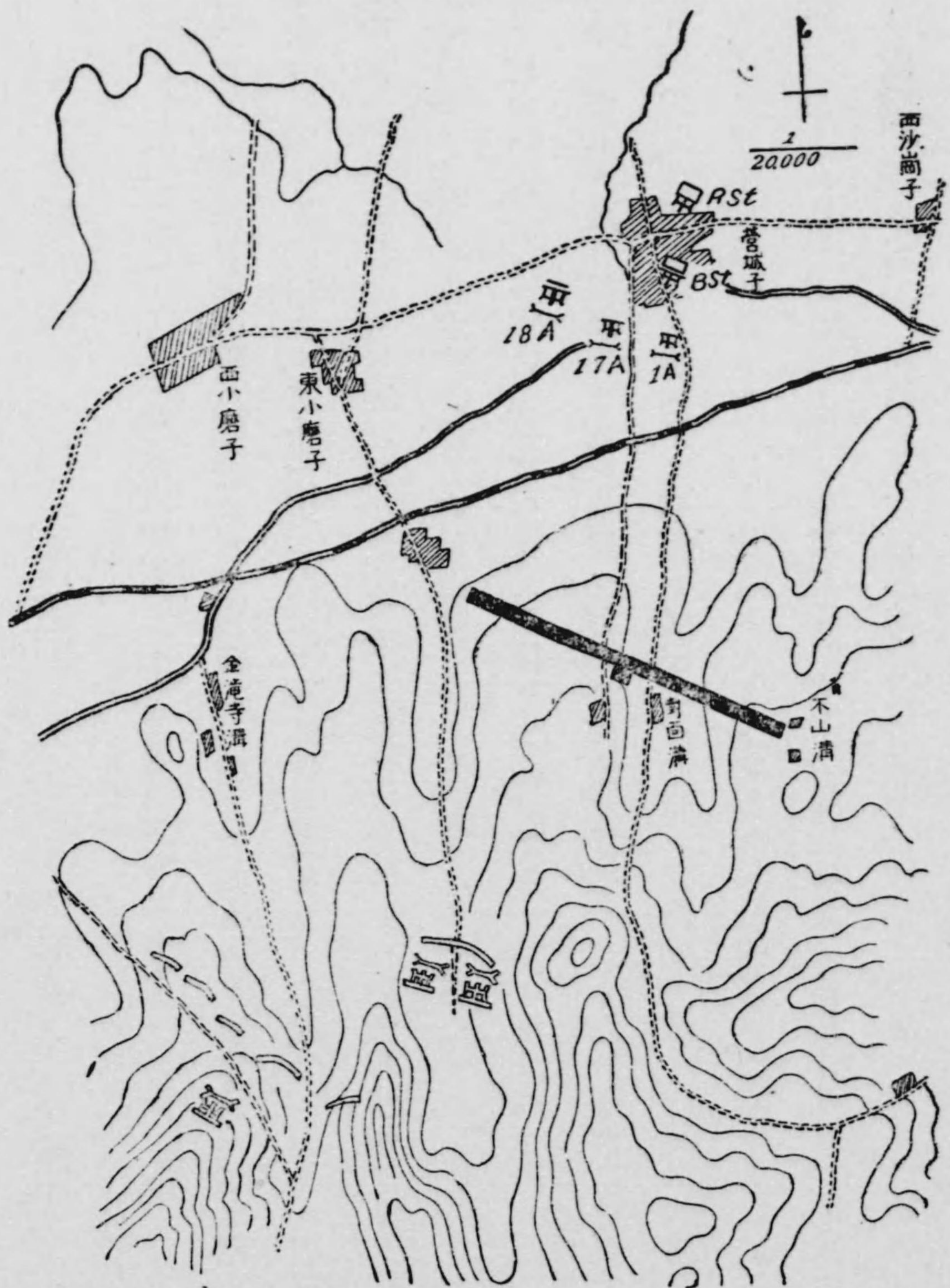
敵砲兵ハ我ニ應射シ巧ニ射彈ヲ各聯隊ニ集中シ而モ敵砲兵ノ火光ハ勿論爆煙サヘ見ル能ハス依テ午前七時敵砲兵發見ノ爲將校斥候ヲ派遣シタルモ遂ニ發見スルニ至ラス午前七時二十分ヨリ同八時半迄ノ間ニ漸ク敵砲兵ノ位置ヲ推定シ榴彈ヲ以テ之ヲ射撃セシモ敵ハ全ク遮蔽シタル陣地ニアリ加フルニ其前方ニ數多ノ稜線アルヲ以テ我射撃ハ困難ヲ極メ毫モ敵砲兵ヲ制壓スルヲ得ス敵砲兵ハ時々疾風射ヲ

送り我射撃セハ直ニ應射シ我沈黙セハ緩射シ巧ニ射撃ヲ集散シ營城子部落ニアリシ段列ヲ射撃シ又彈藥ノ補充ヲ妨害シ段列ハ多大ノ損害ヲ被リ將卒一同無念ニ齒軋リスルモ亦如何トモスル能ハス全ク敵砲兵ニ愚弄セララルル狀況ナリキ

午後四時旅團ハ電城子停車場附近ニ陣地ヲ變換セントシ旅團長以下各本部機關ハ陣地偵察ノ爲前進スルヤ敵砲兵直ニ此人馬ノ集團ニ向ヒ有效ナル曳火射撃ヲ行ヒ爲ニ進退谷マルノ狀トナリ又陣地變換モ暴露シテ繫駕スル能ハサルハ勿論後方約二千米ニ谷地アルモ馬匹ヲ蔭蔽スルニ足ラス又中隊段列ノ附近ハ敵彈ノ集中スル所ナルヲ以テ此附近ニ於ケル人馬ノ行動ハ直ニ覺知セラレ損害ヲ免ル能ハス爲ニ一門宛臂力ヲ以テ後方ニ搬致セサルヘカラサリシヲ以テ數時間ヲ要シ遂ニ日没ニ至リ遺憾ナカラ陣地變換ノ時ヲ失シ旅團ト日没後營城子南方ニ集合ス此日野戰砲兵第一聯隊(一中隊缺)ノミニテ損害負傷將校二下士卒死者一二名負傷者一九名馬匹死四七頭負傷一二六頭ノ多數ニ達シ而モ其大部ハ段列ノ人馬ナリ

我ニ對セシ敵砲兵ハ速射野砲八門ナリシカ如ク其ノ陣地ハ遂ニ確認スルニ至ラサリシモ後ニ至リ知り得タル處ニヨレハ郭家屯南方ニ約二千米突及金龍寺溝南方約千五百米突附近ニアリテ全ク遮蔽シテ陣地ヲ占領シ觀測者ヲ高地上ニ配置シ巧ニ射撃指揮ヲナシタルモノナリ

圖要地近附子城營及山南東 成收



ヲ却テ其擲擧スル處トナリ多大ノ損害ヲ被リタルハ敵カ全ク遮蔽陣地ヲ占領シ觀測者ヲ適當ニ使用シタルト我ハ遂ニ目標ヲ確認スルヲ得サリシニ原因スルモノニシテ劣勢ナル砲兵ト雖モ準備ニ於テ周到

ニシテ指揮適確ナル時ハ能ク優勢ナル砲兵ニ對抗シ得ヘキヲ了知シ得ヘシ

24 野戰重砲 (A15) ヲ以テ敵艦艇ト交戦シタル例 (日獨戰)

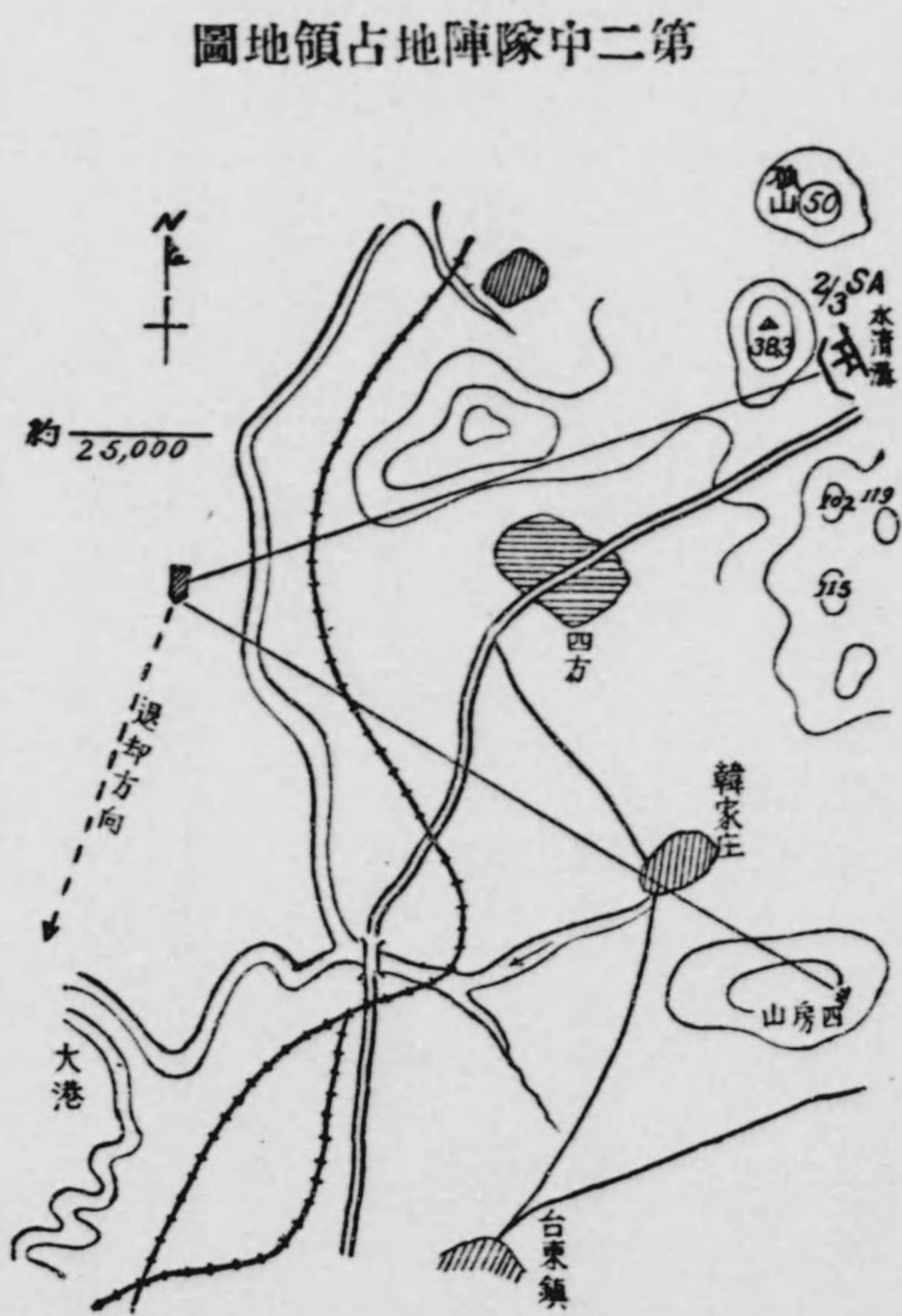
石井砲兵大佐談 横須賀重砲兵聯隊士官候補生 尾形 康 二記

大正三年九月二十八日敵ノ警戒陣地タル浮山孤山ノ線ヲ占領スルヤ聯隊長(陸軍砲兵中佐土居源市)ハ師團命令ニ基キ第二中隊ヲ孤山附近ニ出シテ陣地ヲ占領セシメ敵艦艇ニ對スル砲撃ヲ準備スヘキヲ命ス同中隊ハ二十八日午後十時北村少尉(亦雄)ヲ將校斥候トシ李村太獲密頭ヲ經テ滄口ヨリ水清溝ニ至ル海岸道路ヲ偵察シ且水清溝南方高地附近ニ於テ遮蔽陣地ヲ偵察セシム

中隊長下村大尉(義輝)ハ李村通過後中隊ノ指揮ヲ先任小隊長ニ委ネ水清溝ニ向ヒ先行シ孤山及大山西方諸高地ニ對スル敵ノ間斷ナキ夜間射撃ヲ冒シテ偵察ニ從事シ二十九日午前二時五十分諸偵察ヲ終リ作業隊ヲ陣地ニ先行セシメ進入路ノ構築ニ從事セシム此ノ間彈藥小隊ノ一部水清溝ヲ通過スルヤ敵ハ同地ニ砲火ヲ集中シ危害甚シキヲ以テ前進スルコトヲ得ス一時鹽灘ニ避難セリ

午後五時ニ至リ青島大港方向ニ對シ射撃準備ヲ完了シ陣地構築ノ補備作業及ヒ敵狀偵察ニ從事ス天明後モ敵諸砲臺ノ火力ハ間斷ナク中隊陣地附近ニ集中シ陣地ノ構築ニ多大ノ妨害ヲ受ケタルモ幸ニ損傷ヲ蒙ルコトナカリキ

午前七時ニ至ルヤ敵砲艦ハ大港西北方ニ驅逐艦ハ孤山西方沖ニ停止シ陸上諸砲臺ト共ニ我陣地附近ヲ猛射ス之カ爲前夜避難シタル彈藥小隊及中隊段列ハ海岸道ヲ前進スルヲ得ス其儘隱蔽シテ日没ヲ待ツノ止ムナキニ至レリ敵艦ハ終始我射程外ニアリテ射撃セシヲ以テ我ハ之ニ應戦スル能ハス切齒扼腕只敵情ヲ監視スルノミニテ其ノ爲スカ儘ニ委セサルヘカラサリキ



對シ射撃ヲ開始セシカ我第一彈ハ艦尾附近ニ落達セルヲ以テ修正ヲ行ヒ射撃シタル結果敵艦ハ遂ニ射

夜間ニ至リ敵ノ射撃ハ一層猛威ヲ加ヘ午後八時放列通信手一名兩股ニ負傷シ馬一頭即死シ彈藥補充ハ辛シテ人力ニ依リ天明迄ニ其半數ヲ終リタルノミナリキ此ノ如ク二十九日ハ終日間斷ナキ砲火ニ浴シテ陣地構築ニ從事セルノ狀況ナリキ明クレハ三十日午前六時三十分ニ至ルヤ敵砲艦ハ大港西北方ニ驅逐艦ハ孤山西北方沖ニ來リ停止シ射撃ヲ開始セリ依ツテ午前八時三十分砲艦ニ

程外ニ脱走シ大港西南方ニ停止シ再ヒ出動セサリキ敵驅逐艦ハ孤山沖合ニアリテ中隊陣地觀測所附近ヲ側面ヨリ猛射セルモ射程外ニシテ應戰スルヲ得サリキ此ノ日中隊段列ハ前位置ニアリテ夜間ノ彈藥補充ヲ準備中午後一時敵間諜ノ爲其位置ヲ發見セラレ驅逐艦ヨリノ猛射ヲ受ケ瞬時ニ輓馬十四頭即死シ四頭負傷シ車長一名前額部ニ受傷空彈藥車六砲彈ヲ受ケシカ夜ニ入り再ヒ彈藥補充ヲナシ十月一日午前四時全部ノ補充ヲ完了セリ

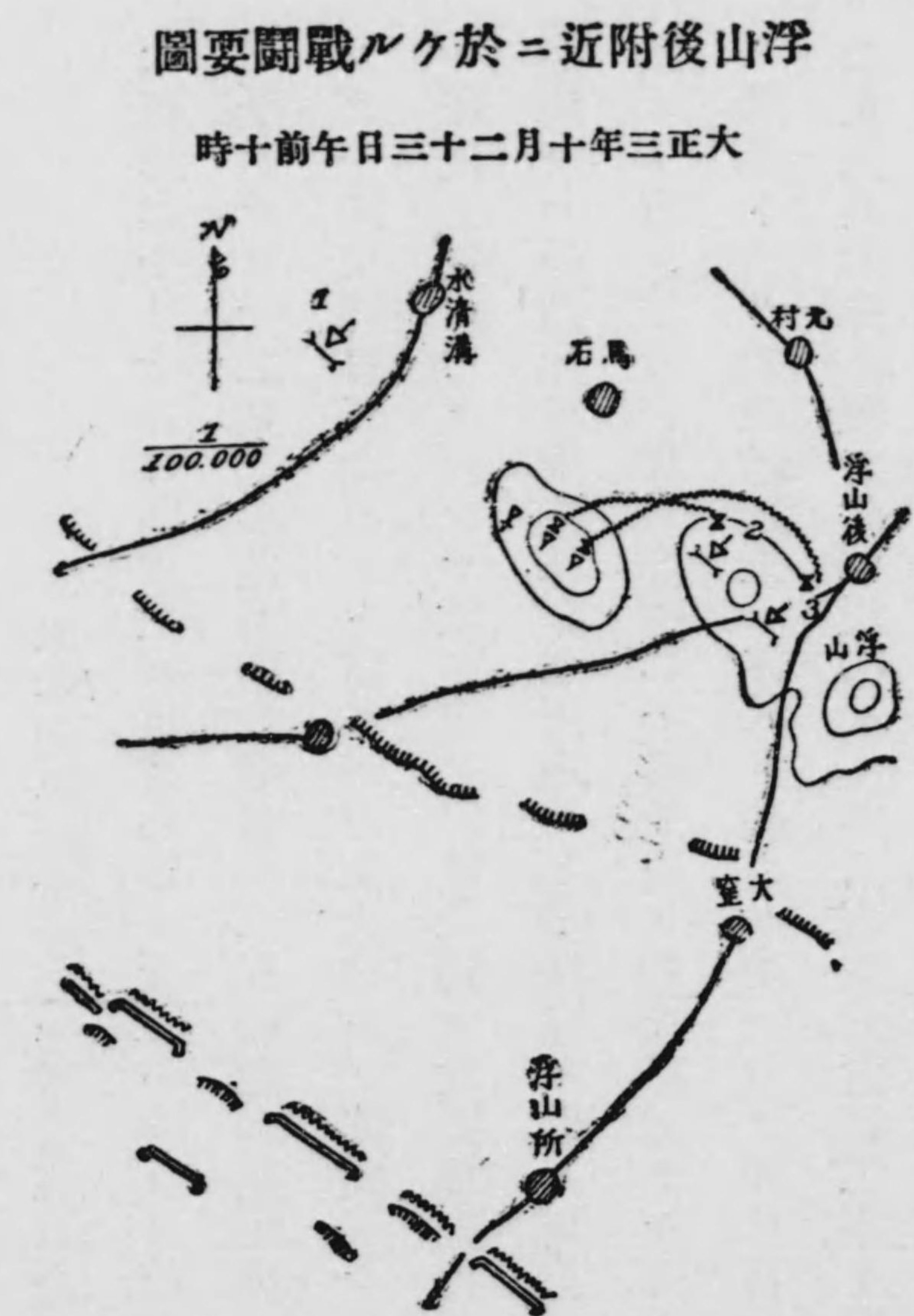
即チ本戰鬪ニ於テ得タル經驗ハ第一ニ陣地ノ遮蔽淺キ場合ニ於テハ敵ノ艦砲射撃ニヨリ大ナル損害ヲ受クルモ相當ニ遮蔽セル時ハ比較的輕微ナルコト(是ヨリ先第六中隊カ三附近ニ布陣シ敵艦ト戰鬪セル場合ハ大ナル損害ヲ蒙レリ)第二ニ間諜ニ對シ注意シ陣地秘匿ノ處置ヲ講セサレハ不慮ノ損害ヲ蒙ルコト等之ナリ

25 射撃ハ陣地ヲ暴露スル例 (日獨戰)

惠良(正)大尉談 下關重砲兵聯隊士官候補生 三 町 進記

大正三年十月二十三日浮山後附近ノ戰鬪ニ於テ攻城重砲兵第三大隊(十加)ハ早朝ヨリ敵飛行機ノ行動ヲ監視シ其ノ飛來時期ヲ待ツ午前六時三十分敵飛行機ハイルチス山南方ニ現ハレ旋回上昇シ東方ニ飛行ス大隊ハ直チニ敵機ニ對シ射撃ヲ開始ス茲ニ於テ敵機ハ直チニ進路ヲ南方ニトリ我射界ヲ脱シテ

高度ヲ高メ我陣地ノ内部ヲ偵察シテ去ル午前八時五十分其イルチス山東南方地區ニ降下スルニ際シ我ハ追撃ヲ行フ艦ヲ戰鬪ヲ開始スルヤ我陣地ハ敵砲兵ノ猛射スル所トナリ殊ニ水清溝南方ノ第一中隊陣地ハ臺西鎮方向ヨリスル敵ノ二十四珊加農三門ノ射撃ヲ蒙リ又臺東鎮六八砲兵(野砲)ノ探射ヲ受ケ



浮山後附近ニ於ケル戰鬪要圖
大正三年十月二十三日午前十時

忽チニシテ彈雨ノ巷ト化シ死傷續出セリ
浮山後西方ノ第二第三中隊ハ放列陣地ニ於テハ損害ナカリシモ觀測所ハイルチス諸砲臺ヨリノ集中火ヲ蒙リ戰死者一名ヲ出セリ然レトモ我將卒共ニ勇敢且沈着ニシテ正確ナル射撃ヲ行ヒ以テ敵ヲ壓倒スルヲ得タリ
午前十時稍々過キ敵ハ再ヒビスマルク臺東鎮及湛山ノ諸臺ヨリ我浮山後西方及水清溝南方兩陣地ヲ猛射セリ

此ノ戰鬪ニ於テ得タル教訓

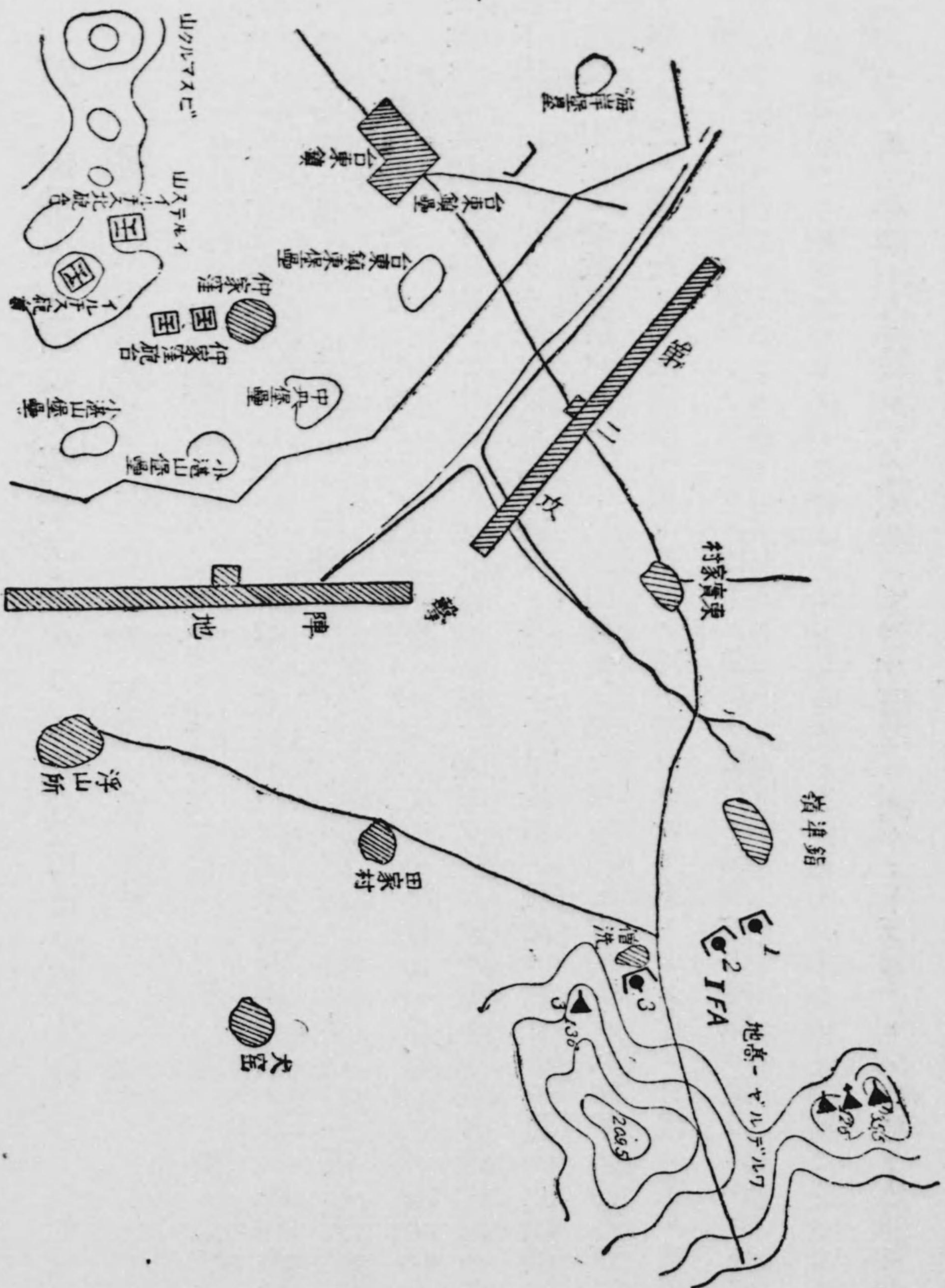
砲兵イ射撃ハ陣地ヲ暴露スルヲ通常トスルヲ以テ射撃開始時期ハ大イニ考慮セサルヘカラス

26 空中ニ對スル偽裝不充分ナルタメ砲火ヲ蒙リタル例（日獨戰）

本多砲兵中尉談 野戰重砲兵第五聯隊士官候補生 森 山 矢 八 記

大正三年十月十一日獨立攻城重砲兵第一大隊ハ步兵ノ前進ニ伴ヒ錯準嶺僧徒間ニ陣地ヲ構築スヘキ命ヲ受ケ十月十二日河馬庄西南方標高一二五高地ニ觀測所ノ構築ヲ開始ス然ルニ作業ハ專ラ夜間ノミニシテ土地又頗ル堅硬ナルト器具不足加之時々ノ降雨ニテ工事意ノ如ク進捗セス十月二十日頃射撃シ得ル程度ニ完成セリ而シテ敵要塞ノ配置及獨立攻城重砲兵第一大隊ノ陣地ハ別紙要圖ノ如シ偕テ陣地及觀測所ハ勿論休宿地糧秣分配所彈藥集積地等ハ敵ノ射線ニ對シ重疊配置ヲ避クルト共ニ遮蔽工事ニハ特ニ丁寧ニ注意シ又觀測所等ハ坊子山ノ如キ草木ナキ山ハ之カ選定上餘程ノ注意ヲ要ス然ラサレハ敵ノ彈巢トナリ戰鬪遂行上ニ支障ヲ生スル所大ナリ即チ吾大隊ニ若干遲レテ戰鬪ニ參加セル某大隊カ攻城重砲兵大隊ノ糧食分配所附近ニ陣ヲ占領シ遮蔽工事ノ實施中敵飛行機ノ發見スル所トナリ爲ニ砲火ヲ蒙リ死傷者續出シ混亂セリ當時飛行機ノ活動ハ氣流ノ平穩ナル朝夕ニ限ラレタル場合ナルニ拘ラス上述ノ如シ是此ノ大隊ハ爾後如何ニ偽裝シタルモ一度敵ニ發見セラレタルヲ以テ直ニ敵機ニ發見セラレタルニヨル故ニ陣地ヲ占領スルニ當リテハ掩體ヲ堅固ニスルコト必要ナルモ偽裝ヲ第一ニ實施スルヲ要ス

圖要位置標目及地陣隊大一第兵砲重城攻立獨



27 優勢ナル騎兵ノ襲撃ヲ受ケタル砲兵自衛ノ爲小銃

戦ヲ交ヘ勇戦之ヲ拒止シタル例 (日露戦)

渡邊砲兵中佐談

野戦重砲兵第四聯隊士官候補生

鈴木 武雄記

明治三十八年三月十日奉天附近ノ會戰ニ於ケル追撃戰闘ニ於テ聯隊長村岡大佐ノ率ユル徒歩砲兵第四聯隊ハ第六師團ニ屬セラレ追撃中ナル師團主力ニ合センカ爲渾河ヲ渡リ午後二時頃奉天東方ヲ前進中奉天小東邊門外ニ於テ突如疾風ノ如ク聯隊後尾ヨリ露第二軍ガンネンフェリド少將ノ率ユル歩兵約一ケ大隊半騎兵約三十野砲一ケ中隊ヨリ成ル後衛部隊ノ襲撃ヲ受ケタル際小隊長渡邊少尉ハ急遽命ヲ受ケ部下四十三名ヲ以テ小銃隊ヲ編成シ聯隊ノ後衛トナリ段列ノ後尾ニ在リテ一退一止頑強ニ猛烈ナル敵ノ追從ヲ拒止シ衆敵ヲ防クコト殆ト四時間最後ニ奉天東方約七吉米ナル八家子ノ部落西端圍壁ニ銃眼ヲ穿チテ之ニ據ル此ノ間死傷續出殆ト全部ノ部下殞レタルモ意トセス遂ニ日没ニ至ル迄死守奮戦シ以テ聯隊ヲシテ敵騎ノ襲撃ヨリ免レシメ安全ニ前進ヲ續行シ師團主力縱隊ニ追及スルコトヲ得センメタリ

28 十五榴中隊敵艦ト砲戦シテ友軍ノ側背ヲ掩護セシ例 (日獨戦)

石井(作)大佐談

横須賀重砲兵聯隊士官候補生

原田 菅雄記

大正三年九月二十八日孤山浮山附近ノ戰闘ニ於テ野戦重砲兵第三聯隊第六中隊ハ海上ノ敵艦艇ニ對シ我攻圍軍ノ右側背ヲ掩護スヘキ任務ヲ帯ヒ三官附近ニ陣地ヲ占領シテ敵艦艇ト戰闘ヲ交ヘ其ノ全砲火ヲ牽制シテ多大ノ損害ヲ蒙リ自ラ犠牲トナリテ師團ノ攻撃ヲ容易ナラシメタリ此ノ戰闘ノ概況左ノ如シ

第六中隊ハ九月二十八日午前七時二十分敵驅逐艦⁹⁰號ニ對シ破甲榴彈射撃ヲ行フ距離四千二百米ニシテ第三射彈ハ敵ノ艦首ニ命中シ敵ハ直チニ南方ニ退却セリ然ルニ放列ノ遮蔽淺カリシタメ容易ニ敵ノ發見スルトコロトナリ午前七時三十分以後前面ノ敵艦及孤山方面ノ敵巡洋艦「カイゼリン」及「エリザベス」砲艦「イルチス」ヨリ全火力ノ集中ヲ受ケ放列ハ殆ント彈巢タルノ觀アリ午前九時十分目標ヲ敵砲艦ニトリ曳火射撃ヲ行フ午前九時三十分敵巡洋艦及砲艦ハ再ヒ我陣地ニ猛烈ナル砲火ヲ集中シ我損害最モ甚大ニシテ死傷續出シ火砲材料モ亦大ナル損害ヲ蒙レリ然レトモ尙強靱ナル射撃ヲ繼續シ遂ニ敵ヲシテ我側背脅威ノ企圖ヲ挫折セシムルヲ得タリ

29 砲兵力陣地選定當ヲ得射撃機宜ニ適シ有力ナル敵

砲兵ヲ制壓セシ例 (日露戦)

井本砲兵大佐談

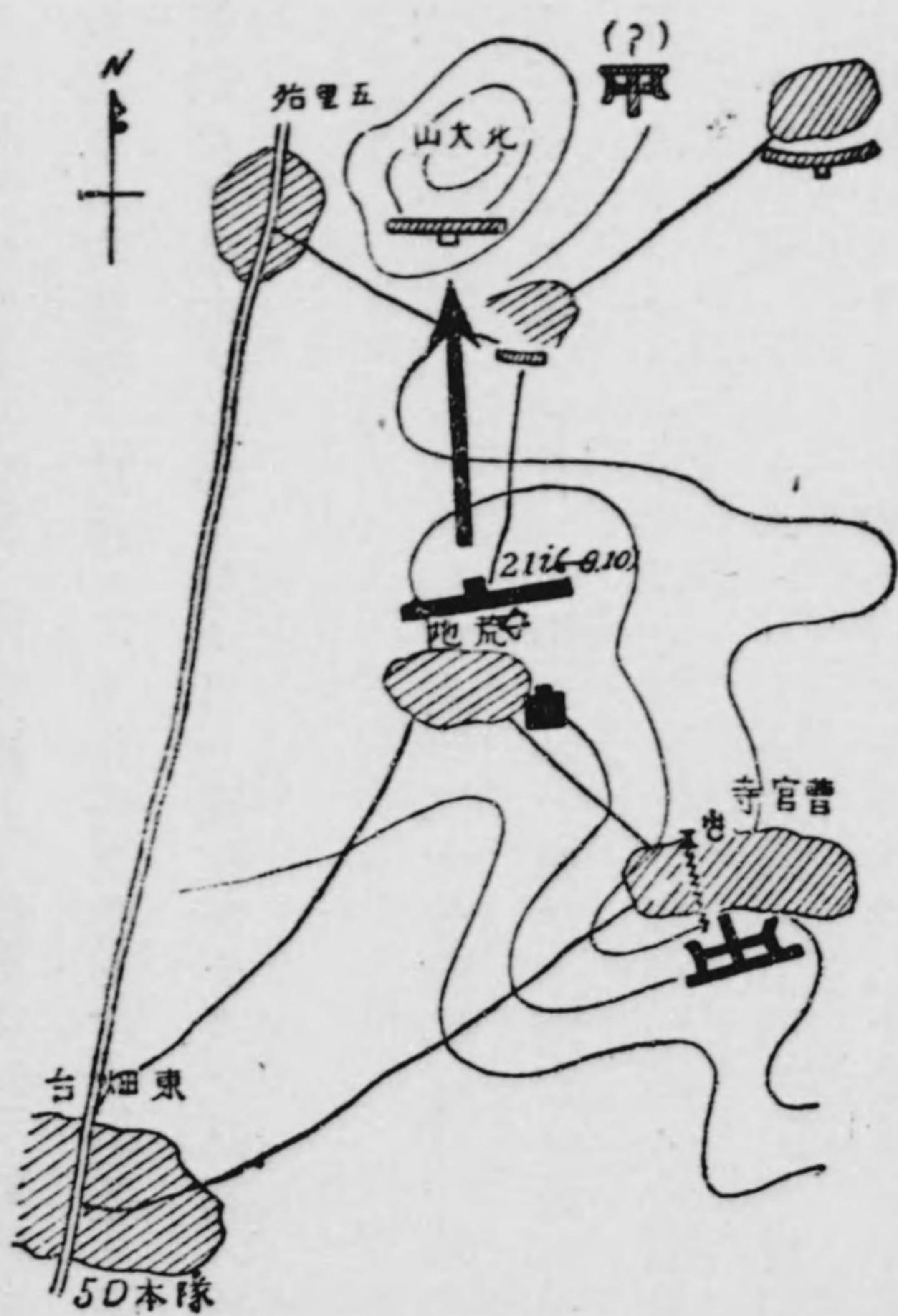
野戰重砲兵第一聯隊士官候補生

仁

科

勝記

明治三十七年十月沙河對陣ノ際第四軍ニアリタル第五師團ノ前衛司令官村山少將ハ十日荒地南方約五百米ニ開進シ午後零時十五分命令ヲ下シ步兵第二十一聯隊(第九、十中隊缺)ヲシテ荒地東北高地ヨリ北大山ノ敵ヲ攻撃シ砲兵第十四聯隊第一大隊ヲシテ曹官寺西南高地ヨリ之ヲ援助セシメ前記第九、十中隊ヲ豫備隊トシテ右翼後ヲ前進セシム是ニ於テ午後一時砲兵大隊ハ速ニ放列布置ヲ終リ直チニ五里



臺子東方ノ敵步兵ニ對シ射撃ヲ開始スルヤ敵砲兵(其ノ位置セシ地名記憶ニナシ)之ニ應戰ス其ノ砲數約四十門ニシテ我十八門ニ比スレハ二倍以上ナリシハ確實ナリ然レトモ我陣地ハ前ニ曹官寺ノ部落アリ爲ニ陣地ノ遮蔽良好ナリ即チ敵ハ我位置ヲ判斷スル能ハス唯逐次射程ヲ延伸シツツ射撃ヲナシ其效果タルヤ某距離ノ一時期ノミニシテ疾風射ノ波ハ忽チ陣地外ニ去レリ

之ニ反シテ我ハ觀測所ヲ曹官寺ノ部落北方ニ出シテ射撃スルヤ敵砲兵忽チ沈黙ス是ニ於テ我ハ之ヲ監

視シ其活動ヲ見ルヤ直ニ射撃ス

斯クノ如クシテ適時優勢ナル敵砲兵ヲ制壓スルヲ得タリ之ニ反シ我ハ敵ノ射彈放列ニ近ツクヤ地物ヲ利用シテ損害ヲ避ケ遠サカルヤ我ハ盛ニ發射シ其損害ヲ減殺スルヲ得而モ友軍步兵ハ有利ニ戰況ヲ發展スルヲ得タリ是ニ於テ感アリ即チ小部隊タリトモ其ノ陣地ヲ秘匿シ良好ナル觀測所ヲ有スルトキハ數ニ於テ劣ルモ火力ニ於テ優勢ヲ期シ得ヘク且機宜ニ適セル射撃指揮ハ頗ル射撃效果ヲ大ナラシム

第二輯

第十四

工

兵

1 遼陽戰及其前後ニ於ケル我獨立工兵小隊ニ就テ (日露戰)

石井(泰)少將談 工兵第十四大隊士官候補生 星 建 四 郎 記

今カラ日露戰爭當時自分カ小隊長トシテ獨立勤務ニ服シ遼陽戰並其前後ニ於テ爲シタル事ヲ當時ノ日誌ニ依リ昔ヲ思ヒ出シテ話ヲスル積リテアル

先ツ遼陽戰ニ就テ話ヲシヨウ

露軍ハ其主力ヲ遼陽ニ置キ一部ヲ朝鮮方面ト旅順ノ守備ニ配置シテ大決戰ヲ遼陽附近ヲスル考テアツタ

我カ第一軍ハ朝鮮ニ上陸シ五月一日九連城ヲ攻落シテ遼陽ニ向テ前進シタノテアル

當時私ハ近衛後備工兵中隊ノ小隊長テ中尉テアツタ明治三十七年七月二十三日私ハ鳳凰城ニ居タ時一時ソコニアツタ第一軍兵站監部ノ兵站電信部ノ副官代理ヲヤツタカ新ニ編成サレタ後備混成旅團ニ我工兵小隊カ編入サレタノテアル後備ノコトタカラ現役將校ハ中隊長ト私ノ二人キリタツタ一ヶ月許リ私カ副官代理ヲヤツテ居タノテアルカ早ク出發スル關係上小隊全部ノ集合ヲ待ツ事トナリ主力ヲ率キ旅團長ノ指揮ヲ受ケル爲紅盾子ト言フ五十里ハカリアル所ヘ行軍ヲ初メタ之ハ七月二十四日ノ事テアル

小隊ハ前ニ述ヘタ如ク其主力ハ二十四日ノ早朝ニ出發シタノテアルカ獨立小隊ノ事タカラ駄馬二頭ノ小行李ヲ持ツテ行軍シタ特務曹長ヲ一名特ニツケテ貫ヒ小隊ノ殘餘ヲ纏メ後カラ追及セシムルコトトシ我小隊ハ毎日六、七里ノ行軍ヲ續ケタノテアル此様ニ工兵小隊カ獨立シタ場合ニ一番困ルノハ給養テアルソレ故ニ小隊長ハ毎日先行シテ當夜宿營地ノ兵站司令部ヤ守備隊ニ交渉シ宿營給養等ノコトヲ小隊ノ到着前豫メ準備ヲナサネハナラヌカラ我小隊ト同行シテ行軍スル譯ニ行カヌ小隊カ獨立シテ行動スルニハ小隊長モ骨カ折レル

或ル時小行李駄馬ノ蹄鐵カ落チタ事カアツタカ之ニハ全ク閉口シタ當時蹄鐵工卒ハ居ヌカラ種々ト苦心モシ乘馬隊ヲ搜シ廻リ或ル知人ノ好意テ打ツテ貫ツタ事カアツタ戰時ニ於テ知人ニハ意外ノ處テ世話ニナルモノテアル又コウシタ場合小隊長自カラ交渉ノ任ニ當ラナケレハ到底手間取り早ク行カナイモノテアル

出發シテカラ七日目ノ七月三十日ニ目的地テアル紅窟子ニ午後七時頃到着シタ小隊長ハ先行シテ工兵小隊到着ノ旨ヲ旅團長ニ報告シ我小隊ハ樹下ニ露營シタノテアル

獨立小隊ヲ轉々方々ニ行動スルカラ被服等ノ補充モ手ニ入ラス靴ハ途中テ役ニ立タナクナツテ兵卒ハ毎夜宿營ニ就クト吠ノ藁テ草鞋ヲツクツソレヲ履イテ行軍ヲ續ケタノテアル紅窟子到着ノ夜モ夕食ヲ濟セルト共ニ兵卒ハ直ク例ニ依リ草鞋ヲ作り出シタ私ハ其苦勞ヲ可愛想ニ思ヒ側ニアル兵卒等ノ語

ヲ聞キ乍ラ其仕事ヲ見詰メテキタ其時タツタ丁度午後九時タツタと思フ旅團長カラ直ニ余ニ來レト言フ傳令カ來タ行ツテ見ルト明三十一日ハ檜樹林子ノ敵ヲ攻撃スルカラ明朝午前五時マテニ橋頭ト張家堡子間ノ畑地ニ集合スヘシト言フ旅團命令ヲ受領シタ

命令ヲ受領シテ我露營地ニ歸ツテ見ルト兵ハマタ寢テキナイ皆起キテ草鞋ヲ造ツテ居ル時計ヲ見ルト午後十時タ距離ノ關係上我小隊ハ明朝三時ニハ集合シテ行カナケレハナラナイ連日ノ行軍ニ疲レキツタ體ヲ今夜コソハユツクリト休マセル事カ出來ルト思ヒノ外今既ニ旅團命令ヲ受取ツタ小隊ノ集合命令ハ下サネハナラヌ靴ヲ一生懸命作ツテ居ル兵卒ノ心中ヲ思フト涙カ出ル此ノ時ノ小隊長ノ胸中如何私ハ全ク感慨無量テアル

翌三十一日午前五時豫定ノ如ク集合地ニ至リ我第十二師團ノ豫備隊ニ在リテ命ヲ待ツテ居タノテアルカ別段任務モ與ヘラレナイ又一般ノ狀況モ分ラナイ活動モ出來ナカツタ兵卒ハ連日ニ互ツテ行軍ノ疲勞ト睡眠不足ノ爲島ノ中テ炎天ニ照サレナカラ皆グウ／＼寢テ居ル

夜ニ入り彼我ノ銃砲聲モ止ミ檜樹林子ノ攻撃モ我軍ノ勝利ニ歸シ戰鬪モ一段落ヲ告ケタ各部隊ハ其儘ノ隊形テ露營ス戰場タリシ橋頭ニハ兵站司令部ヲ開設セラレ我工兵小隊ハ橋頭ニ到リ該地兵站部守備トナレト言フ命令ヲ受ケタノテ些カ余ノ期待ニ反シ殘念トハ思ツタカ命令ナレハ致シ方ナシ早速我小隊ハ兵站司令官ノ指揮ヲ受ケ任務ニ就ク兵站司令部ノ守備ヲナスト謂ヘハ閑ノ様ニ考ヘラレルノテア

ルカ事實非常ニ多忙ナノテアル戰後開設セラレタ許リナノテ後方ヨリ輸送サレテ來ル軍需品ノ整理ヤ又ハ還送ヲナシタリ歩哨ヲ配置シテ警戒スル等中々業務ハ多忙ソウコウシテ居ル内ニ榆樹林子ノ戰ニ於テ捕虜トナツタ露兵下士卒五十四名將校五名カ後送サレテ來タノテ今度ハ之ノ世話モヤラネハナラヌ又工兵トシテノ作業モヤツタヤレ道路ノ補修ヤレ短橋ノ架設ヤレ下水溝ヲ作レ等益々多忙ニナツテ來タノテアルソレニ露兵ノ捕虜ハ中々贅澤ナ事ハカリ言ツテ弱ラセラレタ握飯ヲ喰ハセ様ト思ヘハ彼等ハ「匙カナケレハ食ヘラレヌ」ト言フカラ仕方ナク木片ヲ匙ノ様ナモノヲ作ツテヤルト今度ハ「暑イカラ水浴サシテクレ」トカ勝手ナコトヲ言フノテ横面ヲ張飛ハシテヤリタイト思フコトモ屢々アツタカソウモ行カス水浴モサシテヤツタ

ソウスルト將校ノ水浴ノ時ハ同シ捕虜タル兵卒ヲ當番トシテ出シテ呉レイトマテ言フ我々日本人トシテハソナ事ヲ言フモノハアルマイ此ノ様ニシテ八月一日カラ一週間經過シタ其内少隊ノ殘餘モ到着シ八月七日ハ我小隊ハ工兵第十二大隊長ノ指揮ヲ受クルコトニナツタ暫ク此處ニ勤務ニ服シテ居ツタノテアル

當時我第二軍ノ最右翼ニアツタ第十二師團方面ハ後方輸送カ續カナカッタノテ糧秣ニ缺亡シ非常ニ困難ナ狀況テアツタ榆樹林子ノ戰鬪カ濟ンテ漸ク若干ノ米ノ補給ハツイタカソレモ一人ニ就キ米六合然モ成ル可ク全部ハ食ハナイ様ニト言フ有様テアリ副食物ノ如キハ全然無カッタノテアルソレモ幸ヒ其頃滿州ノ野ハ野菜カ豊富ニアツタノテ何カ鹽氣サヘアレハ野菜ヲ煮テ副食物トスルコトカ出來タノ

テアツタ各人ニ二匁平均ニ渡ツテ居タ醬油エキステ野菜ヲ煮テ食ヒ之ヲ唯一ノ御馳走トシテ居ツタ位テアル

實際戰地ニ在ツテ不自由ヲ感スル事ハ想像以上ノテアル工兵ハ特ニ余ノ小隊ノ様ニ獨立小隊トナツテ行動シテ居ルト戰始マレハ前方ニ出サレ終レハ交通路ノ整理等テ後方ニ下リ始終A地ヨリB地ヨリC地ヘト轉々移動セナケレハナラヌノテ非常ニ困難ナノテアル故ニ工兵タルモノ平素困苦缺乏ニ耐エ得ル體力ヲ練リ更ニ健脚ヲ鍛エテ置カナカッタナラハイサト言フ場合ニナツテハタハツテ物ノ役ニ立タナイト言フ様ナコトニナルノテアル、サテ時恰モ滿州ハ雨季テアツテ連日ノ降雨ニ諸河川ハ氾濫シ太子河モ非常ナ増水テ橋梁ノ流失等各所ニ頻發シタノテアツタ八月九日我工兵小隊ハ工兵大隊長ノ命令ヲ受ケ塞馬集(橋頭ヨリ約二十里後方)ニ至リ該地附近ノ諸橋梁ノ修理ヲ命セラレタ依テ小隊ハ八月十五日出發シ一日約十里ノ行軍ヲナシ途中草河長嶺ヲ經テ十一日午後六時塞馬集ニ到着翌十二日ヨリ直ニ作業ニ着手シタノテアル何分僅カ六十名足ラスノ人員テアルカラ何ウシテモ手不足テ作業ハ思フ様ニ出來ナイノテ支那人ノ人夫ヲ一日三、四十名宛ヲ傭ヒ入レテ、七、八十米突ノ橋ニケ所ノ架設及其他所々ノ修理ヲサシタ八月二十一日我カ小隊ハ所屬旅團ニ復歸スヘク命令ニ接シタ處カ塞馬集兵站司令官ハ「只歸ルコトナク途中ノ道路ノ修繕ヲヤリナカラ歸ツテクレ」ト言ハルルノテ歸路道路ノ補修作業ヲシツツ漸ク八月二十八日小隊ハ千金溝ノ旅團司令部所在地ニ歸ツテ來タ

梅澤旅團長ハ待兼ネテアツタノテ直ク馬ヲ飛ハシテ旅團長ノ許ニ至ルト早速次ノ命令ニ接ス其要旨ハ「旅團ハ近日中ニ本溪湖ヲ攻撃スル決心テアルカラ貴官ハ直ニ太子河ノ河川偵察ヲナシ徒渉點ノ有無其設備等ニ就キ充分調査シテクレ」トノコトアツタ、余ハ「只今工兵小隊ノ兵卒ハ長途ノ行軍ト作業テ非常ニ疲レテ居ルカラ一分隊ハカリノ歩兵ヲ援助ニ出シテ貫ラヒタイ」ト希望シ準備ヲ整ヘ翌二十九日朝我小隊ニアル安井ト言フ現役ノ上等兵ト老母岑守備隊ヨリ出シタル歩兵ヲ率キテ河川偵察ニ向ツタ當時地圖等ハ殆トナク只至極簡單ナモノテ二十萬分ノ一程度ノ地圖アルノミ、ソレモ將校以上カ漸ク持ツテ居ルニ過キナイノテ現地ニ就テヨク視察スルヨリ方法ハナカッタノテアル、漸ク太子河ニ辿リツイタカ白晝直接偵察スルコトハ困難テアルカラ先ツ孤家子ノ東南方高地ニ登リ河川ノ狀況ヲ見タ所高地ノ稍々上流屈折部ニ徒渉出來ルト思ハレル所アルヲ判斷シタ對岸ニハ敵ノ監視兵カ所々ニ居ルコトデアリウツカリ出來ナイカラ一策ヲ案シ安井上等兵ニ土民ノ如ク變裝サセ歩兵ヲ後岸ニ散開シ其所ヲ徒渉サセタ所カトウカコウカ無事ニ渡ル事ハ出來タカ何シロ腰位ノ深サカアルノテ更ニ上流威寧城附近ニ於テ偵察仕様ト思ツタソコテ歩兵四名ヲ選抜シ其他ハ殘置シ更ニ上流ニ向ツテ進ンタノテアル夕方上流一里許ノ石灰窖子ニ着タ處カ支那民家ノ犬カ吠エルノテ非常ニ困タ敵ハ覺ツタカ時折對岸ニ銃聲カ聞エル夜ニ入り偵察スルコトニシタ廳テ威寧城ノ左岸附近ニ來タノテ其アタリヲ見ルト何ウモ人馬カ通ツタ様ナ形跡カアルノテ先此處ヲ偵察スル決心ヲシタスルト二名ノ歩兵カ「私カ渡ツテ

見マセウ」ト勇敢ニ河ニ入り難ナク對岸ニ至リ木ノ枝ヲ折ツテ歸ツテ來タ「大丈夫渡レマス」ト報告シテ吳レタ尙且徒渉點ノ幅員マテモ測ツテ來テ吳レタノテ余ハ非常ニ感心シタノテアル歩兵ト雖モイサトナルト中々頓智カ出ルモノテアル

斯クシテ一先ツ偵察ハ終ツタノテアルカ實ハ直チニ歸レルト思ツテ飯ノ準備モ只二食分ニ過キス案外ノ時間ヲ費シ夜ハ更ケル腹ハ空ク非常ニ弱ツタ幸ヒ附近ニ唐蜀黍ノ畠カアツタノテ唐蜀黍ヲ採リ之ヲ燒イテ饑ヲ凌キ前ニ殘シタ歩兵ヲ纏メ張家堡子テ夜ノ明ケルヲ待チ八月三十日午前十時頃歸隊シタノテアル余ハ直ニ旅團長ノ許ヘ報告ニ行ツタソシテ偵察シテ來タ一步始終ヲ報告シタノテアルカ旅團長ハ「ソナナコトテハ駄目タ工兵カ居リナカラ歩兵ヲ徒渉セシムル様ナ事テハイカン」トノ一言實ハ余トシテハ心私ニ譽メラレル事ヲ豫期シテ居タノテアルカ閣下ノ此ノ言葉ニハ少シク落膽シタノテアツタソコテ余ハ「私トシテハ僅カ一ケ小隊ノ工兵テ而モ敵前テ短時間テハソナナ事ハ困難テアリマス」ト意見ヲ具申シタノテアルカ實際ノ處其當時第一軍ヨリ旅團ニ攻撃中止ノ命令カ來テ居タノテ旅團長ノ腹トシテハ余ニ充分研究サセル御考テアツタト想像スルノテアル

ソコテ旅團長ノ考案ハコウテアル支那ニハ馬車カ澤山アル其馬車ヲ澤山集メテ河ノ中ニ一列縱隊ニ列ヘ之ヲ連絡シテ橋梁トナスノテアル今一ハ支那人ノ家ニアル箆筒ヲ用ヒテ舟トナシ舟橋ヲ架設シテハ何ウカト言フ案テアル中々名案テアルカ余ハ「ソナナ事ハ敵前ニ於テハ六ヶ敷アリマス」ト言ツテ小

隊ニ歸ツタ歸ツテ暫クスルト旅團長ノ所カラ傳騎カ飛ンテ來タ

「工兵小隊長殿攻撃中止ハ取止メトナリマシタカラ至急旅團長ノ許ニ來ル様ニ言ハレマシタ」ト言フ
ノテソレテハト言フ譯テ此場合先第一ニ準備シナケレハナラナイ事ハ糧食テアルカラ炊事係ノ軍曹ニ
「至急炊ケルタケ飯ヲ炊イテ置ケ」ソシテ一同ニ出發準備ヲスル様ニ命シテ旅團長ノ許ヘ馬ヲ飛ハシタ
旅團長ハ「實ハ明三十一日拂曉本溪湖ヲ攻撃スルコトニナツタカラ太子河徒涉場ノ設備ハ貴官ノ計畫
通リヤツテ吳レ明朝迄ニハ工事ヲ完成セヨ」ト言ハレタ其カラ正式ノ旅團命令ハ漸ク午後十時頃ニナ
ツテ出タノテ急キ小隊ニ歸リテ見レハモウ飯モ出來テ居リ出發ノ準備モ終テ居ルノテ直ニ小隊ハ出發
シタ

併シ何シロ夜ノ事テアリ道モ満足ニ無キ様ナ山路テアルカラ乗馬テハ六ヶ敷所モアルソレテアルカラ
小行李馱馬ノ如キハ前進カ遅レ勝チテアル小行李ニハ鎗(手用築頭)ヲ載セテアリ此器材カ遅レテハ
仕事モ出來ナイノテ小隊長ハ後尾ニアリテ自ラ馱馬ニ鞭打ツテ急カセル始末テアツタ

小隊ノ先頭ニ行ツテ見ルト兵卒ハ連日ノ急行軍ト作業テ疲勞シテ居ルカラ休止ノ際ニハ路傍ニヒツク
リ返ツテグウ／＼寢テ居ルモノモアル有様テアル部下ヲ激勵シテ少シモ早ク目的地ニ到ルコトヲ必死
テ努メタニハ余モ閉口シタノテアツタコンナ有様テ夜明マテニ作業スル所テハナク威寧城ノ徒涉點ニ
着タ時ハ既ニ夜ハ明ケテ居タノテアツタ實ニ殘念テアツタ我歩兵ノ一部ハ既ニ渡ツタラシク人馬ノ足

跡カ澤山ツイテ居ル時既ニ遅シトハ思ツタカ徒涉場ノ標示又幅ヲ示ス爲上下流ニ抗ヲ打チ繩ヲ張ル等
作業ヲシテ居ルト旅團長カ馬テヤツテ來ラレタ色々質問サレ「小隊長歩兵ハ何ノ位渡ツタ」ト問ハ
レタノテアルカ余ハ全ク困ツタ仕方ナシニ「大分渡リマシタ」ト答ヘタルノミ今度ハ「ココハ之テヨイ
カラ我後方連絡線タルヘキ本溪湖ノ南方テ橋頭ニ至ル道路上ノ軍橋ヲ架設セヨ」トノ命ヲ受ケタ其レ
テ直ニ徒涉點ヲ出發シ午後一時小堡ニ至リ太子河左岸ニ丸太材料アルヲ偵察シ之ヲ筏トナシ架橋點ニ
下セリ當時本溪湖ハ我有ニ歸シアリ三十一日夜架橋點附近ニ宿營シ翌九月一日ヨリ作業ニ取リカカツ
タクリ舟ヲ集メテ二又ハ三舟ヲ以テ一橋脚舟トシ上流ニアツタ筏ノ材料ヲ以テ桁トシ橋床材料ハ宿營
地附近ノ民家ノ座板ヲ外シテ用ヒ漸ク二列側面縱隊ヲ以テ通過出來ル軍橋カ出來上ツタ舟橋ノ長サハ
七八十米位ト思フ九月一日、二日テ完成シタ困ツタ事ニハ威寧城テ旅團ト別レテカラ全ク連絡ヲ失ヒ
任務カ終ツテモ何處ヘ行ツテヨイカ薩張リ分ラナクナツテシマツタ兎角我旅團ニ追及スルコトニ極メ
九月三日千金溝ヘ置イテ來タ兵卒ノ背囊ヲ取りニ行キ九月四日午前七時宿營地出發セリ途中朝仙嶺附
近テ日野大尉ヨリ旅團ハ尙遠ク前進シタルコトヲ知り部下ヲ勵マシ前進ヲ急キ三家子ニテ我旅團ニ合
スル事カ出來タ本日ノ行軍里程約十里テアルカ時ハ九月四日午後七時頃テアツタ序ニ一言スルカ旅團
ハ後方ノ輜重カナイ即チ尾カナイカラ後カラ追及スルニ途中一兵卒ニモ遭ハナイカラ旅團ノ行先ヲ搜
スニ困ツタ到着スルト余ハ早速旅團長ノ許ニ報告ス旅團長ハ余ノ顔ヲ見ルヤ否ヤ「ワシハ非常ニ興奮

シテ居ルカラ後方カラ來タ冷靜ナ頭ヲ持ツテ居ルテアラウカラ貴官敵狀ヲ偵察シテ呉レト言ハレル
ノデ眼鏡ヲ手ニシテ敵狀ヲ見ルニ戰況ハ非常ニ發展シ露兵カ北方ニ退却スル有様ナトモ手ニ取ル様ニ
見エタノテアル旅團長ヲ見レハ眼ハ充血スルホト亢奮シテ居ラレ我歩兵ハ對戰中テ銃砲聲盛ナリ翌九
月五日我旅團ハ前面高地ヲ占領ス此時工兵小隊ハ掩壕ヲ作ツテクレ、交通路ヲ作レ或ハ砲兵陣地ノ設
備ヲシテクレト何カラ何マテ工兵、工兵ト言ハレルカ、ソウ手モ廻ランカラ出來ルタケヤルコトニシ
タ

九月六日七日我旅團ハ現在ノ陣地ニヨリ工兵小隊ハ作業ヲ續行シタ敵ハ連日奉天街道ヲ續々退却スル
旅團モ何ウスル事モ出來ナイ若シ一ヶ師團位アレハ敵ノ退路ニ迫テヤルカト旅團長モ歎聲ヲ發セラレ
タコトモ度々アル

以上日露戰史第三卷附圖第十五、第十六、第十七、第十九其一、第二十一、第二十三、第二十四、第
二十五、第二十七參照

我梅澤旅團ノ上平臺子へ轉進

遼陽戰後我旅團ハ上平臺子ニ轉進シ軍ノ右側ヲ掩護スルコトトナツタ九月八日其命ヲ受ケタノテ出發
準備ヲ整へ九月九日午前七時三家子東端ニ集合我小隊ハ本隊ノ先頭ニ在リテ行進シ其日夕上平臺子東
方谷地ニ村落露營ヲシタ之カラ十月ノ上旬迄我旅團ハ上平臺子邊牛堡手附近ノ陣地ニ在テ警備ニ任シ

タ我小隊ハ連日砲兵陣地ノ進入路ヤ射界ノ清掃所々短橋架設等ノ諸作業ヲナシタカ寧日モナイ有様テ
アツタ又一方ニハ絶へス敵ノ攻撃ヲ受ケタ

扱テ斯ナ突ヒ出タ地點ニ梅澤旅團カ何故ニ轉進シタカ勿論邊牛堡子ハ戰略上ノ要點テアル此ノ地點
ヨリ撫順及奉天ニ道路カ通シテ居ル先ニモ述ヘタ様ニ戰爭當時ハ日露戰史ニアル様ナ五萬分ノ一ノ地
圖ハナク粗末ナ二十萬分ノ一程度ノ路上測圖式ノモノテアツク其故邊牛堡子ハ第一軍主力ノ齊頭面テ
アルト考ヘラレ配置セラレタノテアロウ處カ實際ハ餘リ出過テ居タ梅澤旅團ハ地形上兵力ニ比シ非常
ニ廣大ナル正面ヲ取テ居ツタ之カ爲敵ハ此方面ニ大兵力カ居ルモノト判斷シタノテアロウ敵ハ此ノ方
ニ向ツテ絶へスヤツテ來ル

敵ノ襲撃ヲ受ケルノテ各部隊ニ之ヲ知ラセル方法トシテ高地上ニ信號ノ旗ヲ掲ケタ旅團長ハ「何トカ
工夫ハナイカ」ト言ハレタノテ余ノ軍用行李カラ細綱ヲ探シ出シ高地ニ旗竿ヲ立テ其レニ長イ旗ト短
イ旗トヲ附ケ綱テ旗ヲ竿ニ掲ケルコトカ出來ル様ニシタ大部隊ノ來タ時ニハ長イノヲ小部隊ノ時ニハ
短イノヲ掲ケル事ニシタ旗カ掲ルト「ソラ來タソ」ト第一線ニ就キ待チ構ヘルト言フ譯ナノテ此信號
ハ中々役立ち愚策テモナカツタノテアル

又コンナ事モアツタ戰地テ現地戰術カ行ハレタ或時旅團長ハ各團隊長ヲ高地上ニ集合セシメラレ前面
ノ敵ヲ攻撃スル方法ノ研究カアツタ余モ其末席ニアリ先頭第一着ニ試問ヲ受ケタノテ閉口シタ斯ナ

事ヲシテ其ノ日ヲ經過シテ居タカ十月七日軍命令テ旅團ハ大嶺ノ線ニ背進スルコトニナツタ當時奉天及撫順ノ敵ハ南下シテ來タ前ニ述ヘタ如ク邊牛堡へ出過キテ居ルト言フコトハ解ツタノテ大嶺ノ線ニ於テ陣地ヲ占メルコトニナツタ敵ハ攻撃シテ來ル時ハ前兆カアル數多ノ牛群カドン／＼我方ニヤツテ來ル一體露助ハ牛ヲ能ク徵發スル陣地ニハ食ヒ殘リノ大キナ牛ノ頭カコロ／＼シテ居ル位ナノテアルソコテ露助カ來ルト牛カ居ナクナリ日本兵カ行クト鶏カ無クナルト支那人ハ言ツテ居ツタ

本溪湖附近ノ戰鬪

旅團背進ト決シ旅團命令テ我工兵小隊ハ本溪湖南方ノ蔡家屯ニ到リ後方連絡ノ爲太子河架橋ヲスルコトニナツタ旅團カ大嶺ノ線ニ退却スルト早速敵ノ攻撃ヲ受ケ非常ニ苦戦ヲシタ本溪湖方面モ同様デア

ル十月九日ニハ本溪湖東方ノ兜山ヲ占領セラレ更ニ敵ノ一部ハ威寧城カラ太子河左岸ニ移リ我背後ニ出タ本溪湖方面ノ守備隊ハ三方ニ敵ヲ受ケ全ク袋ノ中ノ鼠トナツタ本溪湖兵站司令部ハ主要書類マテモ燒却シタト言フコトデア

戰史ニハ載セテナイカ斯克狀況カ急變シタノテ十月九日工兵小隊ハ蔡家屯ノ架橋ヲ中止シテ上流ノ橋梁(前ニ架ケタモノ)保護ニ任スルコトニナツタ其處テ九日朝出發龍王廟ニ到ル彼我ノ銃砲聲ハ盛テアル到着スルヤ右岸橋礎附近ニ散兵壕ヲ構築シ之ヲ占領シテ居ルト暫クシテ敵ハ河向フノ高地ニ現ハレ我ニ向テ射撃ヲ開始シタ

敵ノ射撃ハ一齊射撃デア「狙エー」ト言フ聲カ聞ヘルカラ「ソラ來ルソ」ト龜ノ子見タ様ニ壕内ニ頭ヲ引込メテ了フトバラ／＼ツト來ル「又來ルソ」ト引込メルト「バラ／＼ツ」翌十日モ同一ノ情況デアツタ本溪湖方面カ危險デアルト言フノテ第十二師團カラ應援部隊カ來ルソコテ本溪湖方面ニハ後備兵モ居ル現役兵モ居ル各部隊ノ混淆テ誰カ指揮官ト言フ事ナク互ニ協同動作テ戰鬪ヲシタ我小隊ト旅團トノ連絡ハ全ク絶ヘタコウ言フ時ハ獨斷テ任務ヲ遂行スルヨリ外ニナイ十月十一日ニハコノ方向ノ指揮官カ定リ歩兵第十四聯隊志波少佐ノ指揮ヲ受クルコトニナツタ此日敵ノ砲兵ハ太子河左岸ニ現ハレ上流一里位ノ所カラ我軍橋ニ向テ射撃ヲスル敵彈ハ橋ノ上流ニ又下流ニ後先、後先トヤツテクル裡ニ終ニ橋ノ真中ヘ「ドン」ト當ツタ橋梁保護規定ヲ書テ右岸ニ立テアツタ標札ニモ當ツタ處カ妙ナ事ニ穴丈ケ空イテ割レモシナカツタ橋脚ニハ先ニ言ツタ様ニクリ舟ヲ三雙位一絡ニシテ使ツテアルノテ彈丸カ當ツテモ舟一ツカ破壊セラレタ丈他ノ舟カ浮テ居ルカラ橋ハ沈ンタリ流レタリスル様ナ事ハナク斥候位ハ通レルノテアル橋ノ修理ハ無論晝ハ出來ナイカラ十一日夜修理シタ他ノ舟ヲ入換ヘ修理シタ旅團ハ大嶺ニ益々苦戦ニ陥リ本溪湖方面モ兜山ヲ敵ニ取ラレタカラ午後志波少佐ヨリ工兵小隊ハ豫備隊ノ位置ニ來ル様命令カアツタ依テ小隊ノ主力ヲ以テ山上ノ豫備隊位置ニ到ル行ツテ見ルト豫備隊ニハ一兵モ居ラヌ各方面カラ第一線増加ノ催促カ頻リトアルノ狀況デアツタ志波少佐ハ余ニ命スルニ工兵ハ「惜シイカ」半分丈第一線ノ伍間増加ヲシテ吳レトノコト余ハコノ「惜シイカ」ト言ハレタノニ甚タ感

激シタ早速半小隊ヲ率キテ第一線山上ニ出テ見ルト我歩兵中隊ハ約三分ノ二ハ死傷シテ居ル歩兵ノ中ニ工兵ヲ伍間増加ヲナシ射撃セシメタ敵ハ目ノ前ノ山下ニ居ル今ナラハ手榴彈ヲ大部ヤツツケタラウカ其頃ニハ手榴彈モナカツタシ爆藥ハアツタカ之ヲ利用スル知慧モ出ナカツタ惜シイ事ヲシタ此ノ間給養ハ如何ニシテ居ツタカト言フニ後方テ炊キ出シテ彈藥ノ補充ノ様ニ吠ニ入レテ第一線ノ後方ニ所々ニ列ヘテ置イテ腹ノ空イタ者ハ散開ノ儘吠ノ飯ヲツカミ喰ツタノテアル水ハ支那人カ桶ニ入レ擔テ山上ニ運ンテ呉レタ

後備兵ト現役兵トハ携行銃力違ツテ居ルカラ彈ノ補充ハ六ヶ敷カツタ苦戦ノ状態テアルト特ニ志氣ヲ勵マスコトカ肝要テアル山上第一戦ノ一ヶ所カラ「敵ハ退却萬歳」トハ聞エルソウスルト全線至ル處萬歳トノ聲響キ互ル其處彼處テ「敵ハ退却萬歳」トヤル其ノ癡敵ハ退却シテ居ラヌカラ之モ方便テアル人間ノ心理状態ハ面白イモノタ第一線ニ出タ時某現役ノ上等兵テアルカ手カ震ヘテ射撃力出來ナカツタコンナコトテハ役ニ立タヌ處カ敵退却ニ當リ追撃射撃ノ時ハ元氣ヲ出シ此ノ上等兵ハ立テ射撃ヲシタ平素大キナ事ヲ言フモノモ戰場テハ斯ンナモノテアルカラ吾人ハ平素カラ心身ノ鍛鍊ヲシテ置カナケレハナラナイノテアル十月十二日未明我右翼隊ハ軍橋ヲ渡リ前面ノ敵ヲ攻撃シタ橋頭方面カラモ集成部隊カ左岸ニ進出シ敵ハ退却スルノ狀況ニナツタ工兵小隊モ亦第一線ニ出テ追撃射撃ヲヤツタ敵ノ退却スルニ至リタルハ閑院宮殿下ノ指揮セラル騎兵第二旅團カ太子河左岸ニ進出シタカラテアル此

頃モ未タ下士以下靴ハ一足モナカツタ戦後ハ急ニ長靴ニナツタ其ハ戦死セル露助ノ長靴ヲ取ツテ穿タカラテアル草鞋カラ長靴タ併シ轉進ノ時ハ又草鞋ニナツテ了ツタノテアル露兵ノ靴ハ大キクテ行軍困難テアルカラテアル

(日露戦史第四卷附圖第十二、第十四右、第十六、第十九、第二十二右、第二十五參照)

我小隊ハ前ニハ遼陽戦ニ今又沙河會戦ニ參加シ前後二回第一軍司令官及滿洲軍總司令官ヨリ感狀ヲ貰ツタ

戦時工兵小隊ノ動作ハ斯ノ如キモノテアル連日連夜殆ント休ム違ナキ有様テアル

以上ハ遼陽戦及其前後ニ於ケル我獨立工兵小隊ノ行動テアル工操典綱領第一第二ト以上ノ行動トヲ對照セハ操典ノ精神モ分ルコトト思フ

2 夜間ノ攻撃築城ニ於テ之ニ慣熟セサル部隊ハ豫メ

充分ナル豫習ト綿密ナル協定トヲ必要トスル例(日獨戰)

池田(金)大尉談

工兵第十八大隊士官候補生

赤堀道太郎記

大正三年十一月一日青島攻撃ニ於テ部下工兵一小隊及歩兵一中隊ヲ指揮シ夜間近迫作業ヲ實施ス
薄暮ヲ利用シ作業線決定ノ爲壕ヲ出ツ敵前六百米發見セラルル顧慮大ナリシモ幸ニシテ事ナキヲ得交
通壕ニ歸還セリ是ニ於テ愈々部下ヲ作業線ニ導ク爲先ツ工兵一小隊ヨリ日常訓練ノ効アリテ整然ト位置
ニツクヲ得タリ次ニ歩兵中隊ヲ位置ニ誘導シタルモ其要領ヲ解セサルト敵前至近ナルトノ關係ヨリ意
ノ如クナラスシテ兵卒ヲ一人々其位置ニ就ケツツ進ミシカ敵方ニ足ヲ向ケ伏セル者モ尠カラス
全員ヲ徑始線ニツケ終リ前端ニ在リテ作業開始ヲ命スレトモ開始セル模様ナシ已ナク又後端迄自ラ命
シツツ引返セリ愈々作業ヲ開始スルヤ兵卒ハ先ヲ爭フテ壕ヲ掘ラントスル爲ナラン其騒々シキ事甚シ
歩兵將校モ之ヲ制止スル爲大イニ苦心セリ之皆當日ノ作業ヲ豫習セサリシニ基因スルハ勿論ナルモ歩
兵ノ築城ヲ輕視シ之ニ慣熟セサリシ點ニモアラン

敵ハ我作業ヲ發見セルモノノ如ク盛ニ機關銃ヲ以テ射撃セリ然レトモ『闇ニ鐵砲』ノ言ニ漏レス敵ノ
彈丸ハ伏姿ヲセル作業手ノ頭上約二米ヲ恰モ猫ノ鳴クカ如キ唸リヲ立テテ過クルノミ會々後方四五十
米ノ斜面ニ火ヲ發シテ集中セル射彈ヲ見ル時坐ロニ凄愴ヲ感セリ稍アリテ五六百米ノ右方ニ物凄キ爆
裂彈命中ノ爆音響ク皆二發宛ノ齊發ト思ハル五分毎ニ約五十米宛我作業隊ニ接近シ來ル兵卒ハ砲聲ニ
頓着ナク一心ニ作業ヲ繼續セルモ監視セル小隊長ノミ焦慮セリ兩三回即チ約百五十米迄接近セルノミ
ニシテ他方面ニ指向セラレ竊ニ安堵スルヲ得タリ

(イ) 此ノ作業中湧水盛ナル爲掘土ハ積土ノ兩側ニシテ取敢ヘス遮蔽高ノミヲ得ルニ努メタル部分アリキ

(ロ) 協同スル作業隊ハ晝間ニ於テ相互指揮官ノ協定及作業ノ豫習等ヲ是非必要トスルコト

(ハ) 闇中ノ射撃ハ恐ルルニ足ラス又射撃ヲナスモノハ何等カノ基準ニヨリナササレハ効果ナキコト

(ニ) 照明彈ヨリ照明セラレタル時ハ動カス射撃ノ起リタル際ハ直チニ伏スルコトハ臆病ニ非スシテ必

ス實行セサルヘカラサルコトヲ兵卒ニ教ヘサレハ少數者ノ爲失敗ヲ招ク事アリ

(ホ) 作業ハ完成時ハ勿論其中間ニ於テモ點檢スルコト必要ナリ然ラサレハ少數兵卒ノ爲計畫ヲ誤ルコトアリ

3 夜暗ニ乘シ敵ニ近接シ沈着セル作業ニ依リ成功セシ例

(要圖參照) (日露戰)

太田大佐談

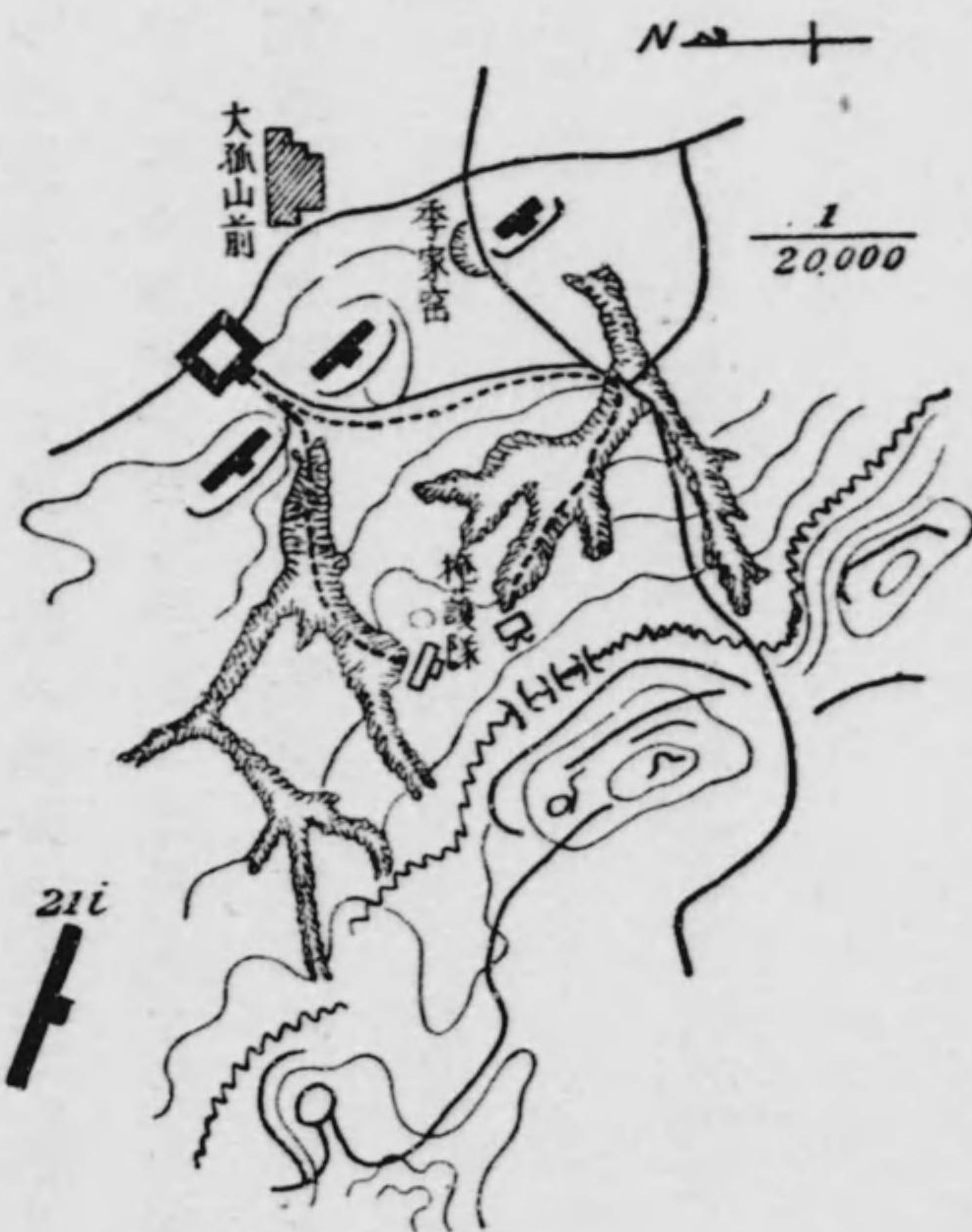
飛行第五聯隊士官候補生

森 本 重 一 記

明治三十七年八月旅順攻圍軍ハ敵本防禦陣地ヲ強襲ニヨリ奪取スヘク歩兵第十二聯隊ヲシテ東鷄冠山
東南堡壘ノ攻撃ニ任セシム其ノ突撃部隊タル第二大隊ノ配屬工兵小隊(工兵第十一大隊第一中隊ノ一

小隊)ハ先ツ敵陣地前ノ鐵條網ヲ破壊スヘク作業隊長(工兵中尉太田忠次郎)ハ一班八名ヨリナル三
破壊班ヲ編成シ各々鐵條鉄ヲ携行セシメ二十一日午前一時警戒兵ノ先行ノ下ニ敵前千米ノ幕營地ヲ出
發ス時恰モ暗夜ニシテ作業隊ハ靜肅行進ニヨリ谷地、地隙ヲ利用シツツ巧ニ敵斥候ノ警戒ヲ脱シ無事

東冠山東南堡壘ニ對スル障礙物破壞隊行動要圖
(ルケ於=夜日十二月八)



敵前二、〇〇米餘ノ地隙南端ニ達スルヲ得
タリ此ノ地點ヨリ所命ノ地點ニ分進セル各
班ハ或ハ匍匐シ或ハ體ヲ屈シ銳意近接ニ努
メ遂ニ鐵條網(深サ十米)ノ前縁ニ到達セリ
此ノ時鐵條網ノ後端ニ位置セシ二名ノ敵步
哨ハ突如我ニ向ヒテ誰何セリ之ニ驚キシ我
兵ノ一名(作業隊)何思ヒケン一發ノ射擊
ヲ以テ之ニ應シタレハ敵ハ直ニ退却セリ是

ニ於テ各班就レモ機ヲ失セス鐵線ヲ切斷シテ破壊ニ着手セシカ稍々アリテ該步哨ノ報告ニヨリケン敵
ハ陣地内ヨリ小銃機關銃ヲ以テ激烈ナル射擊ヲ開始セリサレト敵彈多クハ頭上ヲ超過シ當時既ニ數戰
ニ參與シ夜間射擊ノ眞價ヲ知レル下士卒ハ從容自若トシテ膝姿ヲ以テ銳意切斷ニ努メ各々幅員約六米
ノ突擊路ヲ完全ニ構成スルヲ得タリ

之ヲ要スルニ我企圖ヲ察知セラレスシテ敵ニ近接セシハ抑々成功ノ第一步ニシテ殊ニ敵彈下ニアリテ
從容沈着シテ作業ニ從事セシハ此ノ成功ヲ完カラシメタル所以ナリ

4 敵火殊ニ敵ノ出撃ヲ受ケツツ步兵ノ掩護ノ下ニ作業セシ例(日露戰)

高木(尙右)工兵大佐談

工兵第二十大隊士官候補生

岩

崎

大

亮記

明治三十八年二月下旬ヨリ第五師團ハ南沈且堡ヨリ長義套ヲ經テ鴨子泡附近ニ互リ陣地ヲ占領シ李家
窩柵ヨリ王家窩柵ニ互ル敵陣地ト對峙セリ當時余ハ工兵第五大隊第二中隊小隊長トシテ長義套後方右
翼旅團豫備隊位置ニ在リテ第一線步兵陣地構築援助及歩砲兵ノタメ交通設備ニ從事シアリシカ彼我第
一線ノ最前線ハ概ネ四五百米ヲ隔テ相對シ時ニ小出撃ヲ交ヘツツアリ

二月二十七日愈々各隊攻撃準備ノ位置ニ就クヘキ命アリ工兵小隊ハ中隊ヨリ分離シ師團ノ最右翼タル
在南沈且堡步兵第二十一聯隊第一大隊(白川大將閣下當時大隊長タリ)ニ配屬ヲ命セラレ午後六時小
隊ヲ率キ其指揮下ニ入ル白川大隊長ハ直ニ我カ小隊沈且堡西北約三百ニ在ル西小樹子ト稱スル一小部
落ニ步兵陣地機關銃砲ニヲ含ムノ構築ヲ命セラル、其目的ハ三月一日拂曉ヲ期シ攻撃ヲ開始スヘキ師
團主力ノタメ右翼ノ據點タラシメンカタメナリ蓋シ全部落ハ彼我ノ中間ニ在リテ從來其ノ爭奪點タリ
シト黑溝臺戰鬪以來兵火ノタメ家屋燒盡十壁崩壞殆ント據ルヘキ掩體ナカリシヲ以テ特ニ工事ヲ施シ

テ陣地タラシメントスルニ在リ

余ハ小隊ヲ指揮シ且工事援助ノ歩兵中隊ヲ指導シ夜暗ヲ利用シテ掩體ノ構築交通設備竝ニ機關銃座掩蓋ノ構築ニ努メシモ前述ノ如ク掩體トシテ利用スヘキ材料殆ントナク加フルニ凍結ノタメ土地ノ堀開頗ル困難ナリ僅カニ崩壞セル土壁塊又ハ瓦片ヲ蒐集堆積シ以テ伏姿乃至膝姿ノ掩體ヲ得ント焦慮スルノ外手段ナカリキ

夜半十二時頃我作業ハ敵ノ感知スル所トナリ盛ニ敵歩砲火ノ猛射ヲ蒙リ作業進捗セズ翌二十八日午前
三時ヨリ六時ニ亘リ敵ノ妨害益甚シク且數次ノ夜襲ヲ受ケタリシモ幸ニ歩兵中隊ノ援護ニ依リ之ヲ擊退シ得タリ然レトモ到底完全ナル掩體ヲ完成スルニ至ラス天明ト共ニ工事ヲ中止シ南沈且堡ニ後退シ該狀況ヲ報告セリ

同夜敵ノ發射セシ砲彈ハ射距離短小ナルタメ著シク落角小ニシテ蕪射ノ利アルモ一方地物ノタメ死角ヲ形成スルコト亦大ナリキ然レトモ近距離ニ於ケル落雷ノ如キ發射ノ閃光ト榴霰彈ノ爆裂トハ殆ント同時ナリシヲ以テ作業間ニ於テハ殆ント遮蔽ノ暇ナキノミナラス小銃火ハ間斷時ナラス其掩護ニ關シテハ論スルノ餘地ナシ天祐ノタメ兵卒數名ノ負傷者ノ外小隊長以下大ナル損害ナカリシハ幸ナリキ
翌二十八日晝間我小隊ハ白川大隊長ノ命ニ依リ小樹子ヨリ南沈且堡ヲ經テ後方柳條口旅團司令部前ニ到ル間ノ電話線ノ架設南沈且堡附近交通設備並ニ同地大隊豫備位置ノ掩蔽設備等ニ從事シタリ就中晝

間敵火ニ暴露シ南沈且堡小樹子間ニ架設セル電話作業ハ最モ困難ナリシカ勇敢ナル某上等兵ハ卒二名ヲ指揮シ能ク任務ヲ完了セリ

是等ノ作業完成後余ハ小隊ヲ率キテ一旦工兵大隊ノ位置タル姚蛇子ニ歸リ武裝ヲナシ且小隊配屬小行李馱馬等ヲ受領シ前進準備ノ態勢ヲ整ヘ再ヒ南沈且堡ニ赴ケリ

午後七時白川大隊長ノ命ニ依リ更ニ前任務ヲ續行スヘク小樹子ノ陣地構築ニ着手歩兵約二ケ中隊ハ作業援助並ニ掩護ニ任セリ當夜ニ於ケル敵ノ妨害及作業ノ困難ハ前夜ニ比シ更ニ甚タシカリシモ翌三月一日未明迄ニ辛ウシテ極メテ薄弱ナル第一線歩兵二ケ中隊ノ據ルヘキ掩體並ニ機關銃二銃ノ掩體ヲ構築シ得タリ

三月一日午前六時愈師團ノ攻撃開始ノ命令ニ基キ白川大隊長ハ歩兵二ケ中隊ヲ第一線トシ殘餘ノ中隊及我工兵小隊ヲ豫備トシ先ツ小樹子ニ攻撃準備ノ位置ニ就クヘク左ノ要旨ノ命令ヲ下セリ

一、師團ハ午前八時砲擊開始後遅クモ一時間ノ後攻撃前進ヲ開始ス

二、我大隊ハ師團右翼隊トナリ小樹子ニ在リテ先ツ師團主力ノ突撃前進ヲ援護シ後主力ニ連繫シテ沙山ノ敵陣地ニ向ツテ突撃セントス

三、各部隊ハ日ノ出迄ニ未完成ノ工事ヲ續行シ日ノ出ト共ニ豫定ノ位置ニ就クヘシ

四、余ハ豫備隊ト共ニ西部小樹子ニアリ

午前八時師團ハ豫定ノ如ク先ツ砲撃ヲ開始シ彼我ノ砲聲百雷ノ如ク我重砲彈ノ敵陣地ニ爆裂シ土砂ノ崩壊飛散ノ状恰モ陣地ハ根底ヨリ破壊撲滅セラレタルノ觀ヲ呈シ次イテ攻撃前進ヲ開始シ奉天大會戰ノ幕ハ開カレタリ

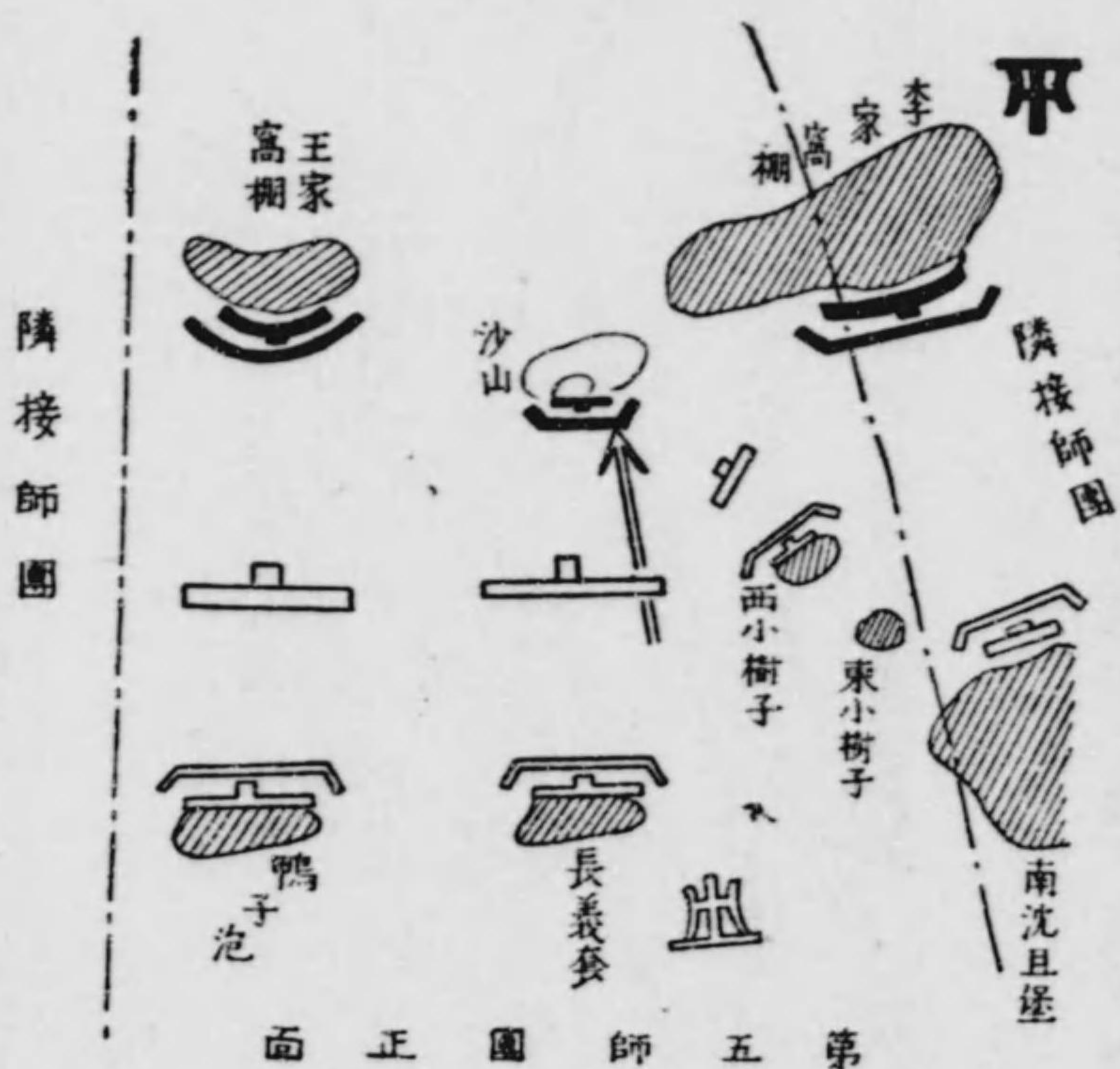
我右翼大隊ハ豫定ノ如ク極力小樹子ニ在リテ師團主力ノ前進ヲ掩護シタルモ猛烈ナル敵火ト土地凍結ノタメ十分ナル掩體ヲ得ラレサリシトニ依リ師團主力ノ前進遲滯シ敵陣地前三、四百米ニ於テ己ニ兵力ノ大半ヲ失ヒ伏臥ノ儘更ニ前進進捗セス我右翼大隊亦午後二時攻撃前進ヲ開始シ工兵小隊ハ敵副防禦破壊ノ裝備ヲナシテ第一線歩兵兩中隊ニ分屬シ步兵ニ尾シテ小樹子ヲ進出シタルモ午後六時前迄ニ師團主力ト同シク敵前三四百米ニ達シテ停止スルノ已ムナキニ至リ午後六時半薄暮ヲ俟テ遂ニ萬難ヲ排シテ突撃ヲ敢行シ漸ク敵陣地ヲ奪取セリ工兵小隊モ亦歩兵ト共ニ敵副防禦ヲ破壊シツツ敵陣地ニ突入セシモ其ノ苦戰實ニ想像ニ餘リアリ工兵小隊ニ於テハ下士以下十數名ノ死傷其他乘馬(自馬)及馱馬二頭ヲ失ヘリ

以上ハ主トシテ攻撃準備位置ニ於テ近距離ニ對峙セル敵ノ猛烈ナル妨害ヲ受ケツツアル場合ニ於ケル工兵小隊長トシテノ第一線陣地構築指揮ノ經歷談ノ概要ニシテ余ニ與ヘタル教訓中主要ナルモノ左ノ如シ

一、敵前近距離ニ於テ其歩砲火ニ加フルニ出撃ヲ以テ妨害セラレル場合ノ作業指揮ニ於テ最モ困難

李家窩附近第五師團展開要圖

(三月一日午後二時於ルケ)



トスル所ハ兵卒ヲシテ武力ヲ以テ敵ニ對抗セシメ得サルニ在リ從ツテ操典ノ所謂從容自若トシテ專心作業ニ就カントスルモ其ノ心理ニ於テ異ル所アリテ指導頗ル困難ナル所アリ故ニ平素ノ精神教育ニハ十分注意スヘキヲ痛感セリ

二、敵前ニ於ケル兩翼隊ノ連絡用電話線架設作業ノ如キ敵火ニ對スル横方向ノ暴露作業ハ最モ困難ニシテ一意前進スルモノニ比シ被害一層大其沈着豪膽ヲ必要トスルコト更ニ切ナリ是レ亦平素ノ精神教育ニ俟ツ所大ナリ

三、近距離ノ敵砲彈ハ發射ノ音又ハ其ノ閃光ニ依リテ豫知シ之カ對抗手段ヲ講スル餘裕ナキモ前述ノ如ク落角小ナルタメ僅小ナル地物モ容易ニ其榴霰彈ノ被害ヲ避ケ得ルノ利アリ

四、戰鬪酣ナル時指揮官カ後方ヲ顧ルハ極メテ必要ニシテ前方ニノミ着意スルノ餘リ往々之ヲ閑却スルノ弊アルハ歴戰者ノ戒ムル所ナリ余カ本戰鬪ニ於テ自馬及馱馬ヲ失ヒタルハ是等非戰鬪者ノ掩護ニ關シ注意周到ヲ缺キシニ因レリ

5 幹部力敵彈下ニ止リテ所在ノ遮蔽物ヲ求メ偵察及計畫ヲナセル例

(日露戰)

田中(良)中佐談 工兵第一大隊士官候補生 山 田 義 次記

明治三十七年四月中旬第一軍ニ屬セル第二師團ハ義州附近ニ於テ渡河準備中九連城附近ノ敵砲兵ヨリ屢々砲撃ヲ受ケ多少ノ損害ヲ被レリ我軍亦野砲兵ヲ鴨綠江岸ニ進メ之ニ應セントセシモ射程ノ關係上(當時ノ野砲最大射程約四〇〇〇)更ニ陣地前方ニ推進スルノ必要ヲ生シ工兵第二大隊第一中隊ハ義

州南方西胡洞附近ニ架橋ヲナシ黔定島ニ至ル進路ノ開設ヲ命セラル

中隊長小出(東次郎)大尉ハ即チ所要ノ準備ヲ爲シ四月二十二日架橋作業ニ着手セリ然ルニ該架橋點ハ九連城附近ノ敵ヨリ瞰視セラルル位置ニアリシ爲我カ作業ヲ開始スルヤ敵ノ砲兵火ハ我ニ集中セラレタルモ勇敢ナル工兵ハ臆セス作業ニ従事セリ敵火益々熾烈ノ度ヲ加ヘタレハ中隊長ハ部下ノ

死傷ヲ顧慮シ一時安全地帯ニ退キテ機ヲ待ツヘク命セラル依而各小隊ハ作業ヲ中止シ後方約百五十米



ナル凹地内ニ入レリ然ルニ中隊長小出大尉ハ集積シアル材料ニ遮蔽シテ敵狀ヲ偵察シ「此ノ材料ノ蔭ニ居レハ大丈夫シヤ」ト依然自若トシテ爾後ノ計畫ヲナシツツアリ爾來中隊長ハ兵ノ信賴頓ニ厚ク戰役ヲ通シテ其ノ志氣頗ル揚リタル原因ハ一ニ中隊長ニ存ス因ニ中隊長ハ曾テ北清事變ニ從軍シ彈雨ノ洗禮ヲ終ヘタル經驗者ナリ幹部力彈雨下ニ泰然タルハ兵ノ士氣鼓舞ニ與ツテ力アリ而シテ沈着シテ考フレハ必ス適當ナル遮蔽物ハ求メ得ラルルモノニテ必スシモ危険ナルモノニハアラサルナリ

6 突撃隊ニ先ンシ障碍物ヲ破壊シ以テ敵陣地奪取ニ成功セシ例 (日露戰)

矢崎(博)大佐談 工兵第二大隊士官候補生 安 藤 進記

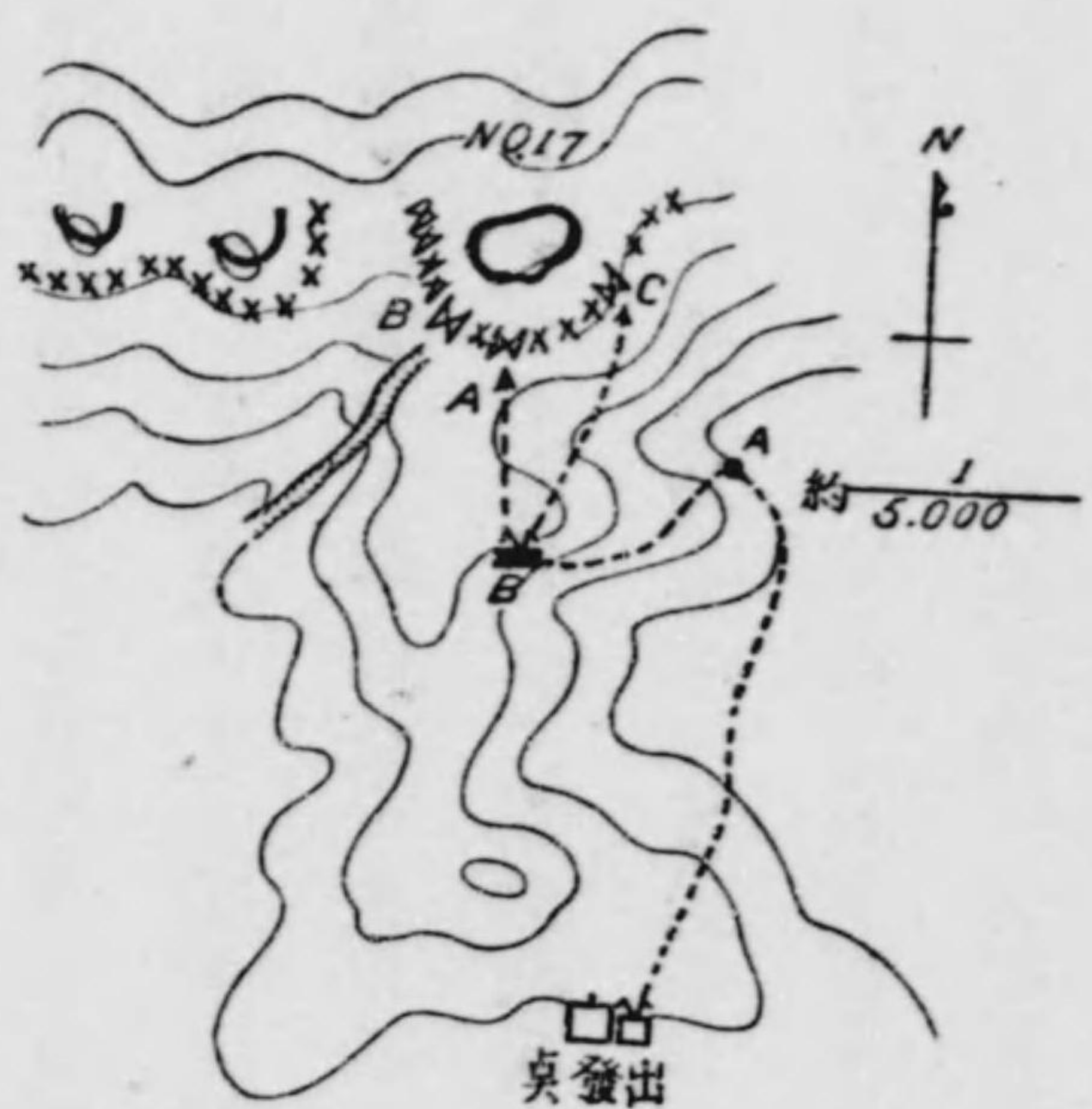
明治三十八年三月一日奉天附近ノ會戰中歩兵第四聯隊ノ紅土嶺攻撃ニ當リ敵陣地ハ堅固ナル鹿砦ヲ以テ圍マレ加フルニ敵ハ二重ノ散兵壕ヲ設ケ其防備至嚴ニシテ攻撃容易ナラス茲ニ於テ陳家街ニ在リシ第四聯隊長河内中佐ハ新ニ配屬セラレタル工兵小隊ニ命シ敵陣地前ノ鹿砦ヲ破壊セシム王富嶺勾口ニ在リシ工兵第二大隊第三中隊第二小隊(矢崎少尉以下五三名)ハ小行李第一種器具駄馬二頭第四種器具駄馬二頭ヲ屬セラレ同地ヲ出發シ陳家街ニ至リ歩兵第四聯隊長河内中佐ニ届出セシハ

午前四時二十分ナリキ時ニ聯隊長ヨリ
 貴官ハ第二大隊長神戸少佐ノ指揮ヲ受ケ紅上嶺第十七號堡壘攻撃ノタメ副防禦破壊ヲナスヘシ
 トノ命令ヲ受ケ爆彈、鐵條鉄、斧等ヲ準備シ同地ヲ出發シ紅土嶺南方谷地獨立家屋ニ至リ武器爆彈破
 壞器具等ヲ除クノ外裝具全部並ニ小行李ヲ殘置シ第二大隊ニ合セントシテ淡キ月下ニ急進セシモ第二
 大隊ノ位置不明ニシテ急峻ナル山谷ヲ彷徨シ午前六時二十分辛ウシテ堡壘南方約五百米ノ高地ニ於テ
 同大隊ト合スルヲ得タリ

茲ニ於テ第二大隊長ノ指示ニ依リ各破壞隊ノ部署ヲナス
 第一破壞隊(二分隊)ハ小隊自長ヲ之ヲ指揮シ第十七號堡壘前ノ鹿砦破壞ノ爲斧ヲ携行シ步兵選抜破壞
 隊ト共ニ突擊隊ノ先發ヲ潛行シ
 第二破壞隊(二分隊)ハ先任分隊長ヲ其長トシ鐵條鉄爆彈ヲ携行セシメ第十七號堡壘占領後其ノ左側陣
 地ニ突入スル爲第十七號堡壘ノ側面ノ鹿砦及鐵條網ヲ破壞シ尙續イテ左側陣地前ノ鹿砦破壞ノ爲步兵
 突擊部隊ノ後尾ヲ潛行セシメ更ラニ一分隊ヲ豫備トシテ第二破壞隊ノ後尾ヲ前進セシム
 部署終リ午前六時三十分出發シ敵ニ面スル斜面ヲ潛行ス斯クシテ十分後ニハ要圖ニ示ス小隊進路aニ
 至ルヤ敵ノ發見スル所トナリ猛烈ナル射撃ヲ受ケ己ムヲ得ス進路ヲbニ轉シ部隊ノ整頓ヲナス然レト
 モ地形急峻ニシテ進路變換ノ際部隊少シク混亂シ其ノ人員モ混雜セシモ時既ニ天明ニ及ヒ好機ノ去ラ

ンコトヲ虞レ猛火ヲ冒シ斷然作業ヲ決行ス

先ツ鹿砦A部ニ至リ全員伏姿勢手力ヲ以テ樹枝ヲ引抜カントセシモ各樹枝ハ鐵線ヲ以テ堅固ニ結着セ
 ラレアリ目的ヲ達スル能ハス依ツテ死傷ヲ顧ミス斧ヲ振ツテ鐵線ヲ切斷セシム之カ任ニ當リシ者悉斃



A、B、Cハ突擊路ニシテ
 A、第一破壞隊カ敵火ノ下ニ強硬破壞セル
 B、ハ第一破壞隊殘存者カ天明後掩護射撃
 C、ハ第二破壞隊ノ一部カ突擊隊ニ先行シ
 テ破壞スルモノ巾七米

レシモ良ク目的ヲ達シ約五米ノ破壞口ヲ開キ得タリ既ニシテ午
 前七時天全ク明ルヤ我步兵ハ砲兵掩護射撃ノ下ニ之ヲ十米トシ
 尙B地點ニモ巾十米ノ破壞口ヲ設ケ殘レル人員ヲ地隙ニ集結シ
 テ步兵ノ突擊ヲ待ツ午前八時ニ至リ敵ハ我猛射ニ堪エス動搖ヲ
 始ム此ノ機ヲ失セス步兵突擊ヲ敢行セリ是ヨリ先キ步兵ノ一突
 擊部隊ハ方向ニ進出セシモ鹿砦ニ破壞口ナカリシヲ以テ第二破
 壞隊長ハ部下十一名ヲ以テ猛烈ナル敵ノ側防火ヲ冒シC點ニ突
 進シ此處ニ約七米ノ破壞口ヲ設ケタリ午前八時二十分步兵突擊
 部隊ハ壕内ノ敵ヲ白兵戰ニ依リテ驅逐シ第十七號堡壘ヲ占領セ
 リ之ト共ニ左右ニ連繫セル敵ハ悉ク退却シ紅土谷附近一帶ノ高
 地ヲ占領スルヲ得タリ

7 歩兵掩護ヲ缺キ攻撃築城不適當ナリシ例 (日露戰)

匿名氏談 工兵第五大隊士官候補生 田 淵 宗記

明治三十七年九月二十七日松樹山方面ニ向ヒタル工兵第九大隊ノ第一中隊ヨリ成ル作業隊ハ再三ノ強襲ノ失敗ニ基キ正攻撃ノ開始サルルニ伴ヒ第一回ノ作業計畫ニ基キテ敵銃砲火ノ雨下スル敵前僅カニ百米餘ノ地點ニ於テ近迫作業ヲ實施ス土地岩石ニシテ薄暮ヨリ作業ヲ始ムルモ掘開スルコト僅ニ十糧餘ニ過キスシテ拂曉トナリ已ムナク後方ニ退ケリ翌二十八日日没後再ヒ作業ヲ續行セントセシニ敵既ニ該地ヲ占領シテ一據點トナシイタリキ故ニ支援トシテ歩兵一中隊ヲ得之ヲ擊退セシニ殆ト何等ノ抵抗モ試ミスシテ退却セリ蓋シ敵兵五六名ニ過キサリシナラン

翌二十九日拂曉前陣地ニ後退セントセシニ敵ハ我カ後退ニ追尾シテ該地ヲ占領セント企テタルヲ以テ歩兵ノ力ヲ借リ之ヲ擊退シテ退キヌ

此ノ日ハ再三ノ失敗ニ鑑ミ日没前作業續行ノタメ更ニ陣地ニ赴キシニ敵ハ既ニ之ヲ占領シアリテ銃砲火ヲ發射セリ依テ再ヒ歩兵支援ヲ得之ヲ擊退セントセシモ日既ニ没シテ指揮錯亂シ各兵全ク統一ナク混亂シテ效ヲ奏セス只徒ニ損害ヲ招クノミナリキ

遂ニ作業ノ強行ヲ中止シ新計畫ヲ立テ漸次進構築的ニ攻撃陣地ノ作業ニ努メタルニ工事大イニ進捗セ

リ

之ヲ要スルニ本戰例ハ工事ヲナサントスル陣地ニ對シ單ニ後方ヨリ監視兵ヲシテ監視セシムルニ止マリ掩護ノ處置ヲ缺キシカ上ニ交通連絡ノ設備全ク施スコト無ク徒ラニ作業ノ進捗ヲ急キテ現在ノ我陣地ヨリ過遠ノ地ニ工事ヲ開始セシ爲後方陣地ヨリスル監視竝ニ掩護頗ル不十分ナルニ到リシト暗夜ナリシ爲僅カニ一分隊又ハ二分隊ノ弱少ノ敵ノ沈着セル射撃ニ釣引セラレテ歩兵一中隊ノ如キ大部隊ヲ用ヒ而カモ敵ノ猛射ニ會フヤ暗夜ニ拘ハラステニ散開等シテ頗ル沈着冷靜ヲ缺キタルニ反シ敵ハ不完全ト雖モ我カ工事中ノ陣地ニ依リシト我現陣地迄ノ距離ヲ晝間豫メ偵察シアリシトニ依リ沈着而モ大膽ニ射撃セシタメ僅少ノ兵ヲ以テシテモ尙且能ク我ヲ惱マシ得タルナリ

又一方攻撃スル我歩兵ハ某距離ニ到ルヤ停止シ射撃ヲナスノミニシテ更ニ前進ノ意ナク猛然突入セハ何等ノ抵抗モ試ミスシテ退クヘキ敵ニ對シテ此ノ舉ニ出テサリシカ如キ頗ル遺憾トスル點多カリキ之ヲ要スルニ工事中途ノ陣地ハ掩護ヲ良好ニシ先ツ現陣地トノ交通連絡ノ設備ヲ十分ニシ又作業中止後後退スル際ニモ僅少ト雖モ部隊ヲ殘置スルノ必要アルコトヲ痛感シタリ

8 部下ヲ勇敢ニ動作セシメントセハ指揮官ノ自ラ危

險ニ立ツヲ必要トスル例 (日露戰)

富永大佐談

工兵第四大隊士官候補生

福

所

米

作記

明治三十八年三月五日奉天會戰ニ於テ溫盛堡ニ至ルヤ敵ハ鐵道線路ニ據リ我ヲ拒止シ隣地區ノ漢城堡ニ據レル敵守兵ハ頑強ニシテ我カ重砲彈ニ依ルモ容易ニ退却セス余ノ小隊ハ野砲兵進出ノ爲溫盛堡西方ノ川（水無シ）ニ進出路ノ構築ヲ命セラル前面ヨリハ絶ヘス小銃彈雨下シ作業動モスレハ萎靡セントス余ハ前岸ニ立チテ作業ヲ指揮シ砲兵進出ノ成否ハ一ニ此ノ完成ニアリト激勵スルヤ各兵俄ニ勇氣百倍シテ平素演習場ニ於ケル作業ノ約三倍ノ能力ヲ發揮セルヲ以テ迅速ニ完成セリ而モ傷者僅ニ三名ニシテ其目的ヲ達セリ

後ニ兵卒私語シテ曰ク「早ク爲ササレハ小隊長殿ニ萬一ノコトアリテハト全力ヲ振ヒタリ自分ナカラモ能クヤツタ」ト是レソ百ノ訓示ヨリハ一ノ實行ニ在ルコトヲ明ニ示スモノナラム

9 戰鬪ニ際シ指揮官沈着シテ處置ヲ講スレハ部下

モ亦沈着ヲ得ヘキ例（西伯利亞戰）

匿名氏談

近衛工兵大隊士官候補生

内

山

鐵

男記

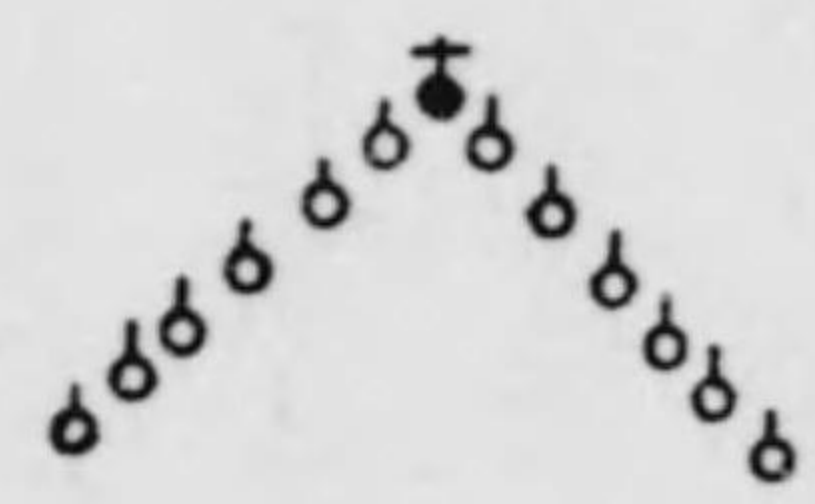
大正九年四月西伯利亞派遣軍對浦鹽政府間ノ折衝ハ四月四日夜臨時政府ノ軍隊カ我歩哨ヲ射撃セルコトニ端ヲ發シ決裂シ所謂全沿海州武裝解隊ヲ惹起セリ當時ハバロフスクニ在リテハ彼此混淆シテ宿營

中ナリシタメ到ル所慘烈ナル市街戰ヲ生セリ工兵大隊ハバロフスクニ宿營中ナリシカ某中隊カ集結シテ戰鬪セシハ蓋シ今回ヲ以テ嚆矢トナスナラン四月六日午前九時ヲ期シ直チニ交戰狀態ニ入ルヘク中隊ハ舍前ニ集合セリ當時三、四〇米前方ノ兵舍ニハ白帽ヲ被レル過軍ノ兵士充滿セリ中隊縱隊ニ集合セシ中隊ハ先ツ此敵ノ射撃ヲ受ク是ニ於テ中隊ハ直チニ二小隊ヲ第一線トシテ展開ス當時某將校ハ右第一線小隊長トシテ小隊ヲ兵舍ノ傍ニ探暖用トシテ堆積シアリシ薪ヲ胸牆トシテ散開セシメ小隊長自ラハ煉瓦造リノ兵舍ヲ背後ニシテ之ヲ指揮セリ最初二、三發ノ敵彈ヲ被レル爲兵卒ハ沈着ヲ缺キ從ツテ其射撃ヲ觀測スルニ敵兵舍ノ窓ノ下際ヲ照準セル彈丸カ頻リニ亞鉛張リノ屋根ニ命中シアリ小隊長ハ散兵線ノ中央後ニ在リ前方ヲ見レハ歩哨小屋アリ前述探暖用ノ薪ハ崩レテ自身ハ殆ト其全身ヲ曝露シ散兵ハ目前ニ伏臥シアリ

敵彈モ亦多クハ散兵ノ頭上ヲ超エ小隊長ノ附近又ハ其頭上附近ニテ兵舍ニ命中シ煉瓦ノ破片ハ飛散シテ屢々小隊長ノ顔等ヲ傷ク是ニ於テ小隊長ハ動モスレハ歩哨小屋ノ方ニ向カントス然ルニ此小屋ハ板一枚ナルヲ以テ敵彈ハ盛ニ之ヲ貫キ其陰ニアルモ何等ノ効ナキニモ拘ラス尙ホ之ニ惹キツケラレントス是ニ於テ小隊長ハ「之ニテハ不可ナリ」ト思ヒ自己ノ頬ヲ擦スレハ宛モ他人ノモノノ如シ「コハ上レルナリ之レニテハ部下ヲ掌握スルハ難シ」ト思ヒ徐ロニ翠丸ヲ引ケハ氣漸クノンヒリトシテ宛モ機動演習ニ於ケルカ如キ感アリ乃チ兵ヲ見レハ射撃速度速シ此ニ於テ「撃チ方待テ」ヲ令シ指名發射ヲ

行へリ其ノ間「ソナテハ治痕竿カ出ルソ」等諧諠ヲ交フレハ兵頓ニ沈着ヲ得テ中ニハ小隊長ヲ顧ミテ笑フ者サヘ生シタリ

次テ敵ハ退却ヲ開始スト云フ第二小隊(左小隊)ノ通報ヲ得テ該小隊ハ突撃ニ移レリ之ヲ目撃セシ者ノ言ニヨレハ其ノ隊形ハ小隊長ヲ先頭トシテ全ク左圖ノ如キ雁行形ナリシト言フ



小隊長最先ニ駆走シ敵兵舎ノ扉ヲ開ク内ヲ見レハ敵兵ハ「コンクリート」タタキ上ニ伏シ羽目板ヲ貫キテ射撃シアリシカ我兵ノ侵入セルヲ見二、三發狙撃ス其音「コンクリート」壁ニ反響シテ「ガンガン」ト鋭キ音ヲ發シ小隊長ノ背後ニハ倒ルルモノアリ見レハ喇叭手ナリ此時小隊長モ亦左腕ニ敵彈ヲ受ケ負傷セシモ率先兵ヲ率キテ突入シ兵舎内ニテ格闘ヲ交ヘタルニ敵ハ逃走セリ乃チ小隊ハ直チニ追撃射撃ニ移レリ

コノ戦鬪ニ於ケル負傷者ハ皆小隊長自身カ平素特業教育トシテ教育セシ通信手ノミニシテ其他ノ者ニシテ小隊長ノ後ニ從ヒシ者ハ當番及ヒ最モ小隊長ノ信賴セル二名ノ分隊長中ノ一軍曹及喇叭手ナリキ依テ觀是吾人ハ平素訓練セシ兵ヲ以テ戰フモノニシテ如何ニ教育者ト被教育者トノ間カ密ナルカヲ伺フニ足ラン

右ノ戦鬪ニ於テ小隊長ハ次ノ如キ事ヲ感セリ

吾人ハ散兵線中ニ立ツコトヲ得又サシテ恐ルヘキニ非ス何トナレハ部下ヲ有ス是レ吾人ヲ強ミツクレ

ハナリ

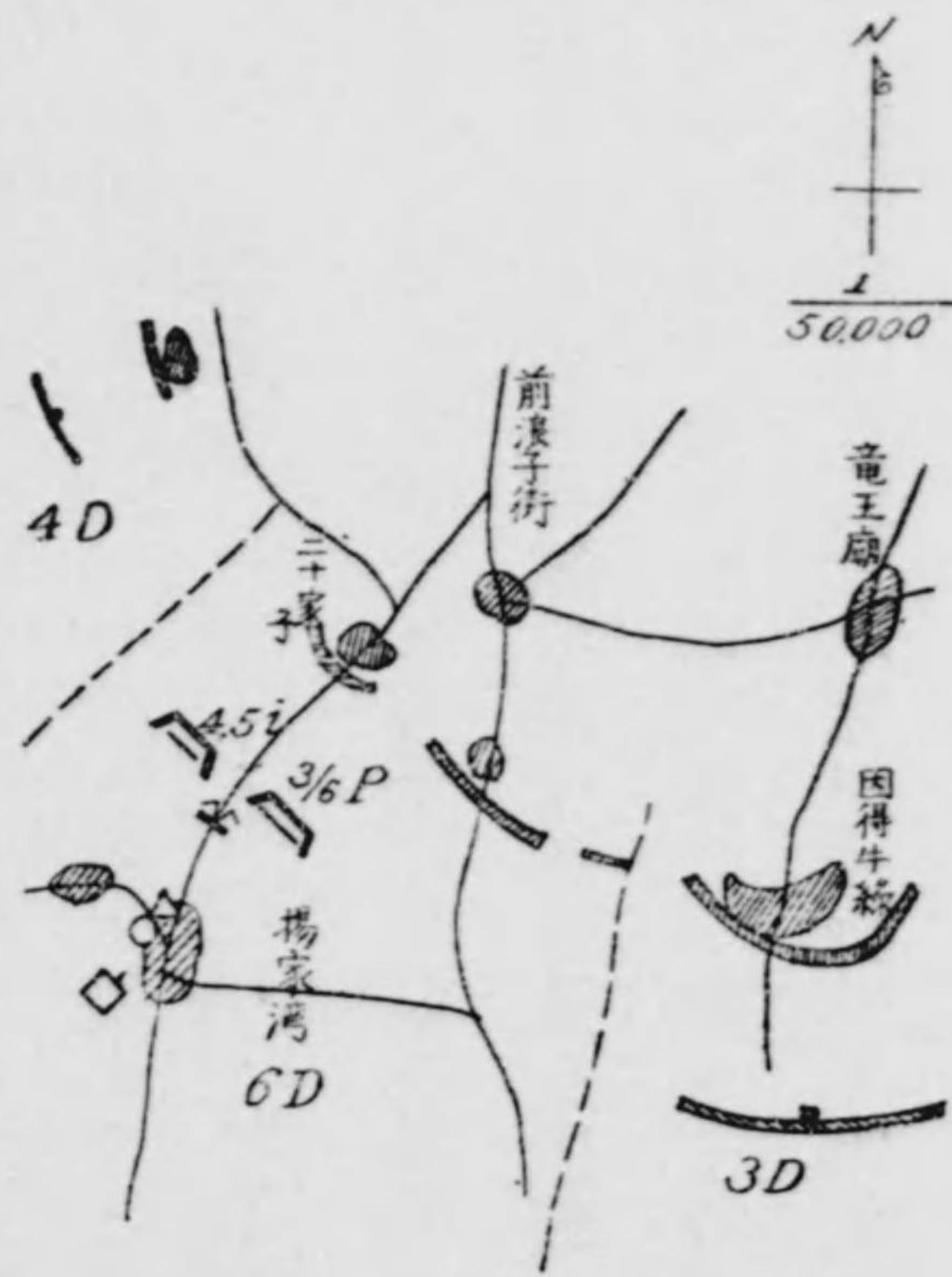
10 激戰時ニ於ル指揮官ノ態度ノ部下ニ影響ヲ及ホセル例(日露戰)

後藤(久)中佐談 工兵第九大隊士官候補生 加藤 俊 次記

明治三十七年十月沙河會戰中浪子街附近ノ戦鬪ニ於テ予ハ工兵第六大隊第三中隊ノ一新參小隊長トシテ參加スルノ光榮ヲ負ヘリ軍隊區分ニ從ヒ十一日午後五時揚家灣ヲ占領シ將ニ宿營ノ準備ニ着手セントスルヤ「浪子街ヲ夜襲シ本夜中ニ少クモ四里進出スヘキ」命ヲ受ク直チニ部下小隊ニ前進準備ヲ命スルト共ニ携帶品ハ悉ク同部落ニ放棄シ長靴ハ短靴ト脚絆トニ換ヘ刀ハ釣革ヲ廢シテ衣上ニ帶シ午後八時頃揚家灣ノ東北側ニ集合二十家子(當時ノ命令ニハ龍王廟トアリシモ地圖ノ誤リナラン)ニ對シ攻撃ヲ準備ス步兵第四十五聯隊第一大隊第一線同第二大隊及工兵第三中隊第二線步兵ハ縱隊横隊工兵ハ横隊ヲ以テ前進ス地形ハ平坦開濶ニシテ豊熟セル大豆ハ無遠慮ニ奇ヲ發シ敵ヲ距ル數百米ニシテ既ニ敵ノ發見スル所トナリ名實共ニ彈丸雨飛ノ修羅場ハ演出セラレタリ右隊ハ漸次疎開シ器具ヲ使用シツツ天明迄ニハ漸ク第一線ヲ以テ敵前約百米突ニ達ス爾後力攻數時正午前後ニ至リ二十家子ノ散兵先ツ退却ヲ始メ數分ノ後浪子街ノ敵モ亦退却ニ移レリ各隊ハ散兵壕ヲ超ヘ立射ヲ以テ敵ヲ射撃シ次テ戰場外ノ追撃ニ移リ敵ヲ沙河ノ線ニ壓迫セリ此戦鬪ニ於テ旅團長飯田俊助少將ハ黑マントノ儘戦線ニ屹

立シ沈殺克ク部下ヲ奮起セシメ聯隊長太田榮次郎大佐ハ壕内ニ在リテ部下ノ暴露ヲ戒メ豪勇ノ範ヲ示サレタルハ衆ノ共ニ敬セシ所ニシテ他方面ニ先チ二十家子ノ敵ヲ擊退シ得タル亦故ナキニ非サルヘシ同夜工兵第一小隊(長武井中尉)ハ連絡ヲ失シテ右側方ニ前進シ端末作業ニ依リ中隊ニ合セリ天明ト共ニ戰鬪ハ益激烈ヲ加ヘ第一線部隊ノ彈藥ヲ渴望スル極メテ急迫ニ先チ乃チ輜重輸卒カ彈藥ヲ肩ニシテ獅子奮迅壕ニ飛込ミ胸墻ヲ超ヘテ補充スルノ動作ハ復嘆賞ニ價スルモノアリ爲ニ吾人ハ腹背共ニ踏マレ頭ヲ蹴ラレシコト一再ニシテ止マラス此ノ時ニ當リ先ニ工兵第一小隊ノ構築セシ交通壕ハ偉大ナル效果ヲ發揮シ同小隊長ハ後ニ軍司令官ヨリ感狀ヲ附與セラレタリ

浪子街附近攻撃展開要圖
(十一月十一日夜二十日ニ至ル)



敵ニ近迫前進中余カ胸墻高ヲ檢セントシテ壕外ニ出ツルヤ部下ハ脚ヲ捕ヘテ壕内ニ引込マシムルモ數次又浪子街占領後歩兵第二大隊及工兵中隊ハ戰場掃除隊トナリ予カ約二百米ヲ距ツル大隊本部ニ連絡ノタメ不在中偶々敵ノ逆襲ニ逢フ先任分隊長ハ疾驅余ニ抱キツケリ其ノ故ヲ問フモ唯嬉シト答フルノミ噫部下ハ可愛キモノナラスヤ小隊ノ位置ニ歸來スルニ掩護物タリシ工壁ハ破壊セラレ

又銃セシ銃ハ數挺折損シ復小隊ヲ部署スルモノナシ二月以來稍々戰場ニ慣熟セル軍隊ニシテ尙且ツ然リ吾人ハ下士ノ能力増進ヲ計ルト共ニ逆襲ノ效果ハ蓋シ鮮少ナラサルヲ知レリ本戰鬪ニ於ケル敵彈タルヤ余カ全戰役ヲ通シテ參加シタル戰鬪中最モ猛烈ヲ極メタリ然モ我カ小隊否中隊ニ於テ一名ノ損害ナク飯田閣下ノ如キ正副馬共ニ傷キタルニモ拘ラス身ニ微恙タニナシ敢テ謂フ勇者ニ敵ナシト

11 指揮官ハ距離目測ニ慣熟シ兵卒ノ射擊動作ヲ注意スルノ必要ナル例 (西伯利亞戰)

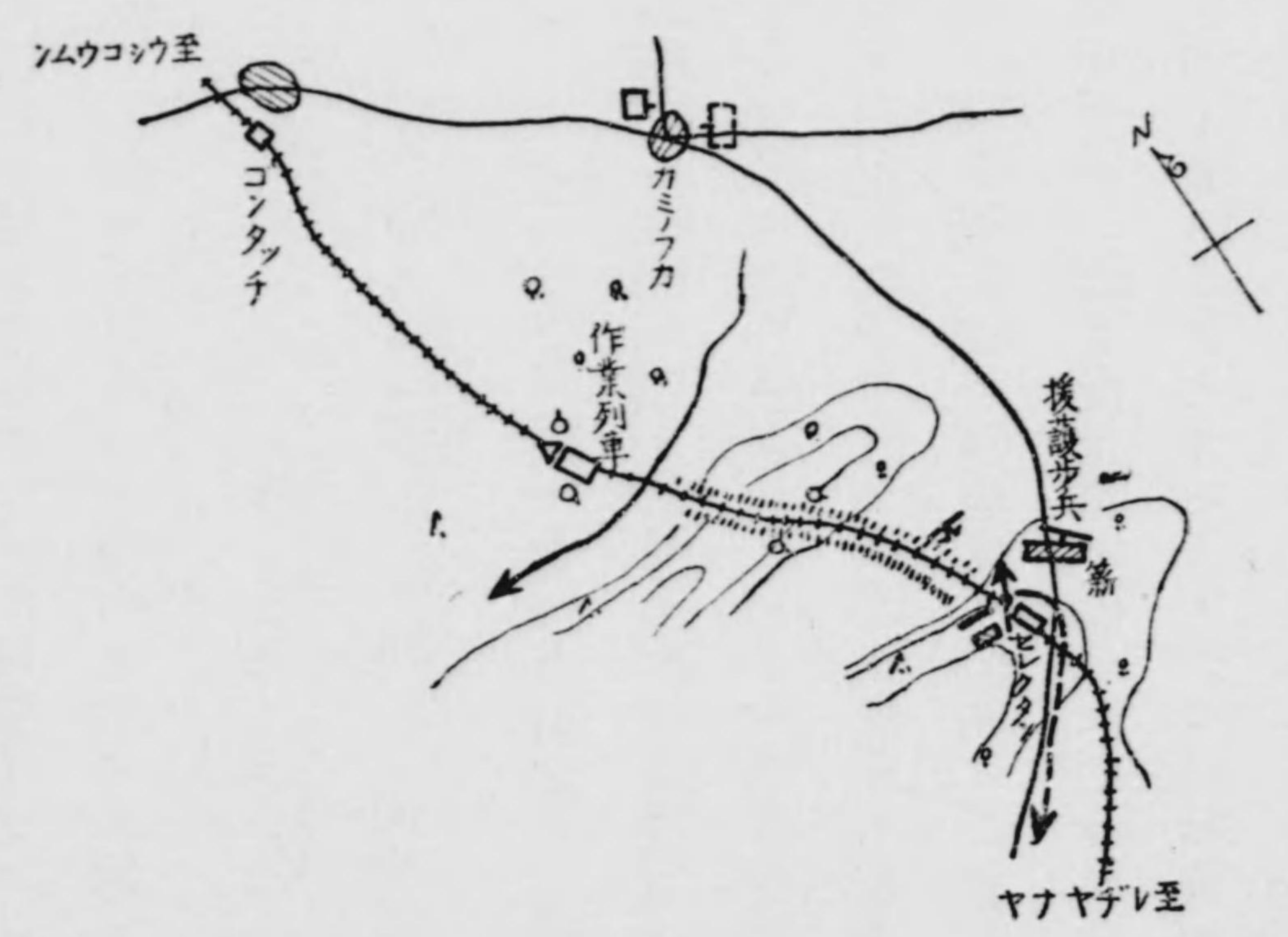
姉齒少佐(當時中尉)談 工兵第十八大隊士官候補生 森 本 信 夫 記

大正八年二月二十五日ユフタ戰鬪ノ前日ナリ

ゼーヤ河畔ノ追撃ニ依リ壓迫セラレタル過軍ハ漸次北進シゴンダツチ附近又急ヲ告グルニ至リ丸野支隊長ハウシユムンニアリシ清水中隊(歩兵)ヲゴンダツチニ派遣シ守備ヲ嚴ニシツツアリシカ二十四日夜セレクタン停車場北方橋梁燒却セラレタルヲ知り在ゴンダツチ鐵道小隊ハ二十五日早朝之カ修理ニ赴カントシ清水大尉ニ掩護隊ヲ要求セシモカミノフカ方面ニ過軍來襲ノ報アリ之カ討伐ノタメ派遣スル能ハサル旨通知アリタルニヨリ小隊ハ獨立シテ之カ修理ヲ敢行スルニ決シ作業地點ニ到ル途申列車内ニテカミノフカ方向ニ銃聲ヲ聞キツツ該地點ニ到リ要圖ノ如ク位置シテ作業ニ着手セリ

「セクレタ」附近彼我位置要圖

(大正八年二月二十五日午前九時)



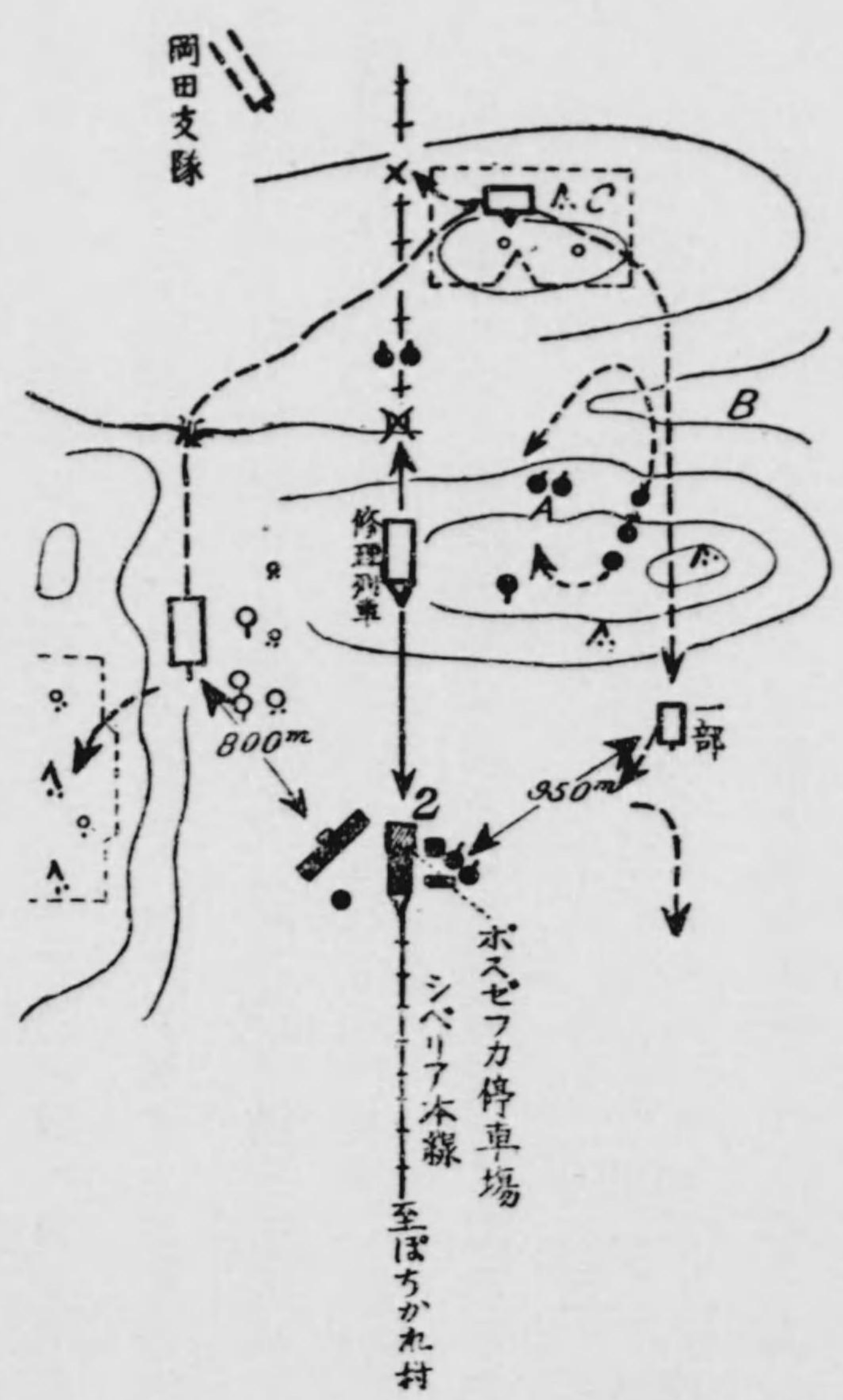
暫クニシテ歩兵一小隊掩護隊トシテ來援シ「セクレタン」方向ノ敵情偵察セシニ該停車場ニ敵兵アルヲ知り掩護隊ハ之ヲ攻撃セリ是ヨリ先鐵道小隊モ左岸高地ニ配置セル監視兵ヨリノ報告ニヨリ一分隊ヲシテ歩兵ニ協同シ敵ノ左翼ヨリ之ヲ攻撃セシム分隊長ハ(豫備下士)射撃ニ當リ固定照尺ヲ以テシタル爲射線ハ近ク落下シ敵ニ損害ヲ與フルノ情況ヲ見ス以テ小隊長ハ戰線ニ到着スルヤ照尺ノ過近ナルヲ看破シ五百米ニテ射撃セシメシニ敵線動搖ノ色アリ遂ニ南方ニ退却セリ

該敵ハ同日午前十一時レチヤカヤ北方約二里半ノ地點ニ於テ宮内支隊騎兵ニ遭遇シ撃退セラレタリ

12 一齊射撃ノ効果アリシ例 (西伯利亞戰)

姉齒大尉談 工兵第十大隊士官候補生 小杉 義藏記

大正八年一月ノ末ボチカレネ包圍ノ直前ナリ小隊長タル余ハ其ノ守備停車場ボチカレオヨリ部下小隊ノ二ヶ分隊及支那苦力三〇名ノ率キ修理列車ヲ運轉シ要圖ノ如ク監視兵ヲ配置シB河鐵道橋ノ修理ニ



著手ス其ノ日雪深ク膝ヲ没セリ我カ前面ニハ岡田支隊ボチカレオノ急ヲ聞キ來援ストノ風聞アリ次テ鐵道沿線ニ出セシ監視兵ヨリC森林内ニ敵アリソノ附近ノ鐵道線路ヲ破壊セリトノ報アリ間モナクC森林中ノ敵約一ヶ中隊河B左岸高地ニ散開シ我ニ對シテ射撃ヲ開始ス茲ニ於テ小隊長ハ一時後退シテ後

圖ヲ策セントシ部下ヲシテ射撃ニ應セシムル事ナク全員ヲ乗車セシメ(コノ時下士卒頻リニ射撃セントセリ)監視兵引キ上ケ來ルヲ待チテ後退ス苦力ハ恐怖ノ餘B河ノ凹地ニ入りテ動かス我カ兵卒勇敢

ニシテ車内ニテ一列トナリ射撃ノ姿勢ニアリ之ヨリ先キ敵ノ射撃ヲ受クルヤ小隊長ノ應戦セシメサリシハ前記風聞ニヨル我カ軍ノ來援カ又ハ白軍ナルヤモ知レストノ疑念ヲ抱キタルヲ以テナリ屢々停車シ敵ヲ見ルニ敵尙ホ射撃ヲ續行スルノミナラス我ニ向ツテ追撃中ナルヲ確認ス依リテ鐵道小隊ヲ列車ヨリ下車セシメ要圖ノ如ク主力ニ對シ一齊射撃ヲ命スコノ射撃ヨリ敵ヲ照準シ沈着セル爲豫想外ノ效果ヲ收メ敵主力ハ潰亂シテ道路右側ノ森林内ニ遁走セリ

委員所見

思慮周密ニシテ獨斷機宜ニ適シタル處置ヲトリタルモノト云フヘシ

13 戰鬪ニ當リ指揮官ノ態度カ部下ニ影響ヲ及ホセル例 (日露戰)

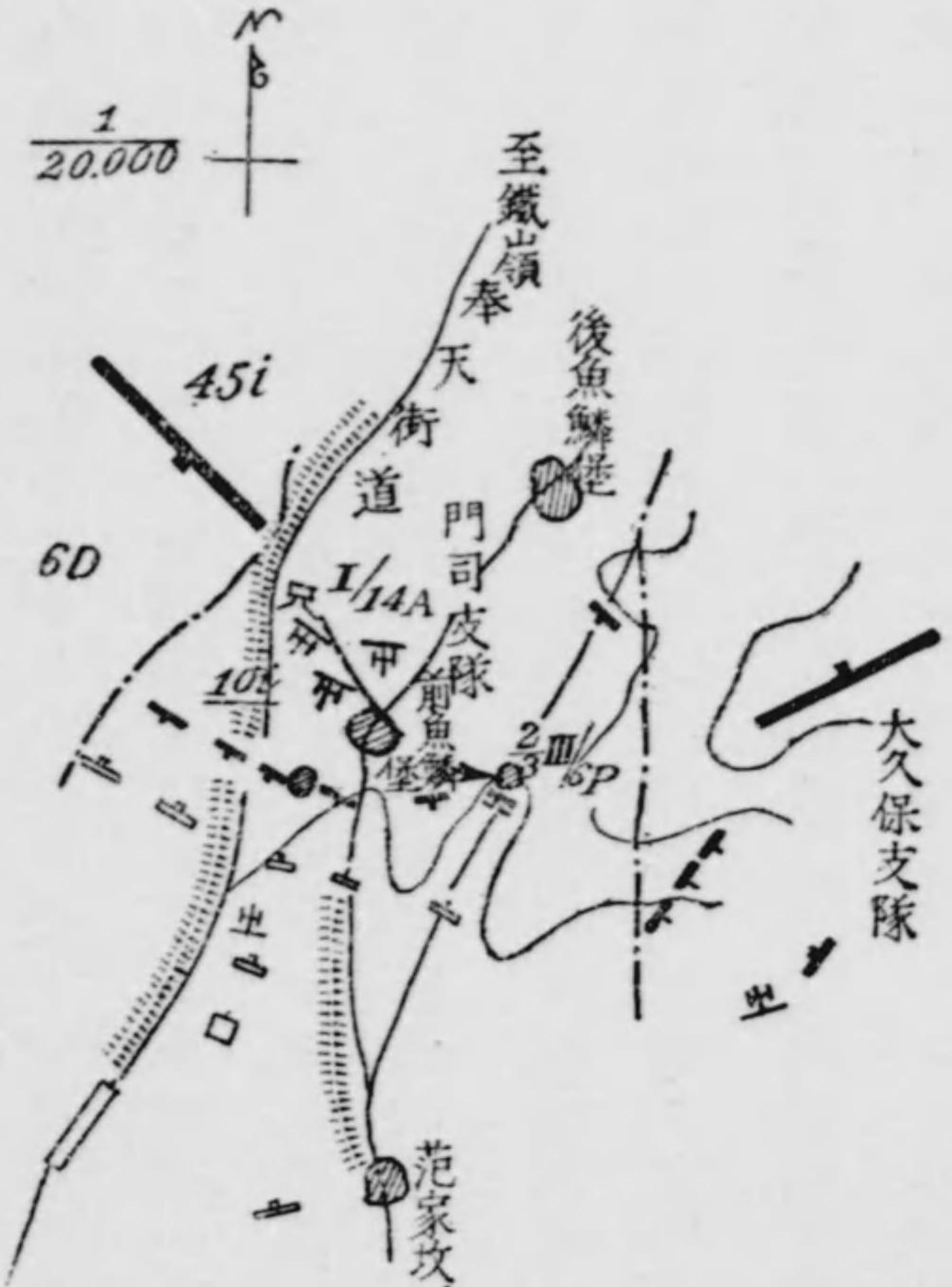
後藤工兵大佐談 工兵第九大隊士官候補生 岩 坪 好 秋記

明治三十八年三月十日門司支隊(長門司少將後備步兵第十聯隊野砲兵第十四聯隊第一大隊工兵第六大隊第三中隊(一小隊缺)ハ敵ヲ追撃シテ薄暮魚鱗堡ノ北方一公里附近ニ至ルヤ奉天城内ニハ約二、三萬西門及北門附近ニモ約二、三萬ノ敵兵アリ第六師團ハ北門附近ヨリ之ヲ追撃中ナリ門司支隊ハ速カニ背進シテ第六師團ヲ増援スヘキ要旨ノ命ヲ受ク
背進シテ其先頭前魚鱗堡ニ達セントスルトキ斥候來リ報シテ曰ク「敵ノ大兵團ハ既ニ前方數十米ニ在

リ余ヲ捕ヘ頻リニ頭ヲ抑フルモ其意ヲ解セス」ト乃チ通譯官ヲ派シ初メテ我ニ投降ヲ強フルモノナルコトヲ知ルヤ支隊ハ別紙要圖ノ如ク展開シテ俄然射撃ヲ開始ス敵ハ停止シ讚美歌ヲ稱ヘ樂譜ヲ奏シ喊聲ヲ擧ケテ勇猛果敢ニ突入シ來リ茲ニ一大激戰ハ開始セラレタリ聞ク露軍ハ前進困難ナルニ至ラハ僧侶ヲ先頭ニ立テ捷ヲ天ニ祈リ堅キ信念ト樂隊ノ激勵トニ依リ最後ノ勇ヲ振フト既ニシテ接戰ハ本道ノ東側ニ起リ敵彈藥車ノ藥莢ハ火ヲ發シ交々空中十數米ニ飛揚シテ壯烈慘絶ヲ呈ス

余ハ中隊長ヲ代理シ當初豫備隊タリシモ戰線一時沈靜ニ歸スルヤ午後九時頃宿營ノ目的ヲ以テ前魚鱗堡東方約五百米ノ無名部落ニ達セントセシ時忽チ敵襲ノ警報ト共ニ猛烈ナル射撃ヲ受ケ小行李駄馬三頭同時ニ斃ル直ニ同部落ノ西側ヨリ南側ニ亘リ散開シ敵ヲ擊攘セントセシモ未タ中隊ノ沈靜ヲ保ツニ至ラス否兵卒ハ徒ニ右往左往寧口狼狽騷擾ノ感ナキ能ハス依ツテ機ヲ見テ中隊ヲ集合シ部落南端ノ土壁ヲ利用シテ防禦工事ヲ施シ中隊ノ全滅ヲ宣告スルト共ニ從卒ヲシテ行李燒却ノ準備ヲナサシメ自カラ墓地(小阜丘)上ニ端坐(軍醫亦拔刀シテ其側ニ在リ)スルニ至ツテ中隊全ク沈着スルヲ得タリ當時下士卒ハ敵ノ兵力我ニ優レルヲ感知シアルノミナラス其主力ハ本道ノ東方谷地即チ我中隊ノ正面ニ向ツテ前進中ナルノ報告ト支隊長ヨリノ警告ハ頻々トシテ至ルヲ以テ彈藥ヲ步兵ニ要求スルコト數次ニ及フモ遂ニ一彈タニ得ル能ハサルノ狀況ナリシヲ以テ初メテ小銃戰ヲ實施スル我中隊トシテハ蓋シ止ムヲ得サルモノアラン然レトモ過大ナル敵情ト不利ナル友軍ノ態勢トヲ下級者ニ知得セシムルハ共ニ避

ケサルヘカラサルコト及指揮官ノ意志態度ノ如何ニ部下ニ影響スルモノナルヤヲ親シク實驗スルヲタ
 得リ爾後敵ノ攻撃ヲ受クルコト前後三回悉ク之ヲ撃退セシノミナラス翌朝ニ至リ俘虜數千ヲ得タルハ
 一二御稜威ノ然ラシムル所ニシテ之カ紀念ハ近ク二臺子臺上ニ聳ユル受降ケ岡碑ト共ニ長ク傳ハラシ
 因ニ本戰鬪ニ於ケル發射彈數約七千而シテ敵ノ遺
 棄セシ死體ハ僅カニ人三馬三ニ過キス蓋シ奉天ノ
 火焰ニ依リ能ク敵ヲ目視シ得ルニ拘ハラシ地形ハ
 彈道ノ低伸ヲ利用シ難キ斜面ナルト射距離二乃至
 三百米ノ遠キ關係ナリシナラン而モ克ク敵ヲ擊攘
 セシヨリ見レハ夜間防禦ニ於テハ必スシモ至近ノ
 距離ニ敵ノ近迫スルヲ待ツコトナク射擊シテ有利
 ナル場合ナシトセス



(當時稍遠キ距離ヨリ射擊ヲ開始セシ理由ハ別ニ在リ)又工兵ノ射擊技術ト戰鬪訓練トハ一層向上セシ
 ムルト共ニ戰地ニ於テ重キノ故ヲ以テ彈藥ノ携行ヲ厭フカ如キハ嚴ニ戒メサルヘカラス翌朝彼我刺違
 ヘテ戰死シアル戰友ヲ探リツツ彈藥ヲ收容セル状態ハ飢餓ニ迫レル豹狼ノ死屍ニ群ルモスクヤト想像
 セシメタリ尙拂曉時敵ハ手榴彈ヲ手ニシテ四十五「シジウゴ」ヲ稱ヘツツ我陣地内ニ進入シ來ルモノア

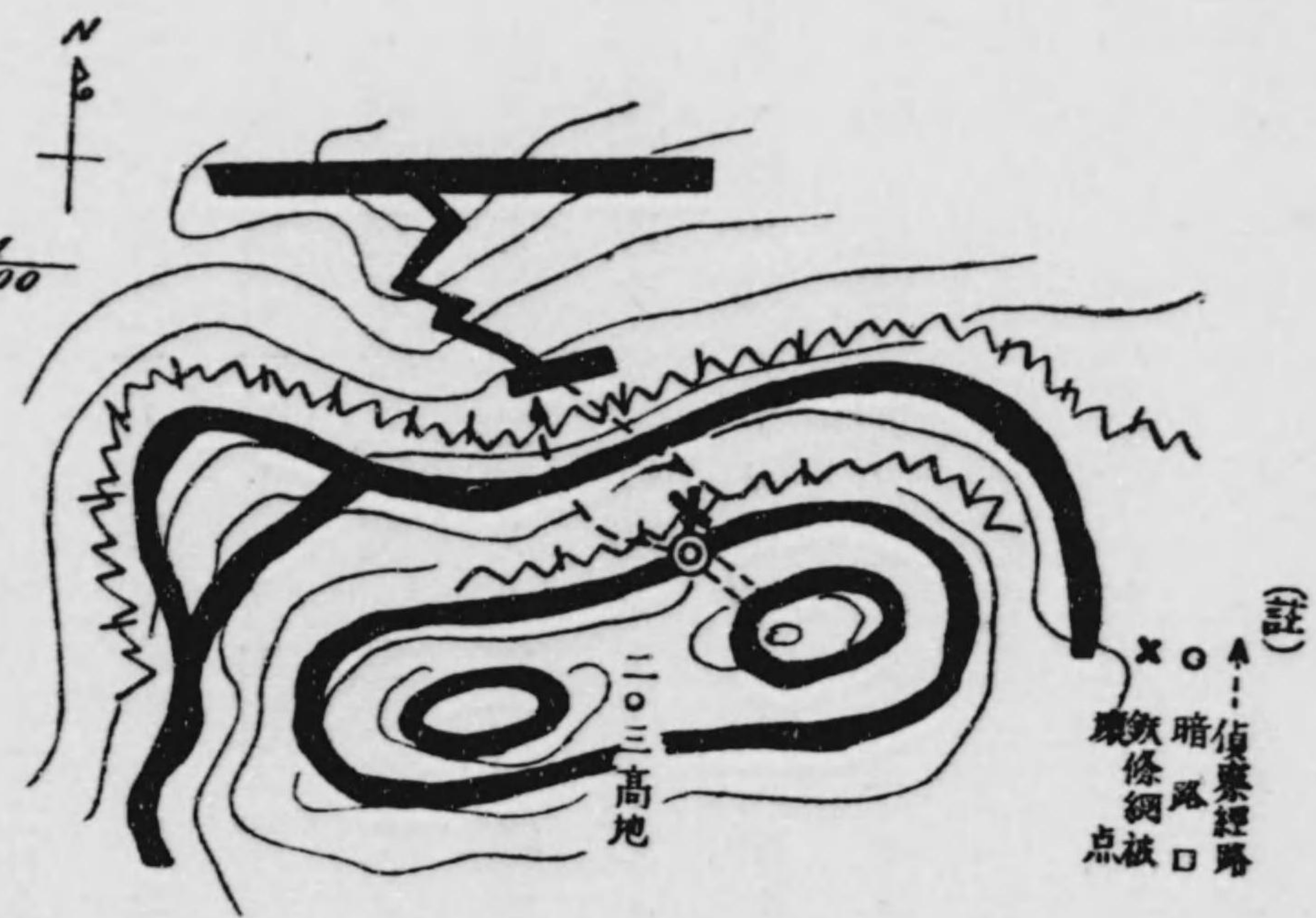
リ蓋シ沙河對陣ノ永キ我斥候ノ歩哨線通過ヲ眞似タルモノナランカ注意スヘキコトナリ

14 豪膽克ク敵ノ虚ヲ衝キ以テ有利ナル偵察ヲナシ友軍ノ攻撃ヲ容易ナラシメタル例 (日露戰)

池田(義)工兵中佐談 工兵第一大隊士官候補生 後 藤 健 一記

明治三十七年十一月以降第七師團ハ旅順要塞ノ攻撃ニ參加シ其主力ハ二〇三高地ノ攻略ニ任ス敵ハ同
 高地防禦ノ爲第一線トシテ山腹ニ露天散兵壕ヲ第二線トシテ頂界ノ線附近ニ有蓋散兵壕ヲ又後方ニ對
 シテハ暗路交通壕ヲ構築シ更ニ東西ノ兩顛頂ニハ框舍式複廊ヲ設ケ各直前ニハ鐵條網ヲ築設シタリ而
 シテ遠ク後方諸砲臺ヨリハ大中口径砲ヲ以テ之ヲ支援スルノミナラス東側赤坂山及同高地ヨリモ小銃
 及機關銃ヲ以テ互ニ側防シアリ我軍ハ從來數次ノ夜襲ヲ強行セシモ常ニ敵ノ集中火ニ次クニ逆襲ヲ受
 ケ失敗ニ終ル狀況ナリキ茲ニ於テ師團ハ攻撃方針ヲ改メ先ツ攻撃作業ヲ完成スルニ決シ工兵第七大隊
 ハ其ノ他ノ臨時増加ノ工兵部隊ト共ニ之カ偵察及作業ノ實施ニ任ス十二月某日工兵第二中隊ハ齋藤旅
 團ニ配屬セラレ二〇三高地東北角ニ向フヘキ土囊式坑路作業ニ任シ池田少尉ハ作業頭ニアリテ作業ヲ
 指揮シアリシカ午前十一時頃ヨリ正午頃ニ亘リ敵ノ狙撃中絶セルヲ以テ試ミニ單身敵ノ第一線散兵壕
 ニ接近セルニ射擊ヲ受ケス即チ鐵條網ヲ潜リテ壕内ニ潜入セルニ敵ノ一兵ヲモ見ス依ツテ更ニ第二線

タル有蓋散兵壕ニ匍匐前進セルモ亦此ノ附近ニ敵ナキヲ認メ尙暗路口ヲモ偵知スルコトヲ得タリ茲ニ於テカ少尉ハ急キ下山シ此ノ旨ヲ中隊長ニ報告ス中隊長ハソノ勇ヲ賞スルト共ニ大ニ喜ヒ直チニ同少尉ニ命シテ第一、第二線ノ鐵條網ヲ破壊センメ又同時ニ中隊附曹長ニ命シテ暗路口ノ爆破ヲ實施セシム敵ハ中途我カ企圖ヲ覺リ射撃ヲ開始セシモ我已ニ目的ノ大部ヲ達シタル後ナリシヲ以テ大ナル損害ヲ受クルコトナク有利ニ作業ヲ進捗シ以テ旅團ノ攻撃ヲ容易ナラシメタリ



15

企圖心旺盛ニシテ且處置宜シカリシ爲敵騎哨ヲ逃走セシメソノ任務ヲ達シタル例 (日露戰)

池田工兵中佐談

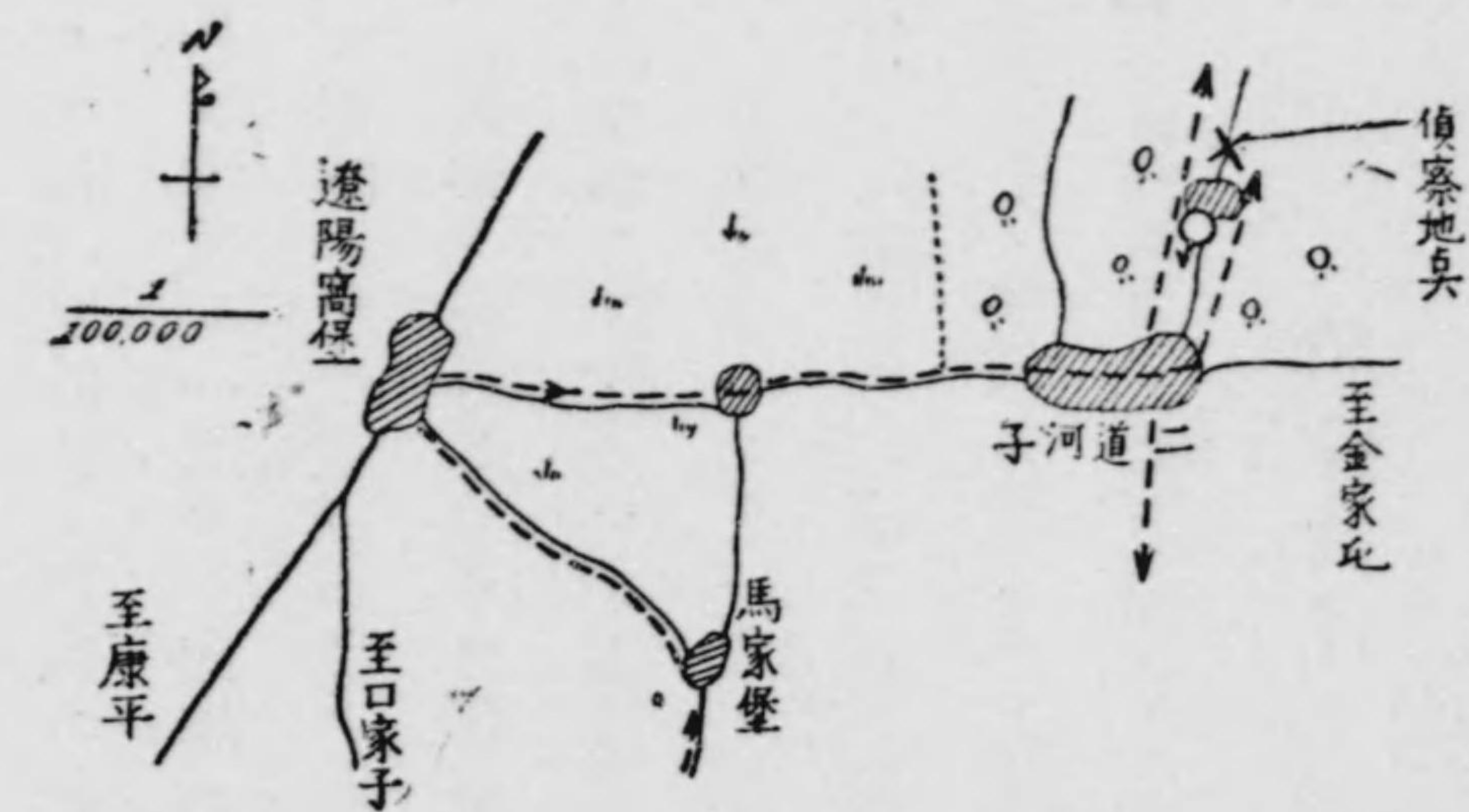
工兵第一大隊士官候補生

後藤

健

一記

明治三十八年六月某日夜第七師團ハ其ノ駐屯地康平縣附近ヨリ二支隊ヲ派遣シ秋山騎兵旅團ト呼應シテ遼陽窩堡附近ノミスチエンコ騎兵團ヲ夜襲ス工兵第七大隊ハ之ニ同行シテ經過地方ノ測圖ヲ擔任シ



池田中尉ハ同目的ヲ以テ一名ノ傳令ト共ニ秋山騎兵旅團ニ隨行ス騎兵旅團ハ師團ノ各支隊ト共ニ敵ヲ擊攘シ以テ翌日朝遼陽窩堡ヲ占領スルコトヲ得タリ當時池田中尉ハ其ノ東側ニ於テ尙測量未濟ノ地區アルヲ以テ正面ヲ離レテ之カ測量ニ從事スコノ際道路上ノ一部落ニ敵騎哨在リシモ該地ニ到ラサレハ其後方ヲ目視スル能ハス依テ一策ヲ案シ傳令ト示シ合ハセ刀ヲ拔キ我後方及側方ニハ宛カモ多クノ部隊アルカ如ク頻リニ急進ヲ合圖シツツ右部落ニ突入ス敵ハ之ニ欺カレ數發射撃ノ後急據退却シタリ中尉ハ爲ニ部落ノ前端ニ至リ前方地域ノ視察ヲ完了シ敵ノ未タ再來セサルニ乘シ後退スルヲ得タリ

16

警戒緩ナリシタメ失敗シタル例 (西伯利亞戰)

小池工兵大尉談

近衛工兵大隊士官候補生

岡野

佐

喜

男記

大正八年十月上旬ヨリ十二月上旬ニ互リ過激派軍ヲ討伐セル山田旅團ニ屬シタル某工兵小隊ハ旅團ノ追撃ト共ニ遠ク敵ヲ驅逐シ小部落サビタヤニ停止シ飯盒炊事ヲ實施セリ時既ニ薄暮ニシテ大陸ノ暮色蒼然タリ

サビタヤ村ハ西伯利ニ散見スル部落ノ如ク人家頗ル疎散ニシテ加フルニ秋正ニ酣ナリ樹林アルモ紅葉早ク散リ樹枝ニ一葉ナシ内地ニ於ケル飯盒炊事等ニハ小隊長以下ヨリ火光ニ注意シ敵襲ノ警戒ヲ怠ラサルモ當時ノ狀況敵既ニ遠ク敗走シ我小隊亦數日ノ戦闘ニ疲勞漸ク加ハリシヨリ小隊長ハ休養ヲ主トシ飯盒炊事ヲ行ヘリ、即チ警戒ノ如キハ甚タ之ヲ緩ナラシメ火光亦殆ント意ニ介セサルニ似タリ暫クニシテ炊事ヲ終ル乃チ小隊全員食ヲトル食半ハニシテ左方二、三百米ノ高地上ヨリ急射ヲ受ケ爲ストコロヲ知ラス幸ニシテ一人ノ死傷者モ無カリシモ志氣上ニ及ホセル影響甚大ニシテ爾後數十日平然トシテ食事シ得ルモノ僅カニ小隊ノ半ヲ出テス精神上ニ及ス影響大ナルヲ知ルヘシ其ノ原因スルトコロハ只要務令ノ明示スルトコロヲ實行セサリシカタメノミ戰地特ニ西伯利ニ於テハ地勢上火光ノ漏洩ニハ一段ノ注意ヲ必要トス

17 斥候長自ラ部下ヲ收容セシ例 (日獨戰)

河野(藤)少佐談

工兵第六大隊士官候補生

荒木克業記

大正三年十一月三日ノ夜青島要塞本防禦線ノ中央堡壘前ノ障碍物偵察ニ從事セル河野工兵將校斥候ハ敵ノ機關銃及探照燈ニヨリ妨害ノ爲メ進退谷レリ斥候ハ探照燈ノ明滅ノ間ヲ伺ヒ前方ニ進出セント企テシニ恰モ敵ノ射撃ニ會シ目的ヲ果サスシテ急遽偵察據點ニ退却セリ據點トハ外岸ヲ距ル七〇米彈痕ヲ利用シ携行セル土囊ヲ前方ニ堆積シテ構築セシ掩體ナリ時シモ部下ノ某兵逃ケ遅レ敵彈ヲ受ケ蠢然タリ放置セハ部下ヲ殺シ更ニ敵ニ據點ヲ發見セラレントス斥候長ハ直チニ之ヲ收容スヘク兵卒ニ命セシニ誰一人應スルモノナシ茲ニ於テ斥候長ハ單身據點ヨリ飛躍シ須臾ニシテ彈痕内ニ半死ノ該兵ヲ運ヒ入レタリ

幹部ナレハコン情誼トシテ敵前至近ノ場所ニ於テスラ部下ノ死體ヲ收容シ得タリカクノ如ク指揮官カ部下ヲ愛惜スルハ一方部下ヨリ信服ヲ得ル要素ニシテ統御ノ要訣亦茲ニ存ス

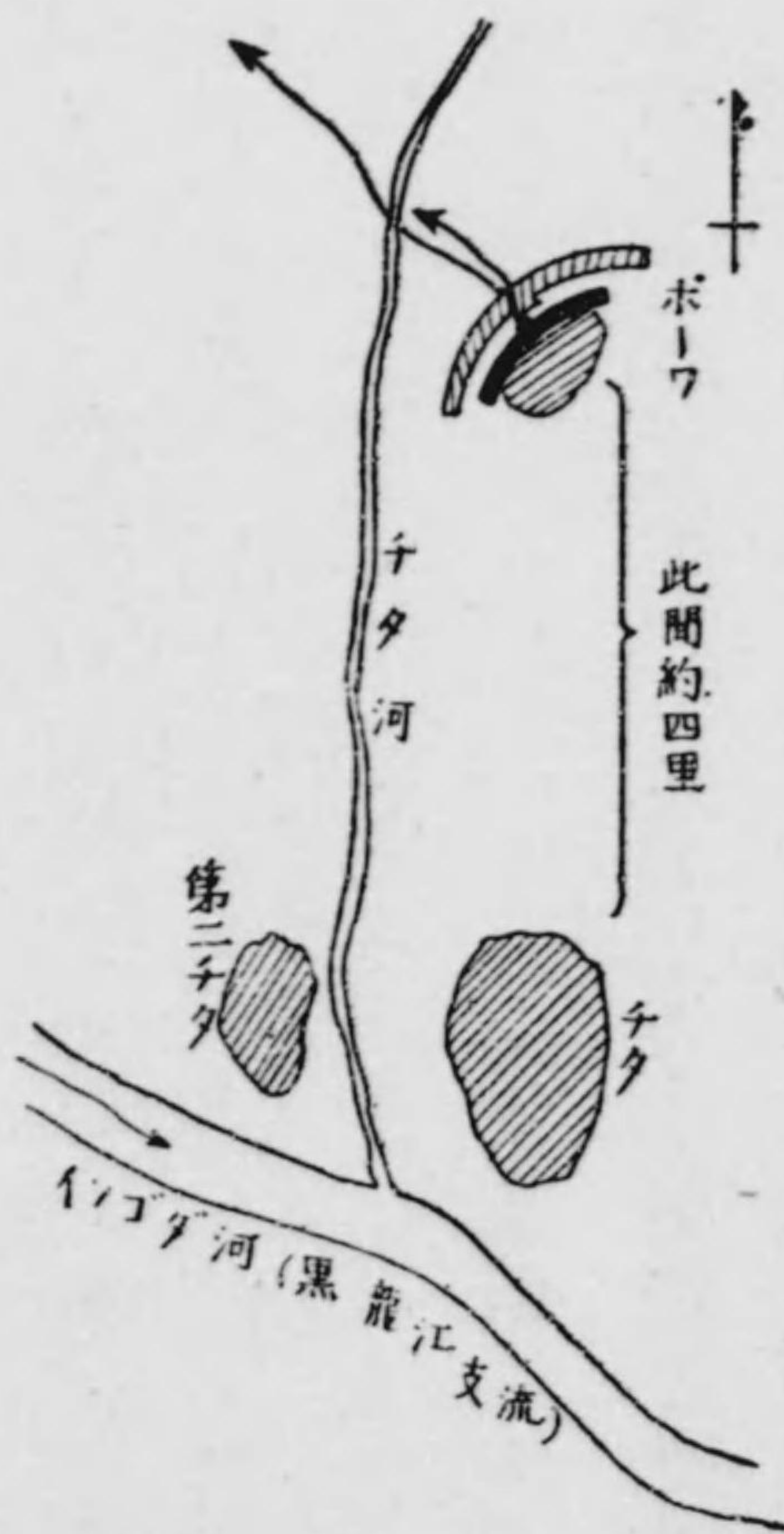
18 河川偵察ヲナスニハ増水時ヲモ顧慮シ渡河ノ方法ヲ講シ置クヲ要スル例 (西伯利亞戰)

匿名氏談

工兵第十八大隊士官候補生

磯部只輔記

大正九年四月第五師團ノ内線築城ヲ企圖スルヤ工兵小隊ハボポーワ支隊ニ屬シボポーワニ陣地ヲ構築シ守備中チタ河ノ偵察ヲナスヤ到ル所氷上徒渉ヲ許セルヲ以テ大ナル注意ヲ拂ハサリシカ四月二十五



日朝來過軍ノ攻撃ヲ受ク同日夕刻之ヲ撃退シ翌二
十六日追撃ニ移リチタ河ニ達セル時恰モ解氷ヲ始
メ河水著シク増加シ渡河ヲ許サス爲ニ追撃ヲ中止
スルノ已ナキニ到レリ想フニ此ノ際豫メ氣象ヲ顧
慮シ渡河材料ノ準備アレハ大ニ過軍ヲ破リ得シナ
ランカ

19 西伯利亞撤兵ニ於ケル電話隊ノ行動 (西伯利亞戰)

阿部大尉談 工兵第十八大隊士官候補生 大島 詰 男記

大正十一年六月二十四日大日本帝國政府ハシベリヤヨリ其年十月末日迄ニ撤兵スヘキコトヲ中外ニ對シ聲明セリ

爾來我派遣軍ハ沿黑龍州ノ奥地ニテ警備線ヲ縮メツツ逐次撤退シ十月十七日ニハ既ニ大部ノ撤去ヲ完了シ第八師團ノ主力ヲ以テ僅ニアムール半島ノ一角ヲ占ムルノミニ至レリ諸隊ハ浦潮新要塞本防禦線ニ止リ之ヲ警備ス此ノ時第八師團臨時電話隊編成下命アリ予ハ當時工兵中尉ニシテ電話隊長タル光榮ヲ擔フ

十月十八日師團司令部ニテ各隊ヨリ集リ來ル通信手ヲ以テ部隊ノ編成ヲナシ露支人馬車八ヲ以テ輜重ヲ編成シ器材ノ點檢ヲナセリ此ノ時赤軍ハ白露軍ノ逃クルヲ追ヒ大舉シテ我警戒線ニ迫レリ茲ニ於テ我電話隊ハ北部兵團ニ屬セラレ二番川ニ急行兵團長赤石少將ニ來意ヲ報告ス命アリ「赤軍來ル電話隊ハ直ニ兵團司令部ヨリ警備線砲兵陣地海軍信號班及師團司令部間ニ通信連絡ヲナセ」予ハ直チニ通信隊ヲ部署シ夫通信網ノ構成ニ任セシム時ニ午後一時警備線トノ連絡ハ午後四時頃完了セルモ師團司令部方面ノ構成意ノ如クナラス屢斷線不通トナル原因ヲ探究スルニ赤軍ノ近接ニ伴ヒ我警備線内ノ赤色分子之ニ呼應シ或ハ電線ヲ所々ニ切斷シ或ハ同線路數百米ヲ窃取セルコト判明ス數次補修ヲ勵行セルモ再三同様ノ遮斷ニ逢ヒシヲ以テ已ムナク歩兵ノ掩護隊ヲ要求シ警戒掩護ニ任セシメ翌朝辛ウシテ完全ニ連絡スルヲ得タリ

爾後我警戒ノ至嚴ナルニモ拘ラス電線切斷地棒窃取ヲ企圖スルモノ多ク保線兵掩護隊及憲兵協力シテ不逞ノ徒ヲ捕獲セルコト一再ニ止ラス不眠不休警備ニ努力セリ
一週間ハ瞬ク間ニ經過シ愈撤退ノ當日トナレリ戰車飛行機裝甲自働車ハ先ニ撤去シ裝甲列車砲兵モ亦後退セリ騎兵第一線歩兵モ逐次撤退ヲ開始

一小隊又一小隊山頂ヨリ谷間ヲ經テ二番川ノ線ニ至ル頃ハ中隊ニ合シ中隊ハ大隊ニ集結セラレ數大隊ハ二番川ノ平地ヲ整正堂々トシテ露人環視ノ中ヲ撤退中ナリ

我電話隊ノ撤收班ハ未タ歸ラス赤軍ハ山ヲ超ヘテ迫ラントス撤收班ハ如何ニ？捕虜セラレシニハアラサルカ……心痛暫シ遂ニ我撤收班ハ歸ヘリ來レリ志氣旺盛ニ沈着ニ剛膽ニ

「火急ノ際ハ棄テ歸レ」ト言ヒシ中被覆線ノ悉クヲ完全ニ收メ歸レリ電話隊ハ集結セリ依テ步度ヲ伸シ歩兵部隊ニ追及シ浦潮埠頭ニ到着ス

赤石丸上師團參謀長ニ無事歸着ヲ報告シ器材ハ軍兵器部ニ返納シ茲ニ電話隊ノ任ヲ完ウシテ解散ヲ令ス

第二輯

第十五
航空兵

1 夜行軍ニ於テ消滅スヘキ目標ニ信賴シ行進方向
ヲ失ヒタル例 (日露戰)

藪崎(惣)輜重兵中佐談 輜重兵第十六大隊士官候補生 幡野忠雄記

明治三十七年八月旅順攻圍ニ際シ第一師團ノ糧食縱列ハ前革鎮堡兵站倉庫ヨリ後沙包師團野戰倉庫ニ至ル糧秣ノ輸送ニ任ス

當時攻圍未タ完カラス爲ニ後沙包ノ東側ニ流ルル小流ハ椅子山(實ハ白玉山ナリシト謂フ)砲臺ヨリ射撃ヲ受ケ晝間ノ通過ハ頗ル危険ニシテ單獨者ト雖モ損害ヲ蒙ムルノミナラス屢々野戰倉庫ヲ射撃セラレタルヲ以テ遂ニ夜間輸送ヲ實施スルニ至レリ

八月十七日某糧食縱隊ハ豫定ノ如ク糧秣ヲ交付シ歸路ニ就クヤ恰モ連日ノ降雨ハ益猛威ヲ逞ウシ雷鳴ヲ加ヘ四面暗澹全ク咫尺ヲ辨セス細砂ヨリ成ル該小流ノ河床ハ漸ク浸水シ爲ニ往路ノ轍痕隱滅セリ當時歸路ハ右方ニ椅子山ノ探照燈ヲ望見シツツ轍痕ニ沿ヒ歸行スルヲ例トシタリシヲ以テ携帶燈ニ依リ唯一ノ目標タル轍痕ノ發見ニ努メ辛ウシテ索出スルモ亦忽チニシテ消失シ遂ニ方位モ辨セサルニ至リ百方努力ノ結果漸ク河床ヲ離ルルヤ前方ニ一部落ヲ望見セリ乃チ大潮口ナラント勇躍シテ近ツケハ岩石露出セル丘阜ノ一角タリ茲ニ於テ部隊ヲ停止シ偵察ニ努メシカ幸ニシテ雨止ミ漸ク方位ヲ辨別シ得

タリ計ラサリキ全ク直角ノ方向ニ進路ヲ誤リシヲ發見シ唯呆然タルノミ指揮官ノ胸中察スルニ餘リア

右ノ原因

- 一、電光ノ爲視覺ヲ錯亂セシメタルコト
- 二、轍痕ヲ過信シ方向ヲ定メタルコト
- 三、縦列ノ轍痕ハ連日ノ降雨ノ爲消滅シ却ツテ總攻撃ノタメ前進セル野砲隊ニヨリ新ナル轍痕ヲ印セシコト

2 敵騎兵團襲來直後土民ノ道案内者ヲ得ルニ困難

シタル例 (日露戰)

藪崎輜重兵中佐談

輜重兵第十六大隊士官候補生

幡野忠雄記

第三軍ハ旅順要塞攻略後奉天會戰ニ參加ノ爲一月下旬旅順ヲ出發北進ス第一師團司令部大行李ハ某少尉ノ指揮ヲ以テ第七梯團ニ編合セラレ一月二十六日出發北進ノ途ニ就キ一月十二日遼陽附近ニ到着シ梯團ノ編合ヲ解キ師團司令部所在地ニ向フコトトナレリ

當時第一師團ハ屢々移動シ殊ニ梯團ノ進路タル旅順ノ遼陽街道ヨリ著シク隔離シアリタルトミスチコ

騎兵團襲來直後ニシテ兵站トノ連絡十分ナラス爲ニ該少尉ハ師團司令部所在地ヲ知ル能ハス漸ク輜重兵大隊長ヨリ黃泥窪ナルヲ聞知シタルモ當時所有セル地圖ハ覺束ナキ百萬分ノ一地圖ナリシヲ以テ其ノ方位ト雖モ知ルニ由ナカリシナリ茲ニ於テ該少尉ハ情報測圖ヲ想起シ臆氣ナル支那語ヲ以テ舍主ノ子息ヲ懷柔シ其ノ幫助ニ依リ極メテ不完全ナル測圖ヲ調製スルヲ得タリ然レトモ道路ハ固ヨリ通過能否等一切不明所謂五里霧中ナリ乃チ前記子息ヲ介シ道案内タラシムヘク一土民ヲ呼ヒ來リ歡待至ラサルナク漸ク右ノ承諾ヲ得翌未明出發ス然ルニ當時優勢ナル露軍騎兵團襲來直後ナリシ爲住民ハ我軍ノ嚴ニ警備シアルヲ知レルモ戰々恟々トシテ嚮導者ハ行クコト一清里ニシテ忽チ猛烈ナル腹痛ヲ訴エ諭セト脅セト頑トシテ動カス止ムナク兵卒ヲシテ最近ノ部落迄擔送セシメ同村ニ於テ威嚇ヲ以テ次ノ部落迄案内スヘキモノヲ雇傭セリ、逐次此ノ如クシテ黃昏漸ク師團司令部ニ到着シ茲ニ出發以來二旬ニ至ル報告ヲナセリ

3 輜重縦列上陸直後ノ前進ニ困難シタル例 (日露戰)

朝倉輜重兵大佐談

輜重兵第一大隊士官候補生

衣川慶太郎記

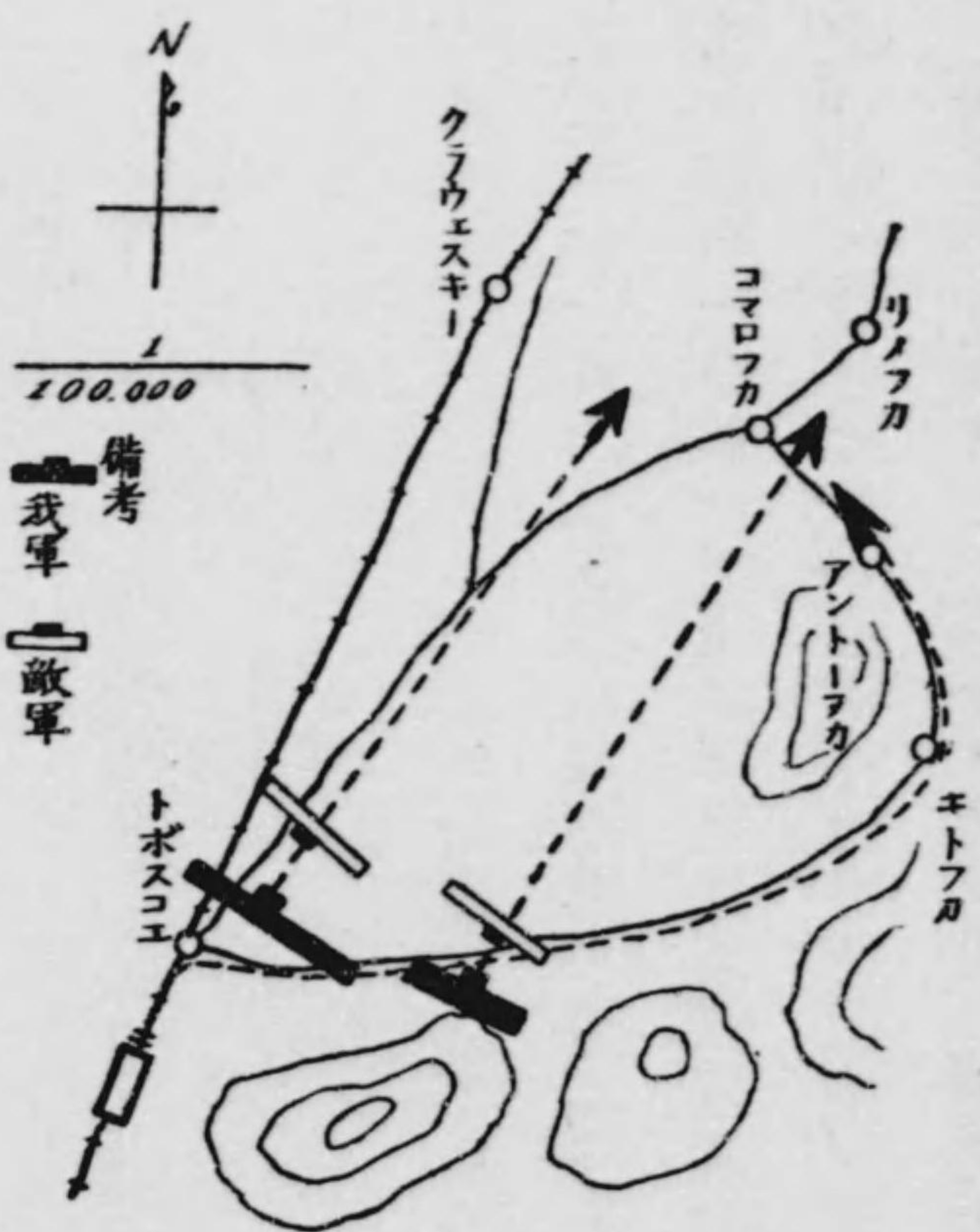
輜重兵第五大隊ニ屬スル糧食縦列ハ明治三十七年六月遼東半島ノ鹽大澳ニ上陸ス午後上陸ヲ完了スルト同時ニ約八軒ヲ去ル張家屯ニ前進ス長途ノ航海ニ人馬著シク疲勞シ且道路モ稍々不良ノ爲縦列ハ四

分五裂シ夜ノ九時ニ至ルモ最後尾ノ十數車輛ハ到着セス當時ミシチエンコ將軍ノ率キル敵騎獵子窩方面ニ在リテ我カ右翼ニ脅威ヲ受ケ危險ヲ感シツツアリキ依リテ半縱列長ハ其ノ安危ヲ憂慮シ分隊長一名ト續出スル志望者中ヨリ數名ノ執銃輪卒ヲ選抜シ之ヲ伴ヒ其ノ安否ヲ確ムヘク出發ス當時月明ナク行進方向ノ維持頗ル困難ニシテ晝間通過セシ際ノ記憶ヲ辿リツツ辛ウシテ前進セリ然ルニ途中支那人車輛ノ響ニ迷ハサレ數回道路外ニ行動セシ爲遂ニ道路ノ方向ヲ誤リ暗夜廣漠タル大波狀地ニ出テ行動ノ準據ヲ失ヘリ偶々半縱列長ハ出發ニ先チ所有地圖ト夜間用羅針ニ依リ方向ヲ標定シ置キシテ以テ鹽大澳ノ方向ヲ確ムルヲ得之ヨリ地圖ノ示ス方位ヲ目指シ波狀地ノ丘岡ヲ越ヘ凹地ニ横タハル河岸ノ絶壁ヲ越ヘ東天漸ク紅ヲ呈スル頃上陸地ニ到着シ落伍車輛ヲ發見シテ收容スルヲ得タリ

4 師團大行李カ敵斥候ヲ驅逐シツ、本隊ト併進シ給
養ヲ全ウシタル戰例 (西伯利亞戰)

横山歩兵少佐談 輜重兵第八大隊士官候補生 下 川 涉記

大正七年第十二師團ハ西伯利亞沿海州方面ニ派遣セラルルヤ同年八月下旬クラウエスキー附近ニ於テ敵軍主力ト戰闘シテ之ヲ擊攘シ師團ハ主力ヲ以テ敵ヲエマロフカ方向ニ追撃前進セリ當時師團大行李ハ戰闘部隊ノ進路タル鐵道線路方面ノ道路泥濘ニシテ車輛ノ通過困難ナルヲ偵知スルヤ多少危險ヲ犯



5 奇智ニヨリ糧食ヲ運搬シタル例 (西南役)

故大野(嘉)中佐從軍日誌 工兵第五大隊士官候補生 大 野 克 一記

明治十年六月二十六日西南役當時賊軍ヲ追フテ宮崎縣三田井(西臼杵郡)附近ニ轉戦セル際五箇瀬川出水ノ爲早日渡及大楠方面ノ糧食ノ運搬困難ナリ
創意工夫ノ結果東京鎮台工兵第一大隊第二小隊ノ一分隊ヲ以テ川口ニ綱橋ヲ架設セリ其ノ作業法ハ左

岸ノ一大樹ニ地上八米ノ所ニ大綱ヲ結着シ對岸ノ樹根ニ結着シテ之ヲ張リ滑車ヲ附ス此ノ滑車ニハ細綱ト鍵ヲ附シ糧食ヲ籠ニ入レテ對岸ニ滑走セシムルナリ細綱ハ籠ヲ對岸ヨリ送り返ス爲ニシテ鍵ハ籠ニ釣スノ用ニ供ス此ノ作業ヲ實施スルニハ先ツ對岸ニ渡ラサルヘカラス連日ノ降雨ニ水勢極メテ速ク且水量多ク河幅ハ凡ソ五十米ナリ若誤レハ激流ニ流ルルノ虞アリ、兵卒躊躇ス此ニ於テ分隊長陸軍軍曹大野嘉遜自ラ細綱ヲ腰ニ纏ヒ水流ニ飛ヒ入り徐ニ之ヲ延ハシツツ對岸ニ泳キ渡リ次テ大綱ヲ渡スヲ得テ作業ヲ完成セリ

同意ノ如ク運搬法ハ良結果ヲ得テ數日間ノ糧食ハ之ニヨリ支障無ク輸送ヲ實施セリ

6 攻撃陣地推進ニ當リ薄暮ノ時機ヲ逸シ不成功ニ終リタル例

竝之ヲ利用シ成功シタル例 (日露戰)

松村(悟一)中尉談 工兵第五大隊士官候補生 大野 克 一記

大正三年十一月四日夜青島攻圍軍ノ第二中央隊ハ臺東鎮東堡前ニ突擊陣地ヲ構築スルニ當リ工兵獨立第四大隊第一中隊ハ午後六時頃東吳家村東北方約一公里ノ地隙内ノ露營地ヲ出發シ第二攻撃陣地ニ前進中交通壕ニ於テ敵砲彈ノ妨害ヲ蒙リ前進意ノ如クナラス漸クニシテ第二攻撃陣地ニ到着セシ時ハ既ニ薄暮ノ時機ヲ失シ居レリ之カ爲奇襲的動作ヲ以テ陣地ヲ推進セントシテ第二攻撃陣地ヨリ三、四

名宛ノ作業手ヲ海泊河 (幅約七、八十米、水深二) ヲ渡リ對岸ニ前進セシメタリ時ニ恰モ月ハ東天ニ昇リ

月明ノ爲メ前進スル我カ作業手ノ行動敵ニ發見セラレ敵堡壘ヨリハ熾ナル射撃ヲ受ケ負傷者續出志氣沮喪シ遂ニ不成功ニ終レリ

大正三年十一月五日夜前日ノ失敗ニ鑑ミ第一線ヲ守備スル歩兵第四十八聯隊第四中隊ハ一部ヲ以テ薄暮ヲ利用シ外壕前約二十米ノ地點ニ近接シ先ツ個々ノ掩體(膝射散兵壕程度ノモノ)ヲ構築シ據點トナシ次テ工兵中隊到着シ之ヲ左右ニ連絡シ更ニ之ヲ掘擴シテ突擊陣地ノ構築ニ成功スルヲ得タリ當夜ハ前夜ニ比シ敵火ヲ蒙ルコト少クシテ容易ニ實施スルヲ得タルハ時機ノ利用適切ナルニ起因スルモノナリ

大正三年十一月六日夜臺東鎮東堡壘左肩角ニ鐵條網破壞ノ爲メ薄暮ヲ利用シ匍匐シテ前進シ第一線外壕斜堤頂ニ達シ外岸ヲ滑リ下リテ鐵條網破壞ヲ實施セリ該鐵條網ハ有刺鐵線ニシテ且角型鋼線ナリシカハ携行ノ二號鐵條鉄ハ此ノ鋼線ヲ切斷スルニ適セス爲ニ鉄ノ刃部ハ毀損シ穩密作業ハ不可能トナリ已ムヲ得ス各自ノ行動ノミハ穩密ニヨリ鉄ノ操作ハ強行ヲ以テセリ、先ツ第一線外壕ノ鐵條網ヲ切斷シ次テ第二線外壕ノ鐵條網モ亦同要領ニヨリ切斷セリ斯ル動作ニ出テタルモ辛ウシテ敵ニ發覺ヲ免レタルハ蓋シ當時ノ狀況カ我カ砲彈敵堡壘内部及其ノ後方ニ著發シ又敵砲火ハ熾ニ我カ後方陣地ニ落達シテ戰場相當喧噪ナリシ爲ナラン又此ノ機ニ於テ我カ歩兵斥候ハ陣地内部ニ潜入シ搜索中待機掩蔽部ニ

迫リタル際始メテ敵ハ覺リ直チニ守兵ヲ火線ニ配置シ射撃ヲ開始セリ之レ薄暮ノ時機ハ敵ノ監視弛緩シ乘スヘキ好時機ナルコト明カナリ

7 獨斷糧食ノ補給機宜ニ適シ第一線ノ志氣ヲ恢復セシ例 (日露戰)

小田輜重兵曹長談 歩兵第七十四聯隊士官候補生 原 田 計 治記

明治三十七年十二月五日歩兵第二十五聯隊ハ二〇三高地ヲ攻撃續行中ナリ

戰鬪頗ル激甚ヲ極メ同日午後其ノ嶺頂ヲ占領セシモ敵ハ尙退却セス小銃彈爆彈及諸砲臺ヨリスル集中火ヲ以テ頑強ニ抵抗ス當時我第一線ハ糧食ヲ携行セサリシヲ以テ奮戰數時殺傷相次モ飢渴ヲ醫スルニ由ナク困憊ノ極士卒難色アリ隊伍將ニ混亂セントス是レニ於テ行李高級監視員トシテ第一大隊ニ屬スル輜重兵曹長小田仲治ハ獨斷大行李ノ積載品ヲ以テ炊爨ヲ行ヒ輪卒ヲシテ之ヲ負ハシメ率先崎嶇タルル斜面ヲ攀登シ危險ヲ意トセス戰線ヲ馳驅シテ自ラ之ヲ各兵ニ分配ス忽然大隊ノ兵士ノ士氣大ニ振ヒ爾後勇敢ナル戰鬪ヲ繼續スルヲ得タリ

8 携行彈藥過多ニシテ負擔重キタメ之ヲ放棄セシ例 (日露戰)

磯塚歩兵大佐談 歩兵第二十七聯隊士官候補生 磯 塚 健 二記

(1) 第一軍ハ遼陽攻撃ノ準備運動トシテ明治三十七年六月下旬草河口附近ニ前進スルニ決シ近衛師團ハ軍ノ左側ニ並列シテ同月二十三日鳳凰城附近ヲ出發シ北進セリコノ前進ニ當リ我中隊(近衛歩兵第四聯隊第十一中隊)ニ於テハ各兵ニ加給品トシテ輕節三本宛ヲ給與セラレ且彈藥各兵約六十發ヲ規定ノ數以外ニ支給セラレタリ是レ今後ノ補充困難ナルヲ顧慮セラレシ爲ナルモ時恰モ暑氣漸ク甚タシク行軍困難ニシテ各兵ハ出來得ル限り自己ノ負擔量ヲ減セント欲セリ而シテ第一日ハ先ツ無事ナリシモ第二日ヨリ窃ニ彈藥ヲ放棄スルモノアルヲ發見セリ素ヨリ兵卒ハ彈藥ノ尊重スヘキヲ熟知スルモ行軍中ハ差當リ必要ナキカ故ニ彈藥ヨリハ寧ロ輕節ヲ貴シトセリ、況ンヤ彈藥ハ一定ノ數量以外ニ支給サレタルモノナルヲ以テ之ヲ收容スヘキ所ナク從テ袴又ハ上衣ノ物入等ニ押シ込ミシタメ歩行難澁シ心ナラスモ之ヲ放棄スルニ到リタルモノニシテ發見後直チニ各兵ヲ戒飭シテ之ヲ止メシメタリ

兵卒ニ過重ノ負擔ヲナサシムル場合特ニ旅次行軍ニ於テ彈藥ヲ規定以外ニ携行セシムルトキハ中小隊長ハ兵卒ノ志氣ヲ鼓舞シ或ハ補充困難ヲ說キ以テ彈藥放棄ヲ防止スルノ手段ヲ講セサルヘカラス(2) 奉天附近ノ會戰ニ於テ後備第一師團ハ我カ滿洲軍ニ策應スルタメ明治三十八年二月二十一日下夾河附近ヲ出發シ途中敵ノ小部隊ヲ擊攘シ北進セルモ同月二十七日障堂附近ヨリ大馬孤山附近ニ亘ル線ニ於テ敵ト遭遇シ爾後惡戰苦鬪數日ニ亘リタルモ終ニ敵ヲ擊破シ得ス三月八日迄同地ニ於テ敵ト對

戦ヲ續ケタリ元來同師團ノ行動區域ハ概シテ峻嶮ナル山地ニシテ道路極メテ不良ナリシノミナラス兵站ノ設置亦充分整備セサリシタメ糧食彈藥ノ補充ニ甚シク困難ヲ感シタリ、然ルニ三月九日師團カ追撃運動ヲ起シタル後舊陣地ヲ檢分セルモノノ報告ニ依リ火線ノ諸所ニ多量ノ小銃彈ヲ集積シソノ儘之ヲ放棄シテ諸隊ノ前進ニ移リシヲ知レリ其後調査ノ結果次ノ真相ヲ知り得タリ即チ上述ノ如ク第一線諸隊ハ數日間一地ニ固着シテ苦戦ヲ續ケ彈藥ヲ要スル事大ナリシモ其補給ノ甚タシク困難ナルヲ熟知スルニ至リ先ツ彈藥ノ節約ニ注意セルモ次テ一部ノ部隊ハ彈藥缺乏ヲ過度ニ懸念スルノ餘リ他ノ部隊カ自己ト同一ノ情況ニアルヲ顧慮セスシテ各兵各個ニ或ハ小部隊各個ニ陣地ノ各所ニ貯藏所ヲ設ケ故意ニ過度ノ補給ヲ受ケ窃ニ之ヲ隱匿貯藏シ其追撃ニ移ルヤ各自負擔携行シ得サル數量ヲ其儘現地ニ放棄スルニ至リタルモノナリ

9 架橋縦列砲兵彈藥ヲ直接放列ニ交付シタル例 (日露戰)

江橋(道)中佐談 近衛輜重兵大隊士官候補生 青 嶋 健 吉記

明治三十七年九月上旬第三師團架橋縦列ハ戰利十珊加農及十二珊白砲中隊ノ彈藥ヲ直接放列ニ交付スヘキ命令ヲ受ケ全員ノ志氣大イニ振興セリ茲ニ於テ第一次ノ補充ヲ分隊長輜重兵上等兵鈴木誠一ノ指揮スル一分隊(特ニ四輛車ヲ除ク三六式二輛輜重車約十二ヲ以テス)ヲ以テセシム同分隊ハ午前六時

首山堡西北麓孤家堡子(同地ハ戰利十五加中隊ノ陣地ニ隣接ス)ノ開進地ヲ出發セリ之ヨリ先特ニ分隊長以下ニ任務ノ重大ナルト輜重兵ノ面目ニ關スルモノ尠シトセサルヲ以テ沈着ト剛氣トヲ以テ望ムヘキヲ訓セリ、當時鈴木分隊長ハ黑絨衣袴ニテ雪白毛ノ支那馬ニ跨リ分隊ノ先頭ニ在リテ之ヲ指揮シ孤家堡子一遼陽道上ヲ西側ニ沿ヒ前進中蔡家庄子東南方向ノ敵砲兵ヨリ連續縱射セラレ分隊ノ前後主トシテ東側地區ニ砲彈ノ落達スルモノ無數ニ及ヘリ分隊長ハ一時分隊ニ停止ヲ命シタルモ地形前方開濶シテ敵ニ曝露シタルタメ射撃尙止マス然レトモ幸ニ輪卒及輓馬ハ沈靜シアリ分隊ノ後尾ニアリシ予ハ「敵ノ術中ニ陥リタリ」ト考ヘ直ニ各車ヲシテ左向行進ヲナスヘク命シタルモ輪卒ハ敏速ナル動作ヲナサス沈着誤リシ爲メカ其ノ動作緩漫ニシテ且路傍ニ乾涸セシ幅約一米深サ三四十糎ノ溝アリテ馭法上稍困難ヲ伴フモノアリシ結果各個ノ左向行進頗ル遅々トシテ依然停止ノ状態ニアリシカ激勵ニ依リ漸ク溝ヲ超過シ路外ノ樹木ノ掩蔽下ニ入ラシムルヲ得タリ此時分隊長以下三名砲劊ヲ被リタルモ續テ前進シ支障無ク砲彈ヲ直接砲列位置ニ交付セリ

所 感

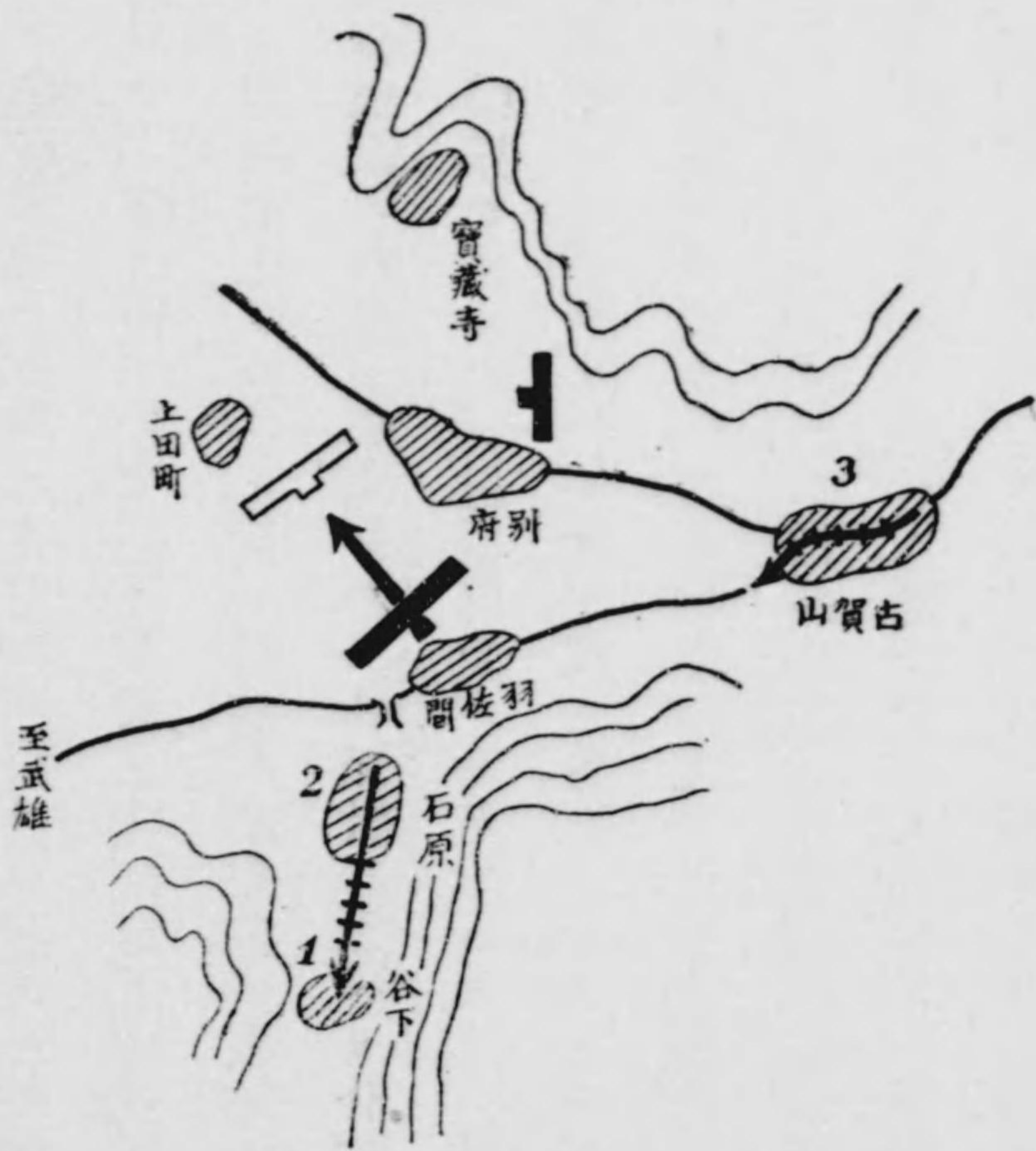
分隊長カ適切ナル進路ヲ選ビ部下ニ對シ輕快ナル動作ヲナサシムルト共ニ放列位置ヲ敵ニ察知セシメサリシナラハ敵彈等ヲ避ケ損害ヲ確實ニ減少シ得シナラン

10 糧食縱列ノ人員ヲ以テ直接第一線ニ彈藥ヲ補充シタル例 (日露戰)

服部輜重兵中佐談 輜重兵第七大隊士官候補生 服部 淳 一記

明治三十八年四月二十二日開原附近ノ戰鬪ニ於テ丸山支隊ハ優勢ナル敵歩騎兵ノ壓迫ヲ受ケ開原東門外ニ陣地ヲ占領シテ之ヲ拒止フルノ已ムナキニ至リシモ同日夕ニ於テハ既ニ晝間ヨリノ激戰ニ彈藥ヲ使用シ盡シ今ハ唯死守アルノミノ状態ナリ前田支隊ニ屬シタルシ服部少尉ノ率キタル糧食半縱列ハ二日間晝夜連續糧秣補充ニ從事シタリシカ同二十二日夜午後九時命ニ依リ鐵嶺中間廠ニ就キテ歩砲彈藥ヲ受領シ夜間十里餘ノ開原ニ向ツテ前進セリ途中數名ノ敵騎兵斥

開原附近丸山支隊戰鬪要圖 (四月二十三日)



候ヲ擊退シテ翌二十三日午前六時頃開原城ニ着到ス時ニ我カ第一線ハ優勢ナル敵ノ銃砲火ノ射撃ヲ蒙ルルモ答フルニ彈藥ナク僅カニ銃聲數發ヲ聞クノミ乃チ縱列長以下思ヘラク劍雷彈雨ノ裡ニ馳突シ壯烈ナル行動ヲナスヘキ時至レリト勇躍以テ銃砲火ヲ冒シ戰線ニ直接彈藥ヲ交付ス茲ニ於テ全線俄カニ活氣ヲ呈シ遂ニサシモ優勢ナル敵ヲ北方ニ擊退スルヲ得タリ

11 歩兵彈藥縱列小部隊ノ躍進ヲ以テ砲彈下ヲ通過セル例 (日獨戰)

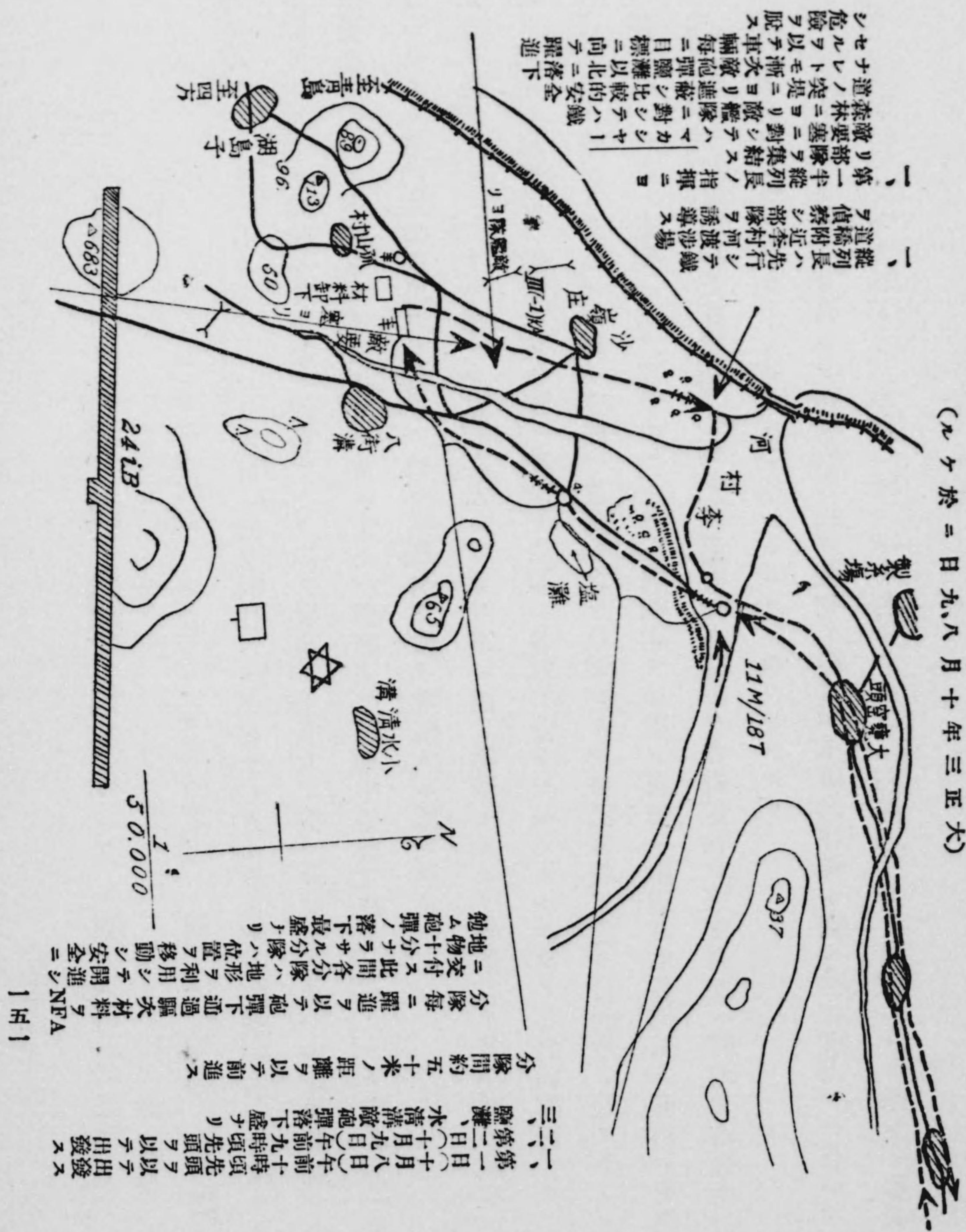
小野少佐談 輜重兵第十六大隊士官候補生 幡野 忠 雄記

青嶋要塞攻城準備中大正三年十月八日ヨリ九日ニ亘リ第十八師團第一歩兵彈藥縱列ハ下王埠庄孤山村間ニ於ケル海軍重砲兵隊ノ攻城材料及彈藥輸送ニ任シタリ鹽灘孤山村間ハ敵ノ海陸ヨリスル砲擊盛ンニシテ會々 (海軍重砲兵六名ニテ一車輛ニ攻城材料ヲ積載シ鹽灘ヨリ孤山陣地ニ輸送中鹽灘西南方約三百米ニテ敵彈ノ爲三名負傷シ輸送ヲ中止シ後退スルヲ目撃シタルヲ以テ縱列ハ李村河右岸ニ於テ分隊間約五十米ノ距離ヲ取り鹽灘ニ前進シ同地西南端附近ヨリ分隊毎ノ躍進ヲ以テ砲彈下ヲ通過シ水清溝西側凹地ニ開進シ逐次材料ヲ海軍重砲兵隊ニ交付シ沙嶺庄北側地區ニ集結ス

敵ノ砲撃ハ海陸共ニ益々盛ニシテ該砲彈ハ鹽灘沙嶺庄以北ノ地區ニ及ヒ益々危険ナリシヲ以テ各車約
 十米ノ距離ヲ以テ李村河ヲ徒涉シ再ヒ大甕窖頭西側李村河右岸ニ集結ヲ終リ此ノ間砲彈盛ニ落下シ或
 ハ炸裂シ爲ニ之擲サレシモノ又ハ一時聽力ヲ害セシ者等アリシモ幸ニ一兵一馬モ失フコトナク任務ヲ
 終了スルヲ得タリ其ノ行動概要別紙要圖ノ如シ

例シテ過通ヲ下彈砲ヲ以テ進躍ノ隊部小列縱藥彈兵歩

(ルケケ於ニ日九八月十年三正大)



三、第一日(十月八日)午前十時頃先頭ヲ以テ出發ス
 第二日(十月九日)午前九時頃先頭ヲ以テ出發ス
 鹽灘、水清溝敵砲彈落下處ヲリ

分隊間約五十米ノ距離ヲ以テ前進ス

分隊毎ニ躍進ヲ以テ砲彈下通過驅次材料ヲNEAニ交付ス此間各分隊ハ地形ヲ利用シテ開通シニ十分ナラサル分隊ハ位置ヲ移動シ安全ニ砲彈ノ落下處ヲリ

一、縱列長ハ先行シテ
 渡橋附近李村河渡渉場
 ヲ偵察シ部隊ヲ誘導ス

一、第一分隊列長ノ指揮ニヨ
 リ部隊ヲ集結ス對シテハ
 森林ニヨリ敵艦隊ニ對シテハ
 道ノ突進ニヨリ進蔽シ比較的安全
 ナレトモ漸次敵砲彈難以北ニ落下
 セララ以テ車輛毎ニ目標ニ向テ躍進
 シ危險ヲ脱ス

12 土人ニヨル輜重、敵ノ急襲ノ爲逃走シタル例 (西伯利亞戰)

一五二

山方(知)歩兵大尉談 歩兵第二十二聯隊士官候補生 岡 市 知 足 記

大正八年二月十一日ミハイロフカ附近ノ敵ヲ討伐スヘク在サビタヤ歩兵第十四聯隊第一大隊ヨリ米谷支隊派遣セラル時恰モ紀元節ノ佳節ナルヲ以テ將卒ノ士氣大ニ振フカクテ歩兵一中隊機關銃一小隊及彈藥糧秣行李ノ橇縱隊ハデミヤノフカニ通スル道路上ヲ前進中午後二時デミヤノフカ東北方一里ノ凹地ニ入ルヤ俄然兩側高地ヨリ急敵ノ如キ疾風射ヲ蒙リ隊伍大ニ亂レタリ

之ヨリ先デミヤノフカニ在リシ敵ハ諜報ニヨリ我軍ノ橇ヲ徵發セシヨリ判斷シテ我企圖ヲ洞察シ該凹地ヲ利用シ以テ我ヲ邀擊セント既ニ陣地ヲ占領シ我軍ヲ待チシモノニシテソノ兵力約四百ナリ

米屋大尉ハ直チニ道路ノ兩側ニ支隊ヲ展開シ之ヲ攻撃シタルモ積雪股ニ達シ行動意ノ如クナラス道路西側ノ敵ノ一部ハ東側ノ敵ヲ攻撃中ナル我左翼部隊ヲ側射シ東側ノ敵亦我右翼部隊ヲ側射シ死傷續出ス大尉モ亦左大腿部ニ敵彈ヲ蒙リシモ敢テ意トセス部下ヲ督勵奮戰シ東側高地ニ陣地ヲ占領セル我機關銃ノ猛威ト相俟ツテ敵ヲシテ漸次動搖セシムルニ至ラシメタリ

此時後方ニ續行セシ彈藥糧秣ノ橇縱列ハ敵ノ猛射ヲ受クルヤ橇馬狂奔シ剩ヘ馭者露人ナリシカハ我身ノ安全ヲ圖ルニハ寧ロ直路前方敵地ニ走ルヲ有利トナシ馬ノ狂奔ト兵卒ノ周章セルニ乘シ一舉我第一

線ノ中間ヲ雪ヲ蹴ツテ逸シ去リ舉ケテ敵ノ掌中ニ投セリ

我軍力攻股ニ至ル積雪ヲ冒シテ敵ニ肉迫ス時既ニ午後三時ヲ過ク敵遂ニ我ニ抗スル能ハス迫リ來ル暮靄ニ乘シテ逐次ニ退却ス

茲ニ於テ支隊ハ死傷者ヲ收容シ闇ヲ衝イテ守備隊ニ歸還セリ

第二輯

第十六
雜

1 幹部ハ如何ナル苦境悲慘ノ情況ニ於テモ從容事 ヲ處セサルヘカラサル例 (西伯利亞戰)

野口工兵大尉談

工兵第一大隊士官候補生

高

松

糺記

大正七年十二月以來要地守備ノ任ニ在リシ第十二師團ハ同八年二月上旬蜂起セル過激派部隊掃討ノ爲メ再ヒ戰鬪行動ヲ開始スルニ至レリ、時正ニ嚴寒氣温攝氏零下五度乃至三〇餘度ナリ

二月十一日以來ザグイタヤ、ブラゴイ平野ニ行動セル高橋少佐支隊(歩兵一中隊、特種砲、電話隊各二分隊患者收容班ヨリ成ル)ト師團司令部トノ連絡勤務ヲ命セラレシ予ハ二月二十六日同支隊ト同行シ列車輸送ニヨリ同日午前七時ボチウカレーウオヲ發車シ午後四時頃チスウムスク南方約二吉米附近ヲ前進中突如西側高地端ヨリ猛射ヲ受ク支隊長ハ直チニ停車ヲ命シ續イテ下車ヲ命シタリ

當時ノ列車編成ハ將校ト下士卒別車ニ搭乘シ機關車監視者アラサリシ爲列車ハ別命ナク後退ヲ始メ指揮官怒號シテ之ヲ止メントスルモ其効ナク危險ヲ脱シタル後初メテ停車シ茲ニ初メテ戰鬪部署ヲ採リ攻撃ヲ開始シ後旅團ノ増援ヲ得テ之ヲ擊退シ得タリ、其ノ戰鬪經過ノ概要別紙要圖ノ如シ

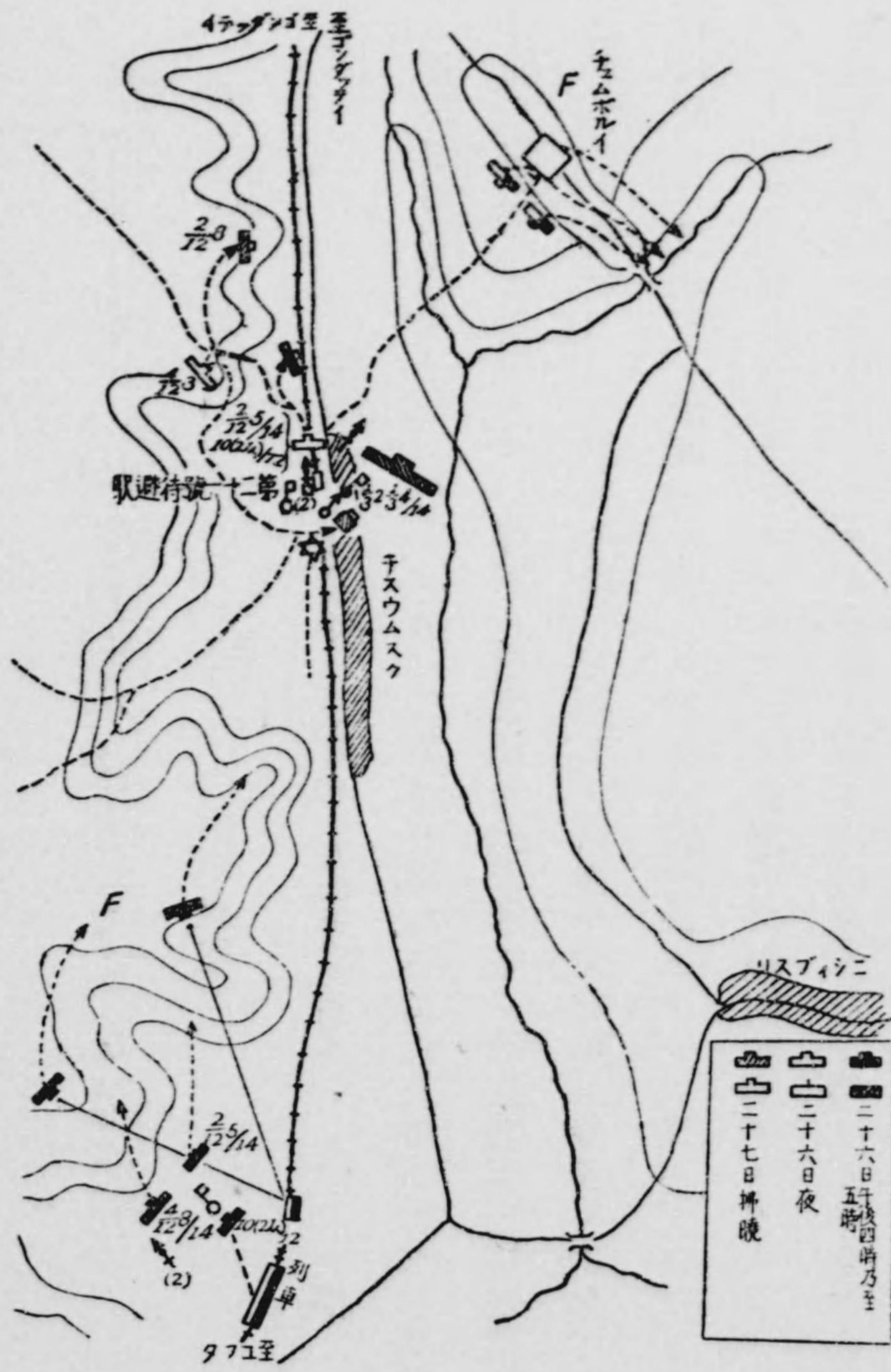
本戰鬪ニ於テ得タル教訓

最初列車カ突如敵ノ猛射ヲ受クルヤ列車内ノ混亂ハ今日之ヲ追懷スルモ寒心ニ堪ヘサルモノアリ、

此時冷靜窓ヲ開キ敵情偵察ニ任シタルモノ果シテ幾人カアル甚タシキハ列車内ニ伏臥スル幹部サヘアリシヲ目撃シタリ、平素事ニ臨ミテ狼狽セサル如ク不動心ノ修養ノ特ニ大切ナルヲ痛感セリ
 戰鬪間ニ於ケル兵卒ヲ一瞥スルニ堪ヘス指揮官ニ注意シ其顔貌措舉ヲ窺フ情態ナリ此ノ時ニ於ケル幹部ノ精神ト態度如何ハ正ニ兵卒ノ心身ヲ左右スルノ原動力ナルヲ以テ幹部ハ如何ナル苦境悲慘ノ情況中ニ於テモ從容自若タル精神ト態度トヲ保持スルヲ最モ必要トス

チスウスムク近高橋支隊戰鬪經過要圖

大正三年十月八日ニ於ケル



2 實戰ニ於テハ距離目測著シク近ク誤測スルコト

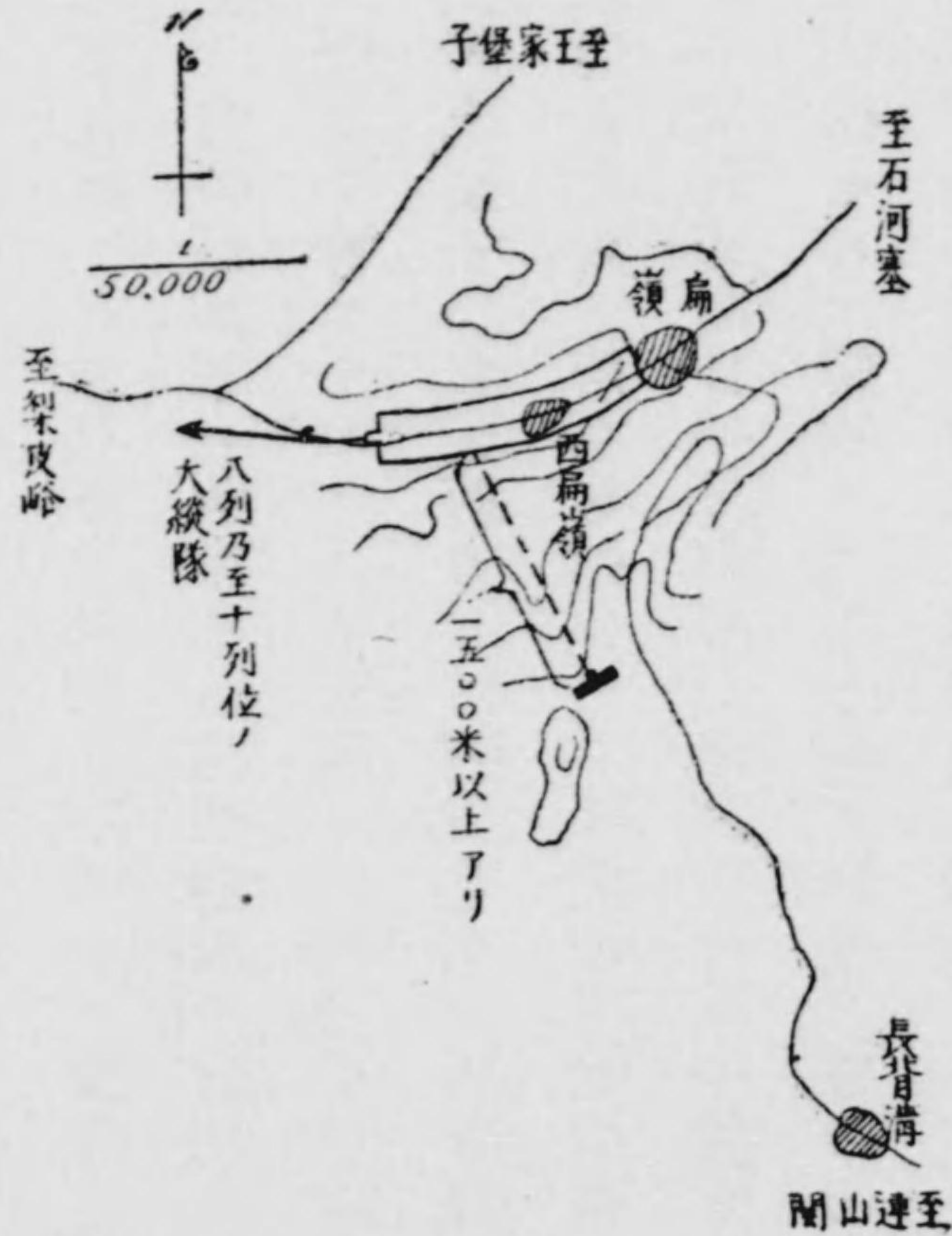
ノアル例 (日露戰)

篠田(定)中佐談

歩兵第六十聯隊士官候補生

城 島 赴 夫 記

明治三十七年七月三十一日午前九時頃歩兵小隊長トシテ散兵ヲ指揮シ扁嶺附近ヨリ梨皮峪ニ向ヒ退却スル敵ノ大縱隊ヲA點附近ヨリ射撃スルニ當リ最初六百ノ照尺ヲ以テセシニ彈着全ク不明稍目測近キニ失シタルニ非スヤト思ヒ八百ニ改装セシニ彈着ハ著シク近ク殆ント距離ノ半ニ達セス依ツテ思ヒ切りテ千二百ニ改装射撃セシニ尙彈着近シ奇異ニ感シツツモ更ニ千四百ヲ採用セシニ尙彈着近キ感アルモ死傷ヲ生シツツアルヲ見タルヲ以テ概



ネ可ナリト考ヘ續イテ射撃ヲ繼續セリ

爾後圖上ニ於テ距離ヲ測定セシニ優ニ千五百米アリキ